

平成 30 年度
豊田市男女共同参画社会に関する意識調査
(市民アンケート)
報告書

平成 31 年 3 月

豊田市

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	2
2	調査の実施概要	2
3	報告書の見方	2
4	用語の解説	3
II	調査結果	5
1	回答者の属性	6
2	男女の平等観について	13
3	男女の関わりの考え方について	29
4	家庭や地域における男女の役割分担や考え方について	60
5	職場における男女の役割分担や考え方について	77
6	ワーク・ライフ・バランスについて	91
7	女性の活躍推進について	102
8	性的マイノリティについて	118
9	男女共同参画社会実現に向けた豊田市の取組について	122
10	その他・自由回答	128
III	調査結果の総括	149
1	調査結果の総括	150
2	意識調査結果からみる豊田市の現状	156
IV	アンケート調査票	157

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、「第3次とよた男女共同参画プラン（クローバープランⅢ：平成27～31年度）」の計画期間終了（平成31年度）に伴い、家庭、地域、職場等における男女共同参画に関する市民の意識や男女の平等・社会参加の実態を調査したものです。本調査と過去の意識調査を比較・検証し、新プラン策定の基礎資料とすることを目的として実施しました。

2 調査の実施概要

●調査対象者

豊田市に在住の18歳以上の市民男女各2,000人を無作為に抽出

●調査期間

平成30年11月30日から12月18日まで

●調査方法

調査票による本人記入方式

郵送配布・郵送回収

●回収結果

区分	配布数	回収数	回収率
女性	2,000	709	35.5%
男性	2,000	541	27.1%
不明		18	
合計	4,000	1,268	31.7%

3 報告書の見方

●集計について

本報告書では、設問ごとに全体の集計結果とクロス集計結果を記載しています。クロス集計結果では、性別等の不明・無回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

●「N」について

グラフ中の「N」とは、Number of Casesの略で、各設問に該当する回答者総数を表します。

●「%」について

グラフ中の「%」は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、単数回答の設問（1つだけに○をつけるもの）であっても、合計が100%にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合（あてはまるものすべてに○をつけるもの等）は、「N」に対する各選択肢の回答者数の割合を示します。

4 用語の解説

●男女共同参画社会

男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受し、共に責任を担う社会をいいます。(男女共同参画社会基本法第2条)

●固定的性別役割分担

男女を問わず個人の能力等によって役割の分担を決めることができることが適当であるにも関わらず、男性、女性という性別を理由として、役割を固定的に分けることをいいます。「男は仕事・女は家庭」「男性は主要な業務・女性は補助的業務」等は固定的な考え方により、男性・女性の役割を決めている例です。

●ドメスティック・バイオレンス（DV）

配偶者（事実婚、別居を含む）やパートナーなど親密な関係にある（あった）人から振るわれる暴力のことをいいます。暴力には殴る蹴るなどの暴力のみならず、威嚇する、生活費を渡さない、仕事につかせない、性行為の強要、外出や交友関係を制限して孤立させるといった精神的な苦痛や経済的な抑圧なども含まれます。また、子どもにも暴力をみせることも含まれます。親密な関係の男女間のことであっても、刑法に規定されている暴行、傷害、脅迫等の行為が行われた場合は犯罪となります。

●ワーク・ライフ・バランス

老若男女誰もが、仕事、家庭生活、地域生活などにおいて、自らが希望するバランスのとれた生活を送ることをいいます。そのような生活を実現させるためには、働き方の見直しや家庭における家族の役割分担などが必要とされています。

●性的マイノリティ（LGBT）

同性が好きな人や、自分の性に違和感を覚える人、または性同一性障害などの人々のことで、性的少数者ともいいます。LGBTはレズビアン（女性同性愛者）・ゲイ（男性同性愛者）・バイセクシュアル（両性愛者）・トランスジェンダー（心とからだの性が一致しない人）の頭文字をとった言葉です。

●セクシュアル・ハラスメント

性的嫌がらせのことをいいます。相手の意に反した性的な性質の発言や行動で、身体への不必要な接触や性的関係の強要、性的な冗談やからかいなど、さまざまなものが含まれます。特に職場においては、意に反する性的な言動により、不利益を与えたり、就業環境を悪化させたりすることがあります。

●テレワーク

ICT（情報通信技術）を利用し、場所や時間を有効に活用できる柔軟な働き方を指します。家庭生活との両立による就労確保、高齢者・障がい者・育児や介護を担う人の就業促進、地域における就業機会の増加などによる地域活性化、余暇の増大による個人生活の充実、通勤混雑の緩和などの効果が期待されています。

●フレックスタイム

1週、1ヶ月等の一定の労働時間を定めておき、労働者がその範囲内で各日の始業及び終業の時刻を自分で選択して働く制度のことをいいます。

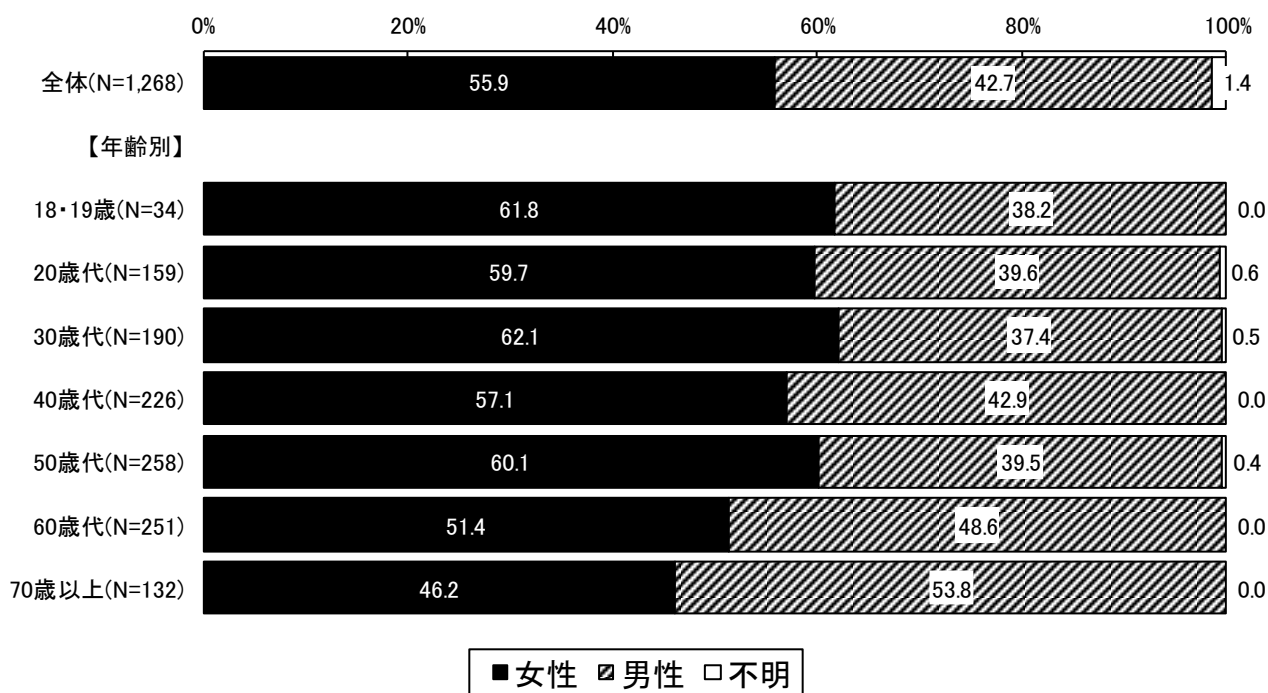
●とよた男女共同参画センター（キラッ☆とよた）

豊田市が設置・運営している男女共同参画社会実現のための拠点施設で、情報誌の発行、セミナー・講座やイベントの開催、団体活動支援などを行っています。

II 調査結果

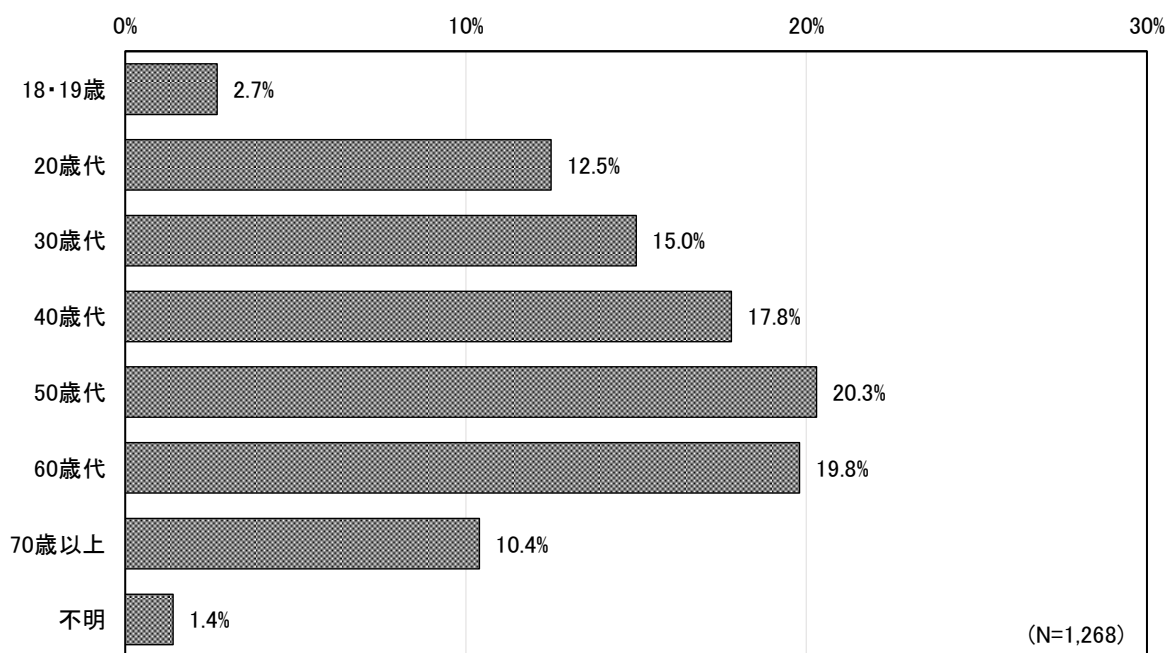
1 回答者の属性

F 1 性別（単数回答）

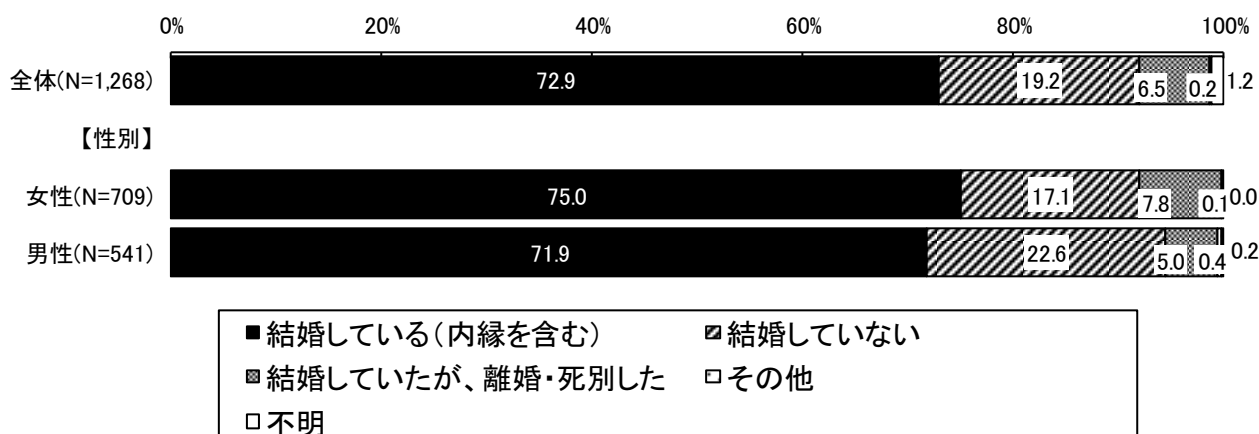


※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

F 2 年齢（単数回答）

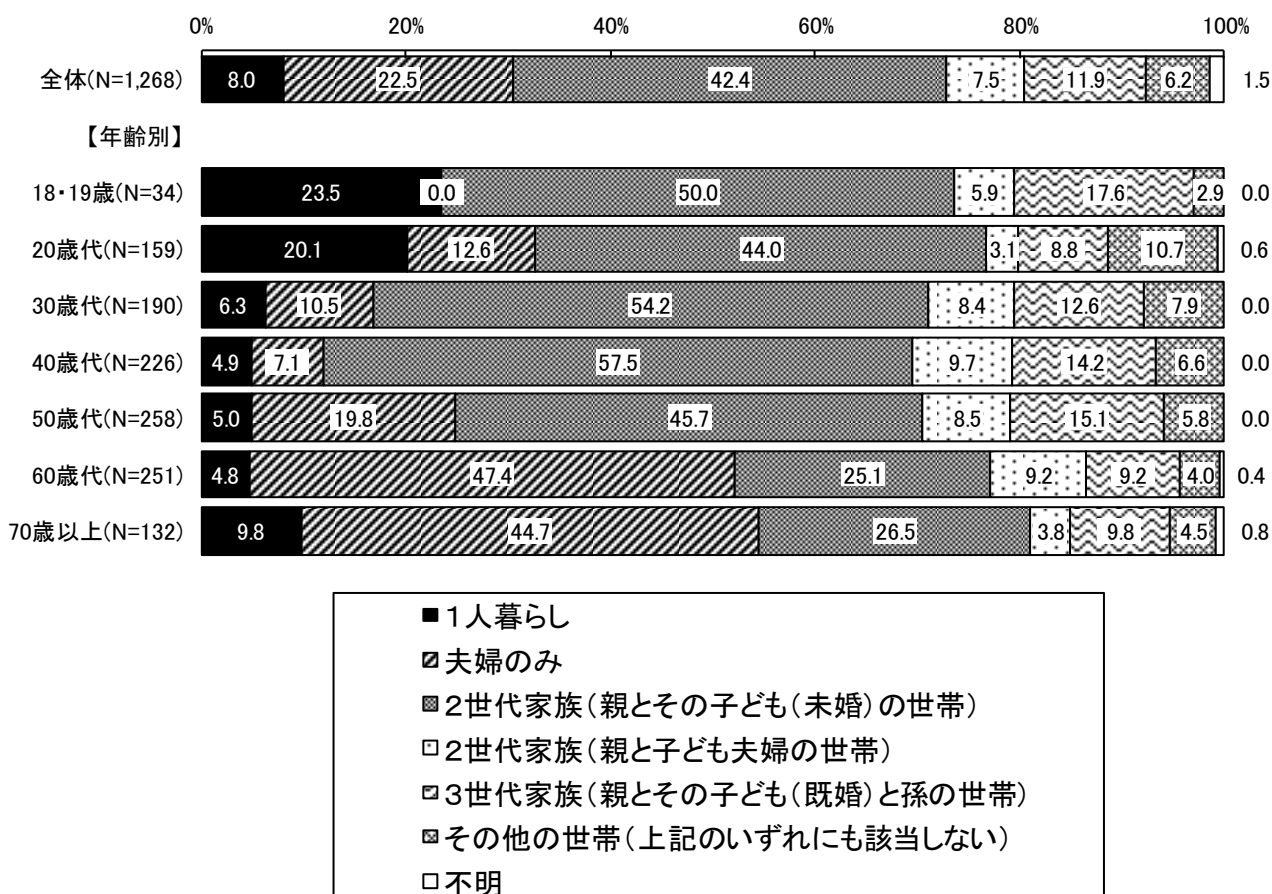


F 3 未婚・既婚の別（単数回答）



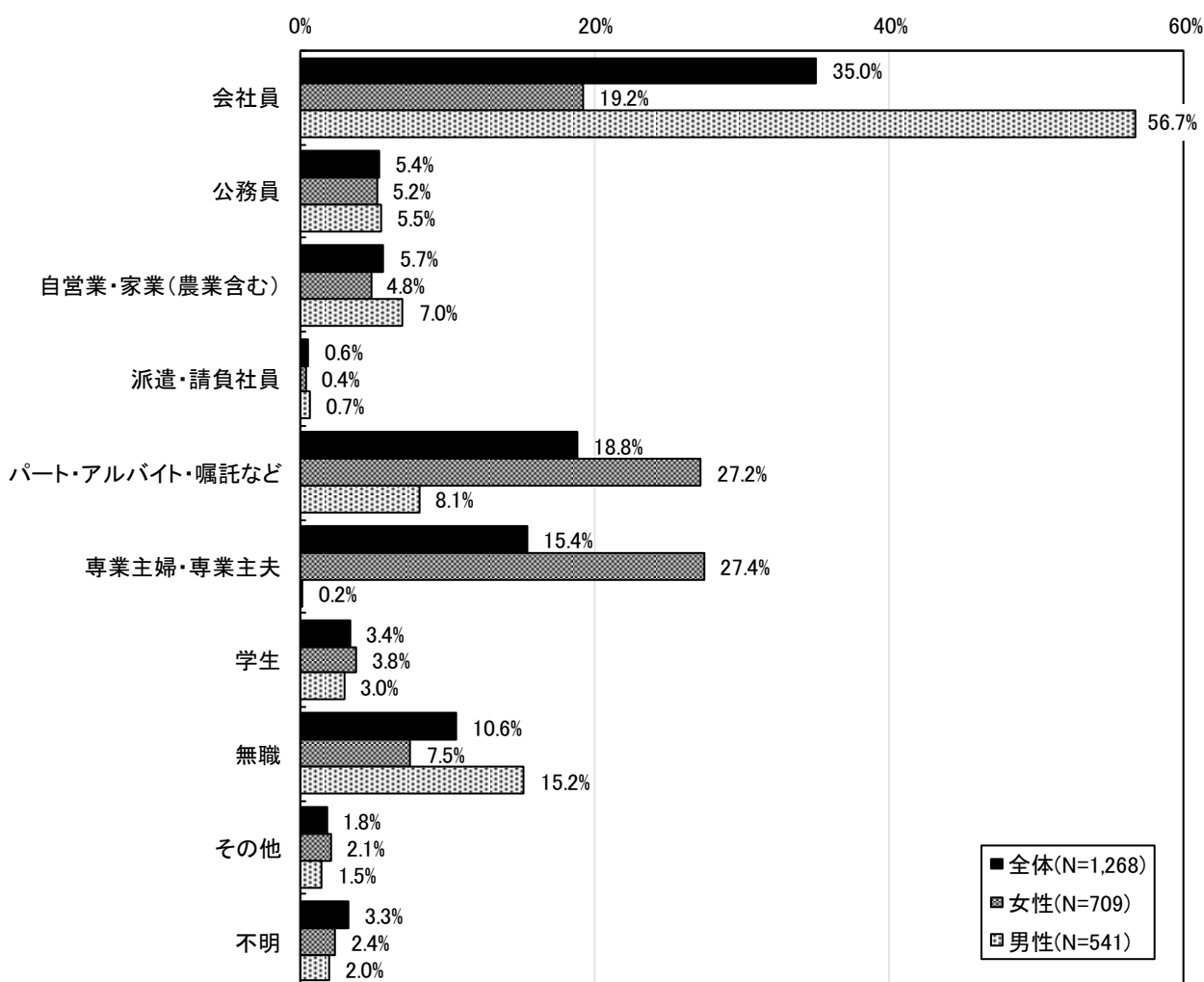
※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

F 4 家族構成（単数回答）



※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

F 5 回答者の職業（単数回答）

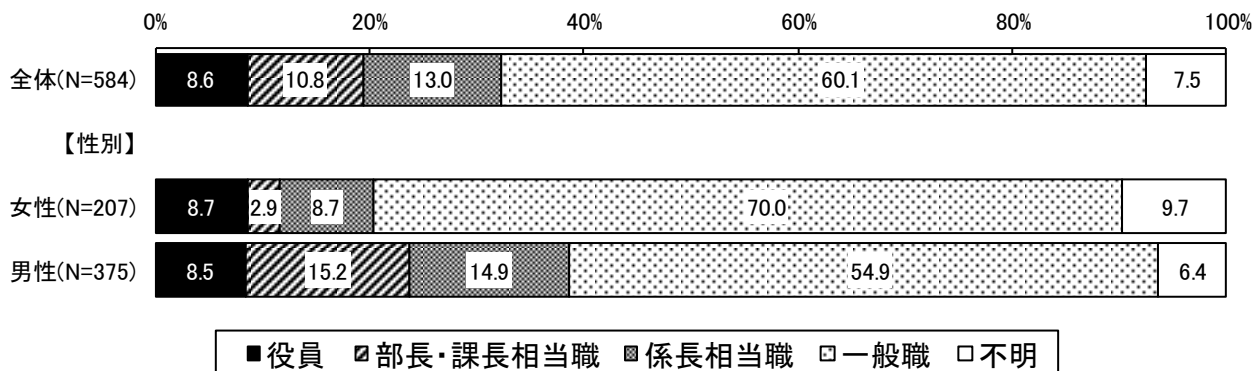


※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

【F 5で「会社員」「公務員」「自営業・家業（農業含む）」と回答された方のみ】

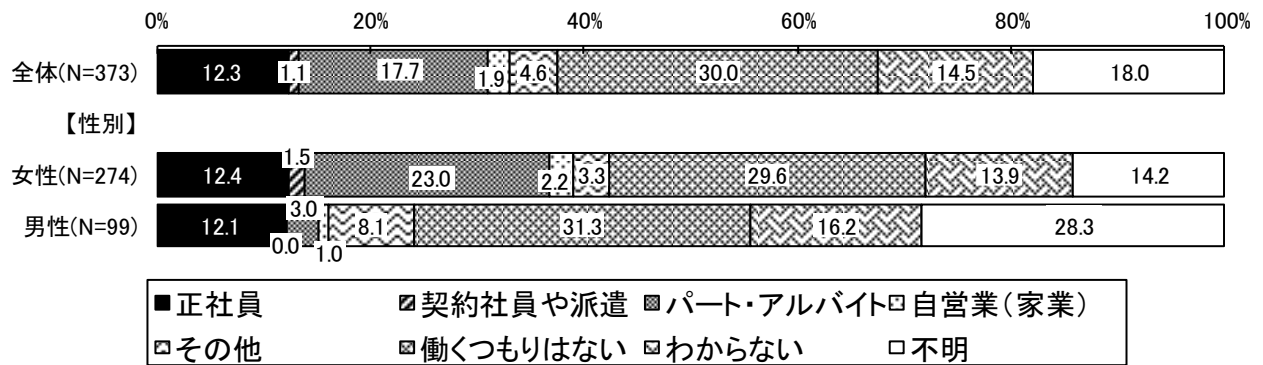
F 5-2 回答者の職場における立場（単数回答）

※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。



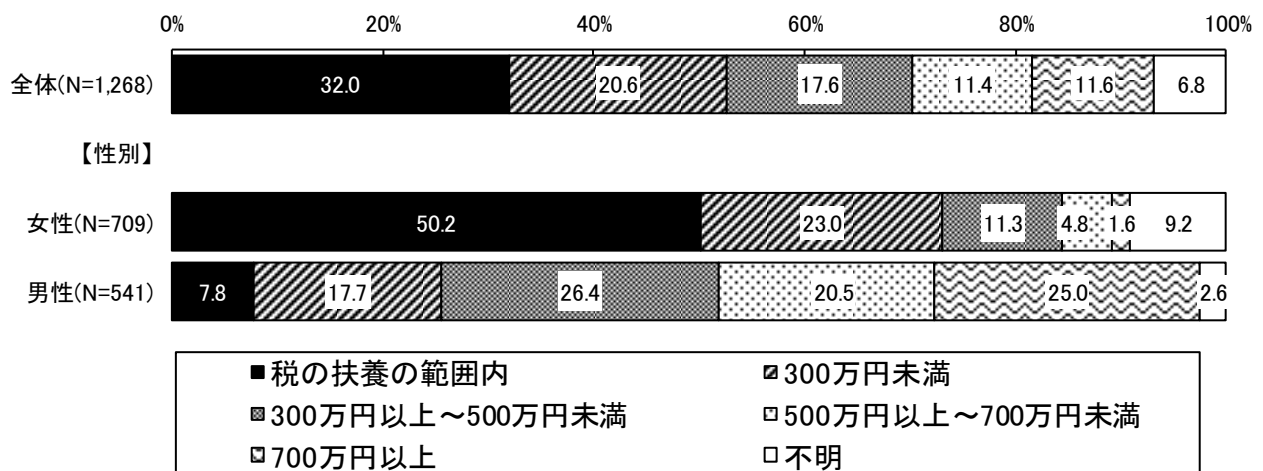
【F5で「専業主婦・専業主夫」「学生」「無職」と回答された方のみ】

F5-3 将来どのように働きたいか（単数回答）



※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

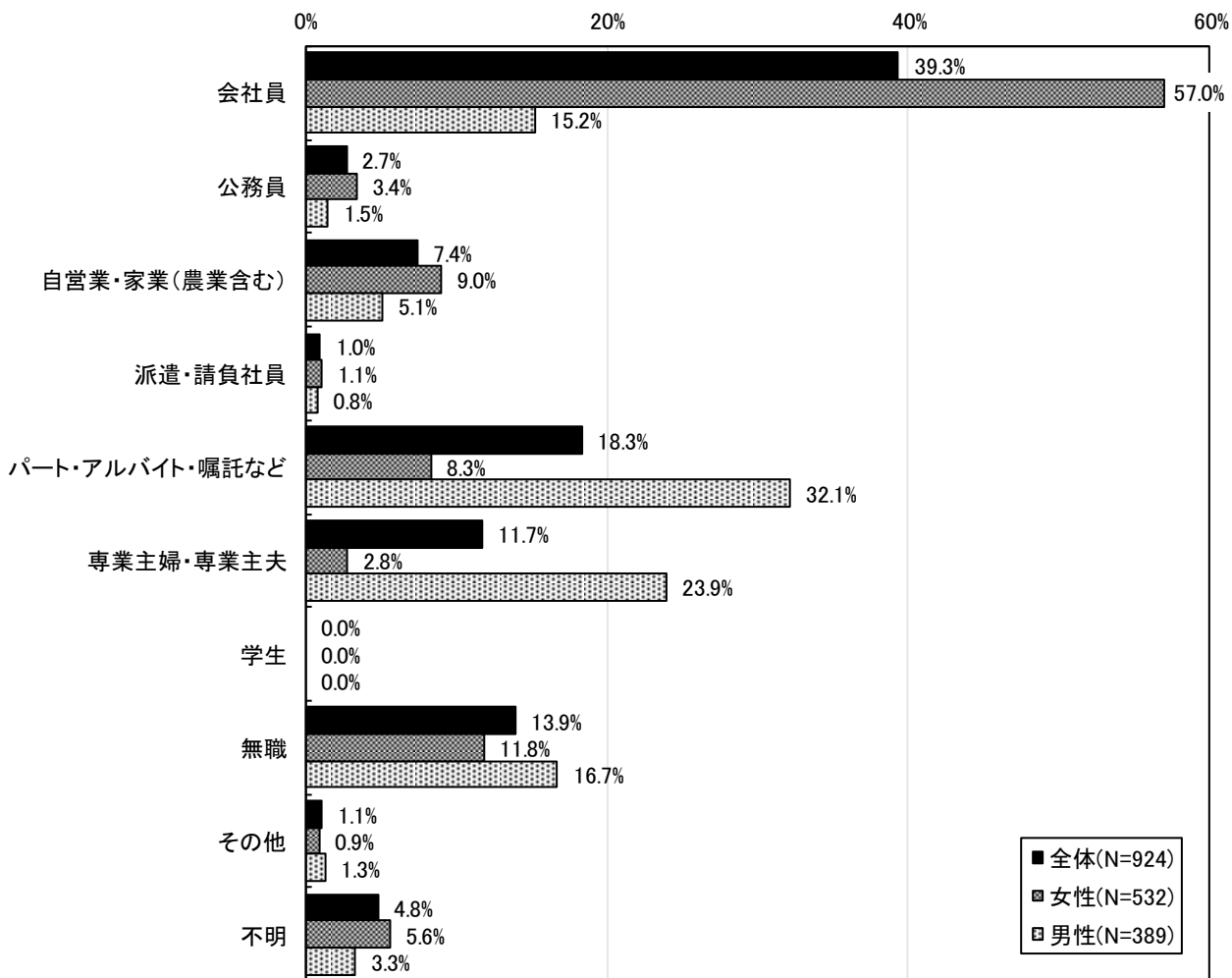
F6 回答者の年間収入額（単数回答）



※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

【F3で「結婚している（内縁を含む）」と回答された方のみ】

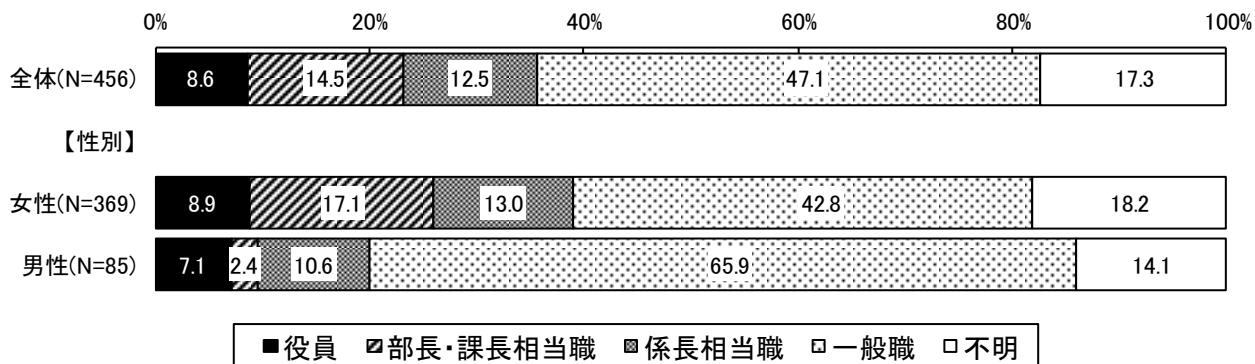
F7 配偶者の職業（単数回答）



※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

【F7で「会社員」「公務員」「自営業・家業（農業含む）」と回答された方のみ】

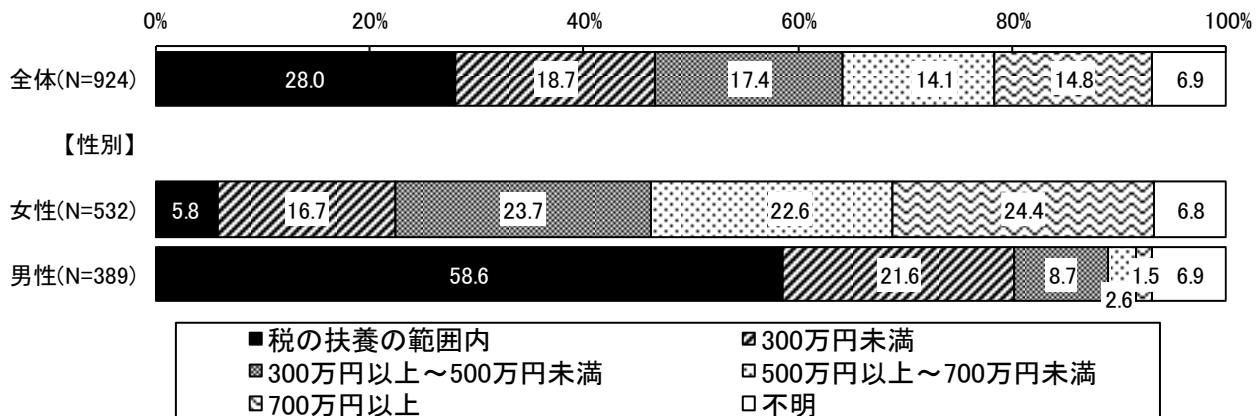
F7-2 配偶者の職場における立場（単数回答）



※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

【F3で「結婚している（内縁を含む）」と回答された方のみ】

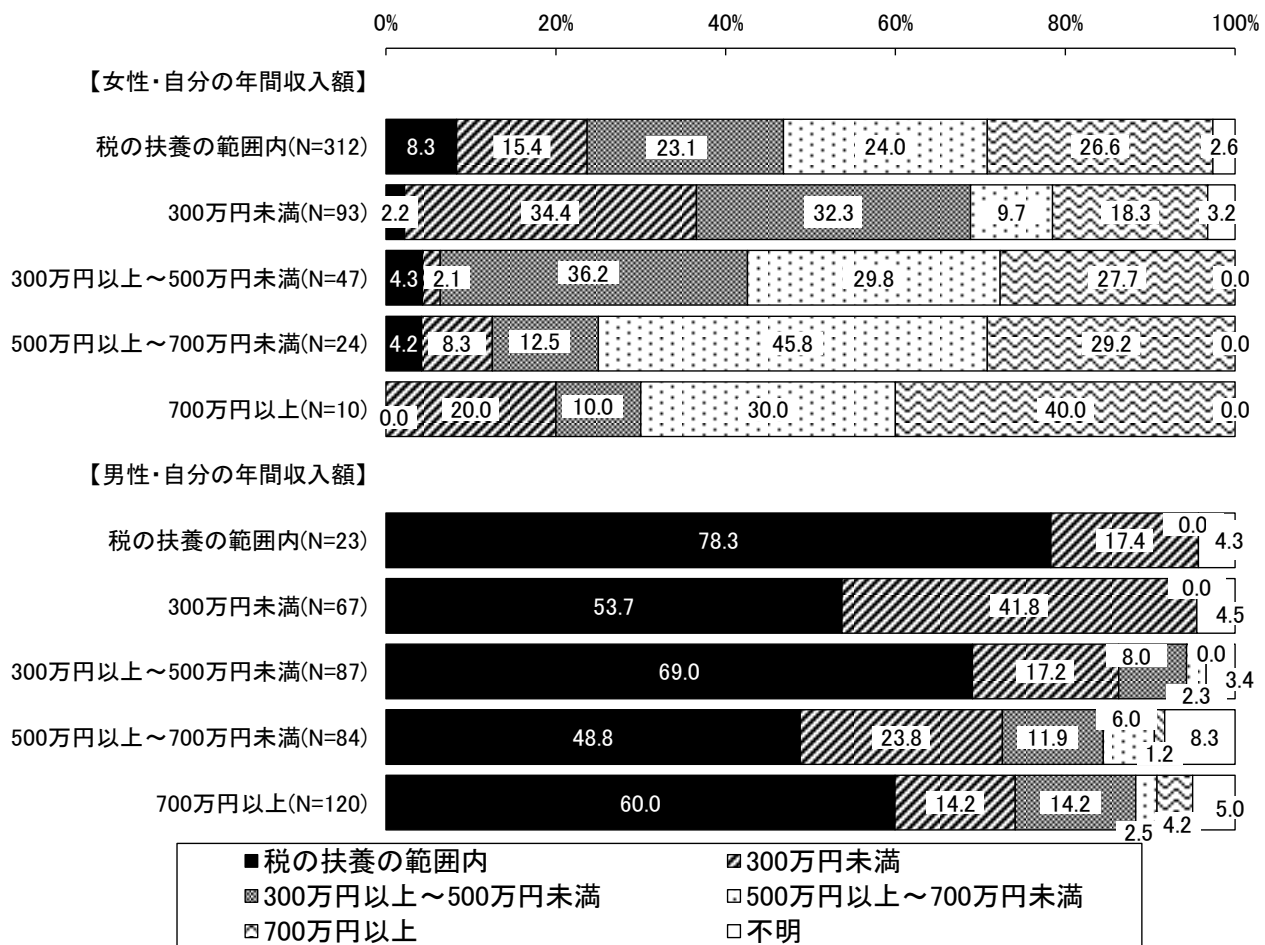
F8 配偶者の年間収入額（単数回答）



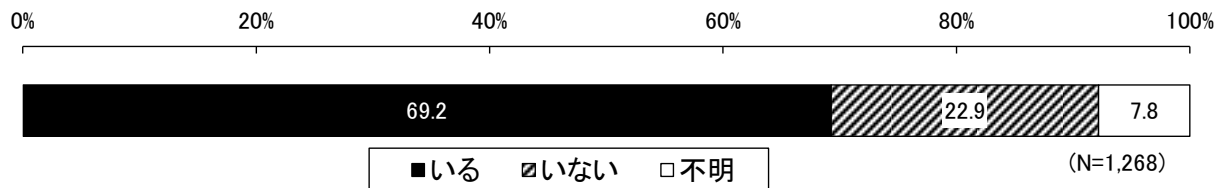
※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

【F3で「結婚している（内縁を含む）」と回答された方のみ】

※自分の年間収入額と配偶者の年間収入額

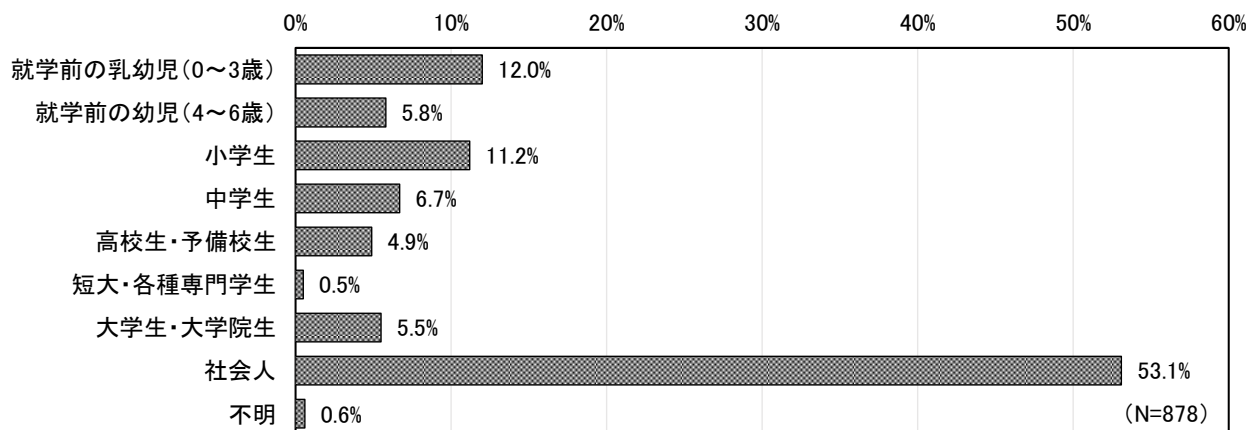


F 9 子どもの有無（単数回答）

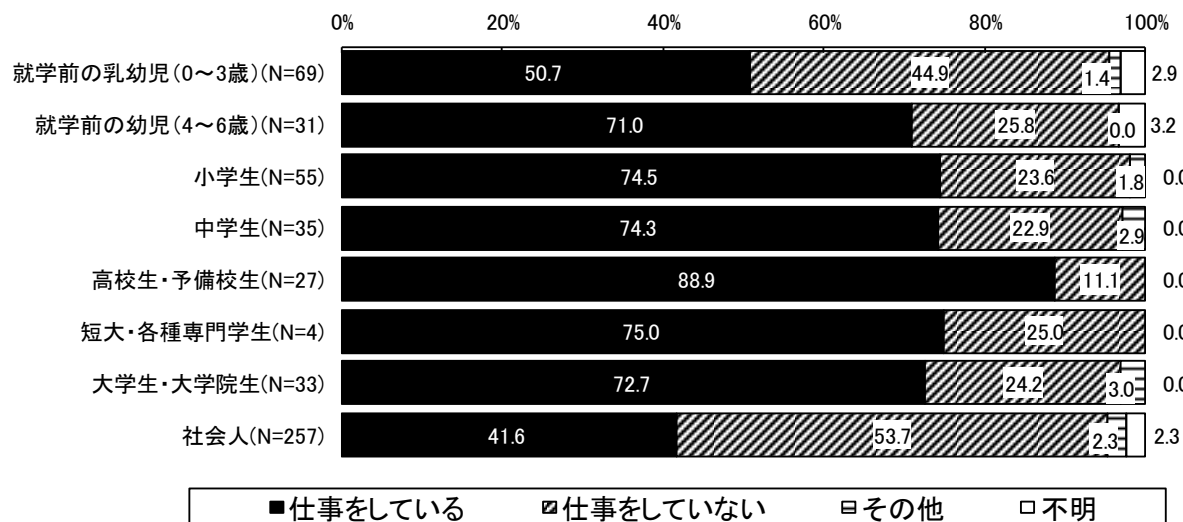


【お子さんのいる方のみ】

F 9-2 一番下の子どもの年代（単数回答）



F 9-2 子どもがいる女性の就労状況（一番下の子どもの年代別）



※全年齢を対象に集計
 ※「仕事をしている」…「会社員」「公務員」「自営業・家業（農業含む）」「派遣・請負社員」「パート・アルバイト・嘱託など」と回答した人の合計

【評価…○：達成、△：未達だが改善、×：後退】

第3次プランにおける指標	実績値H23	目標値	実績値H30	評価
一番下の子どもの年齢が 0~3 歳の女性の「勤めている」*と回答した人の割合（※「仕事をしている」）	21.9%	25%	50.7%	○

※現状値および目標値は、前回調査（職場における男女共同参画意識調査（平成 23 年度、対象 20~40 歳代））をもとにした値であり、比較のため実績値を 20~40 歳代のみで抽出集計しています。（ただし、全年齢集計と同値）

2 男女の平等観について

問1 ①～⑦の分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。(単数回答)

男女の平等観について、各分野の合計をみると「平等である」の割合は23.0%(不明を除くと23.3%)である。分野別にみると、「平等である」の割合が最も高い分野は、これまでの調査結果と同様に「学校教育の場」となっており、50.2%が「平等である」と回答している。次いで、「平等である」の割合が高い分野は「法律や制度」(26.7%)、「家庭生活」(25.5%)、「地域社会の場」(23.4%)となっている。

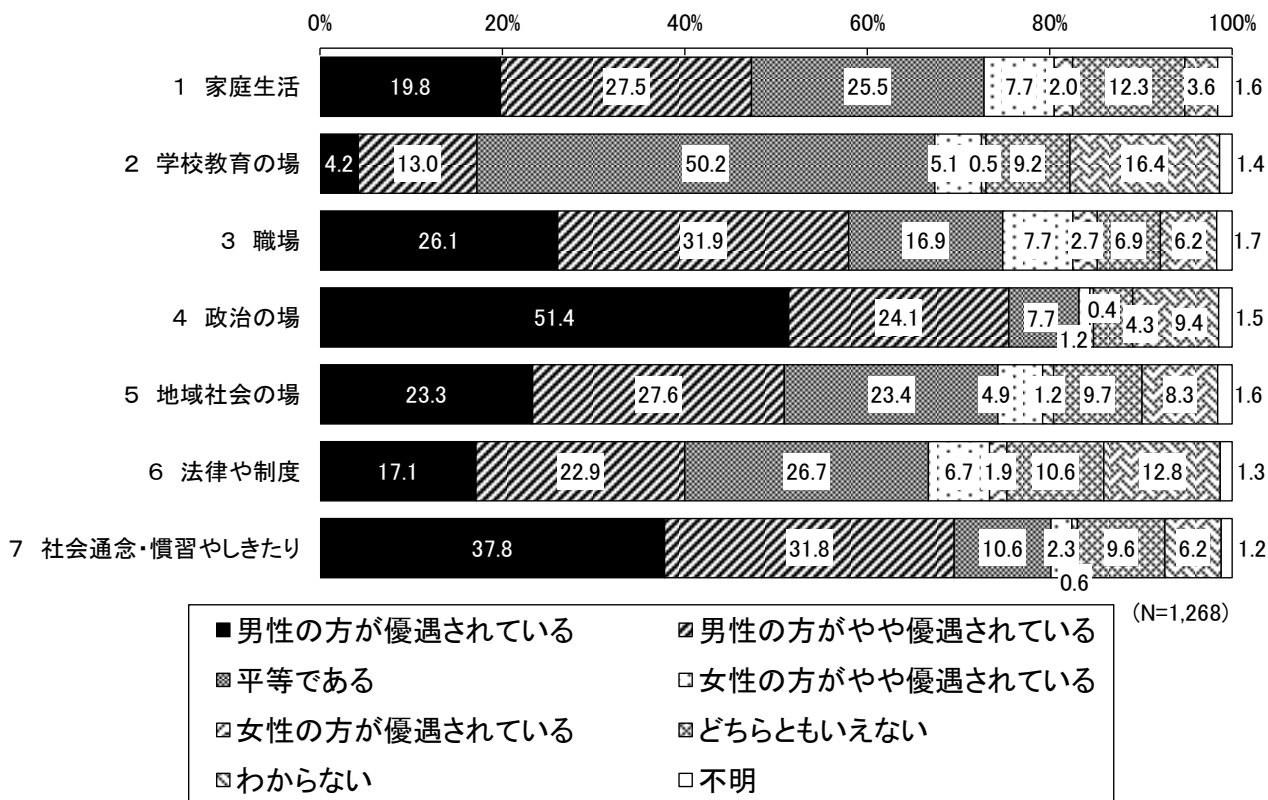
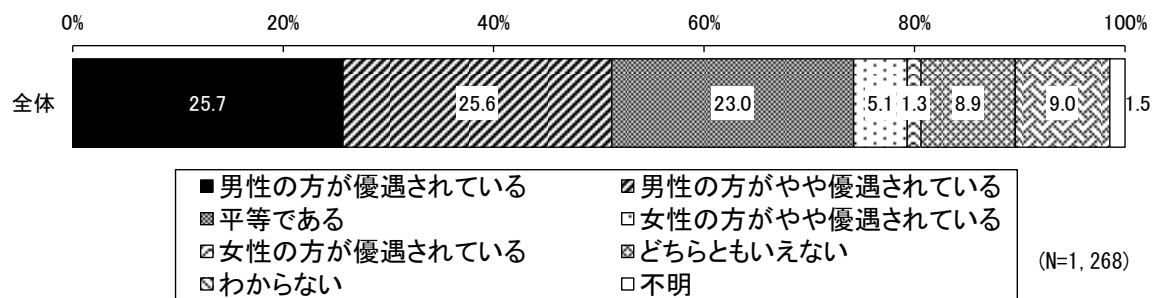
一方、『男性優遇』(「男性の方が優遇されている」と「男性の方がやや優遇されている」の合計)の割合が特に高い分野は、これまでの調査結果と同様に「政治の場」「社会通念・慣習やしきたり」の2分野であり、その割合はそれぞれ75.5%、69.6%となっており、多くの人が『男性優遇』と回答している。また、「職場」「地域社会の場」「家庭生活」も5割前後が『男性優遇』と回答している。「学校教育の場」を除いた全ての分野で依然として男性が優遇されている状況にある。

男女別では、どの項目も男性よりも女性の方が『男性優遇』の割合は高くなっている。女性で『男性優遇』が過半数を占めている分野は「家庭生活」「職場」「政治の場」「地域社会の場」「社会通念・慣習やしきたり」の5分野である。男性と女性で『男性優遇』の割合の差が特に大きい分野は「家庭生活」「法律や制度」であり、男女間での意識の差が大きくなっている。

経年的には、平成10年度以降、「家庭生活」「学校教育の場」「政治の場」「地域社会の場」「法律や制度」といった多くの分野で「平等である」の割合が増加し、『男性優遇』の割合が減少する傾向にあったが、平成30年度においてはどの項目も『男性優遇』の割合が平成25年度の前回調査より増加している。また、「家庭生活」「学校教育の場」「政治の場」「法律や制度」においては、「平等である」の割合も減少している。「職場」「地域社会の場」「社会通念・慣習やしきたり」では、「平等である」の割合は、前回調査からほぼ横ばいとなっている。全国の調査結果をみても、直近の平成28年度調査で「平等である」の割合が増加したものは「職場」のみで、それ以外は横ばいか減少となっており、平等観が強まった感はない。

男女の平等観を加重平均値で指標化してみると、「家庭生活」「職場」「地域社会の場」では、平成20年度以降、女性の指標は上昇傾向にある一方、男性は横ばいという傾向にあり、男女間の意識差が拡大していることがわかる。こういった女性の男性優遇ととらえる意識の強まり、男女間での意識差の拡大が『男性優遇』の割合が増加したひとつの要因と考えられる。

その他に特徴的な点として、「家庭生活」「学校教育の場」「地域社会の場」で、若い人ほど「平等である」の割合が高く、また「職場」でも若い人ほど『男性優遇』の割合が低くなっている。

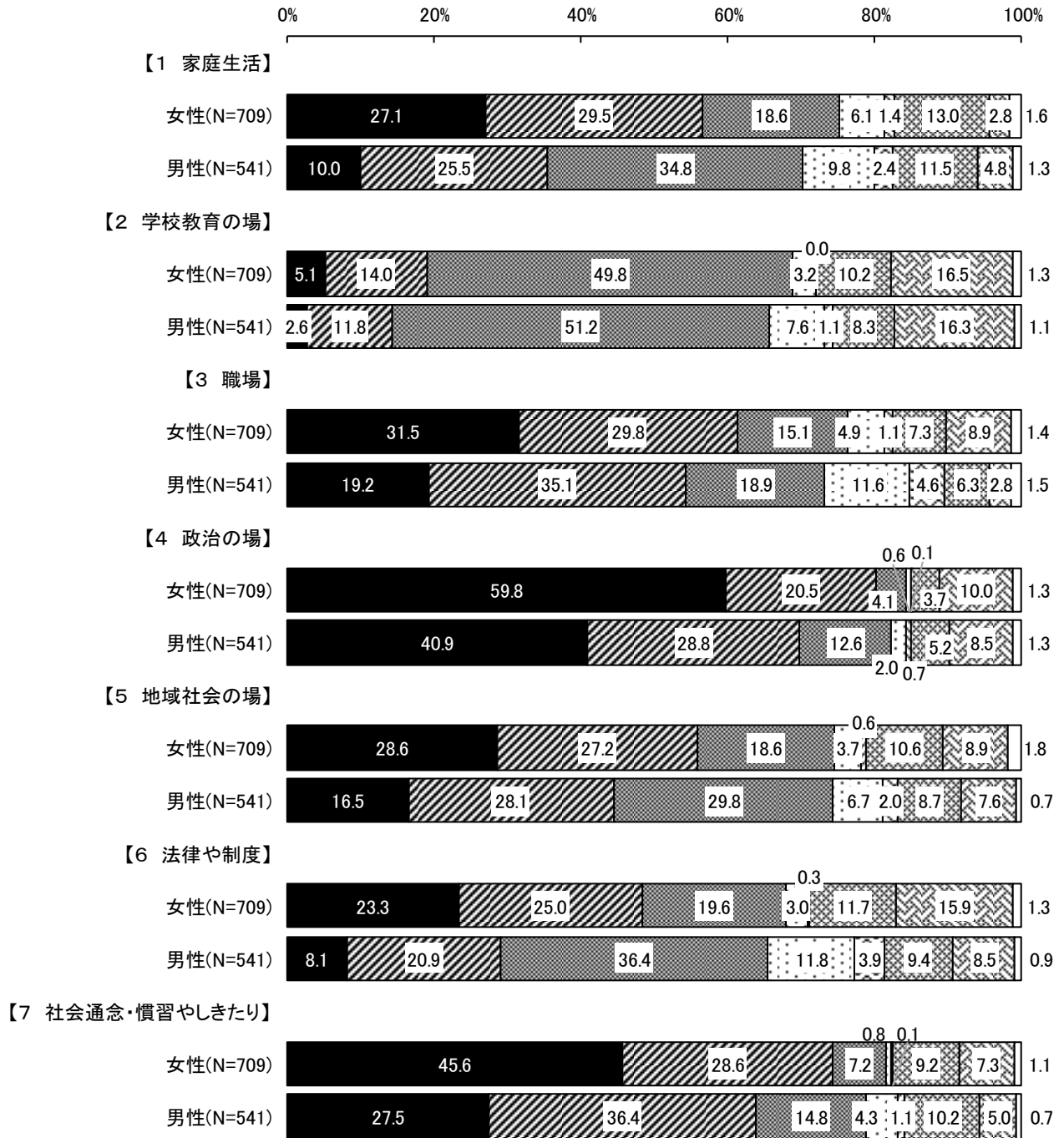


【評価…○:達成、△:未達だが改善、×:後退】

第3次プランにおける指標	実績値 H25	目標値	実績値 H30	評価
「学校教育の場が男女平等である」と回答した人の割合	53.6%	65%	50.9%	×
「社会通念・慣習やしきたり」において「男女平等である」と回答した人の割合	11.3%	14%	10.7%	×

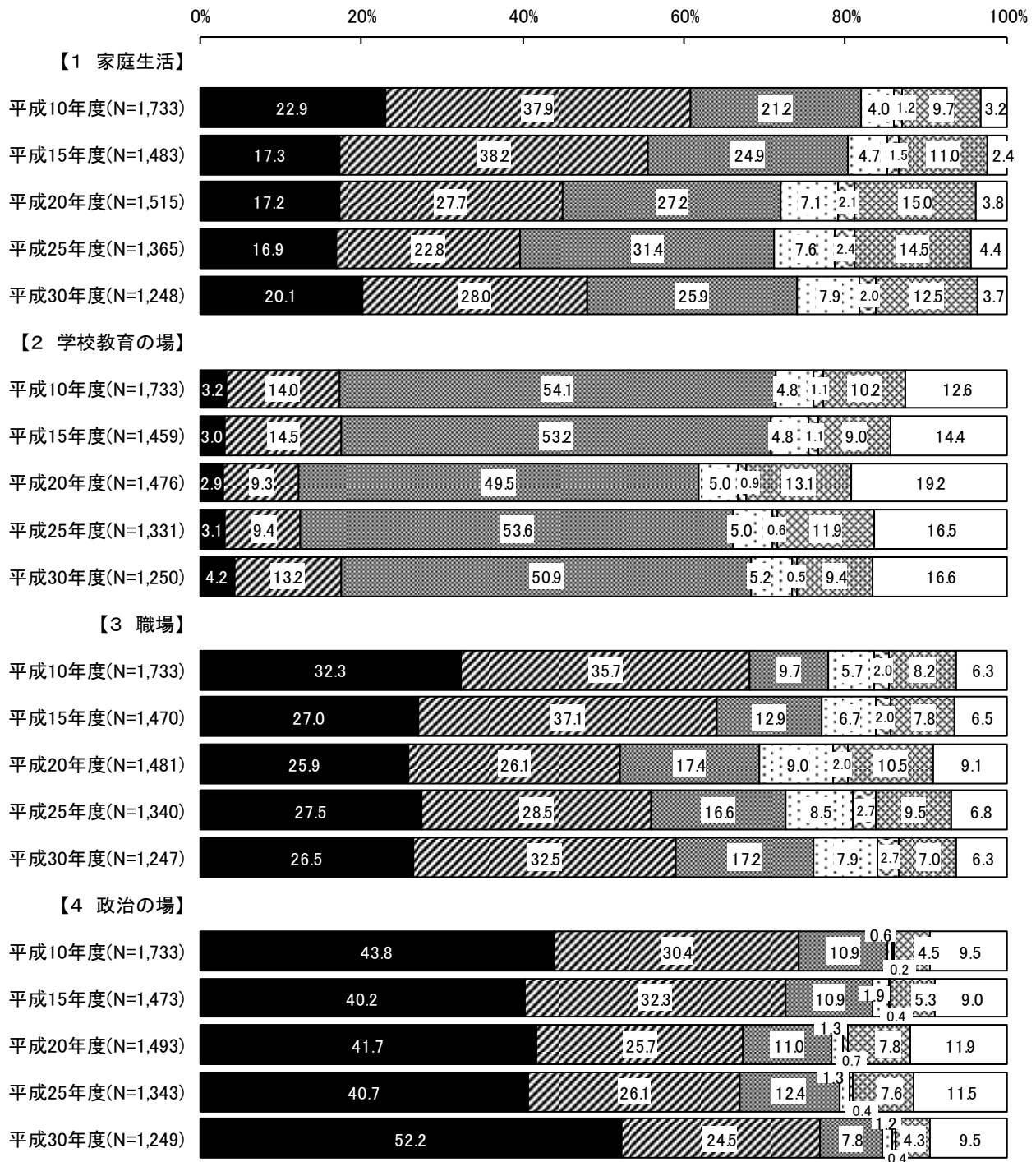
問1 男女別比較

※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。



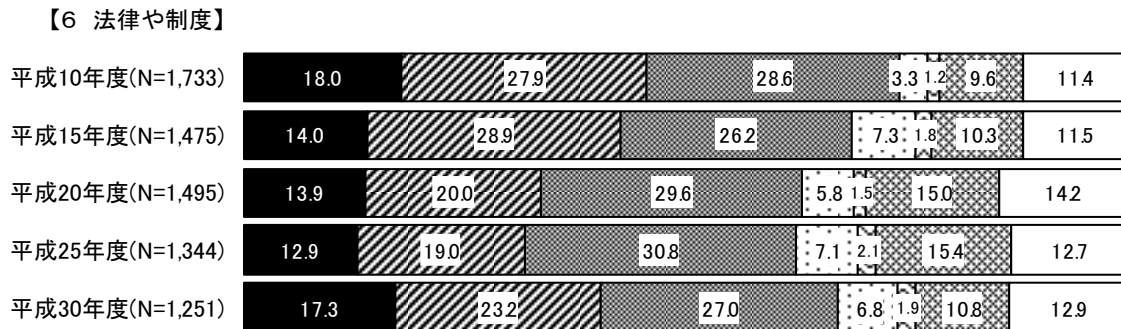
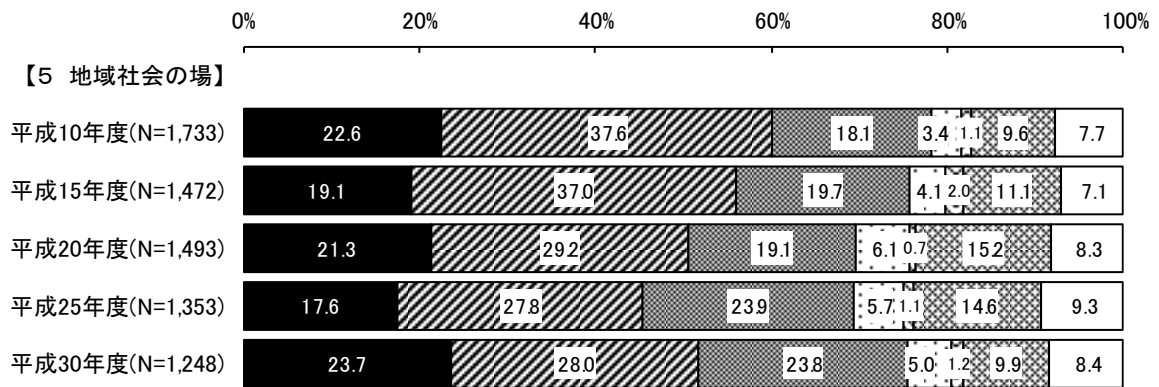
■ 男性の方が優遇されている	▣ 男性の方がやや優遇されている
■ 平等である	□ 女性の方がやや優遇されている
▣ 女性の方が優遇されている	▣ どちらともいえない
▣ わからない	□ 不明

問1 経年比較

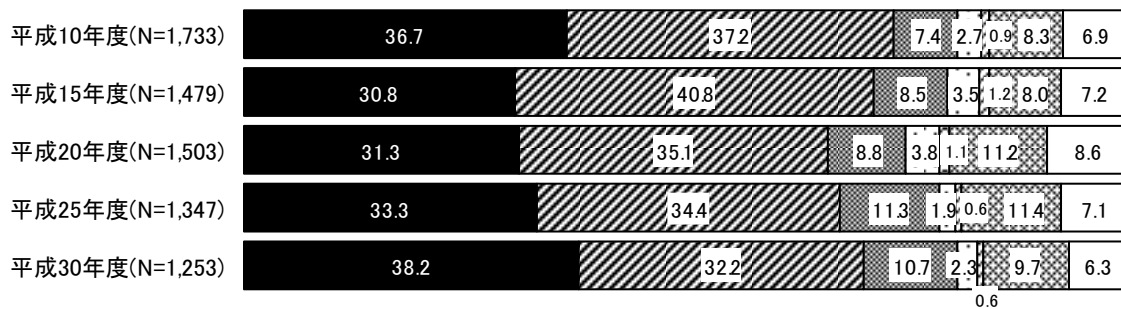


■ 男性の方が優遇されている
 ■ 男性の方がやや優遇されている
 ■ 平等である
 □ 女性の方がやや優遇されている
 □ 女性の方が優遇されている
 □ どちらともいえない
 □ わからない

※経年比較集計結果では、不明の回答者が含まれていないため、経年比較の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。



【7 社会通念・慣習やしきたり】

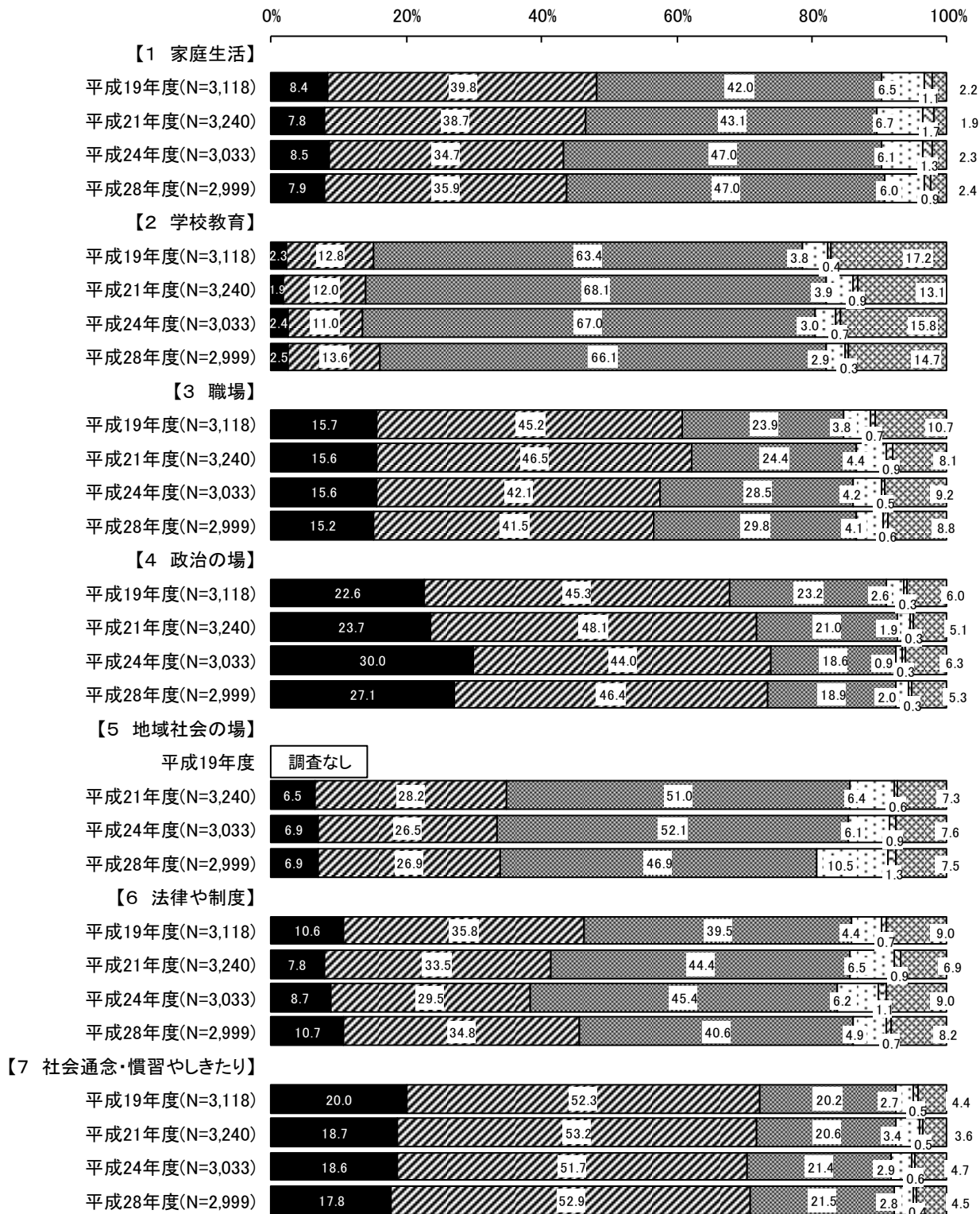


- | | |
|----------------|------------------|
| ■ 男性の方が優遇されている | ▣ 男性の方がやや優遇されている |
| ▤ 平等である | □ 女性の方がやや優遇されている |
| □ 女性の方が優遇されている | ▣ どちらともいえない |
| □ わからない | |

※経年比較集計結果では、不明の回答者が含まれていないため、経年比較の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

問1 【参考】全国・経年比較

※平成19年度、21年度、24年度は、20歳以上の者を対象としているため、平成28年度は調査結果のうち、18・19歳を除外して集計している。



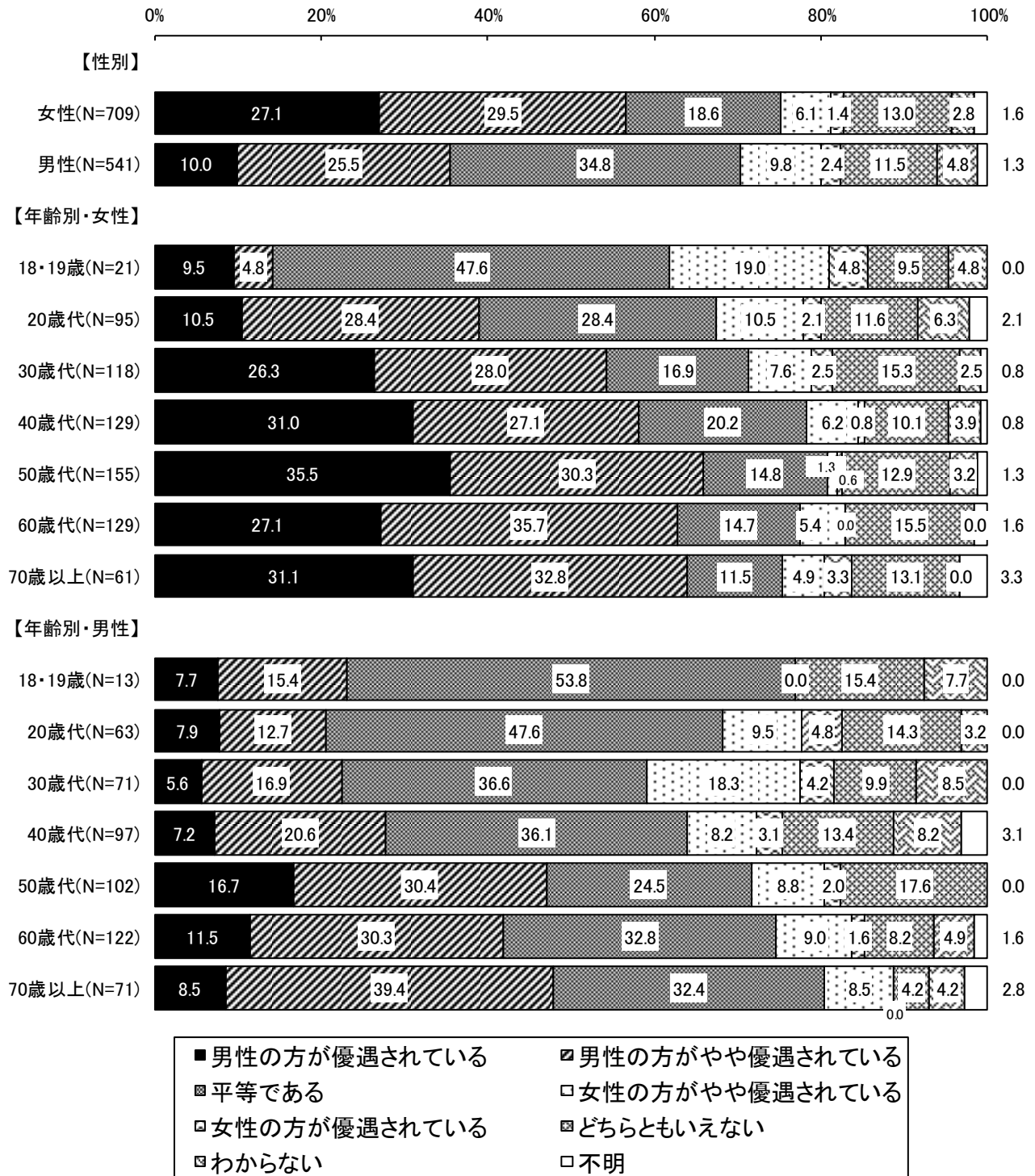
男性の方が非常に優遇されている どちらかといえば男性の方が優遇されている
 平等 どちらかといえば女性の方が優遇されている
 女性の方が非常に優遇されている わからない

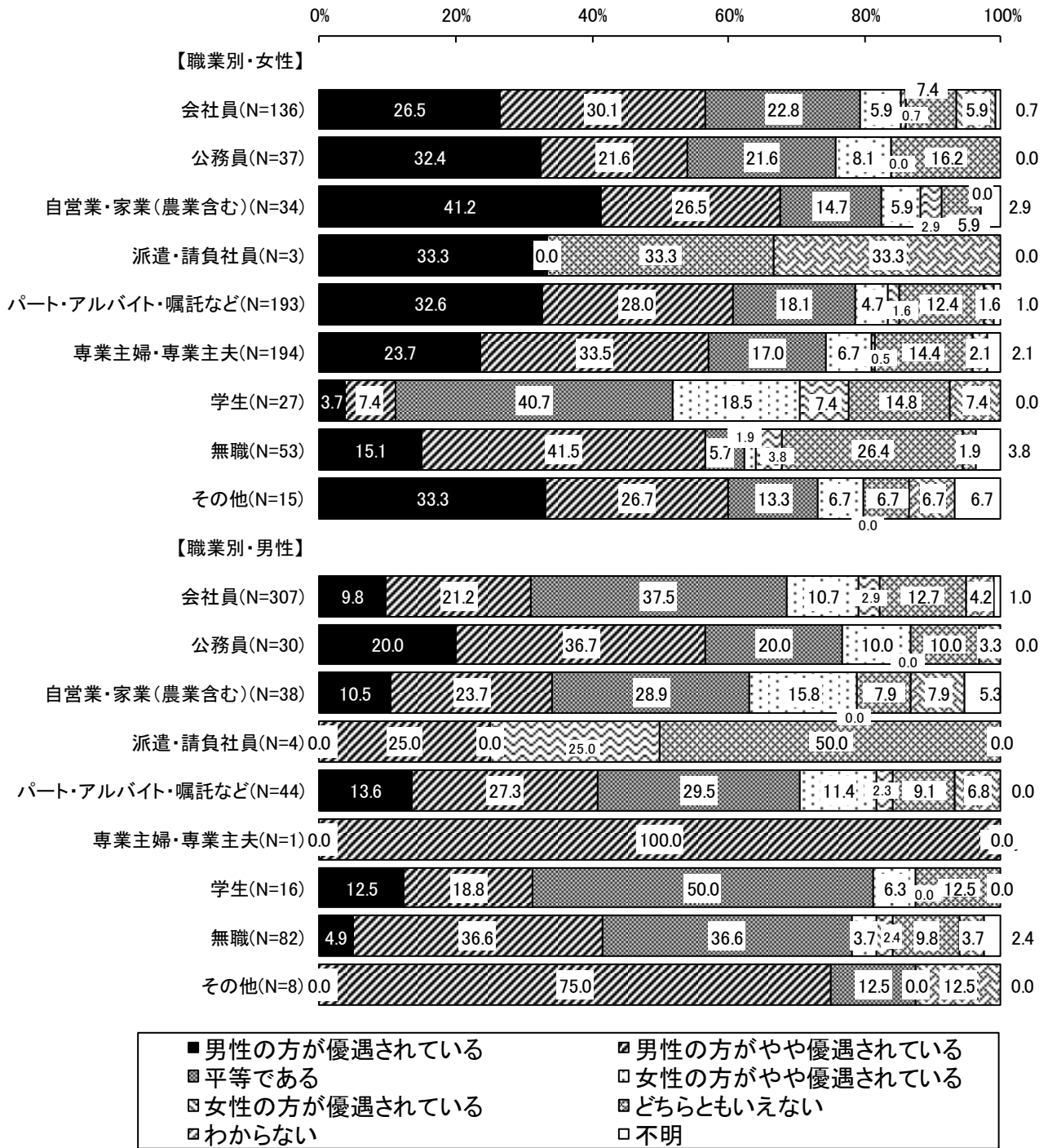
※全国…男女共同参画に関する世論調査（内閣府）における設問「あなたは、今からあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。」に対する回答

問1 男女年齢別比較

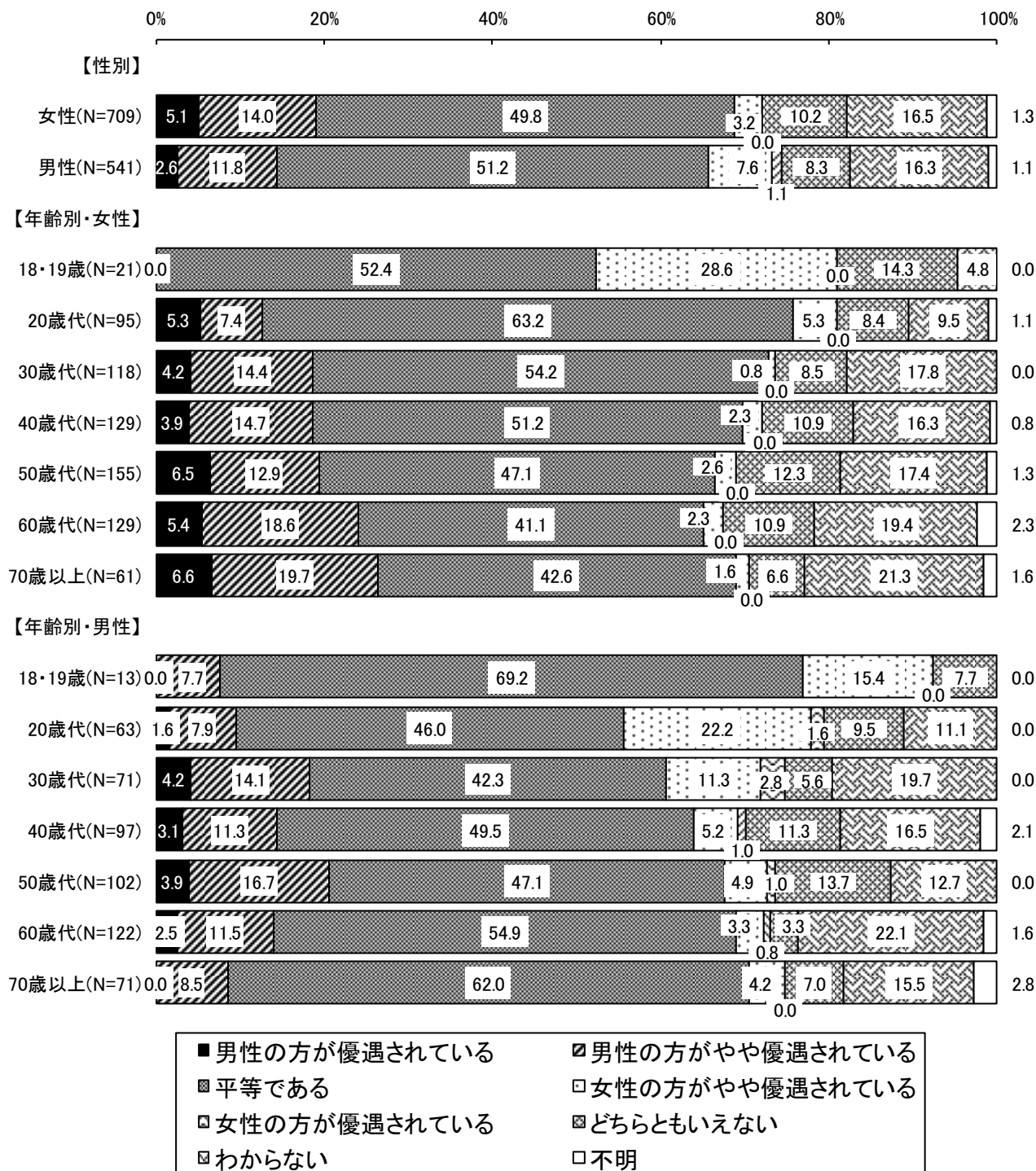
※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

【1 家庭生活】

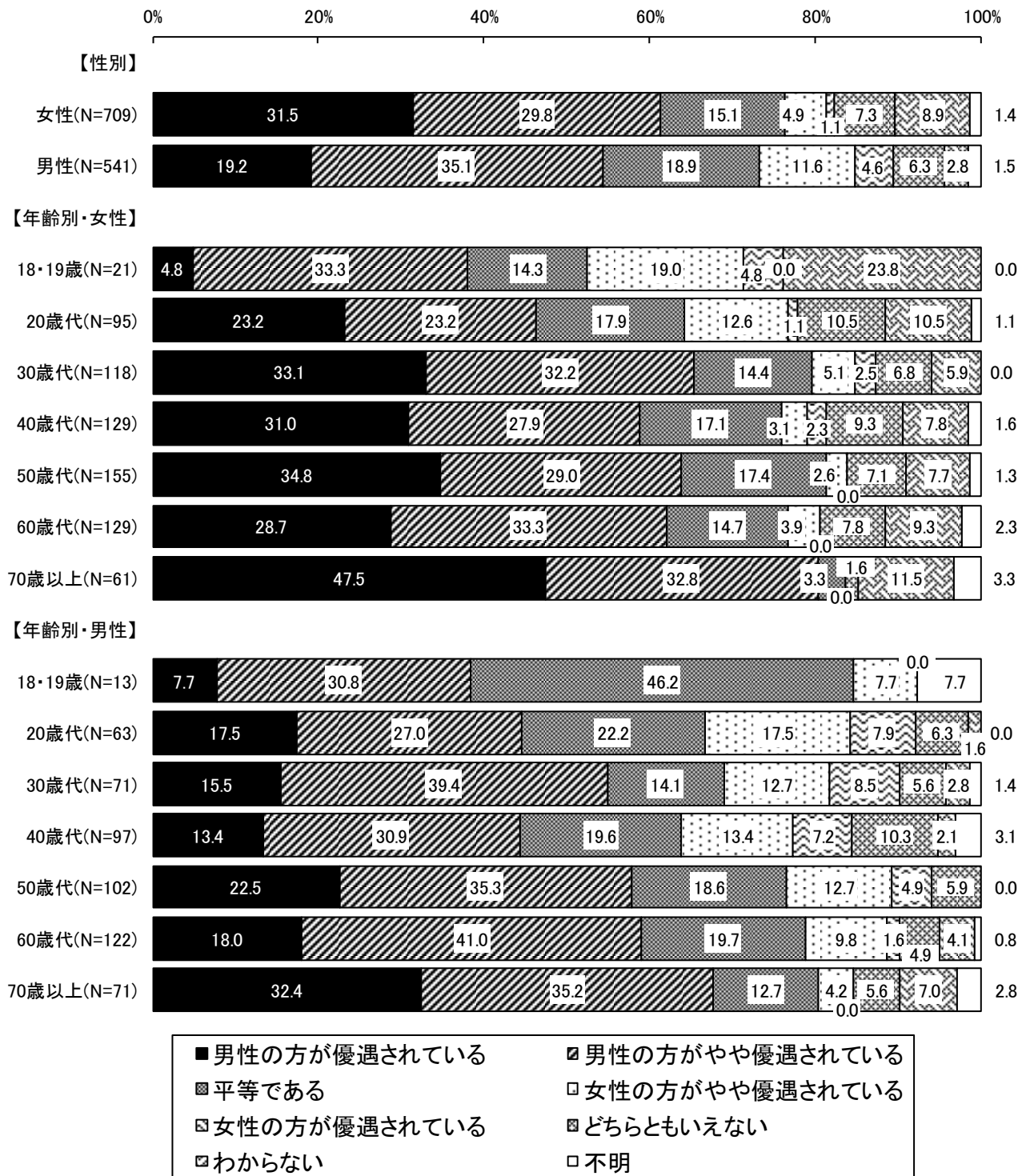


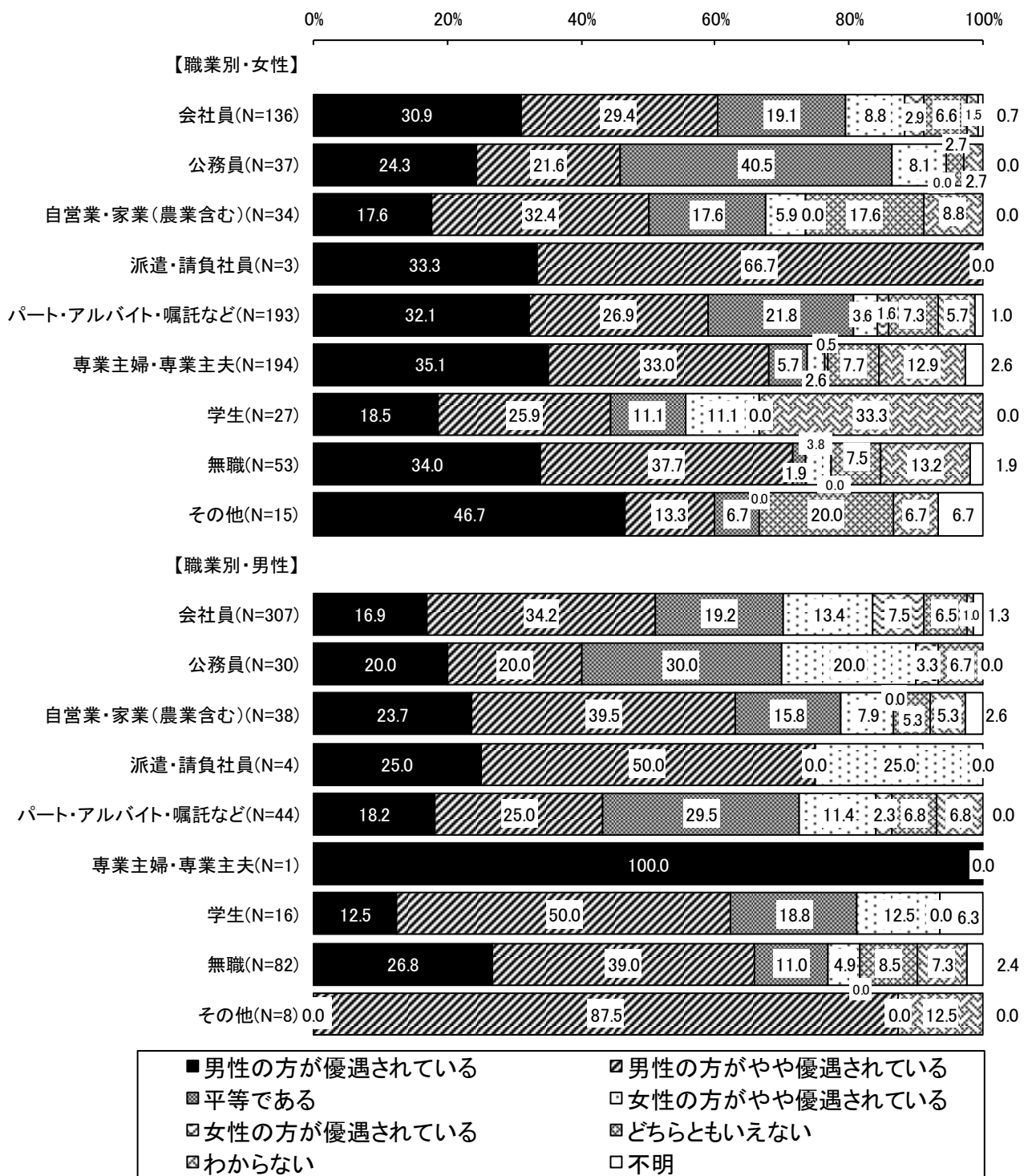


【2 学校教育の場】

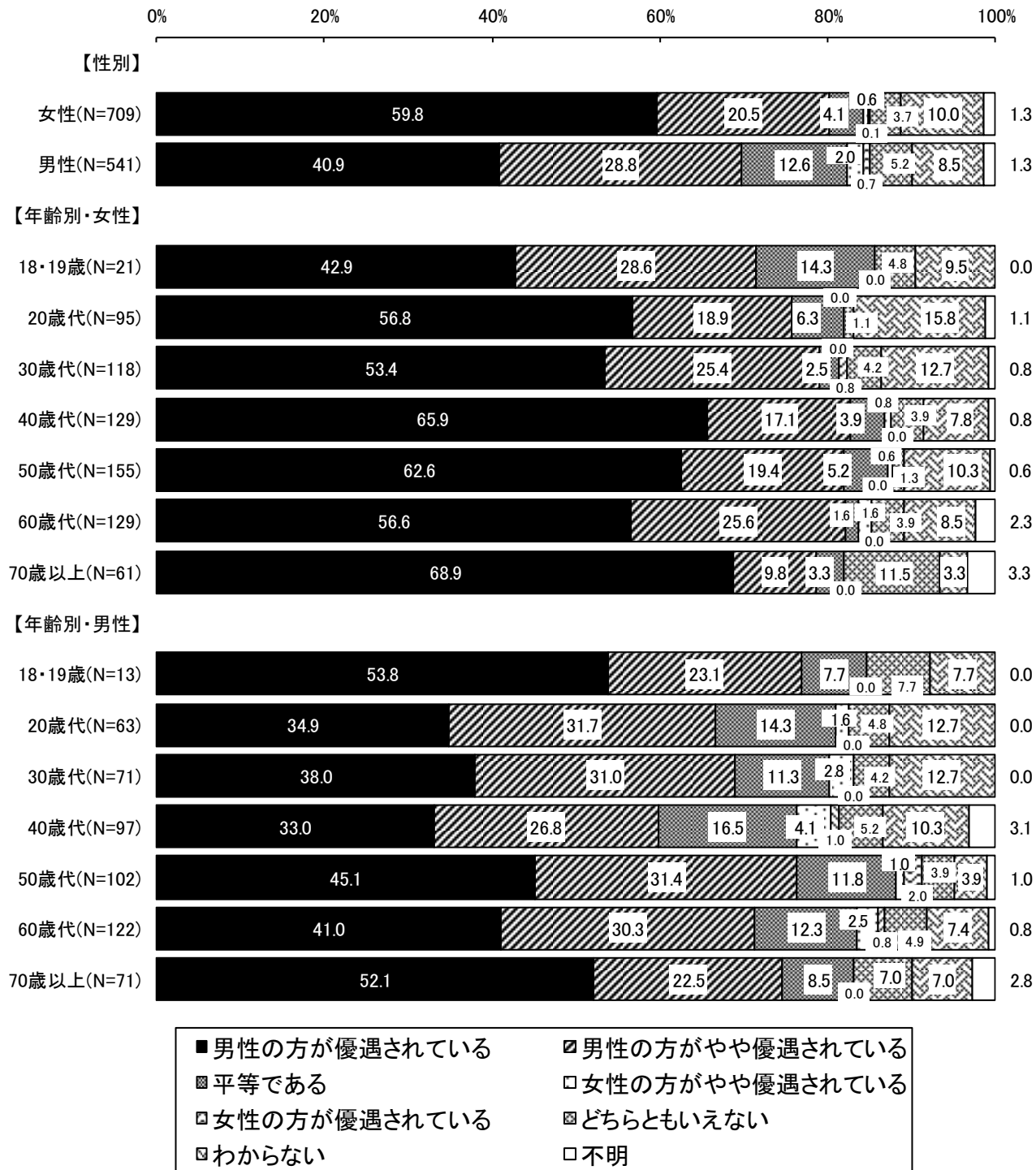


【3 職場】

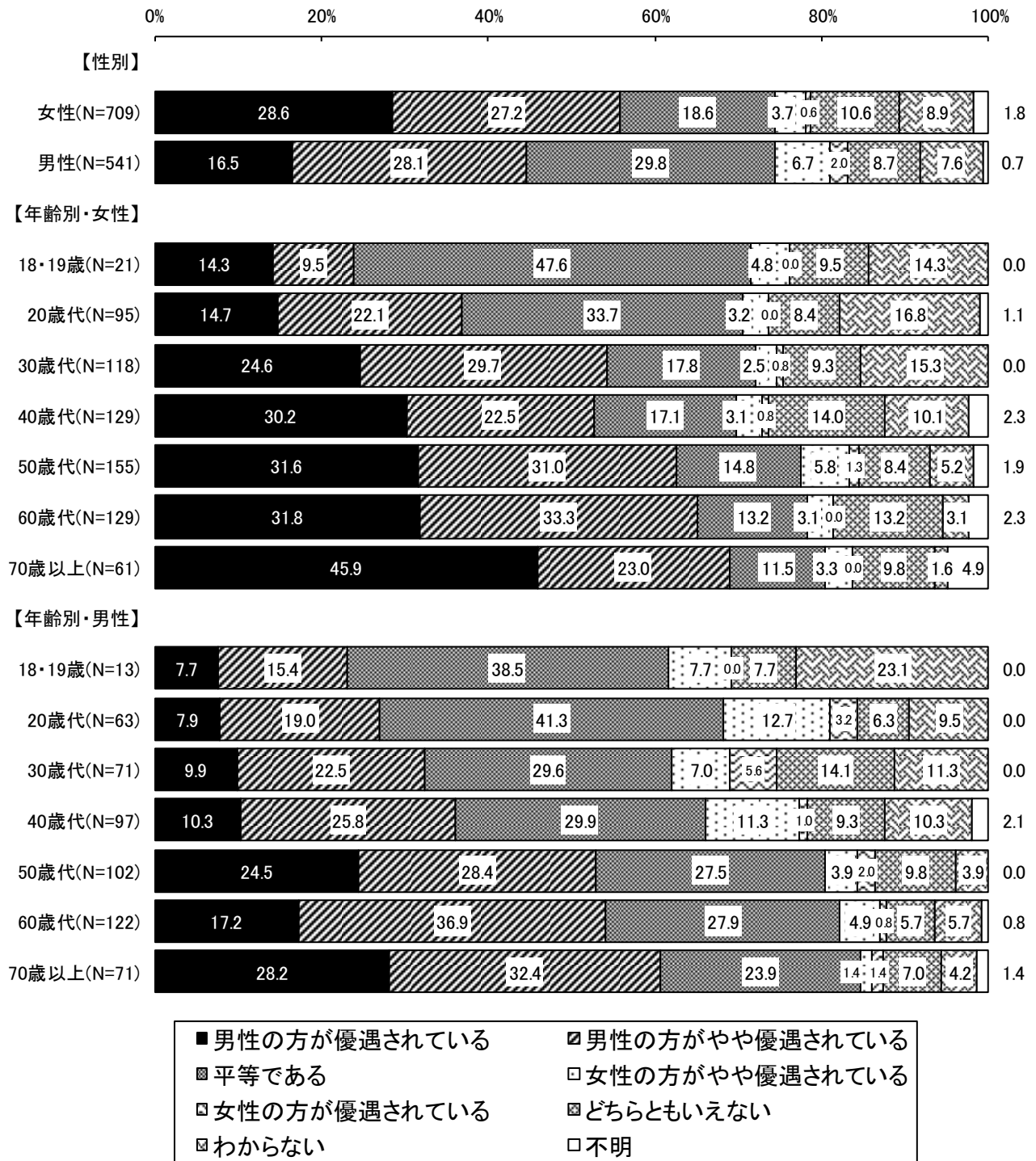




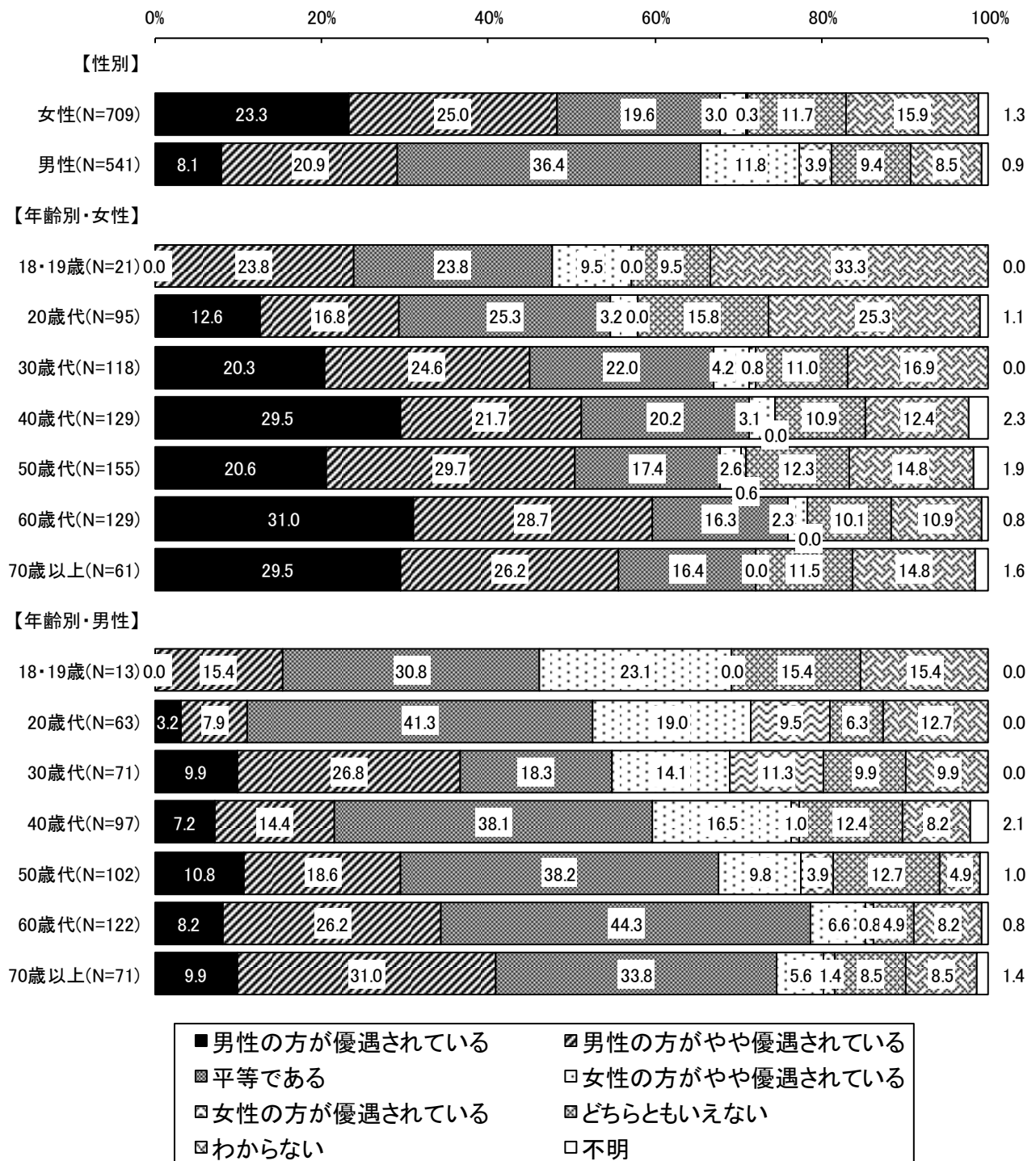
【4 政治の場】



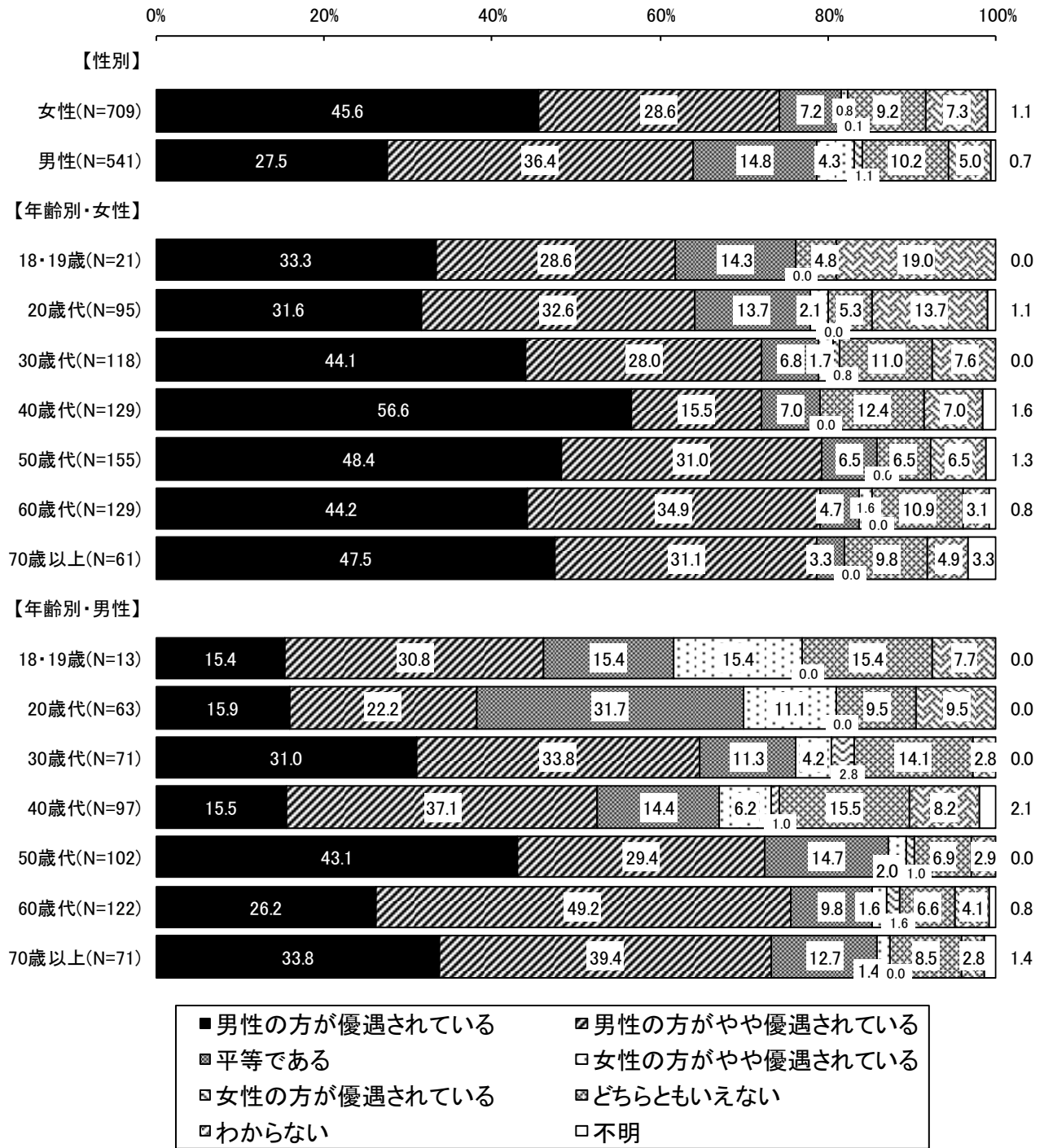
【5 地域社会の場】



【6 法律や制度】



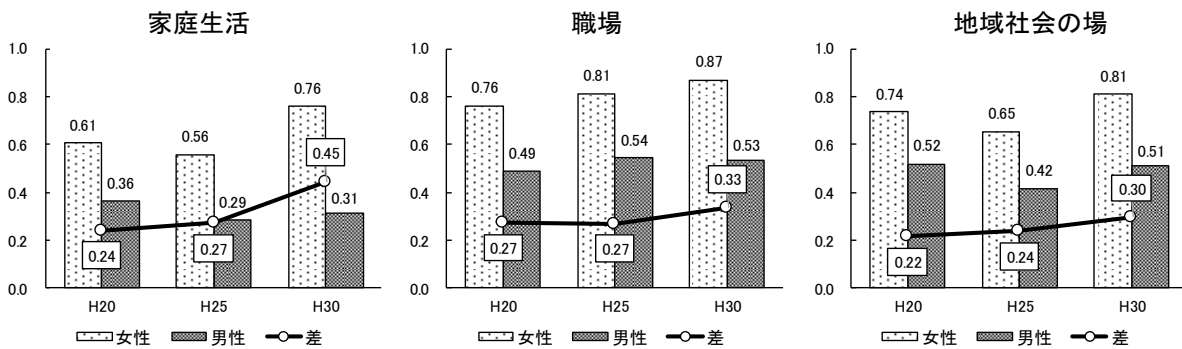
【7 社会通念・慣習やしきたり】



問1 指標（加重平均値）比較

男女の平等観を指標化して比較するため、加重平均値を算出する。加重平均とは、「男性の方が優遇されている」に+2点、「男性の方がやや優遇されている」に+1点、「平等である」に0点、「女性の方がやや優遇されている」に-1点、「女性の方が優遇されている」に-2点の点数を付け、それぞれの回答割合を乗じて平均して算出した値。+2点に近いほど男性優遇、-2点に近いほど女性優遇、0点に近いほど平等を示す指標である。

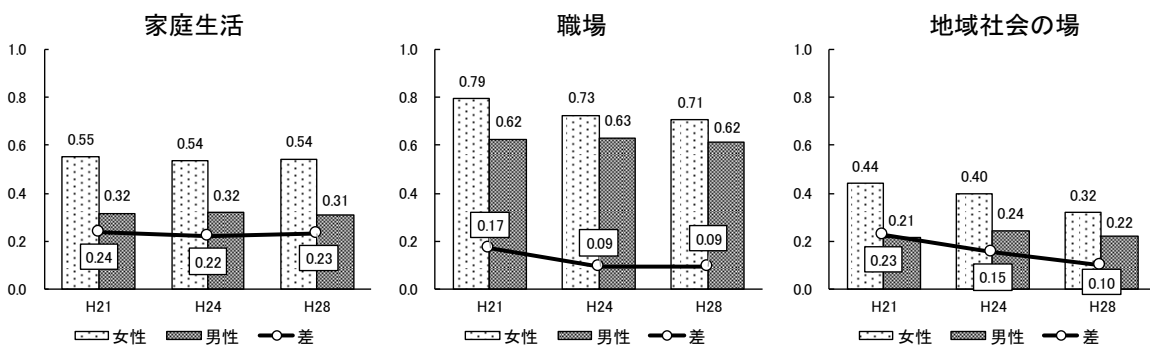
【豊田市】



指標（加重平均値）

	家庭生活			職場			地域社会の場		
	女性	男性	差	女性	男性	差	女性	男性	差
平成20年度	0.61	0.36	0.24	0.76	0.49	0.27	0.74	0.52	0.22
平成25年度	0.56	0.29	0.27	0.81	0.54	0.27	0.65	0.42	0.24
平成30年度	0.76	0.31	0.45	0.87	0.53	0.33	0.81	0.51	0.30

【全国】



指標（加重平均値）

	家庭生活			職場			地域社会の場		
	女性	男性	差	女性	男性	差	女性	男性	差
平成21年度	0.55	0.32	0.24	0.79	0.62	0.17	0.44	0.21	0.23
平成24年度	0.54	0.32	0.22	0.73	0.63	0.09	0.40	0.24	0.15
平成28年度	0.54	0.31	0.23	0.71	0.62	0.09	0.32	0.22	0.10

※全国…男女共同参画に関する世論調査（内閣府）における設問「あなたは、今からあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。」に対する回答。

3 男女の関わりの方について

問2 男女の関わりに関する以下の考え方や行動について、あなたはどのように考えますか。

(1) ①～⑪について、あなたはどのように考えますか。(単数回答)

男女の関わり方に関する考えについては、「子育ては女性も男性も協力して行う」で『賛成』(「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計)の割合が95.6%と最も高く、次いで、「男性も家事をきちんとする」「女性も積極的に地域活動に参加する」「女性も積極的に仕事をする」「結婚をしてもそれぞれ自分名義の財産を持つ」の5項目で『賛成』の割合が約8割以上と高くなっている。

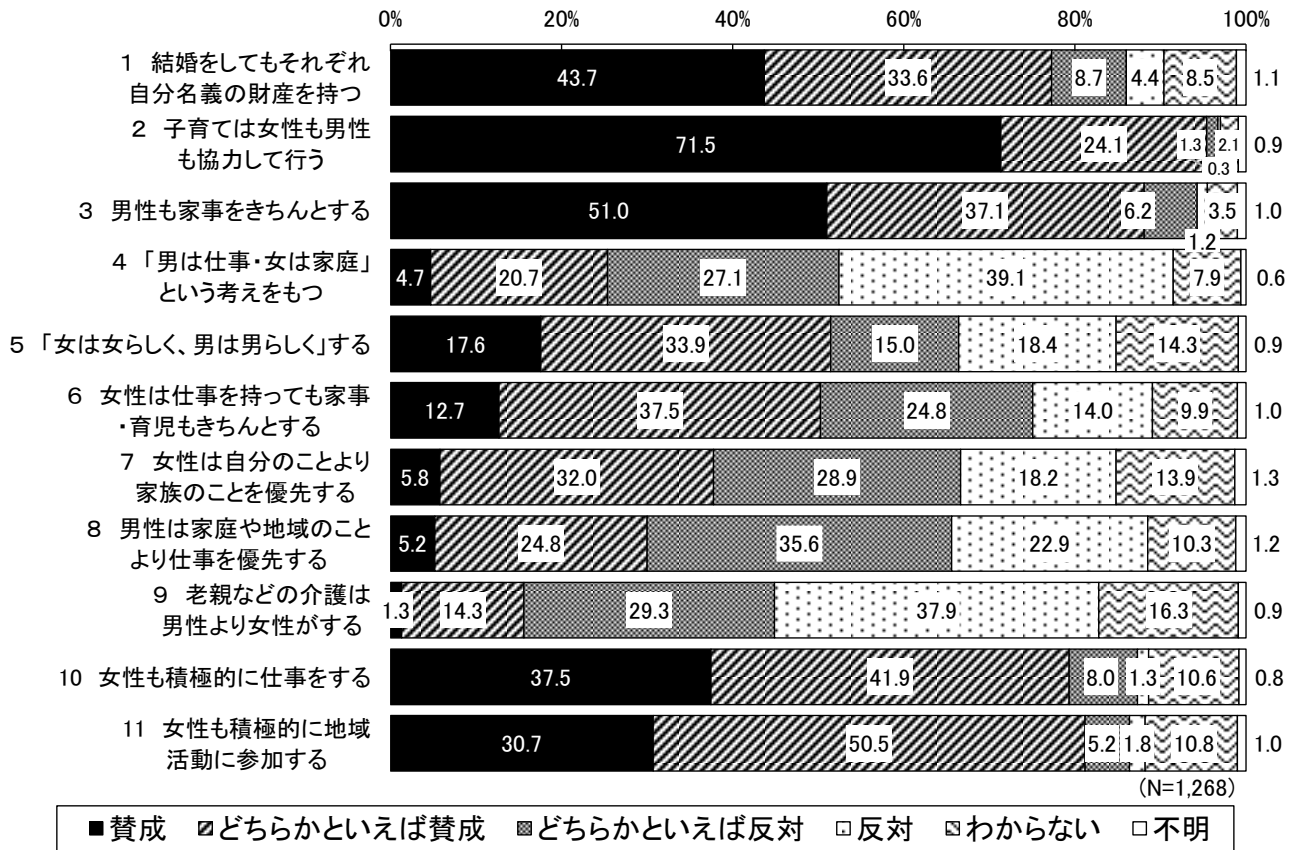
男女別では、『賛成』の割合が高い項目としては、「子育ては女性も男性も協力して行う」が男女ともに9割を超えて最も高くなっている。その他、女性では「男性も家事をきちんとする」(93.1%)、「結婚してもそれぞれ自分名義の財産を持つ」(84.6%)、男性では「女性も積極的に地域活動に参加する」(84.8%)、「男性も家事をきちんとする」(81.7%)が高くなっている。これらの項目については「女性も積極的に地域活動に参加する」を除いて、男性より女性の方が『賛成』の割合が高くなっている。

一方、『反対』(「反対」と「どちらかといえば反対」の合計)の割合が高い項目としては、女性では、「老親などの介護は男性より女性がする」の割合が77.1%と最も高く、次いで、「『男は仕事・女は家庭』という考えをもつ」が73.7%、「男性は家庭や地域のことより仕事を優先する」が63.7%となっている。男性では「『男は仕事・女は家庭』という考えをもつ」が56.7%で最も高く、次いで「老親などの介護は男性より女性がする」(54.7%)、「男性は家庭や地域のことより仕事を優先する」(52.5%)となっている。これらの項目についても女性の方が『反対』の割合が高くなっている。

経年的には、「子育ては女性も男性も協力して行う」の割合は平成20年度以降、いずれの年度も9割を超えて最も高くなっている。『賛成』の割合が増加傾向にあるのは、「結婚をしてもそれぞれ自分名義の財産を持つ」であり、『賛成』の割合が減少傾向にあるのは、「『女は女らしく、男は男らしく』する」となっている。また、その他に平成25年度調査より『賛成』が減少したのは、「男性も家事をきちんとする」「女性は仕事を持って家事・育児もきちんとする」「女性は自分のことより家族のことを優先する」となっている。

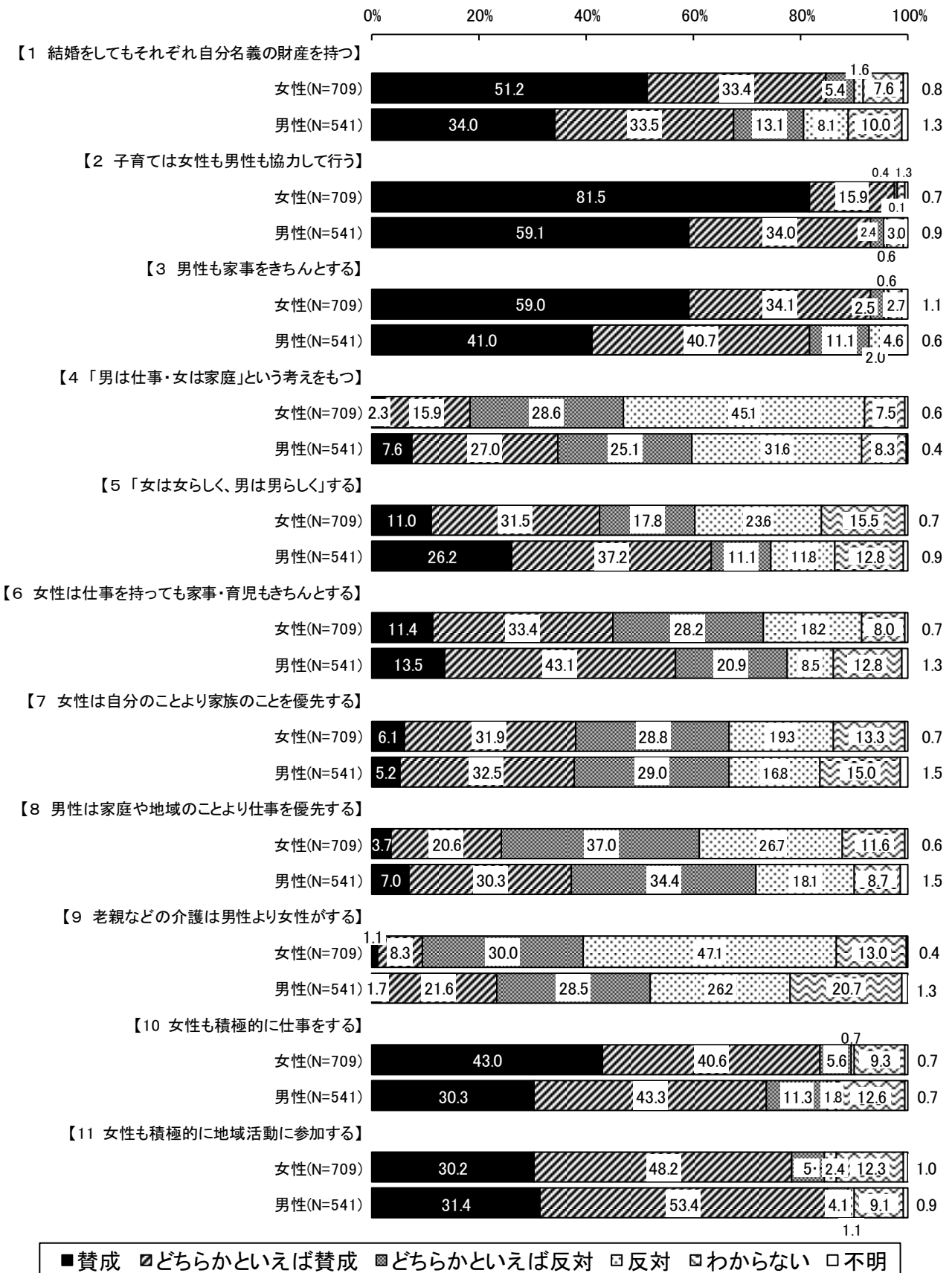
年齢別では、「子育ては女性も男性も協力して行う」「男性も家事をきちんとする」は男女ともに若いほど『賛成』の割合が高い傾向がある。また、「『女は女らしく、男は男らしく』する」「女性は自分のことより家族のことを優先する」「男性は家庭や地域のことより仕事を優先する」では、男女ともに若いほど『反対』の割合が高い傾向がある。

全国・愛知県と比較すると、「『男は仕事・女は家庭』という考えをもつ」に『反対』の割合は、男女ともに豊田市は全国・愛知県より高くなっており、男女共同参画意識は高いといえる。



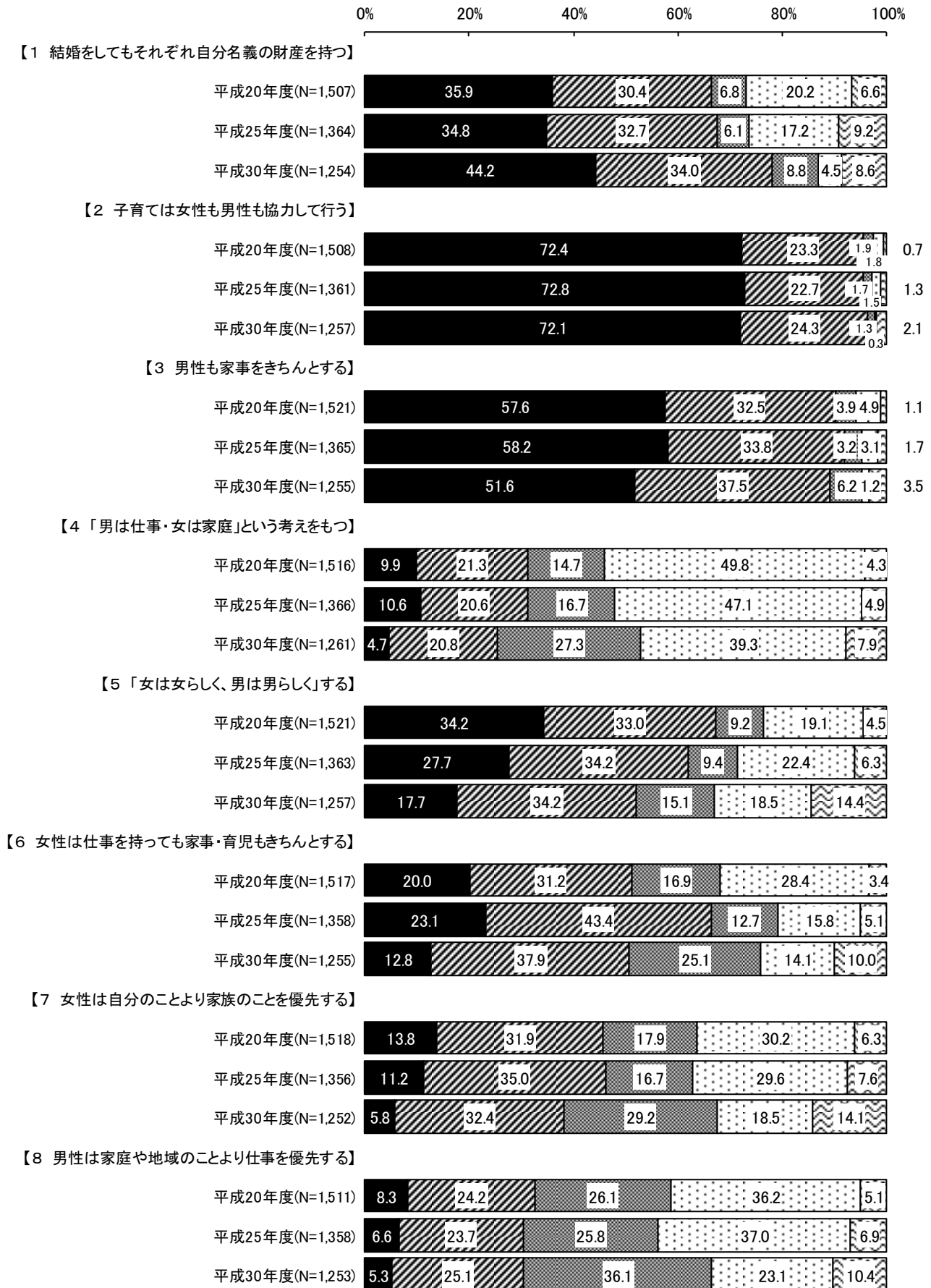
問 2 (1) 男女別比較

※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。



問 2 (1) 経年比較

※経年比較集計結果では、不明の回答者が含まれていないため、経年比較の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。



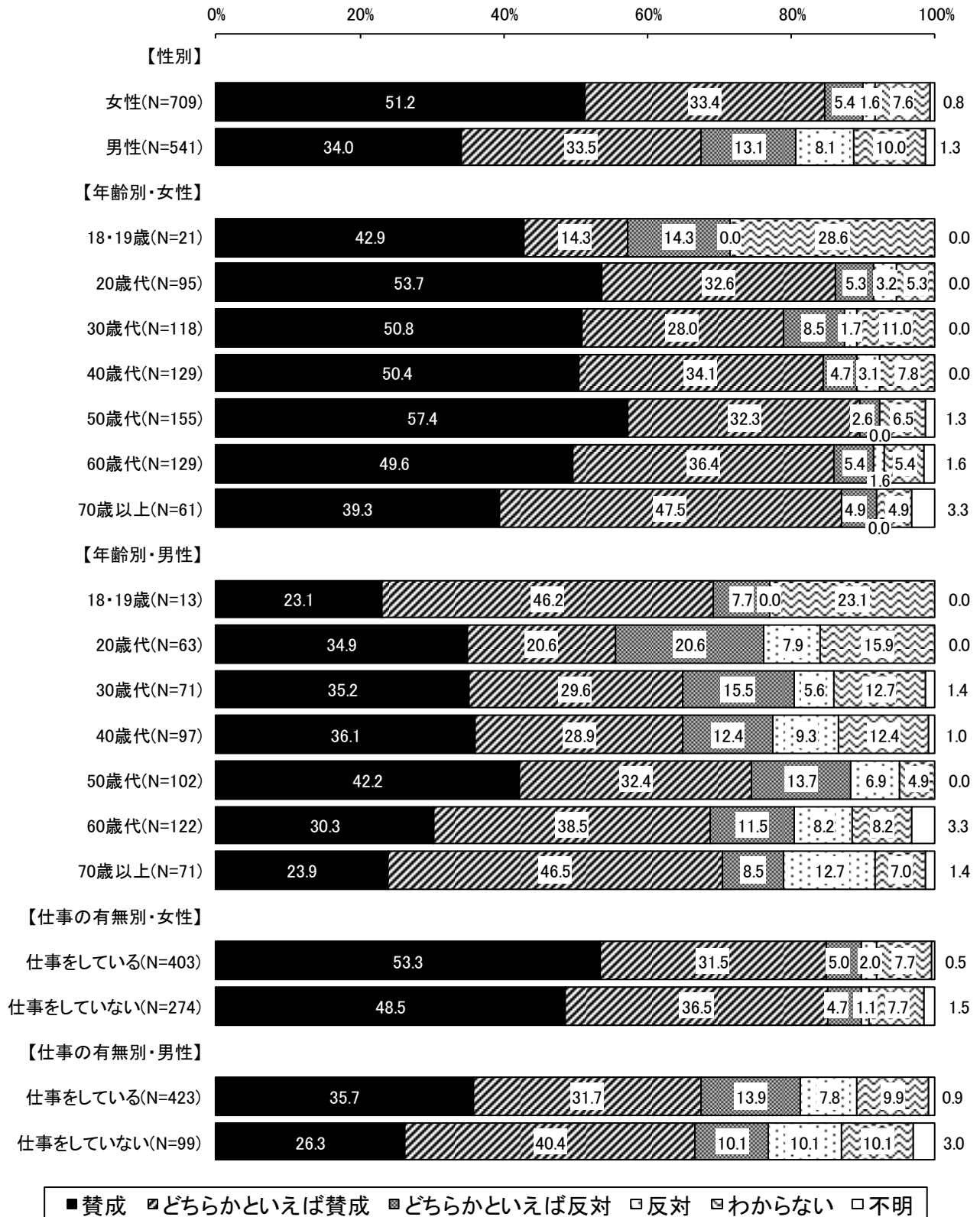
■賛成 □どちらかといえば賛成 ▣どちらかといえば反対 □反対 □わからない

※9～11は平成30年度調査から新設した設問であるため、経年比較はありません。

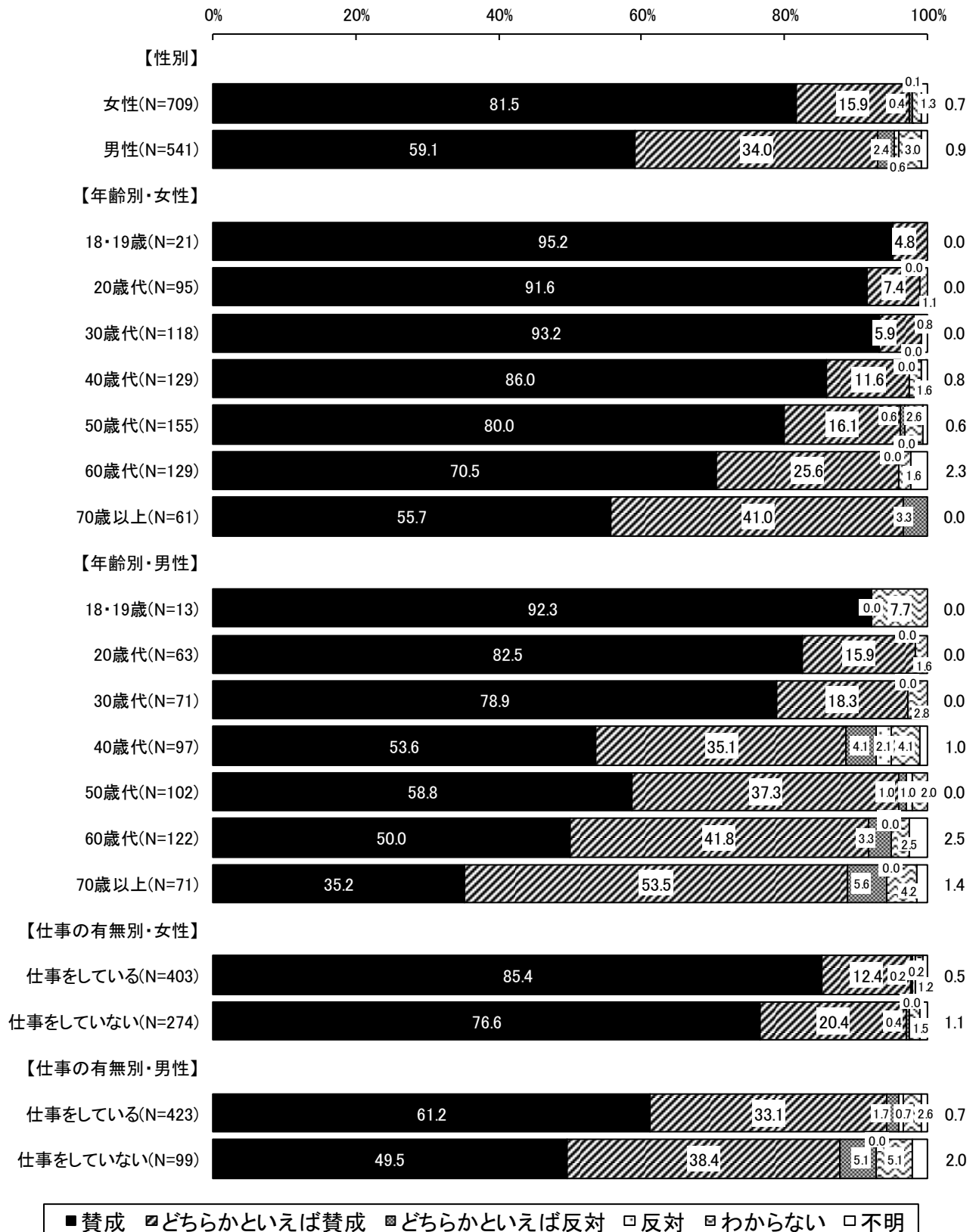
問2 (1) 男女年齢・仕事の有無別比較

※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

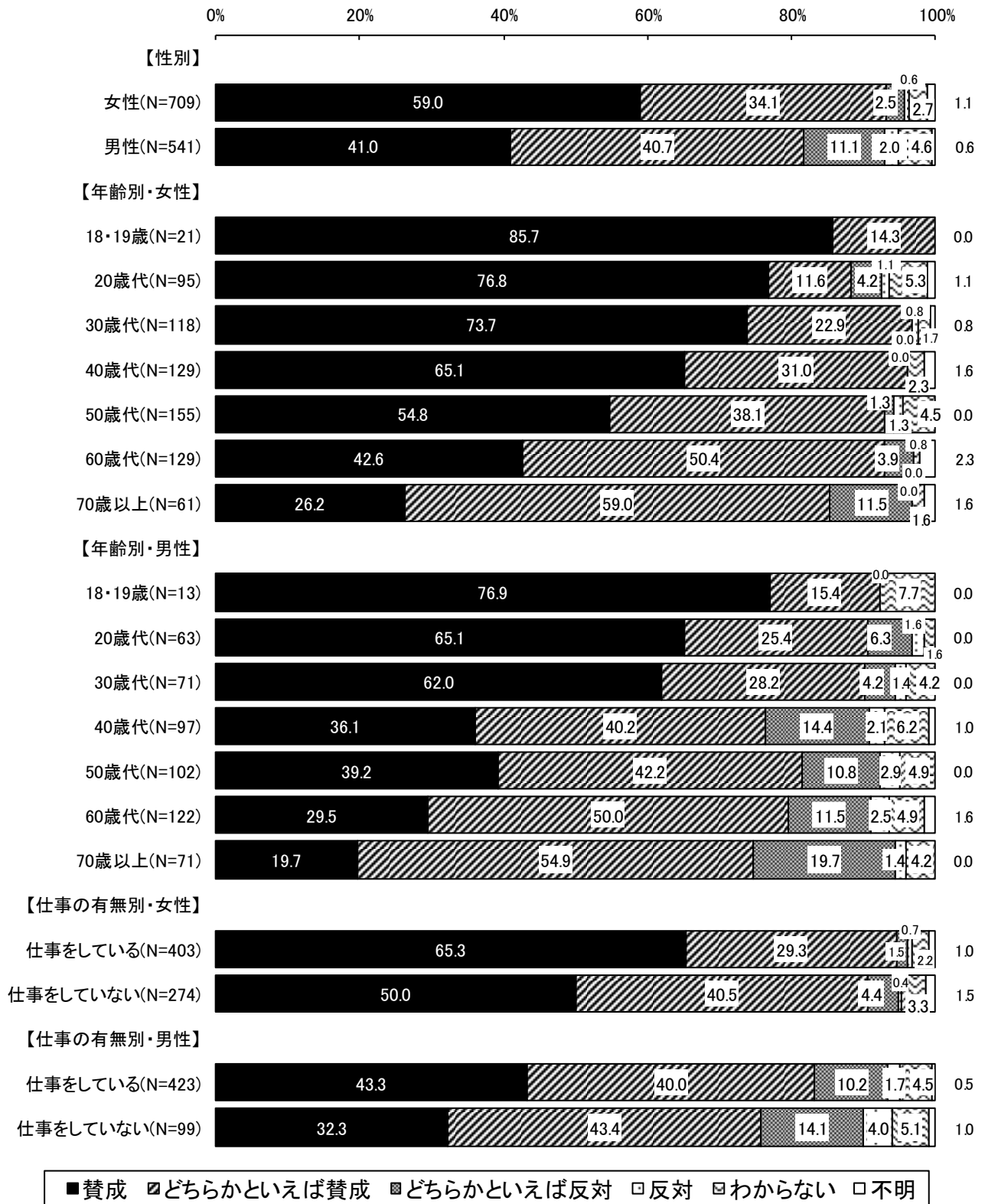
【1 結婚をしてもそれぞれ自分名義の財産を持つ】



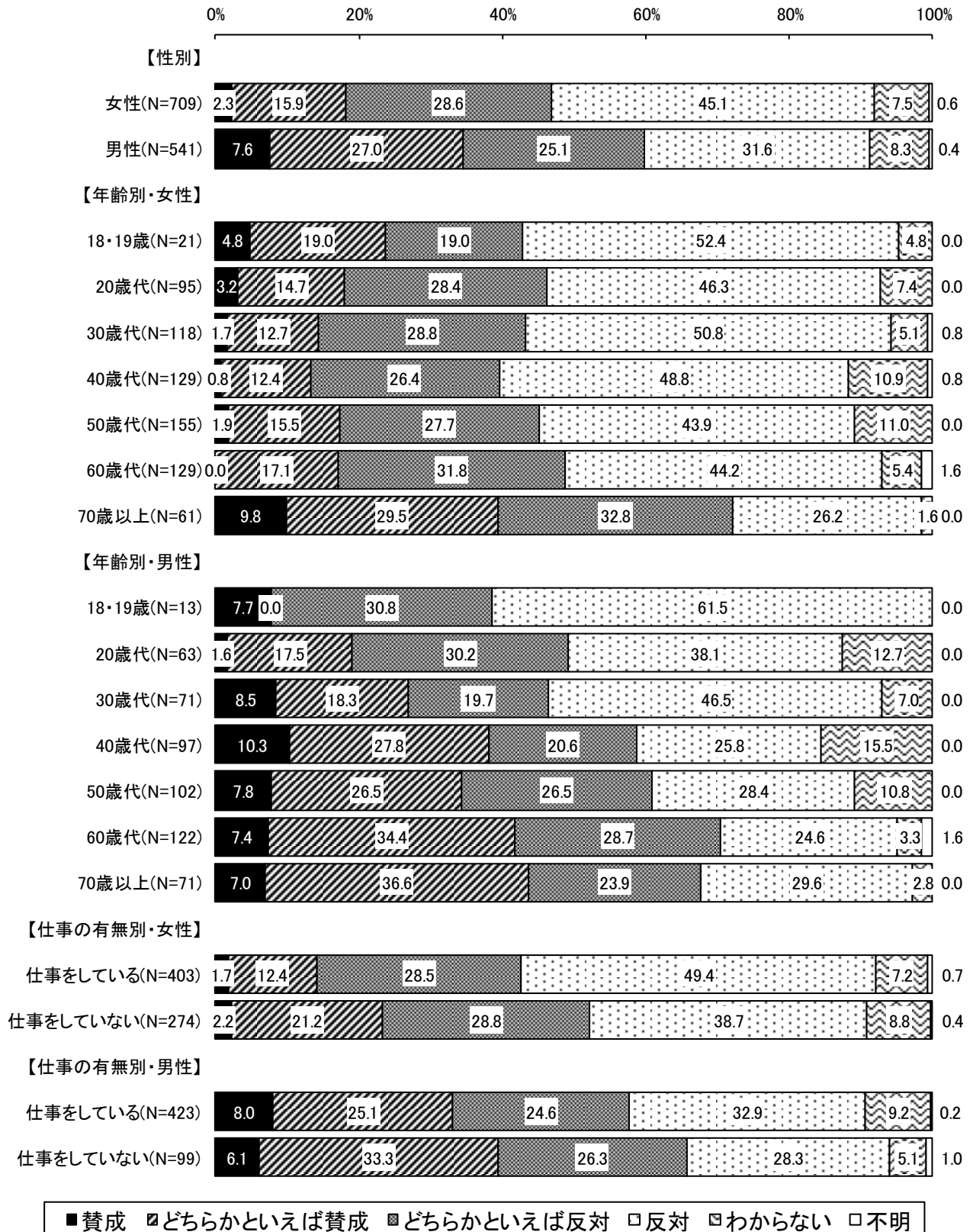
【2 子育ては女性も男性も協力して行う】



【3 男性も家事をきちんとする】

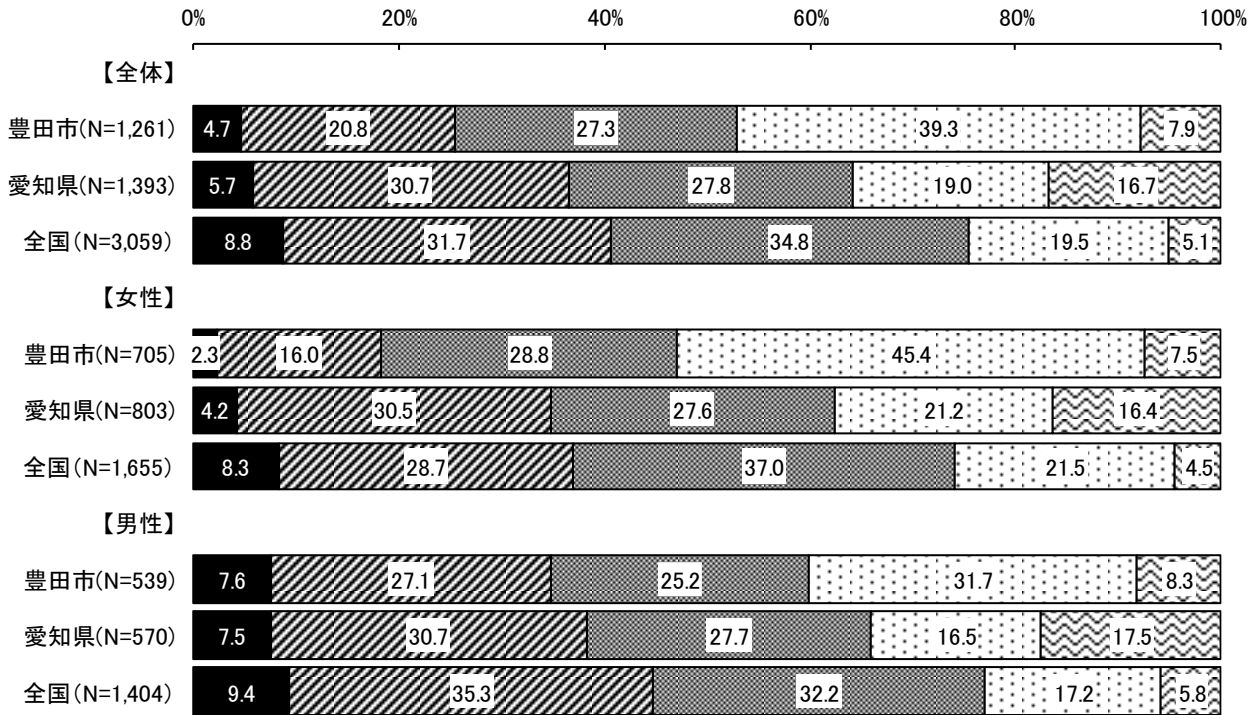


【4 「男は仕事・女は家庭」という考えをもつ】



問 2 (1) 全国・愛知県との比較

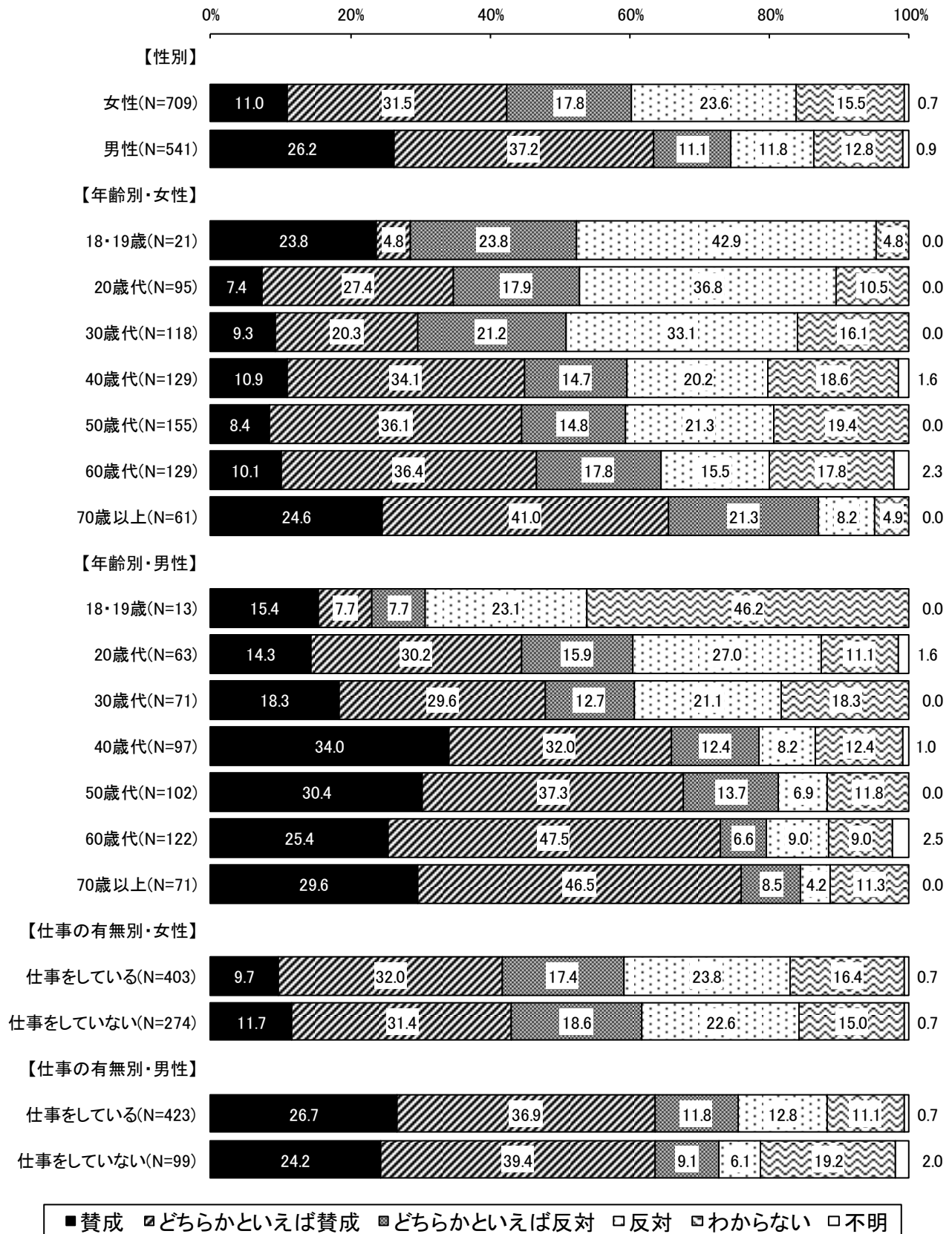
※全国の集計結果には不明の回答が含まれていないため、不明を除いて集計。
そのため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。



■ 賛成 □ どちらかといえば賛成 ▨ どちらかといえば反対 □ 反対 □ わからない

※全国…平成 28 年度男女共同参画に関する世論調査（内閣府）における設問「『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』という考え方について、あなたはどうお考えですか。」に対する回答
 ※愛知県…平成 29 年度第 2 回県政世論調査（愛知県）における設問「『夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである』という考え方について、あなたはどうお考えですか。」に対する回答

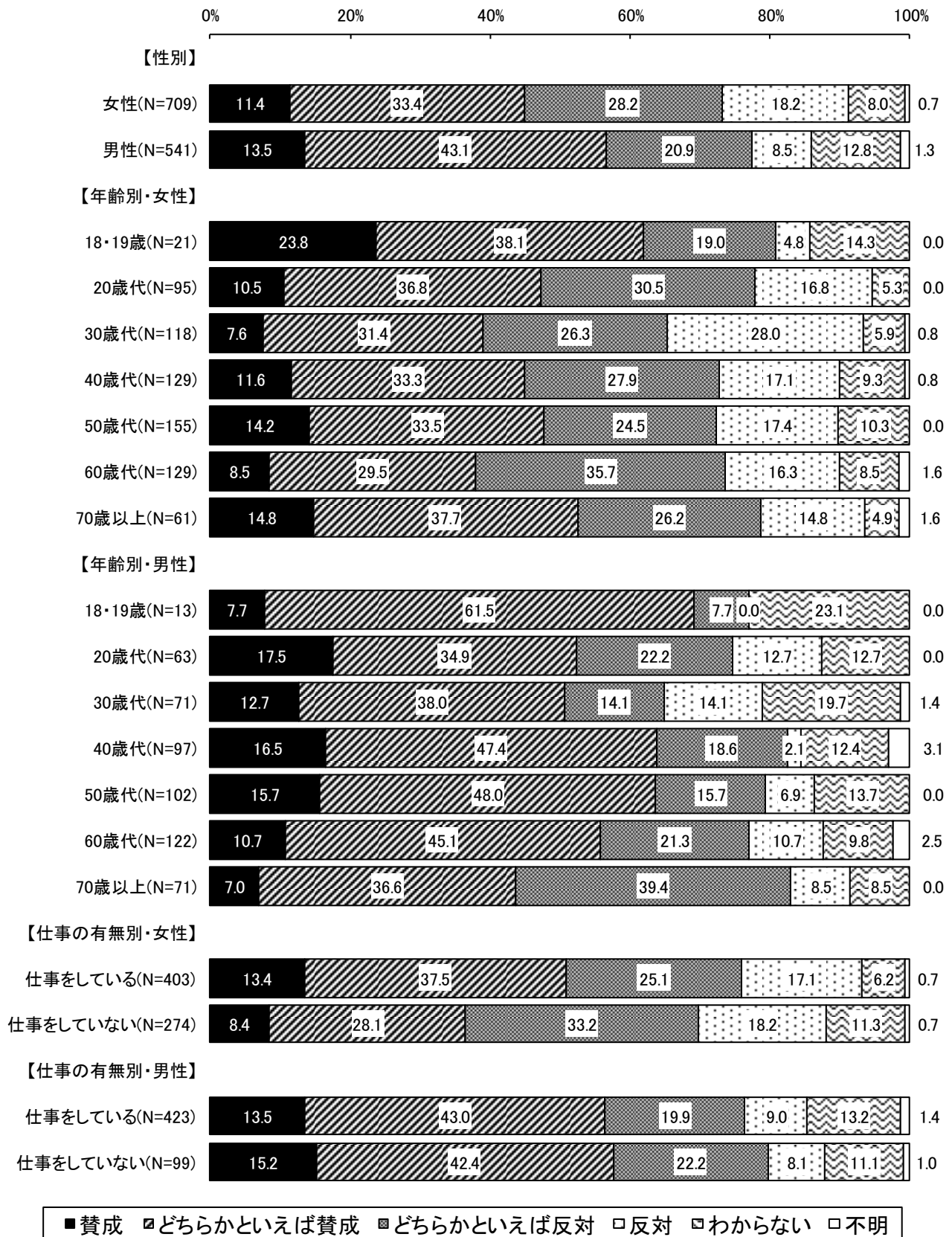
【5 「女は女らしく、男は男らしく」する】



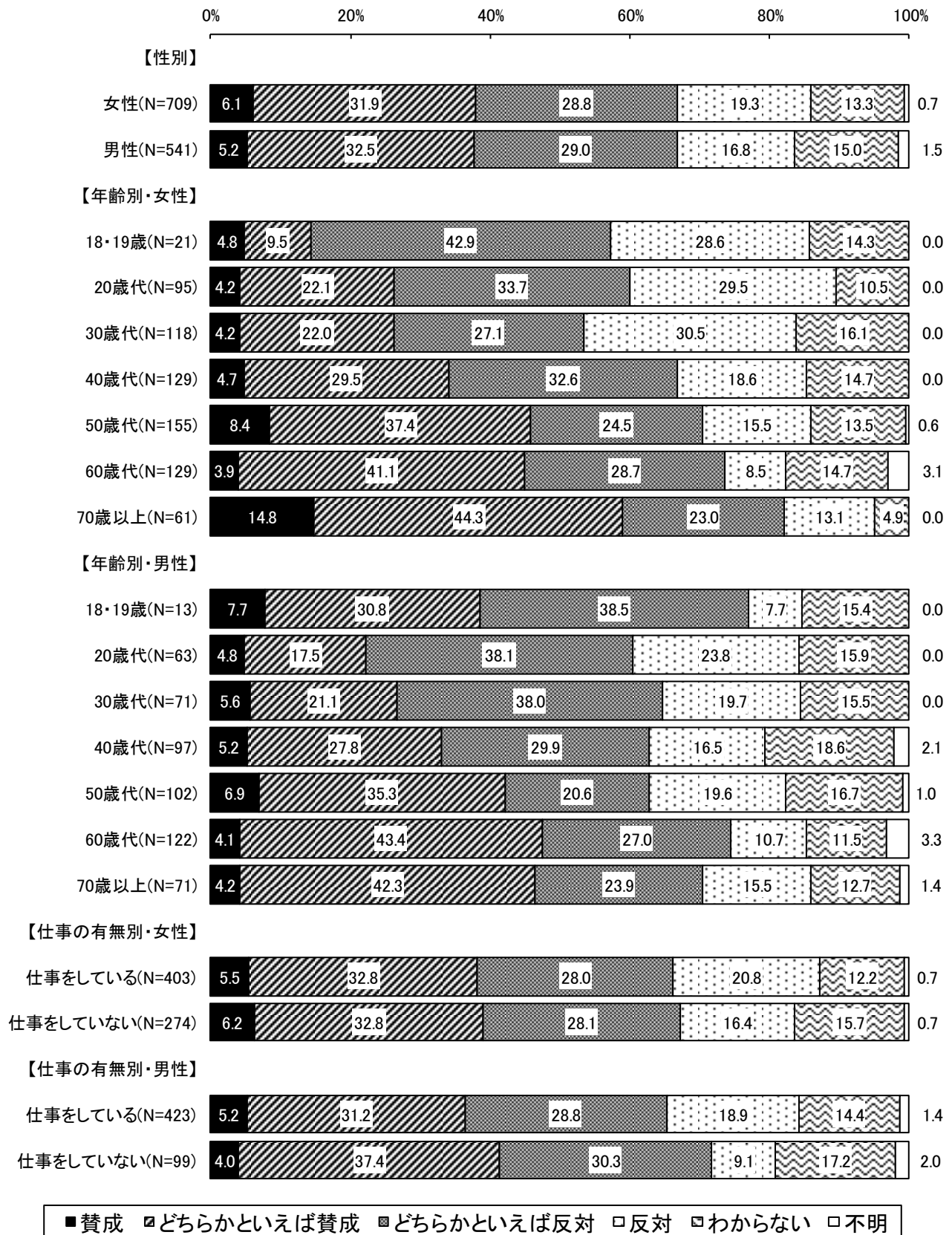
【評価…○:達成、△:未達だが改善、×:後退】

第3次プランにおける指標	実績値 H25	目標値	実績値 H30	評価
60歳以上の『女は女らしく、男は男らしく』するとの考えに「反対」と回答した人の割合	14.0%	20%	10.2%	×

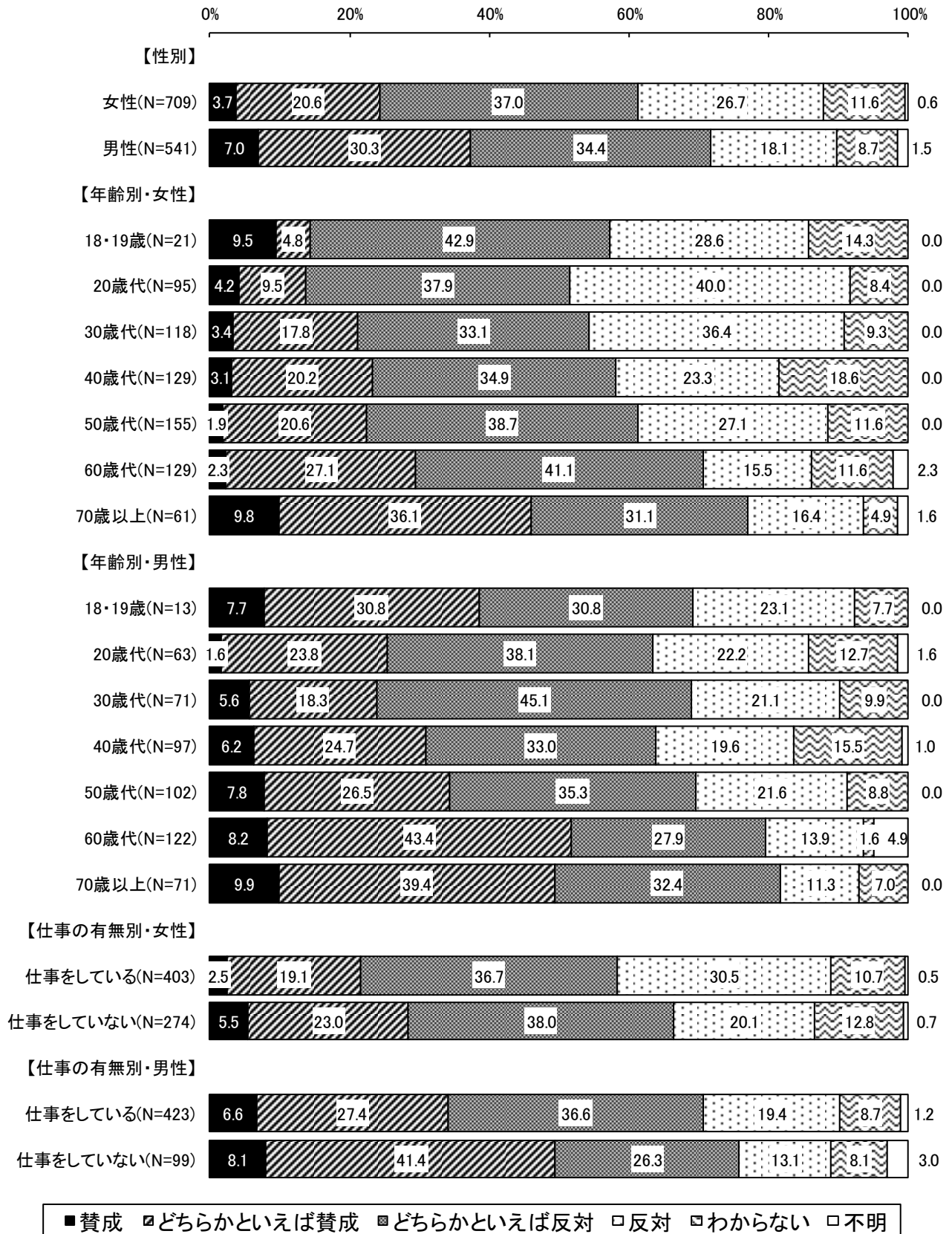
【6 女性は仕事を持って家事・育児もきちんとする】



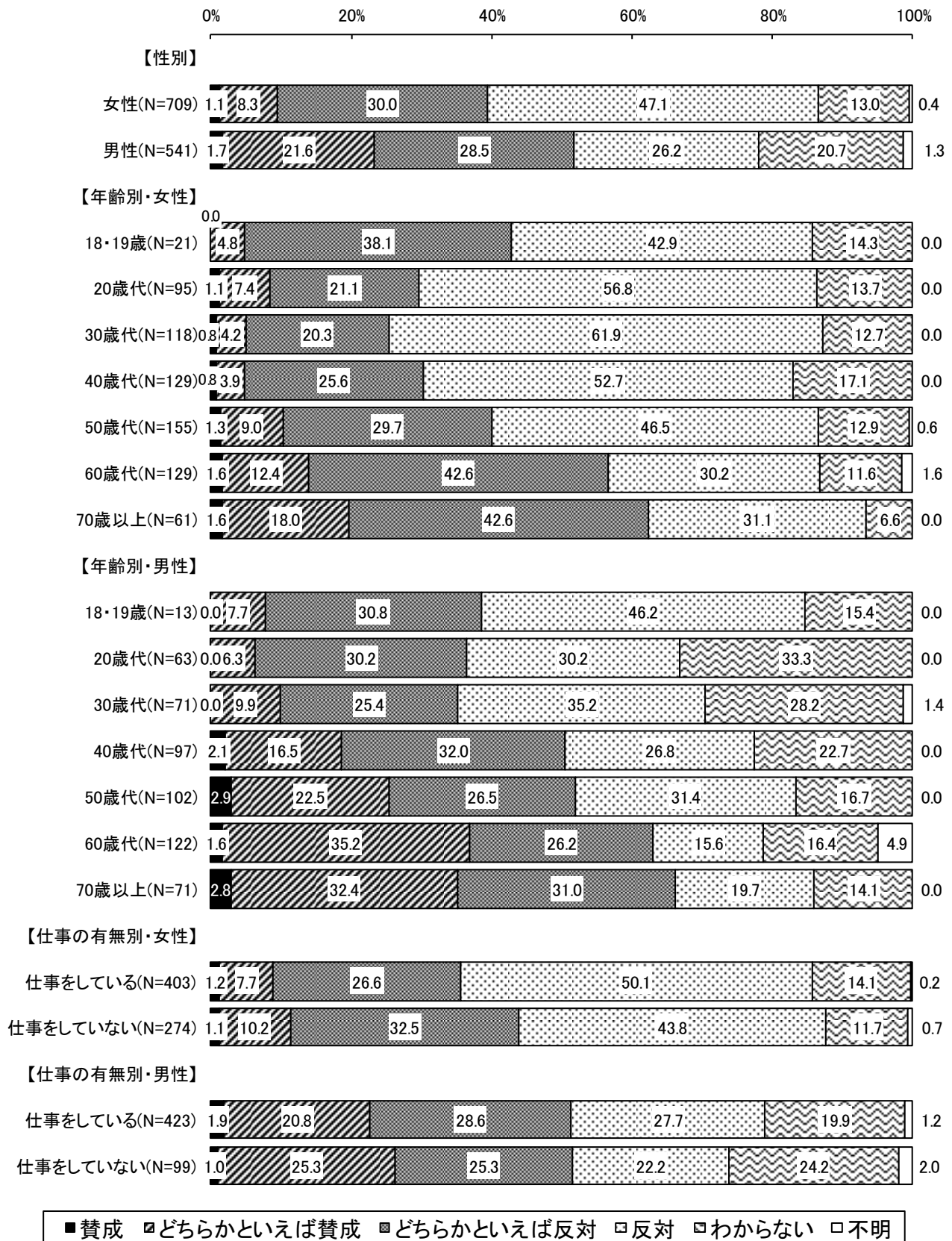
【7 女性は自分のことより家族のことを優先する】



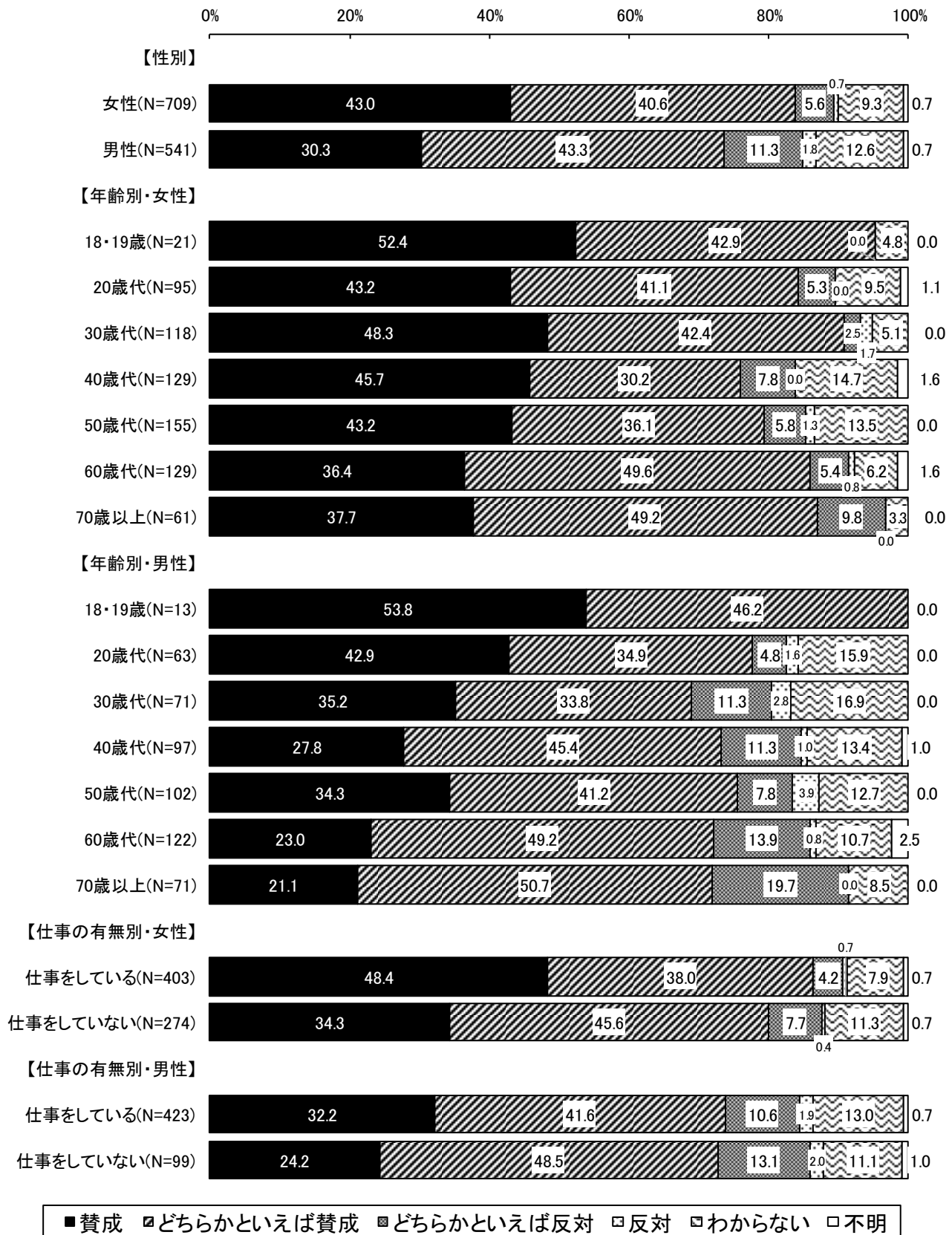
【8 男性は家庭や地域のことより仕事を優先する】



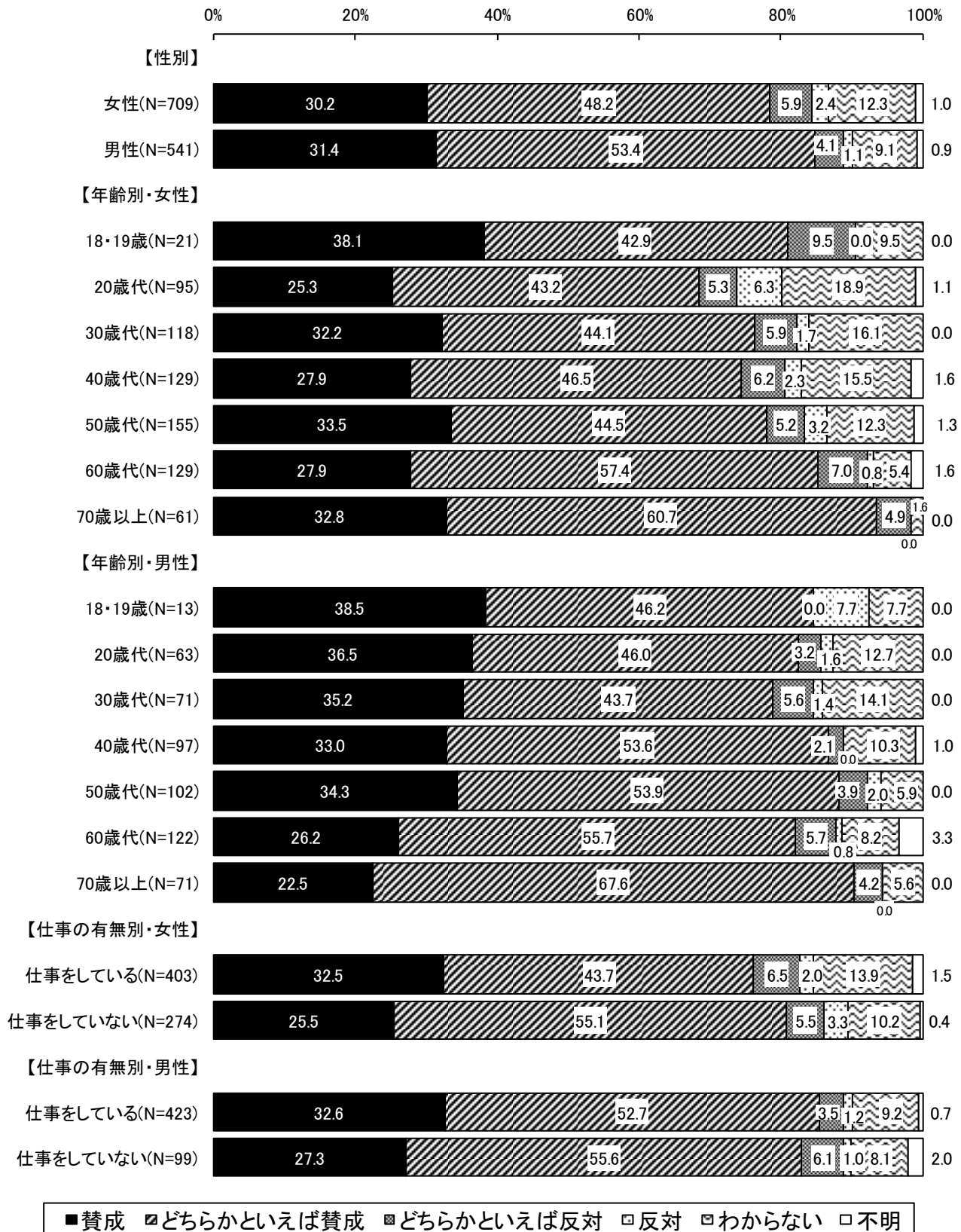
【9 老親などの介護は男性より女性がする】



【10 女性も積極的に仕事をする】



【11 女性も積極的に地域活動に参加する】



問2(2) ①～⑩について、あなたは実際にどのように行動していますか。(単数回答)

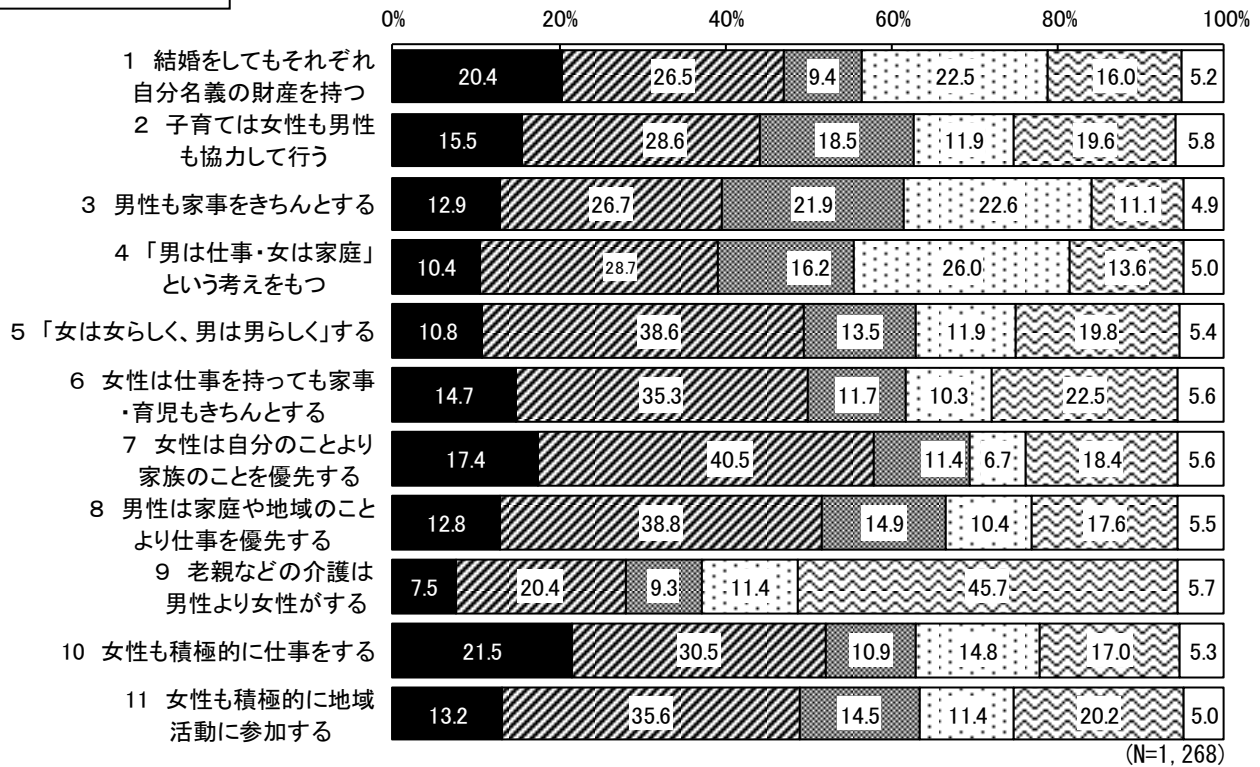
男女の関わり方に関する実際の行動については、「子育ては女性も男性も協力して行う」「男性も家事をきちんとする」は、問2(1)の考え方で『賛成』の割合が9割前後と非常に高い項目だったが、『実践している』(「そうしている」と「どちらかといえばそうしている」の合計)割合は4割前後にとどまり、考え方と行動に特に大きな差が生じている。また、「女性は自分のことより家族のことを優先する」「男性は家庭や地域のことより仕事を優先する」は、考え方で『反対』の割合が高かったにも関わらず、『実践している』割合が5割以上と高くなっており、これも考え方と行動に大きな差が生じている。

男女別では、考え方と行動の差が大きい項目は、女性では「男性も家事をきちんとする」「子育ては女性も男性も協力して行う」の順に、男性では「子育ては女性も男性も協力して行う」「女性も積極的に地域活動に参加する」の順に、差があるという結果となっている。

経年的には、「結婚してもそれぞれ自分名義の財産をもつ」「男性も家事をきちんとする」では『実践している』割合は平成20年度以降、増加傾向にある。また、『男は仕事・女は家庭』という考えをもつ『女は女らしく、男は男らしく』する』では『実践している』割合は減少傾向にあり、行動面は男女共同参画の方向に少しずつ変わってきているといえる。しかし、「子育ては女性も男性も協力して行う」については逆に『実践している』割合が減少傾向にあり、男女共同参画と逆行する傾向になっている。

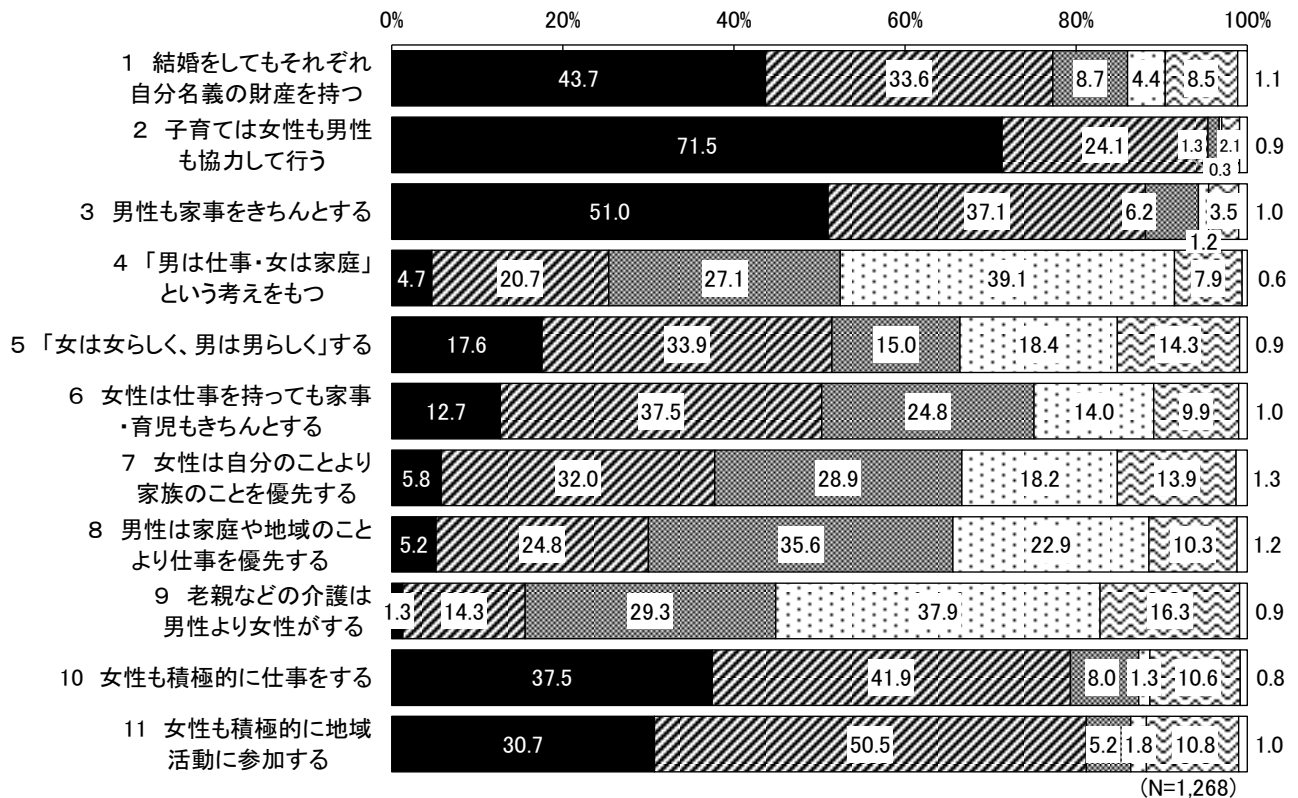
「女性も積極的に仕事をする」「女性も積極的に地域活動に参加する」は、考え方で『賛成』の割合が8割前後と高かったうえ、行動でも『実践している』割合が5割前後と高くなっており、固定的な性別役割分担が依然として残るなかで、女性の負担感の大きさが伺える。

問2(2) 行動



■ そうしている
 ▨ どちらかといえばそうしている
 ▩ どちらかといえばそうしていない
 □ そうしていない
 ▤ わからない
 □ 不明

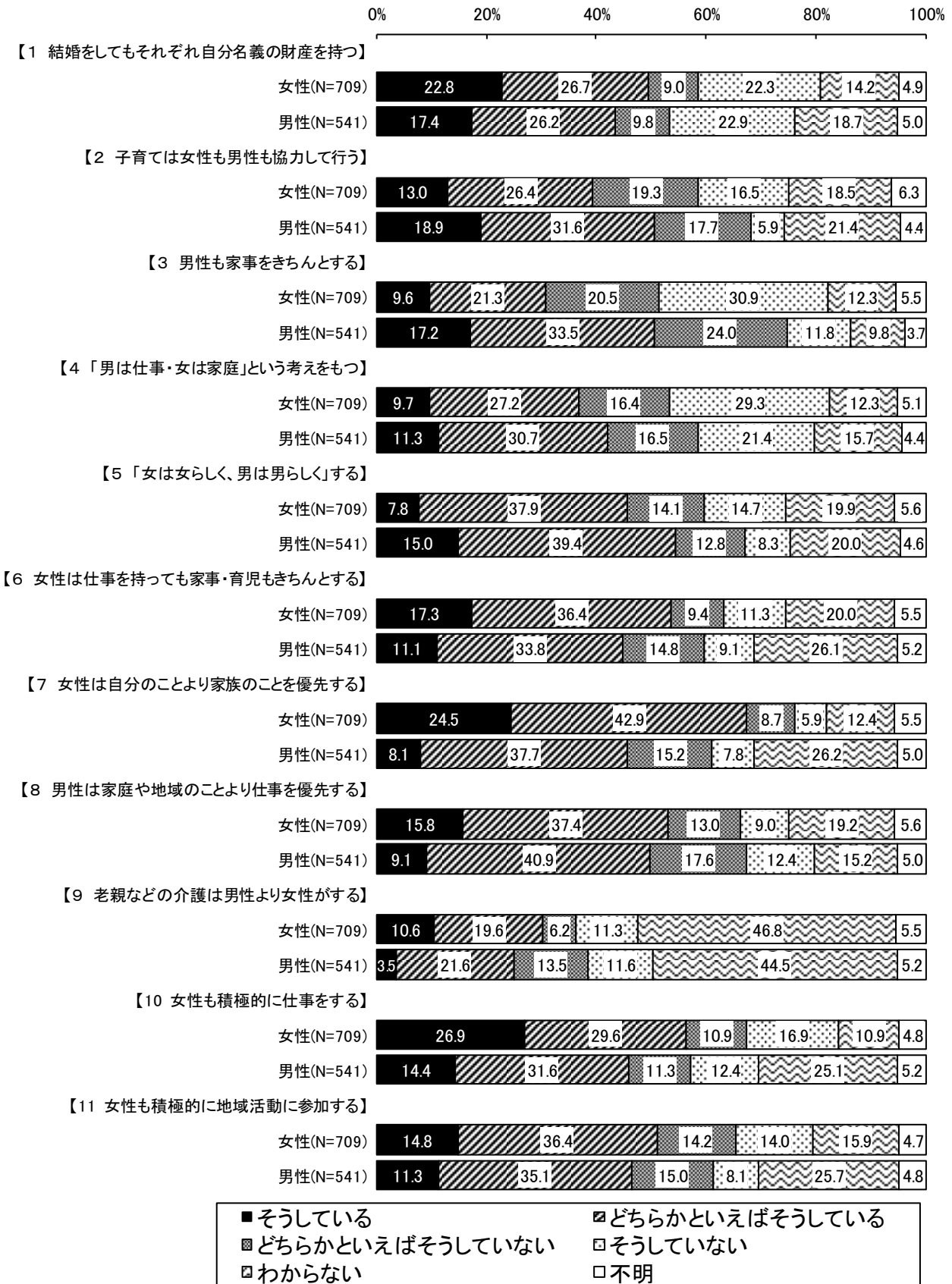
問2(1) 考え方 (再掲)



■ 賛成
 ▨ どちらかといえば賛成
 ▩ どちらかといえば反対
 □ 反対
 ▤ わからない
 □ 不明

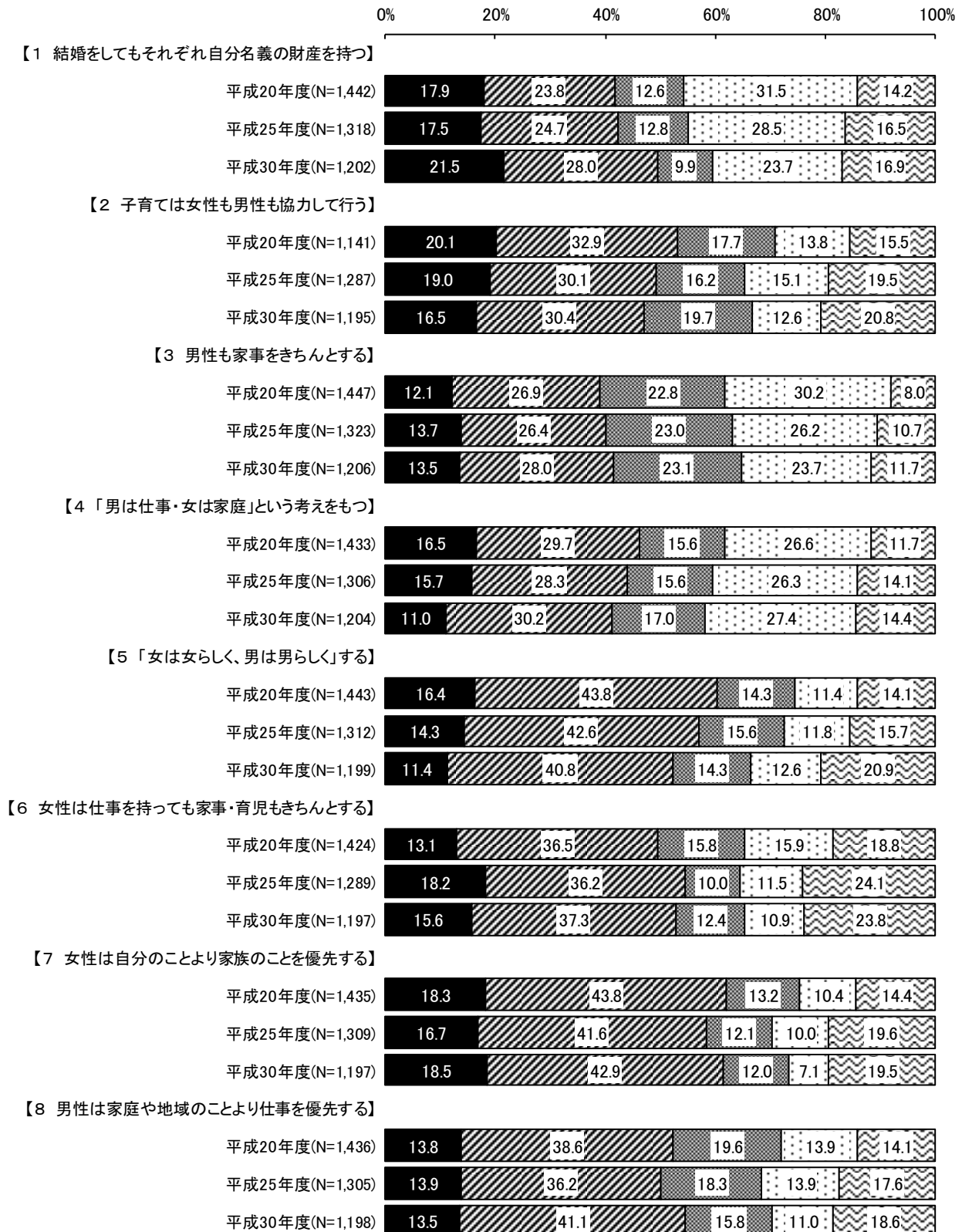
問 2 (2) 男女別比較

※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。



問 2 (2) 経年比較

※経年比較集計結果では、不明の回答者が含まれていないため、経年比較の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。



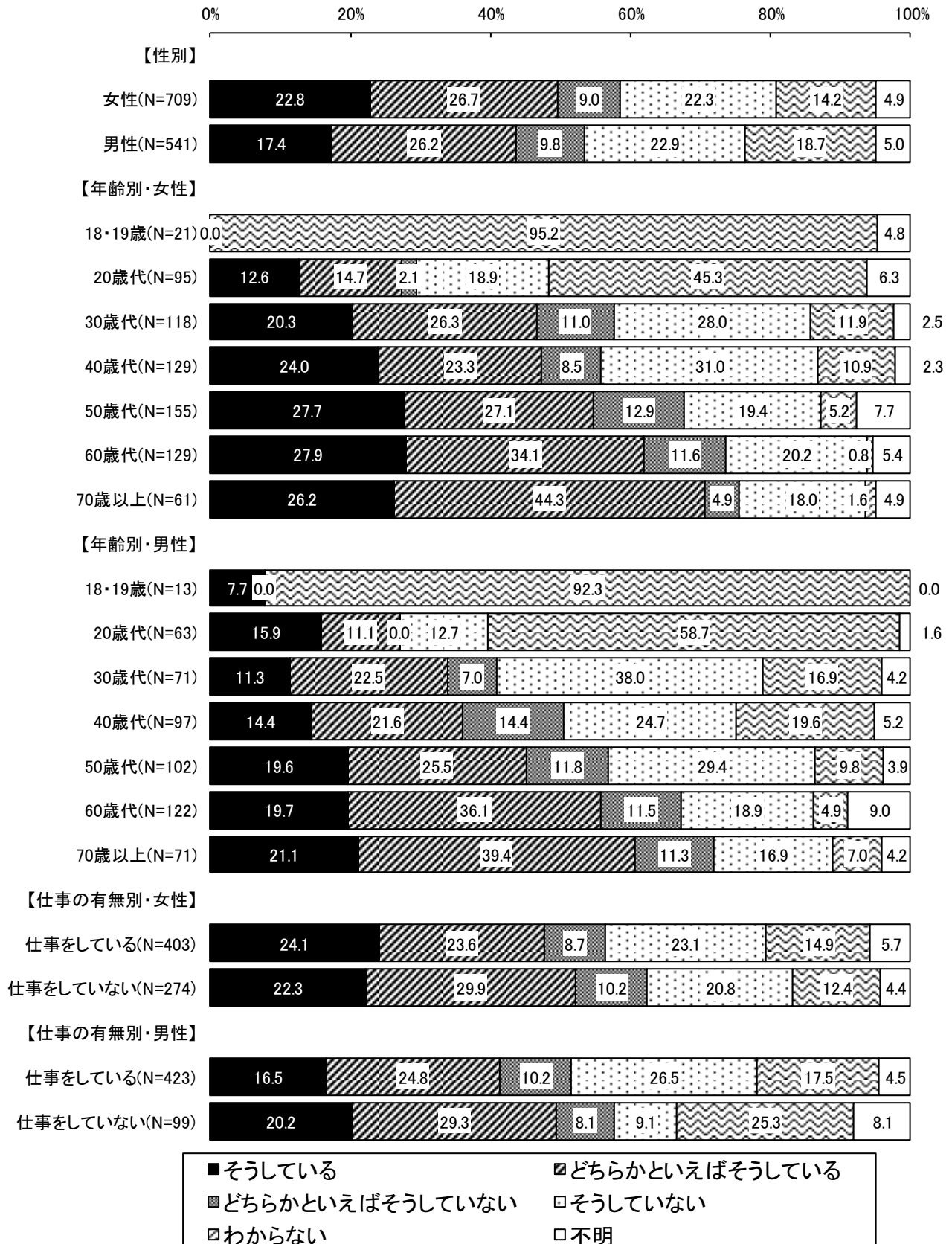
■ そうしている
 □ どちらかといえばそうしている
 ■ どちらかといえばそうしていない
 □ そうしていない
 □ わからない

※9～11は平成30年度調査から新設した設問であるため、経年比較はありません。

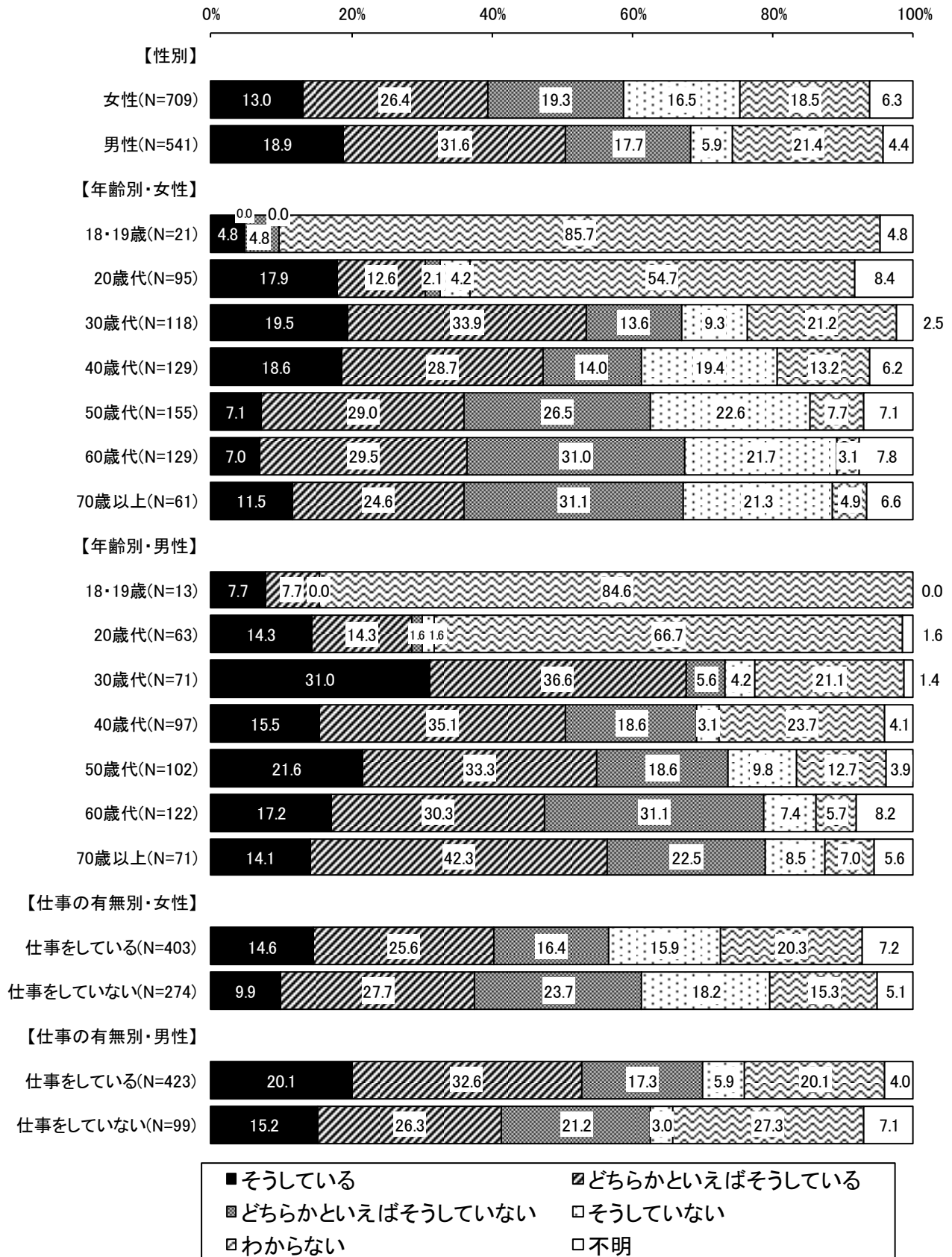
問2(2) 男女年齢・仕事の有無別比較

※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

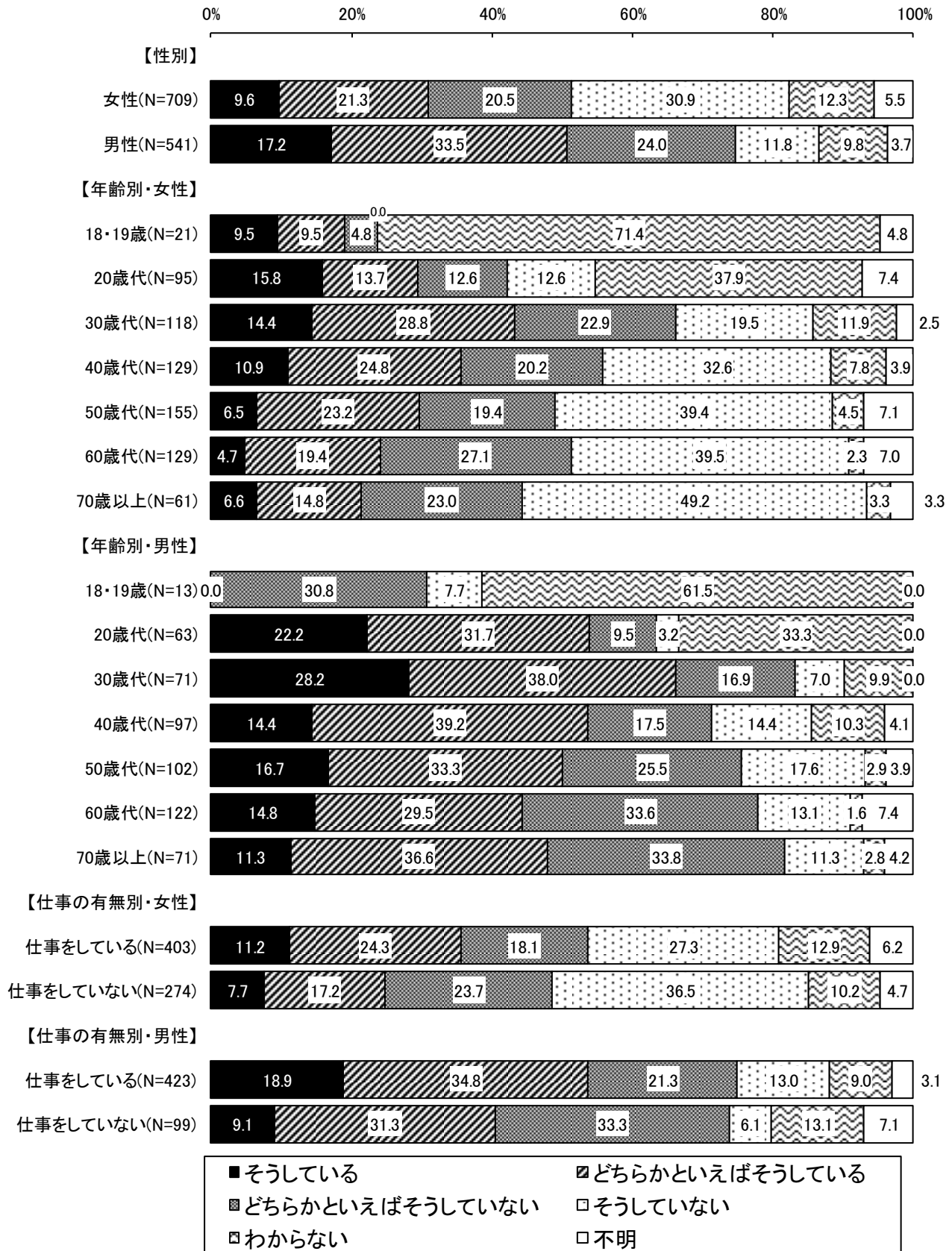
【1 結婚をしてもそれぞれ自分名義の財産を持つ】



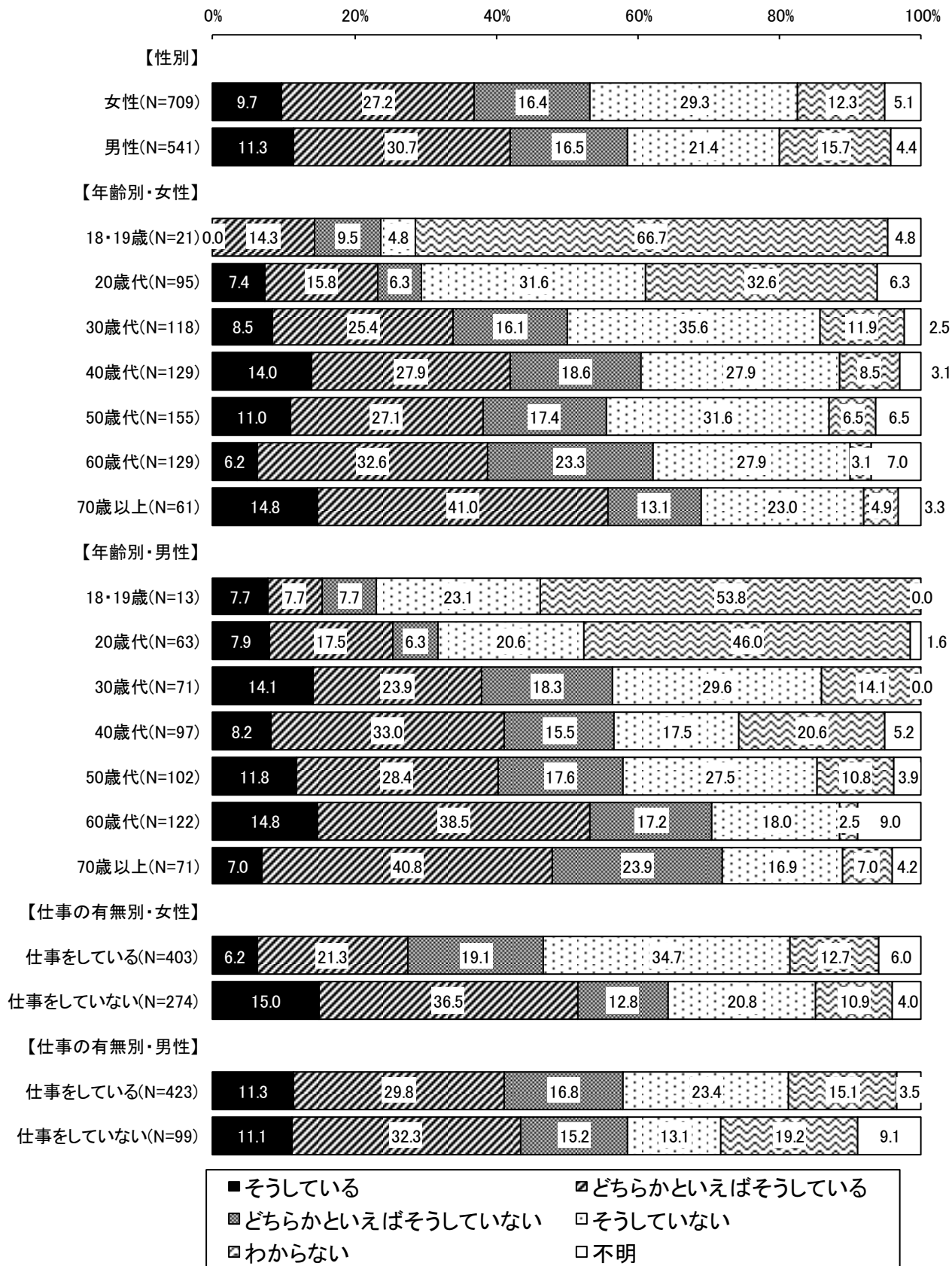
【2 子育ては女性も男性も協力して行う】



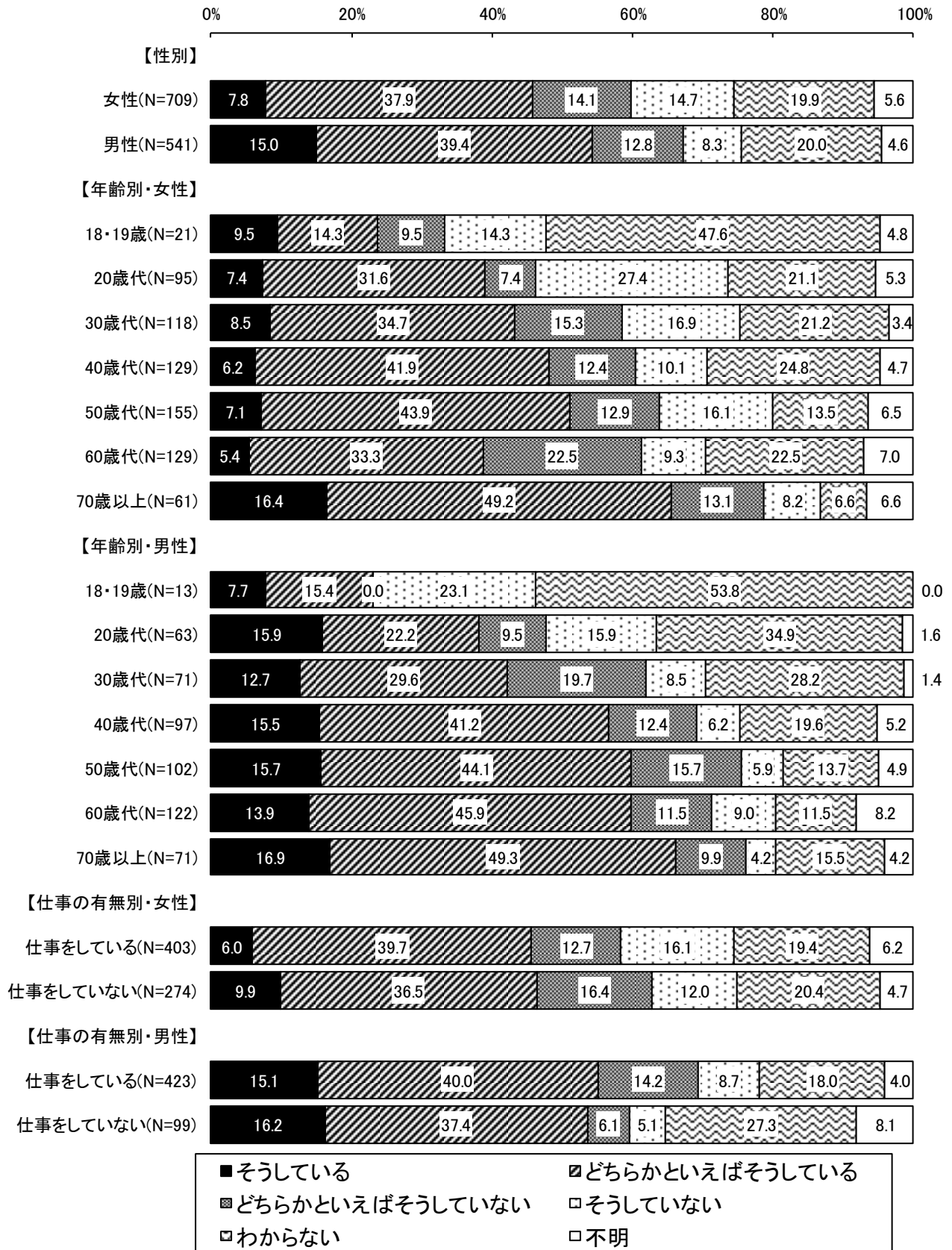
【3 男性も家事をきちんとする】



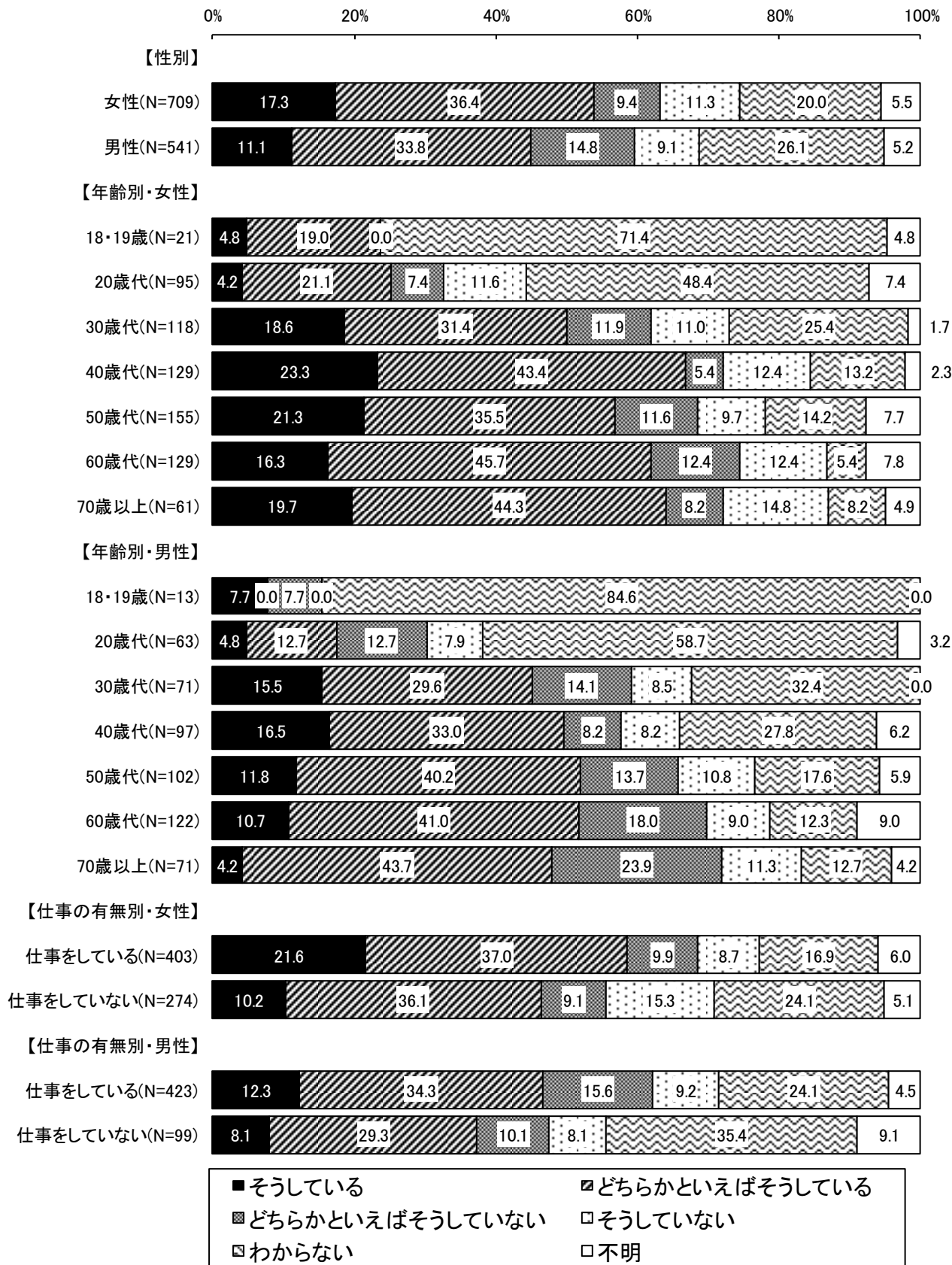
【4 「男は仕事・女は家庭」という考えをもつ】



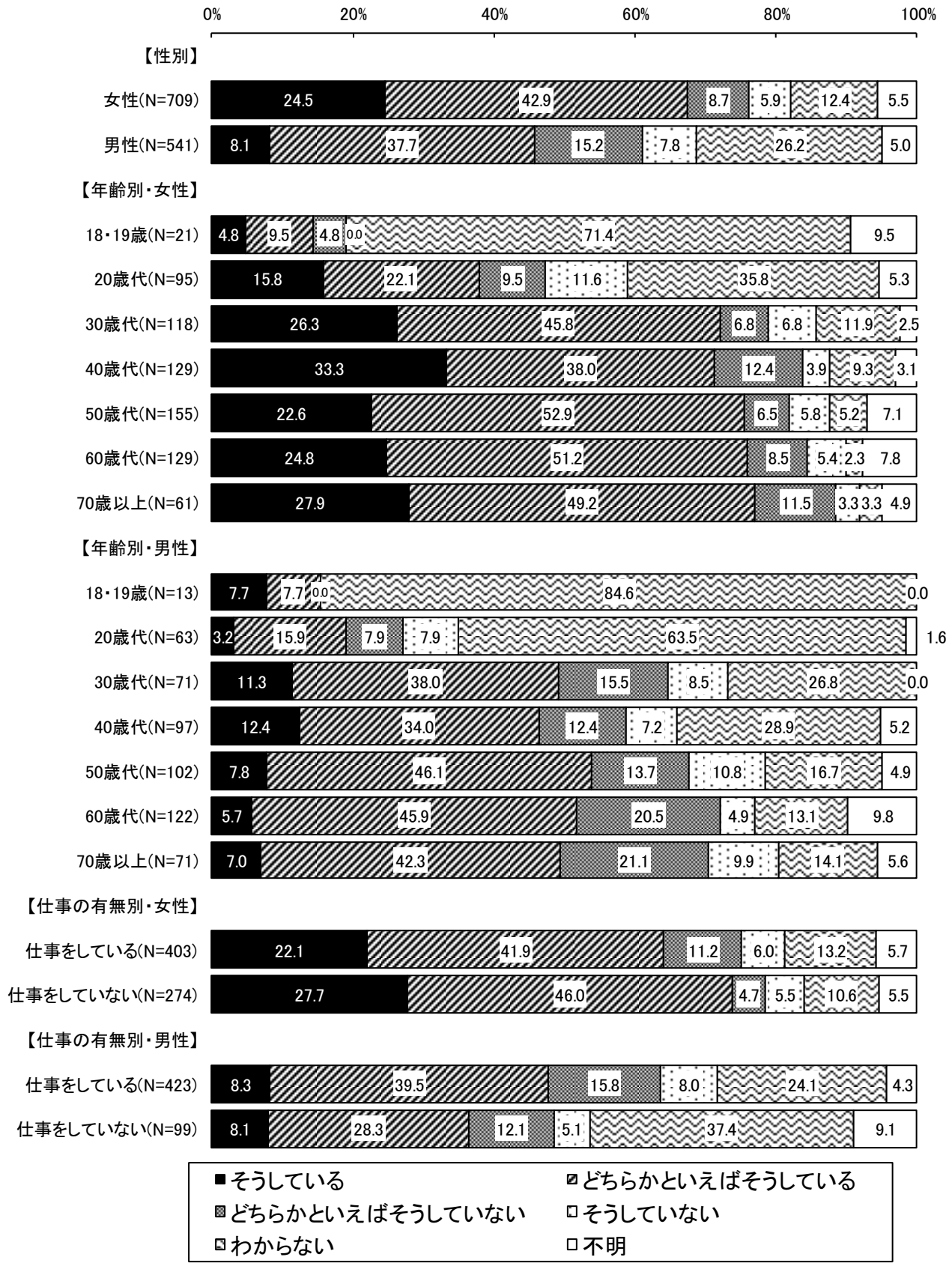
【5 「女は女らしく、男は男らしく」する】



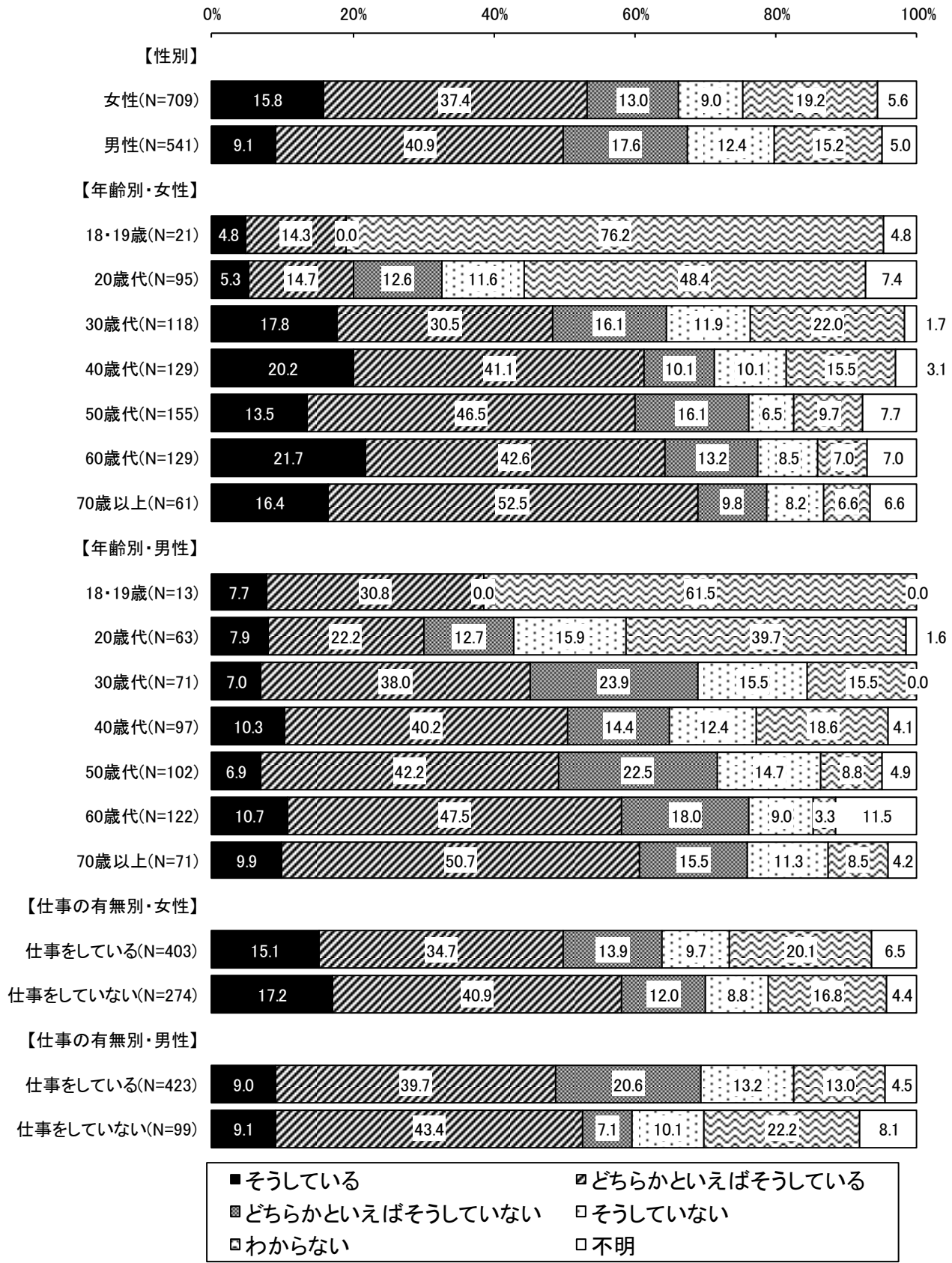
【6 女性は仕事を持って家事・育児もきちんとする】



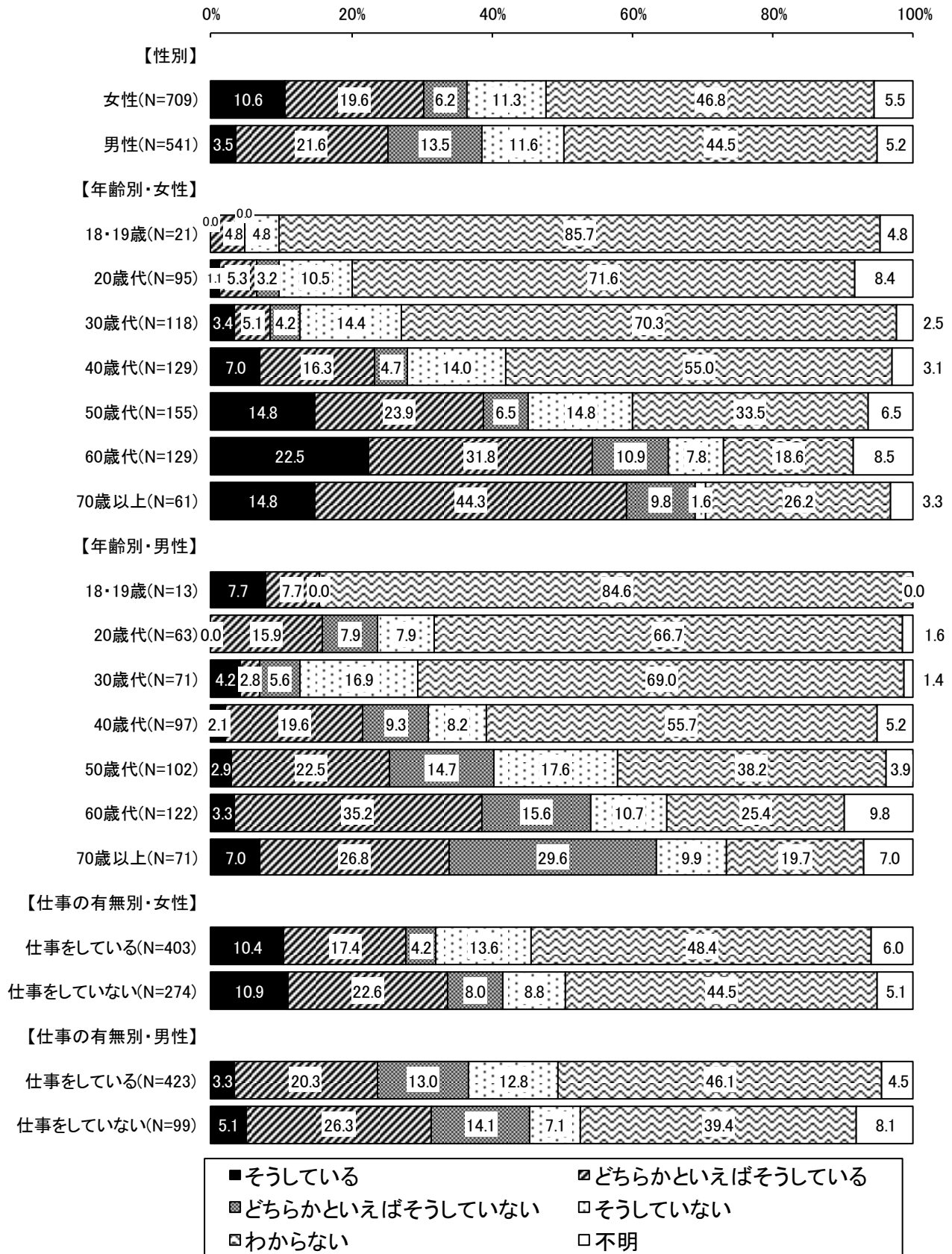
【7 女性は自分のことより家族のことを優先する】



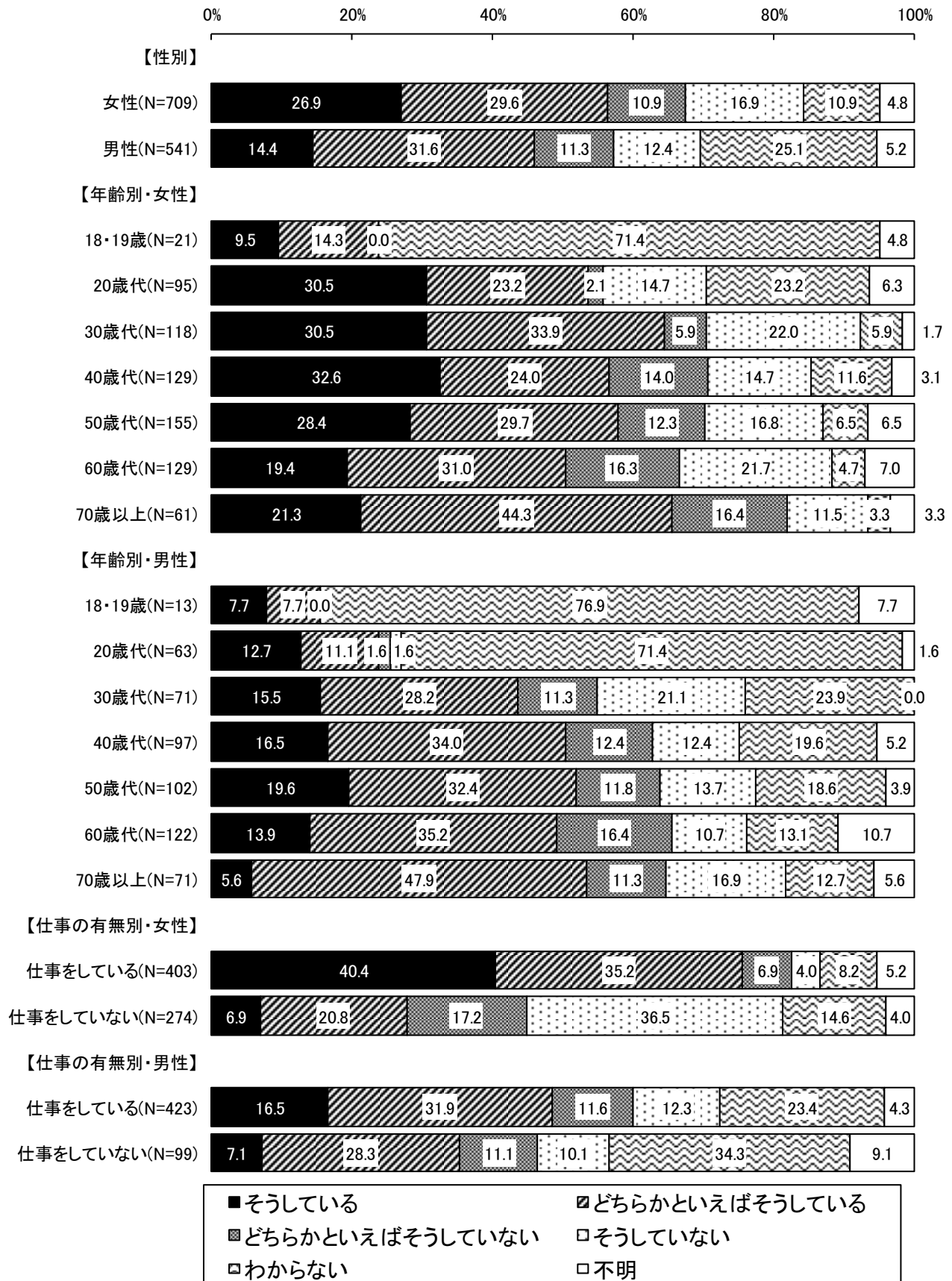
【8 男性は家庭や地域のことより仕事を優先する】



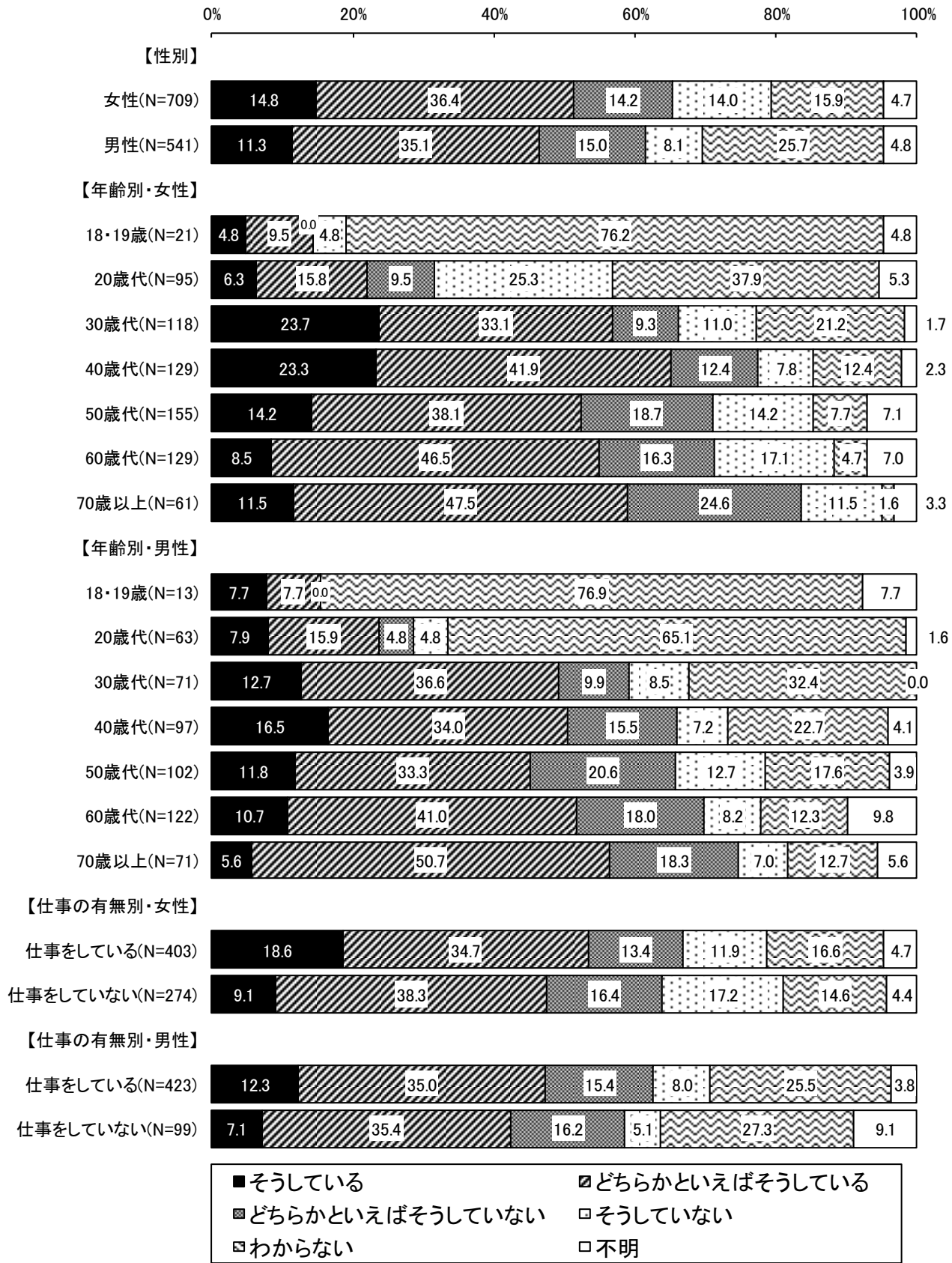
【9 老親などの介護は男性より女性がする】



【10 女性も積極的に仕事をする】



【11 女性も積極的に地域活動に参加する】



4 家庭や地域における男女の役割分担や考え方について

問3 家庭における夫婦の役割分担について、お伺いします。

(1) ①～⑤に示す各場面で、夫婦のどちらが役割を担う方がいいと思いますか。(単数回答)

【結婚している方にお伺いします】

(2) あなたの家庭では、①～⑤に示す各場面で、実際に夫婦のどちらが役割を担っていますか。
(単数回答)

(1) 考え方

家庭における夫婦の役割分担の考え方については、「家事全般」「家計の管理」「子育て全般」「老親などの世話・介護」「地域活動への参加」の全ての項目で、夫婦が「共同で行うのがよい」と考える割合が最も高くなっている。その割合は「家計の管理」で53.8%、「家事全般」で74.6%、「子育て全般」「老親などの世話・介護」「地域活動への参加」では8割以上を占めている。

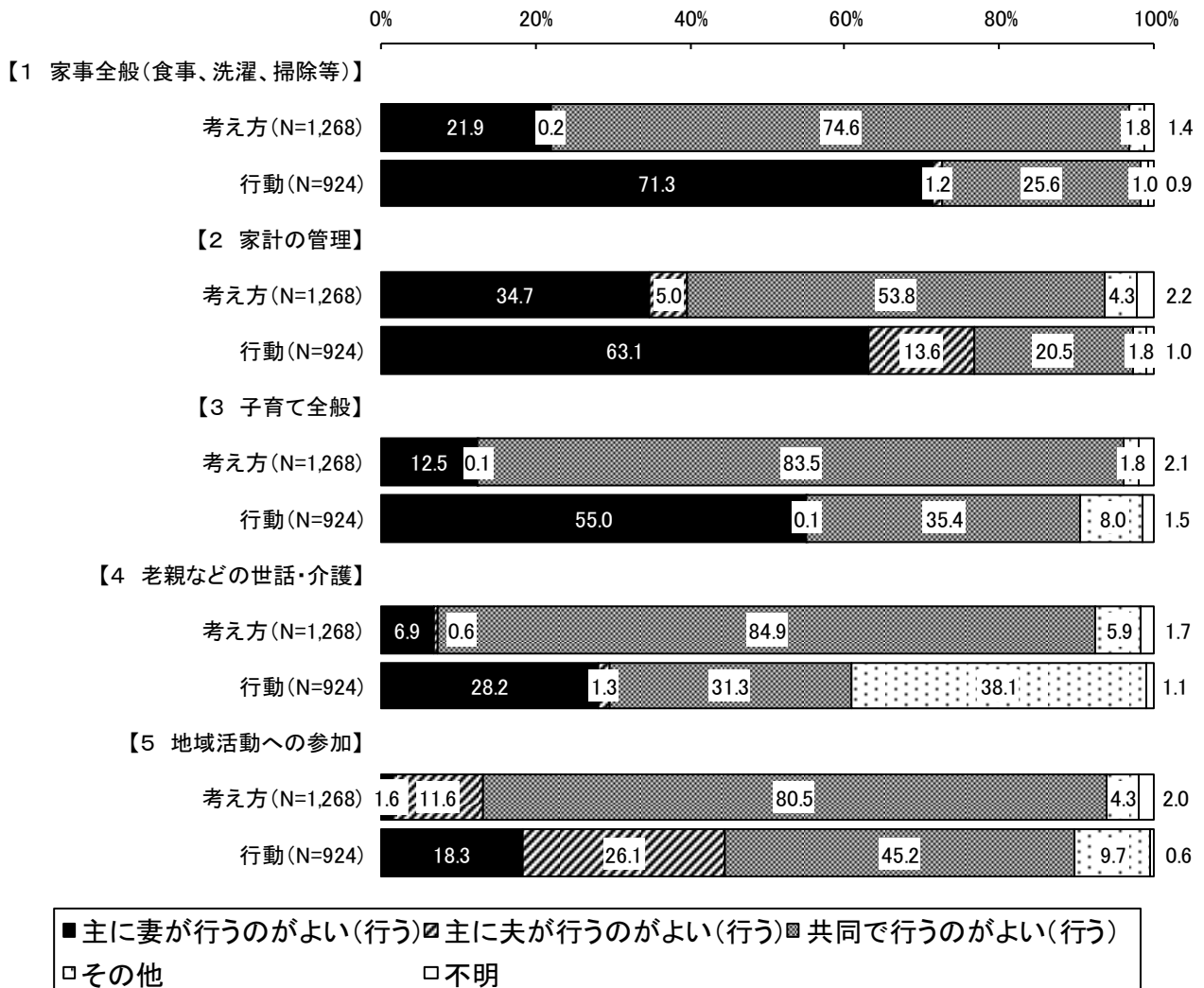
男女別では、全ての項目で男性より女性の方が「共同で行うのがよい」と考える割合が高くなっている。

経年的には、「家事全般」「家計の管理」について「共同で行うのがよい」と考える割合が増加傾向にあり、意識は変わってきている。

(2) 行動

実際の行動についてみると、全ての項目で「共同で行う」割合は「共同で行うのがよい」と考える割合より減少している。特に、「家事全般」「家計の管理」「子育て全般」においては「主に妻が行う」割合がそれぞれ71.3%、63.1%、55.0%と5割を超えて高くなっており、考えが実際の行動に現れていないといえる。一方、「老親などの世話・介護」は「その他」、「地域活動への参加」は「共同で行う」の割合が最も高くなっている。

経年的には、「家事全般」「家計の管理」においては、「主に妻が行う」割合が減少傾向にあり、考え方も同様に行動も少しずつ改善されてきている。一方、「子育て全般」「老親などの世話・介護」においては「主に妻が行う」の割合が逆に増加する傾向にあり、家庭内の役割においては依然として妻への負担は大きいことが伺える。

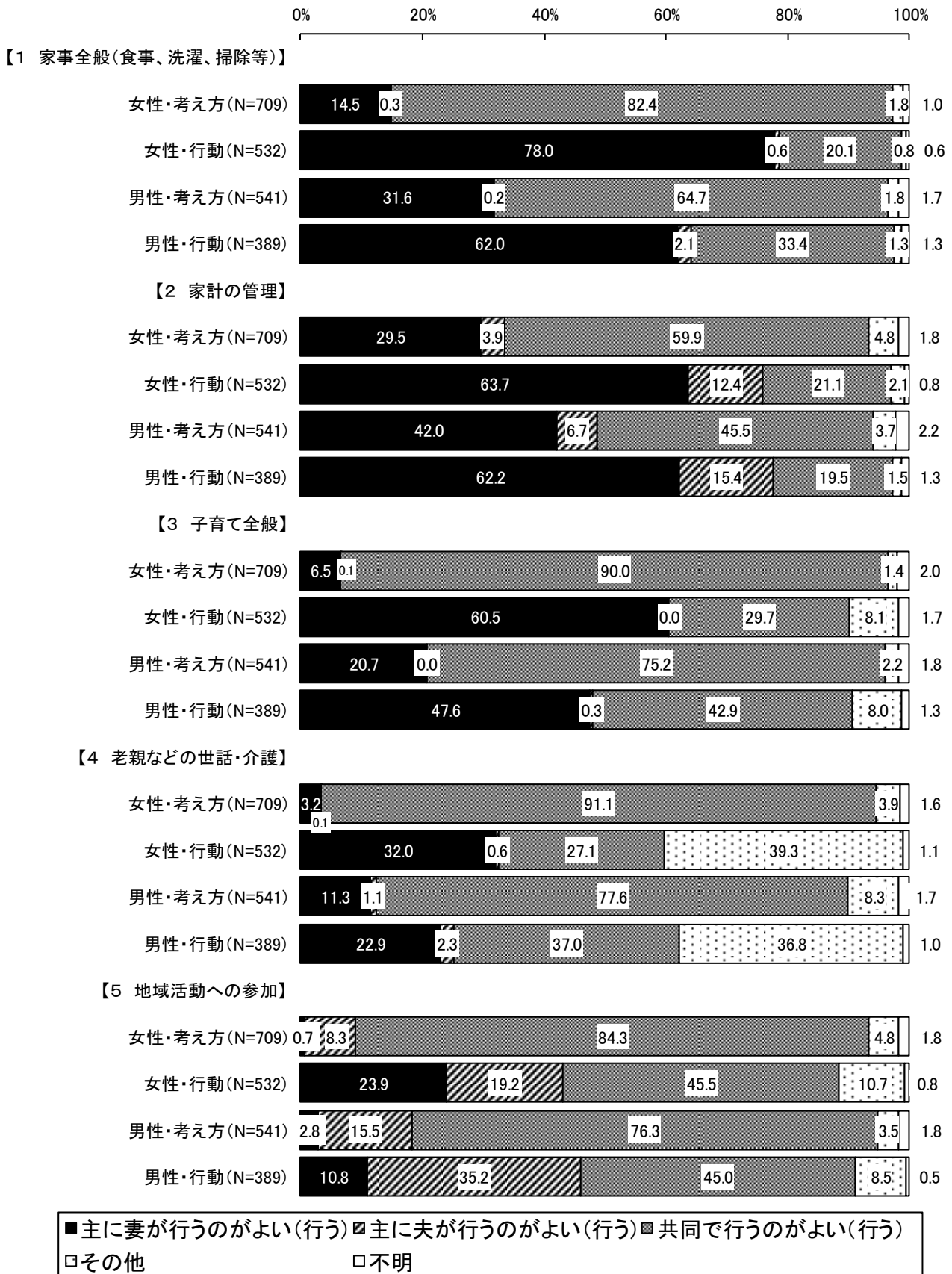


【評価…○:達成、△:未達だが改善、×:後退】

第3次プランにおける指標	実績値 H25	目標値	実績値 H30	評価
「子育て全般を夫婦共同で行う」と回答した人の割合	37.8%	60%	35.9%	×
「家事全般を夫婦共同で行う」と回答した人の割合	21.2%	30%	25.9%	△

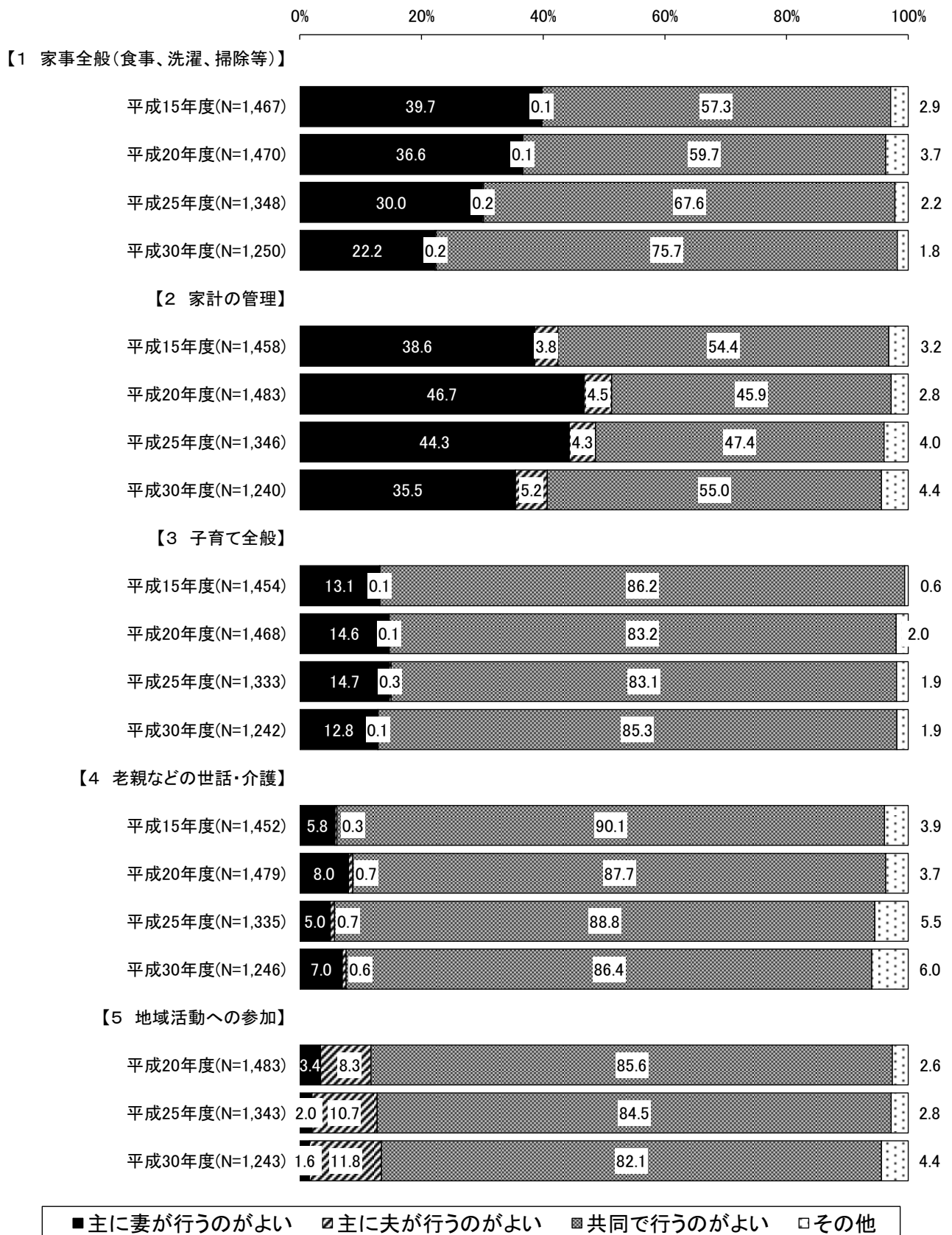
問3 男女別比較

※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。



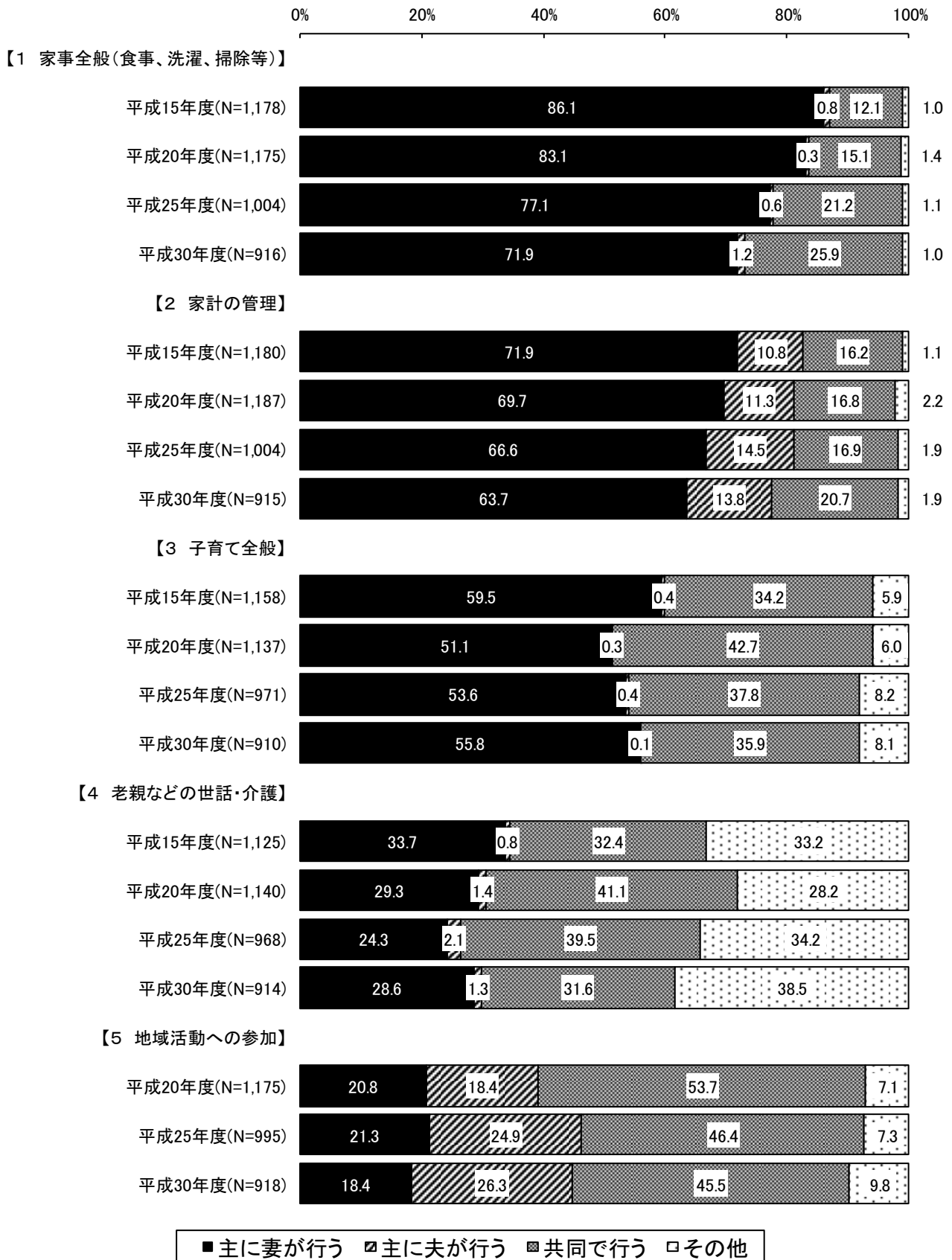
問3 考え方・経年比較

※経年比較集計結果では、不明の回答者が含まれていないため、経年比較の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。



問3 行動・経年比較

※経年比較集計結果では、不明の回答者が含まれていないため、経年比較の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

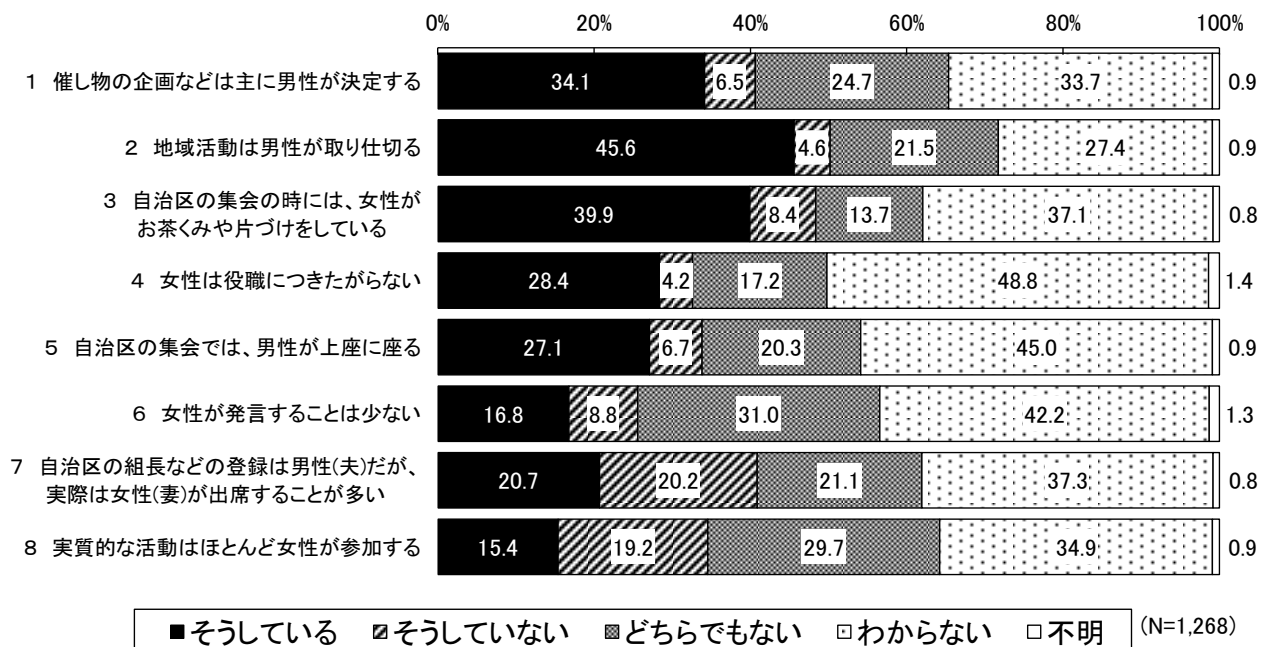


問4 地域活動における男女の役割分担についてお伺いします。

(1) ①～⑧について、あなたが参加している地域活動の現状はどのようになっていますか。(単数回答)

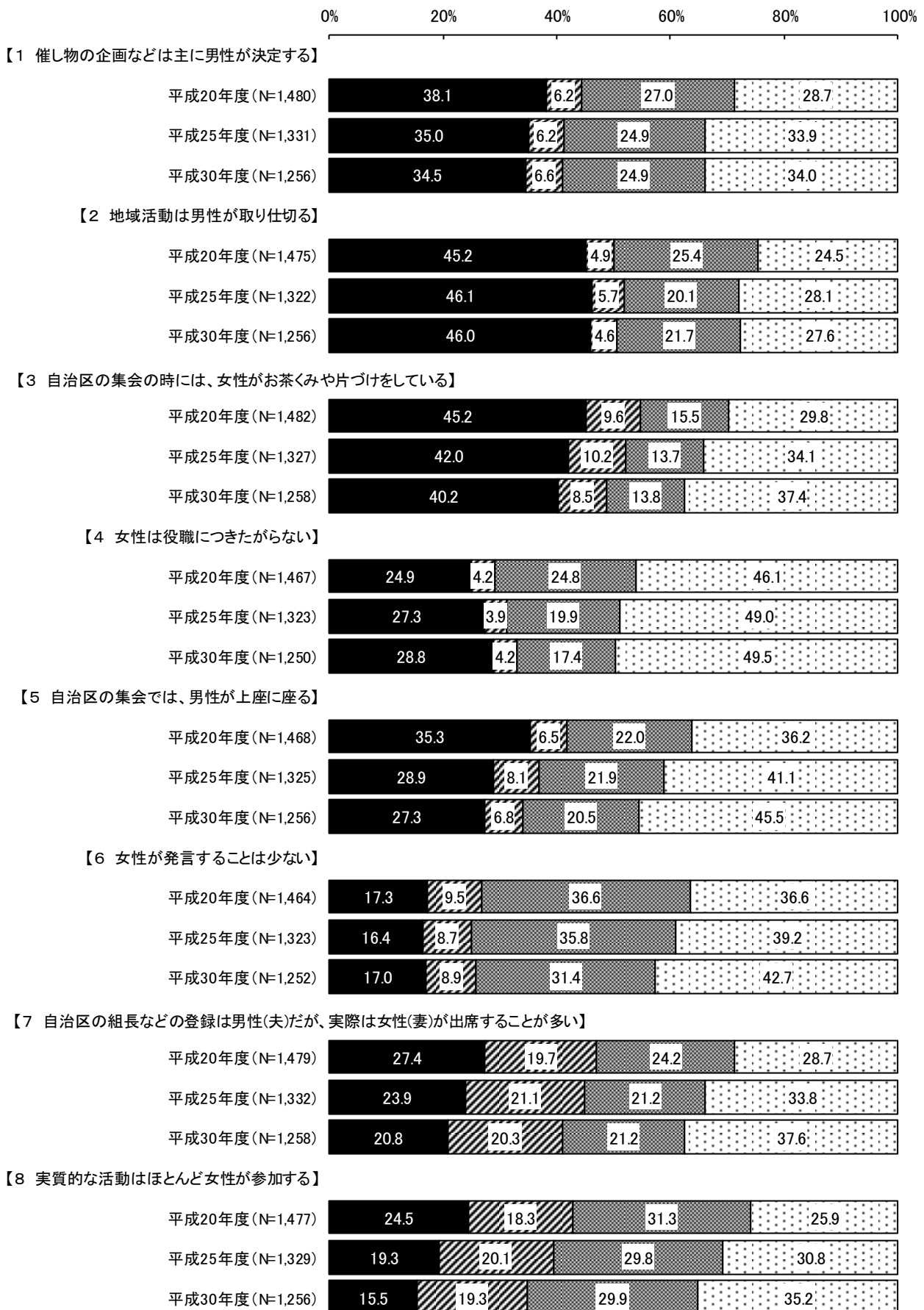
地域活動における男女の役割分担の現状については、「地域活動は男性が取り仕切る」「自治区の集会の時には、女性がお茶くみや片づけをしている」「催し物の企画などは主に男性が決定する」の3項目で、「そうしている」割合がそれぞれ45.6%、39.9%、34.1%と高くなっており、特に固定的な性別役割分担が残っていることが伺える。

経年的に、固定的な性別役割分担が低下傾向にあるのは、「自治区の集会の時には、女性がお茶くみや片づけをしている」「自治区の集会では、男性が上座に座る」「自治区の組長などの登録は男性(夫)だが、実際は女性(妻)が出席することが多い」「実質的な活動はほとんど女性が参加する」となっている。一方、「女性は役職につきたがらない」については、「そうしている」割合が増加傾向にある。



問 4 (1) 経年比較

※経年比較集計結果では、不明の回答者が含まれていないため、経年比較の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

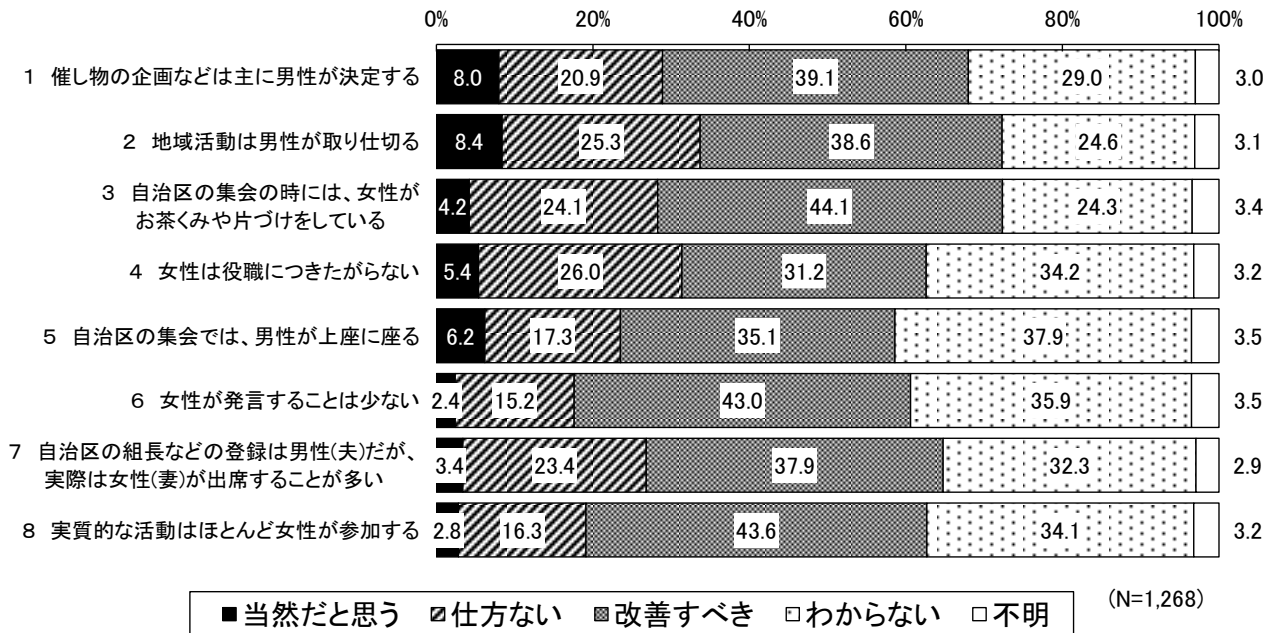


■ そうしている ▨ そうしていない ▩ どちらでもない □ わからない

問4(2) ①～⑧について、地域活動の今後のあり方をどのように考えますか。(単数回答)

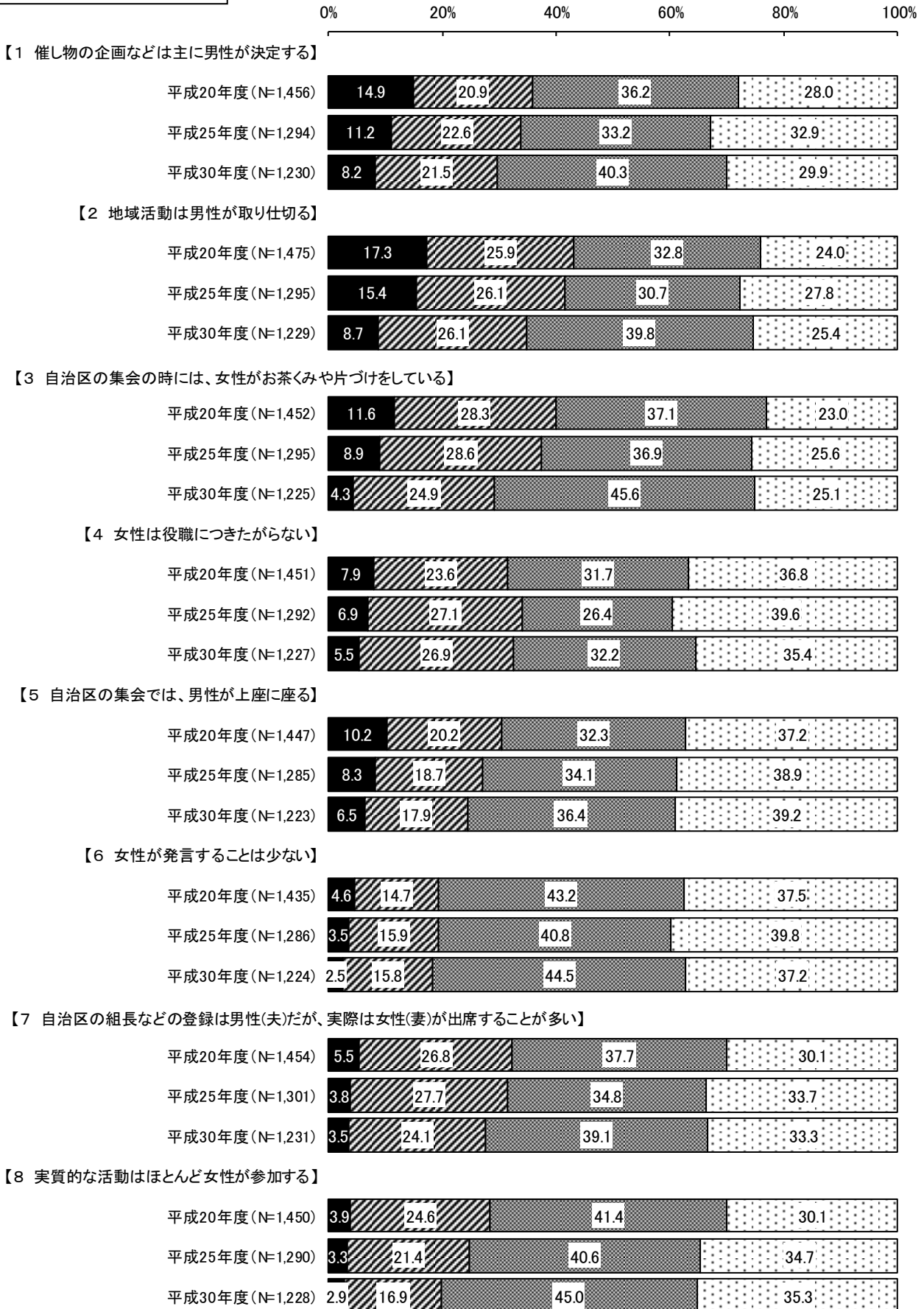
地域活動の今後のあり方についての考えでは、全ての項目で「当然だと思う」割合は1割未満と低く、経年的にも減少傾向にある。

「改善すべき」と考える割合はおよそ3～4割あり、ほとんどの項目で最も高くなっている。経年的にも、全ての項目で「改善すべき」と考える割合は前回調査から増加している。このことから、意識面では男女平等な考え方に徐々に変わってきていることが伺える。



問 4 (2) 経年比較

※経年比較集計結果では、不明の回答者が含まれていないため、経年比較の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。



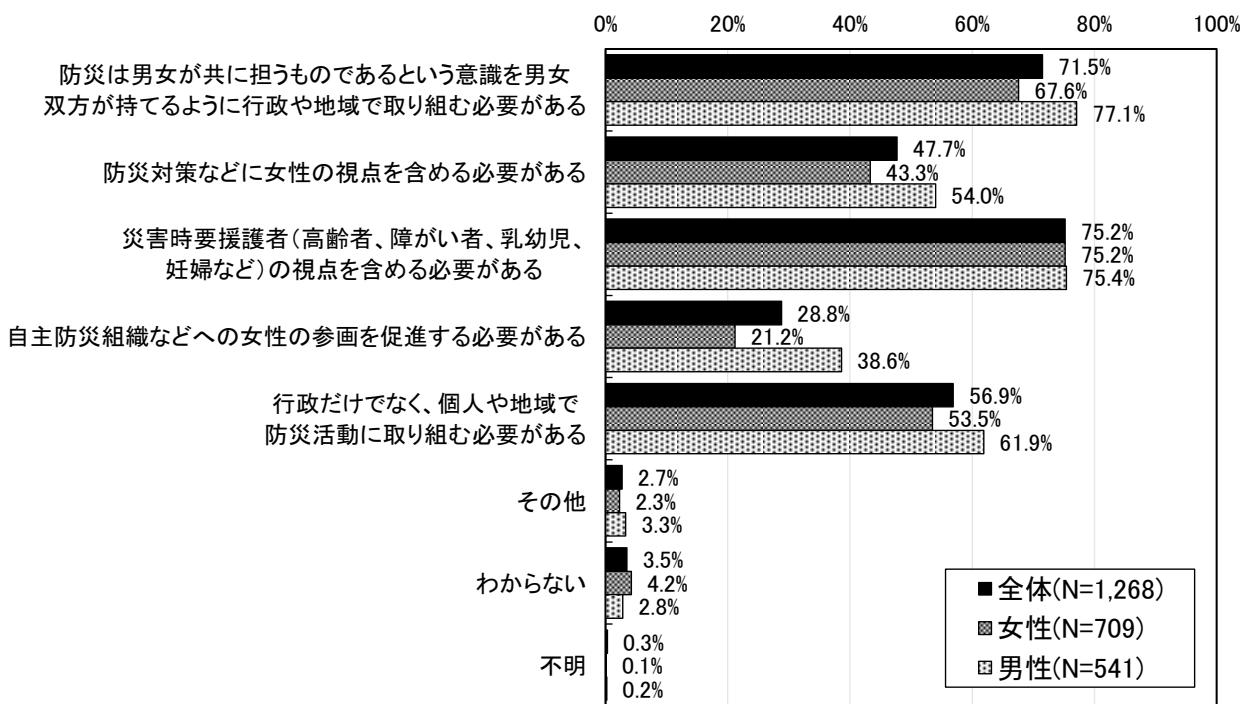
■当然だと思う □仕方ない ▨改善すべき □わからない

問5 地域の防災（災害対策）活動を推進するにあたり、あなたはどのようにお考えですか。（複数回答）

地域の防災（災害対策）活動と男女共同参画についての考えでは、「災害時要援護者（高齢者、障がい者、乳幼児、妊婦など）の視点を含める必要がある」（75.2%）、「防災は男女が共に担うものである」という意識を男女双方が持てるように行政や地域で取り組む必要がある」（71.5%）の2項目の割合が特に高くなっている。

一方、必要であるという回答割合は、男女ともに「自主防災組織などへの女性の参画を促進する必要がある」の割合が最も低く、次いで、「防災対策などに女性の視点を含める必要がある」の割合が低くなっている。

経年的には、「防災対策などに女性の視点を含める必要がある」の割合が前回調査から 4.4 ポイント増加しているものの、女性の視点からの防災対策への意識が十分に浸透しているとはいえないことが伺える。

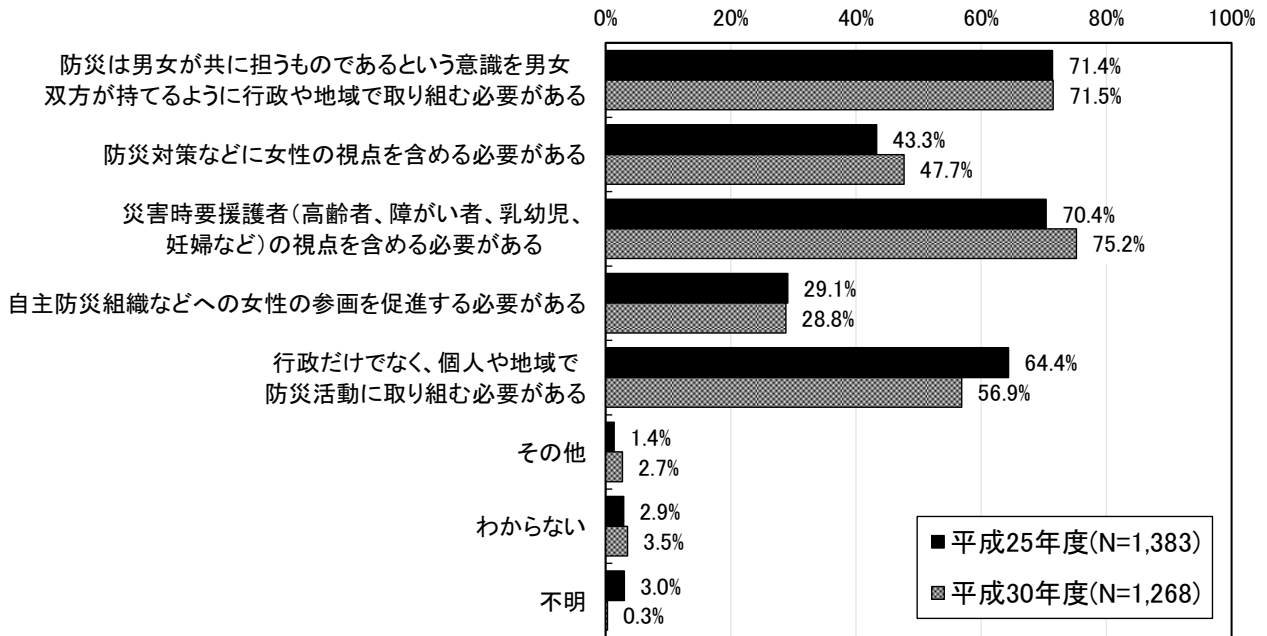


※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

【評価…○：達成、△：未達だが改善、×：後退】

第3次プランにおける指標	実績値 H25	目標値	実績値 H30	評価
「防災対策に女性の視点を含める必要がある」と回答した人の割合	43.3%	65%	47.7%	△

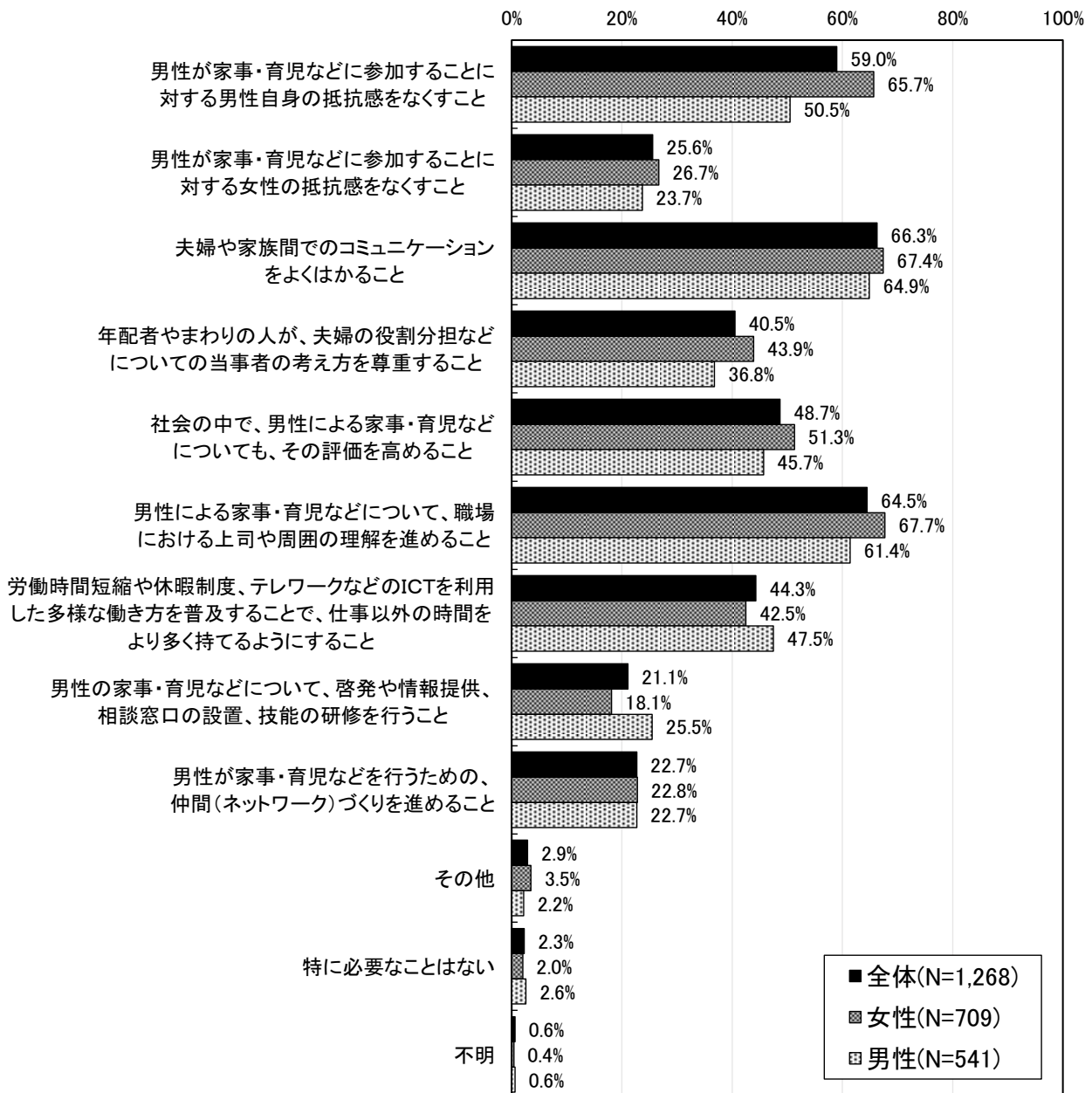
問5 経年比較



問6 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答）

男性の家事、子育て、介護、地域活動への積極的な参加に必要なことについては、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」（66.3%）、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」（64.5%）、「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」（59.0%）の3項目の割合が5割以上と高くなっている。男女別でも、これらの3項目の割合が高くなっている。

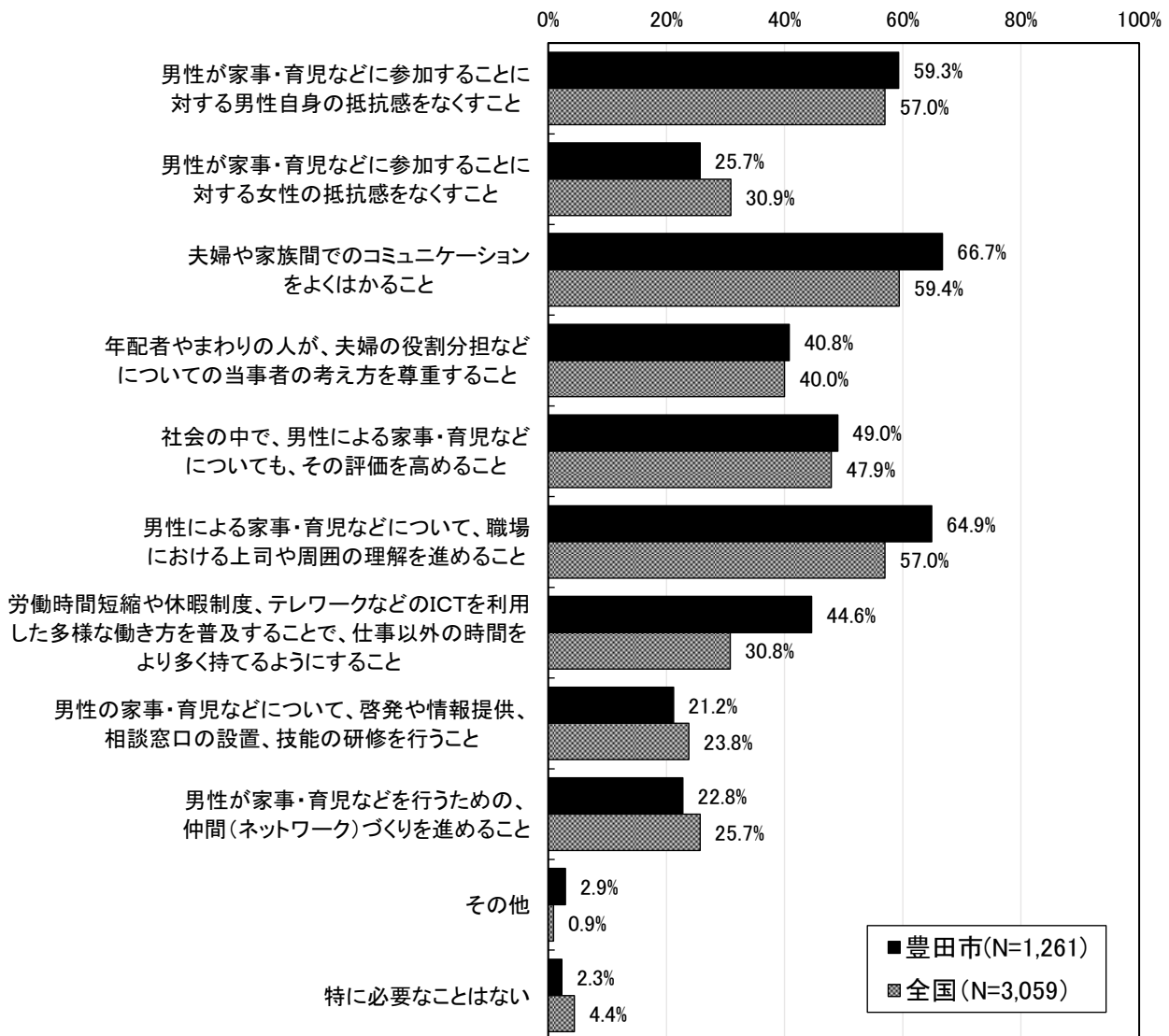
全国と比較すると、「労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」の割合が全国よりも13.8ポイント高く最も差が大きい。次いで、「男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」が7.9ポイント、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が7.3ポイントそれぞれ全国よりも高くなっている。



※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

問6 全国との比較

※全国の集計結果には不明の回答が含まれていないため、不明を除いて集計。そのため、回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

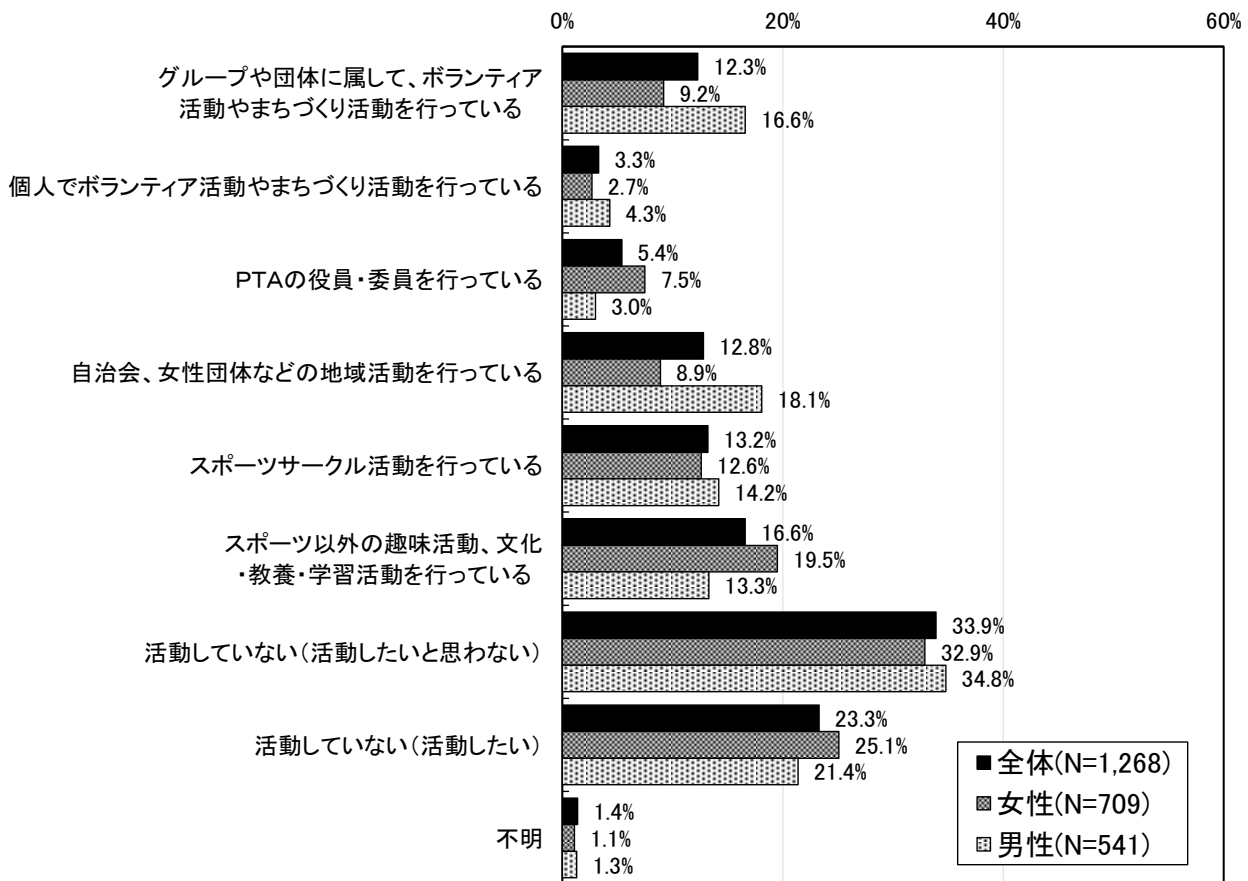


※全国…平成28年度男女共同参画に関する世論調査(内閣府)における設問「今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。」に対する回答

問7 あなたは現在、家庭の外で（仕事以外に）何か活動をしていますか。（複数回答）

仕事以外の家庭の外での活動については、男女ともに「活動していない（活動したいと思わない）」割合が約3割強ある。また「活動していない（活動したい）」割合も約2割あり、合わせて半数以上が家庭の外での活動に携わっていないと回答している。年齢別では、「活動していない」割合は20～50歳代の現役世代で高くなっている。一方、10～30歳代の女性で活動したいがしていない潜在層が約3割と比較的多いことは特徴的である。

「活動している」と回答した人の中で回答割合が最も高いものは、女性では「スポーツ以外の趣味活動、文化・教養・学習活動」、男性では「自治会、女性団体などの地域活動」となっている。また、年齢別にみると、女性では60歳以上で「スポーツ以外の趣味活動、文化・教養・学習活動」、40歳代で「PTAの役員・委員」の割合が高くなっている。男性では40歳以上で「自治会、女性団体などの地域活動」、20歳代で「スポーツサークル活動」の割合が高くなっている。年代・性別によって行っている活動は異なっている。



※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

問7 年齢別比較

※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

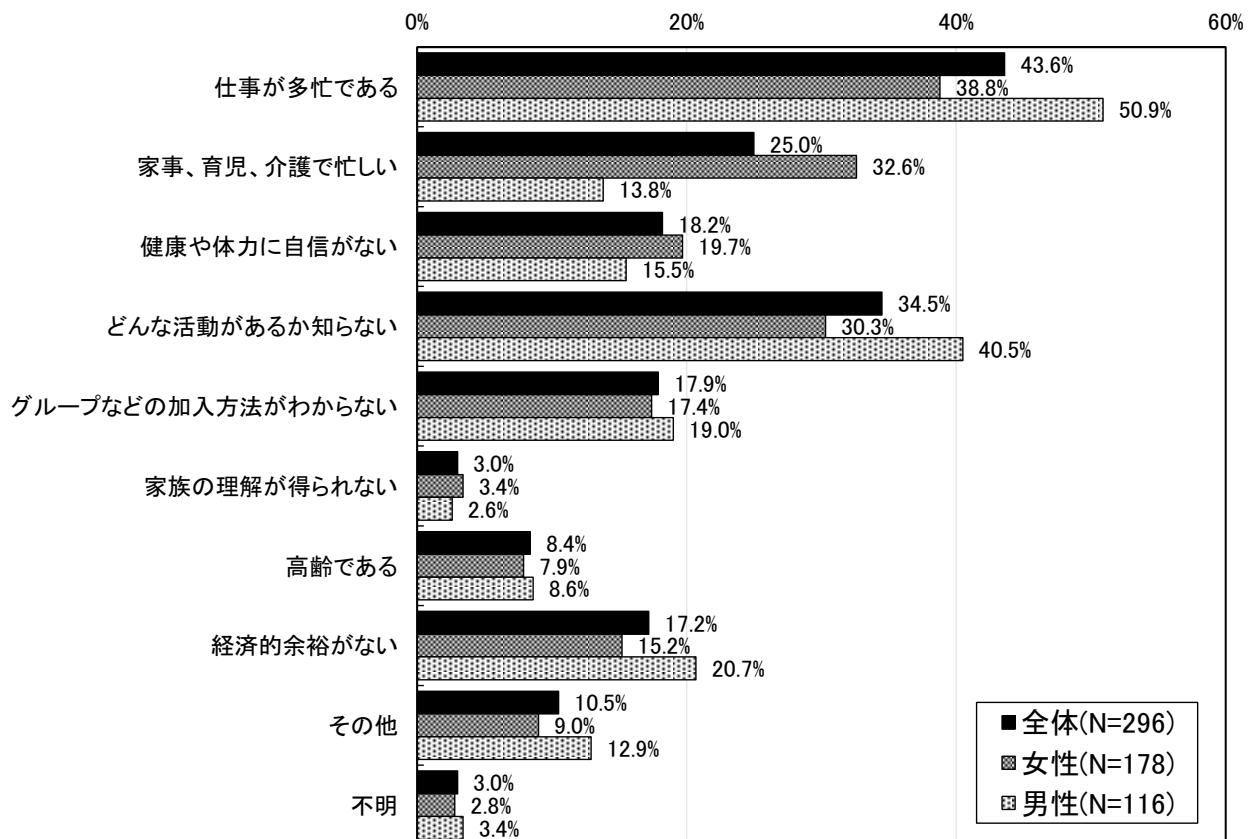
(%)	グループや団体に属して、ボランティア活動やまちづくり活動を行っている	個人でボランティア活動やまちづくり活動を行っている	P T Aの役員・委員を行っている	自治会、女性団体などの地域活動を行っている	スポーツサークル活動を行っている	スポーツ以外の趣味活動、文化・教養・学習活動を行っている	活動していない（活動したいと思わない）	活動していない（活動したい）	不明
【年齢別・女性】									
18・19歳(N=21)	19.0	4.8	-	-	14.3	4.8	28.6	33.3	-
20歳代(N=95)	2.1	1.1	-	1.1	5.3	13.7	47.4	31.6	-
30歳代(N=118)	1.7	0.8	11.9	9.3	6.8	9.3	44.1	26.3	-
40歳代(N=129)	10.9	-	23.3	10.9	9.3	16.3	29.5	21.7	-
50歳代(N=155)	9.0	3.9	4.5	11.0	18.1	20.0	29.7	25.2	1.3
60歳代(N=129)	17.1	5.4	1.6	10.9	17.1	32.6	24.0	20.9	2.3
70歳以上(N=61)	11.5	4.9	-	9.8	18.0	31.1	23.0	26.2	4.9
【年齢別・男性】									
18・19歳(N=13)	15.4	7.7	7.7	7.7	23.1	38.5	15.4	53.8	-
20歳代(N=63)	12.7	4.8	3.2	1.6	25.4	20.6	31.7	23.8	-
30歳代(N=71)	12.7	4.2	4.2	8.5	16.9	7.0	43.7	21.1	-
40歳代(N=97)	10.3	5.2	5.2	17.5	6.2	5.2	48.5	13.4	1.0
50歳代(N=102)	15.7	3.9	2.9	20.6	11.8	11.8	33.3	20.6	1.0
60歳代(N=122)	18.0	4.1	0.8	27.9	11.5	13.1	26.2	25.4	2.5
70歳以上(N=71)	31.0	2.8	1.4	25.4	19.7	22.5	29.6	18.3	2.8

※不明を除き、回答割合の高いものの第1位と第2位に網掛け

【問7で「活動していない（活動したい）」と回答された方のみ】

問8 活動したいのに活動していない理由は何ですか。（3つ以下回答）

活動したいのに活動していない理由としては、「仕事が多忙である」の割合が男女ともに現役世代で高く、「家事、育児、介護で忙しい」の割合は30～50歳代の女性で高くなっている。これらに加えて「どんな活動があるか知らない」の割合も男性の全年代、女性の30歳代以下で高くなっている。忙しさによる時間のなさや活動を知らないことが大きな理由といえる。



※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

問 8 年齢別比較

※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

(%)	仕事が多忙である	家事、育児、介護で忙しい	健康や体力に自信がない	どんな活動があるか知らない	グループなどの加入方法がわからない	家族の理解が得られない	高齢である	経済的余裕がない	その他	不明
【年齢別・女性】										
18・19 歳(N=7)	28.6	-	-	71.4	-	-	-	-	28.6	-
20 歳代(N=30)	36.7	30.0	6.7	50.0	23.3	-	-	13.3	3.3	-
30 歳代(N=31)	45.2	67.7	16.1	48.4	12.9	-	-	16.1	-	6.5
40 歳代(N=28)	42.9	64.3	17.9	35.7	14.3	3.6	-	28.6	21.4	3.6
50 歳代(N=39)	48.7	33.3	25.6	23.1	25.6	10.3	-	33.3	10.3	2.6
60 歳代(N=27)	22.2	11.1	48.1	22.2	22.2	7.4	33.3	37.0	18.5	3.7
70 歳代(N=16)	31.3	18.8	25.0	18.8	12.5	6.3	87.5	6.3	12.5	-
【年齢別・男性】										
18・19 歳(N=7)	28.6	14.3	14.3	28.6	28.6	-	-	-	57.1	-
20 歳代(N=15)	46.7	6.7	13.3	60.0	33.3	6.7	6.7	26.7	6.7	6.7
30 歳代(N=15)	53.3	46.7	13.3	53.3	20.0	13.3	-	46.7	6.7	6.7
40 歳代(N=13)	76.9	38.5	7.7	61.5	30.8	-	-	30.8	-	-
50 歳代(N=21)	76.2	14.3	23.8	52.4	-	-	4.8	9.5	14.3	-
60 歳代(N=31)	41.9	6.5	25.8	45.2	19.4	-	22.6	29.0	9.7	3.2
70 歳代(N=13)	23.1	7.7	30.8	38.5	38.5	-	53.8	30.8	15.4	7.7

※不明を除き、回答割合の高いものの第1位と第2位に網掛け

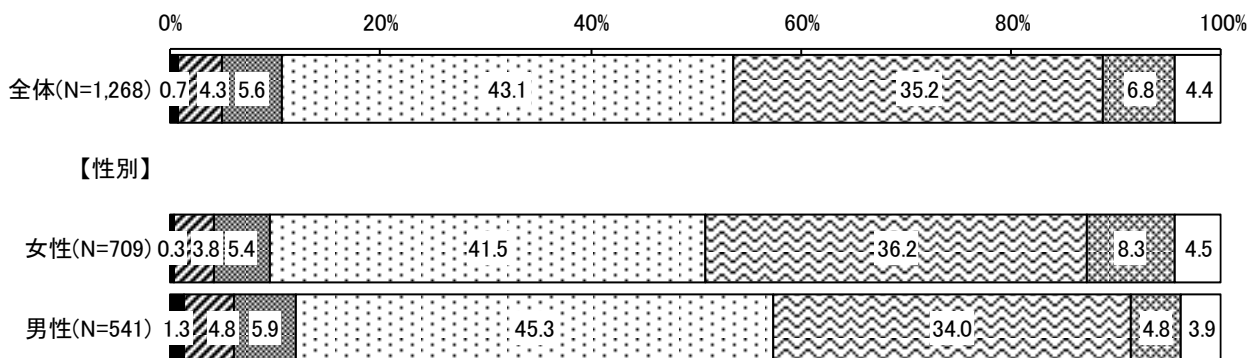
5 職場における男女の役割分担や考え方について

問9 一般的に、女性が仕事を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。(単数回答)

女性が仕事を持つことについての考えとしては、「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」という再就職型を支持する考えの割合が43.1%で最も高くなっている。男女別でも、男性で45.3%、女性で41.5%とともに4割強と最も高くなっている。経年的にみると、その割合は男女ともに少しずつ減少しつつある。代わりに「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」という就労継続型の働き方を支持する考えの割合が35.2%、男性で34.0%、女性で36.2%と2番目に多い考え方となっており、経年的にも前回調査から約10ポイント増えるなど、男女ともに大きく増加している。継続して働くことを望む意識が高まっているといえる。

全国と比較すると豊田市では、就労継続型の働き方を支持する割合は全国よりも低くなっている。

女性に着目すると、30～40歳代、実際に仕事をしている人、扶養の範囲を超える収入がある人で、就労継続型への考えが第1位となっている。

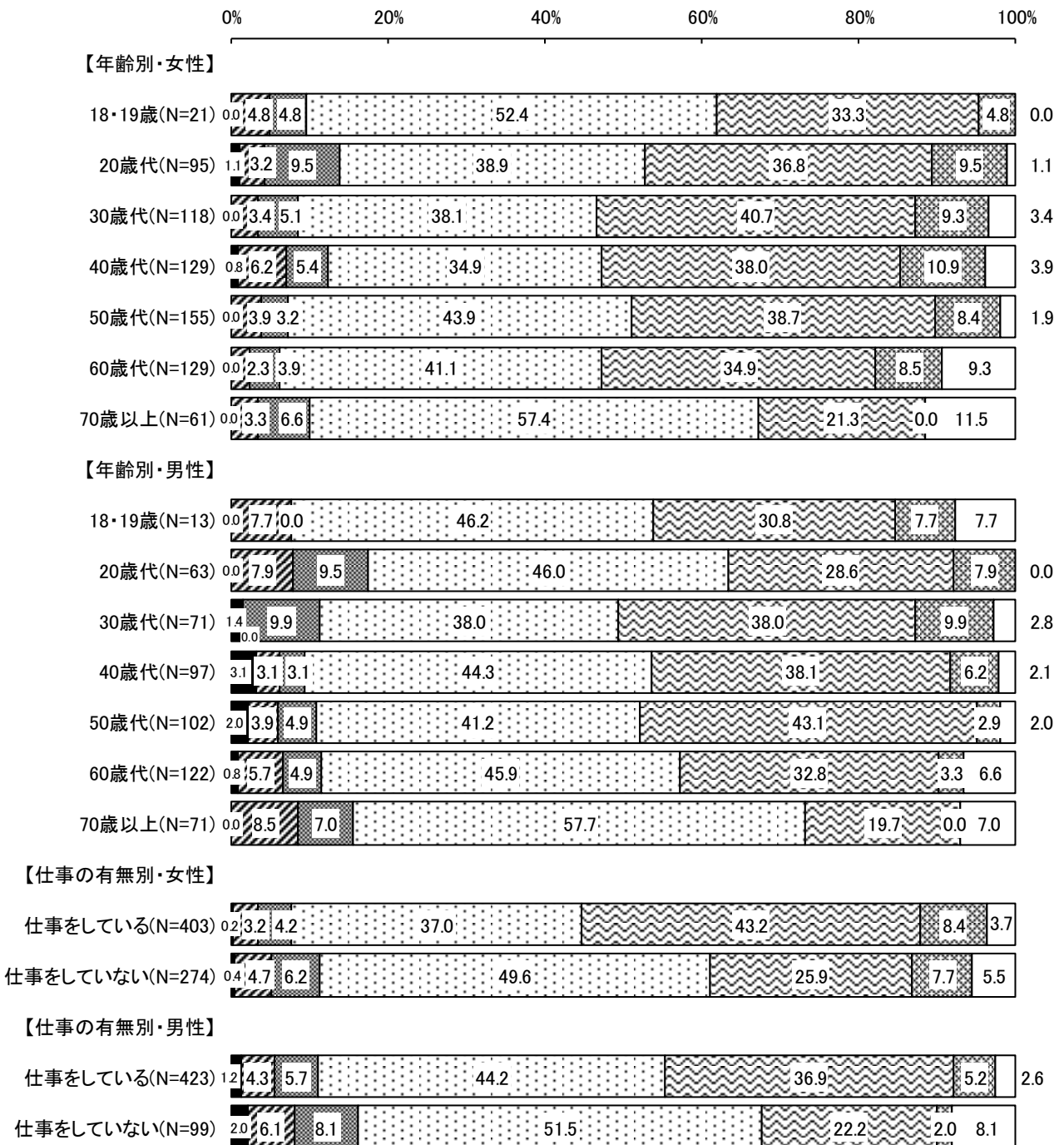


- 女性は無仕事でもよい
- ▨ 結婚するまでは仕事を持つ方がよい
- ▩ 子どもができるまでは、仕事を持つ方がよい
- 子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい
- 子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい
- ▨ その他
- 不明

※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

問9 年齢別・仕事の有無別比較

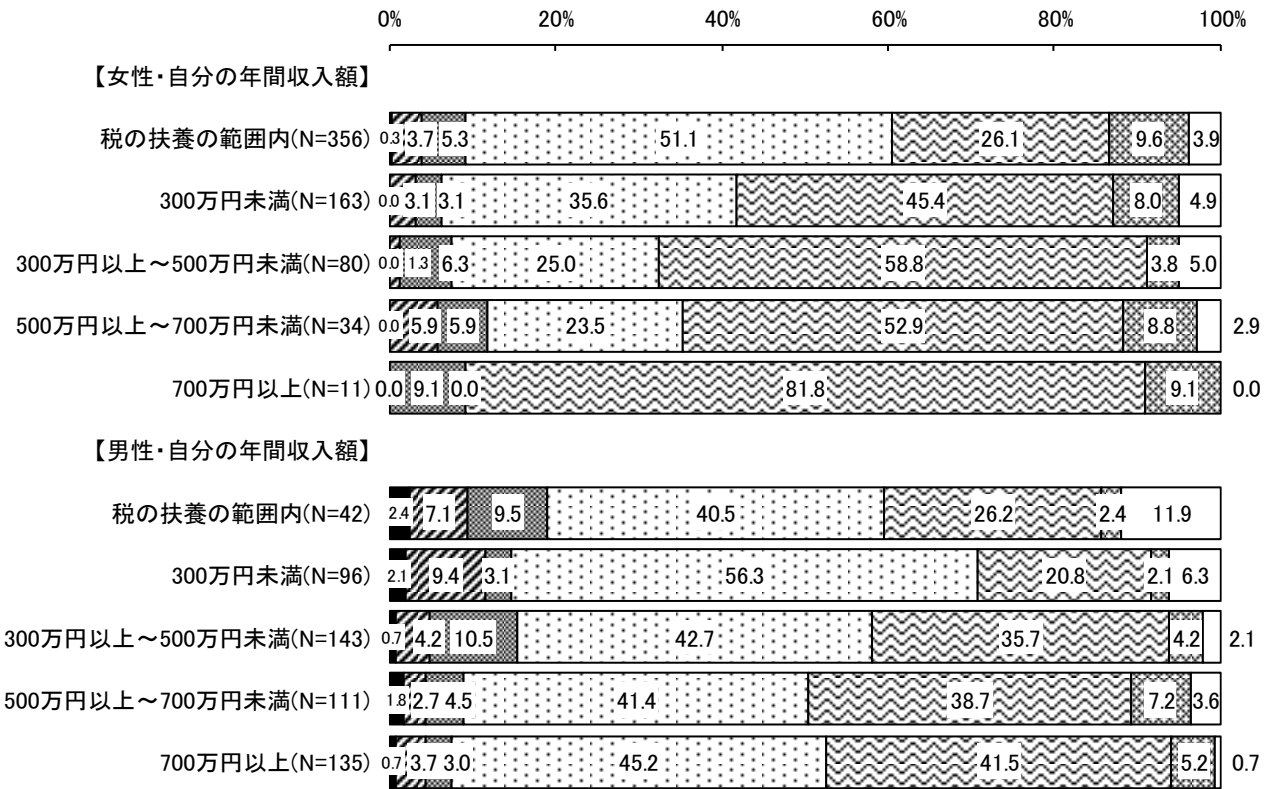
※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。



- 女性は仕事を持たなくてもよい
- ▣ 結婚するまでは仕事を持つ方がよい
- ▤ 子どもができるまでは、仕事を持つ方がよい
- 子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい
- ▣ 子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい
- ▤ その他
- 不明

問9 年間収入額別比較

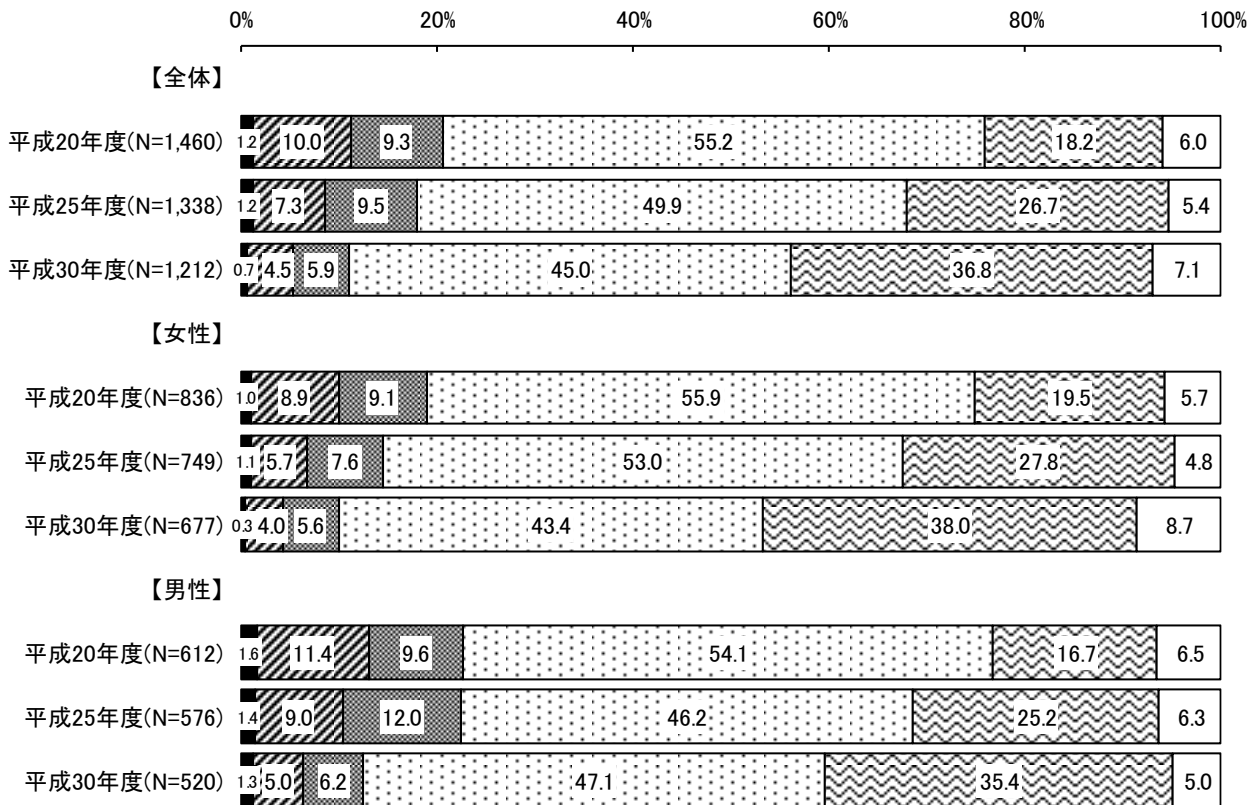
※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。



- 女性は仕事を持たなくてもよい
- 結婚するまでは仕事を持つ方がよい
- 子どもができるまでは、仕事を持つ方がよい
- 子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい
- 子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい
- その他
- 不明

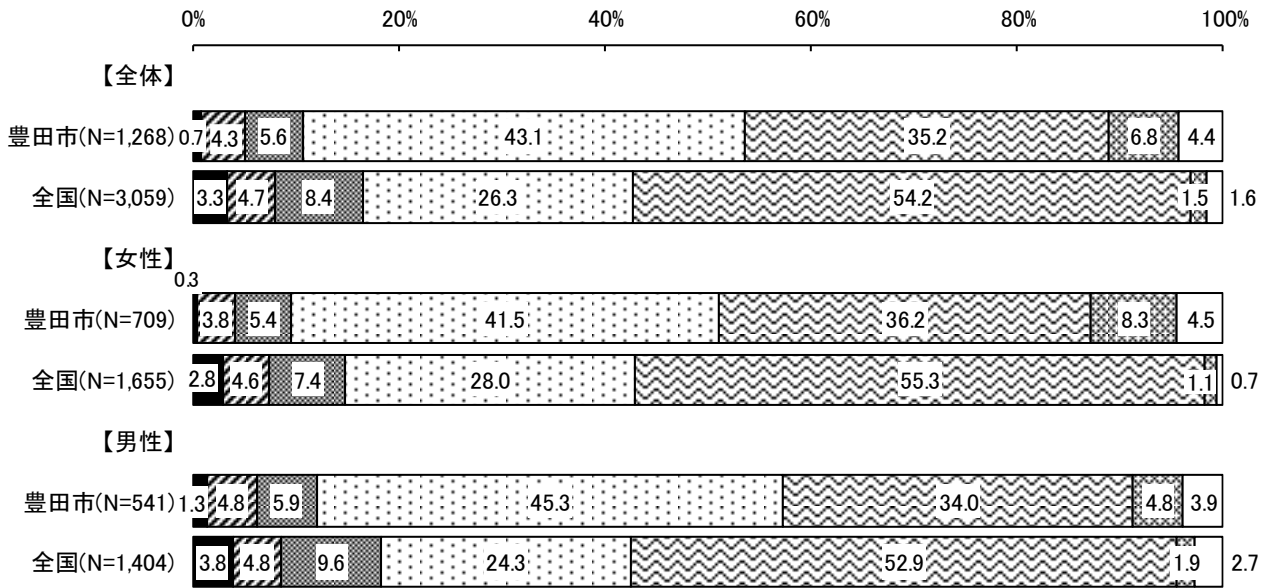
問9 経年比較

※経年比較集計結果では、不明の回答者が含まれていないため、経年比較の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。



- 女性は仕事を持たなくてもよい
- ▣ 結婚するまでは仕事を持つ方がよい
- ▣ 子どもができるまでは、仕事を持つ方がよい
- 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい
- ▣ 子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい
- その他

問9 全国との比較



- 女性は無職でもよい(持たない方がよい)
- ▣ 結婚するまでは仕事を持つ方がよい
- ▤ 子どもができるまでは、仕事を持つ方がよい
- 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい
- ▣ 子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい
- ▤ その他
- 不明(豊田市のみ)
- わからない(全国のみ)

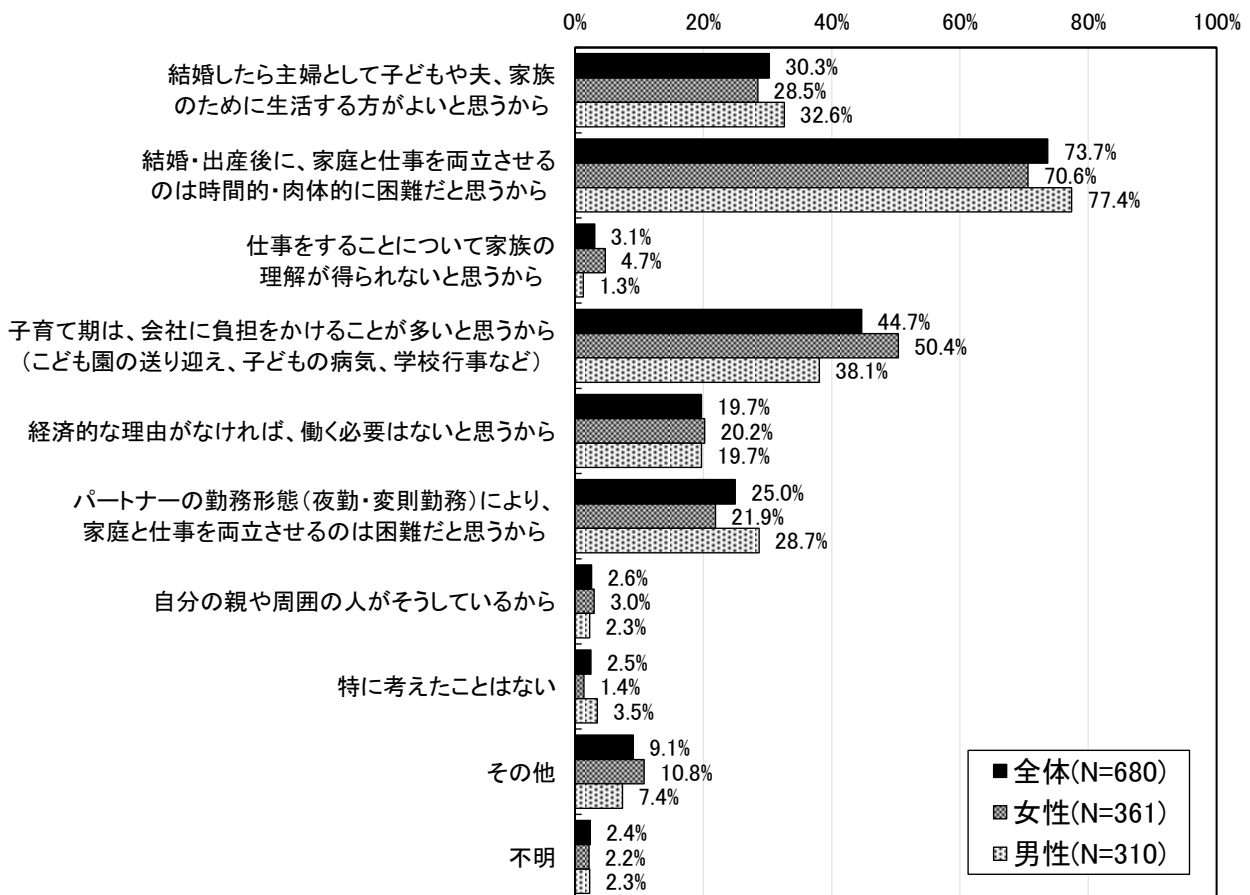
※全国…平成28年度男女共同参画社会に関する世論調査(内閣府)における設問「一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか。」に対する回答。一部、選択肢の表現が豊田市とは異なる。また、「わからない」の選択肢がある。なお、集計結果には不明の回答は含まれていない。

【問9で「女性は仕事を持たなくてもよい」「結婚するまでは仕事を持つ方がよい」「子どもができるまでは、仕事を持つ方がよい」「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」と回答された方のみ】

問10 仕事をしない方がよいと考える理由は何ですか。(3つ以下回答)

女性が仕事をしない方がよいと考える理由としては、「結婚・出産後に、家庭と仕事を両立させるのは時間的・肉体的に困難だと思うから」の割合が73.7%で最も高くなっている。男女別でも男女とも全ての年代で6割以上と最も高い割合となっている。

また、男女別では、女性で「子育て期は、会社に負担をかけることが多いと思うから」の割合が男性よりも12.3ポイント高くなっている。一方、男性では40～50歳代で「結婚したら主婦として子どもや夫、家族のために生活する方がよいと思うから」の割合が第2位と高くなっており、女性は家庭という固定的な性別役割分担意識が強いことが伺える。



※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

問 10 年齢別・仕事の有無別比較

※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

	結婚したら主婦として子どもや夫、家族のために生活する方がよいと思うから	結婚・出産後に、家庭と仕事を両立させるのは時間的・肉体的に困難だと思うから	仕事をすることについて家族の理解が得られないと思うから	子育て期は、会社に負担をかけることが多いと思うから（子ども園の送り迎え、子どもの病気、学校行事など）	経済的な理由がなければ、働く必要はないと思うから	パートナーの勤務形態（夜勤・変則勤務）により、家庭と仕事を両立させるのは困難だと思うから	自分の親や周囲の人がそうしているから	特に考えたことはない	その他	不明
(%)										
【年齢別・女性】										
18・19 歳(N=13)	46.2	69.2	-	38.5	-	7.7	-	15.4	-	-
20 歳代(N=50)	36.0	88.0	4.0	40.0	16.0	30.0	10.0	-	6.0	-
30 歳代(N=55)	27.3	78.2	5.5	52.7	21.8	27.3	-	-	14.5	-
40 歳代(N=61)	19.7	63.9	8.2	49.2	24.6	23.0	4.9	3.3	19.7	3.3
50 歳代(N=79)	27.8	69.6	5.1	53.2	20.3	22.8	1.3	1.3	12.7	1.3
60 歳代(N=61)	31.1	62.3	4.9	57.4	27.9	11.5	1.6	-	9.8	4.9
70 歳以上(N=41)	26.8	73.2	-	68.3	19.5	39.0	4.9	-	4.9	4.9
【年齢別・男性】										
18・19 歳(N=7)	14.3	100.0	14.3	42.9	14.3	28.6	28.6	14.3	14.3	-
20 歳代(N=40)	27.5	82.5	-	30.0	30.0	30.0	5.0	5.0	15.0	2.5
30 歳代(N=35)	14.3	91.4	-	40.0	28.6	31.4	-	2.9	2.9	2.9
40 歳代(N=52)	44.2	82.7	-	36.5	13.5	25.0	1.9	1.9	9.6	-
50 歳代(N=53)	28.3	67.9	1.9	26.4	20.8	28.3	1.9	1.9	7.5	5.7
60 歳代(N=70)	37.1	75.7	2.9	48.6	20.0	30.0	2.9	5.7	4.3	-
70 歳以上(N=52)	36.5	73.1	3.8	50.0	15.4	34.6	-	5.8	7.7	3.8
【仕事の有無別・女性】										
仕事をしている(N=180)	27.8	70.6	5.6	56.1	20.6	22.8	4.4	1.1	13.3	0.6
仕事をしていない(N=167)	29.3	73.7	4.2	49.7	21.0	24.6	1.2	1.8	9.0	3.6
【仕事の有無別・男性】										
仕事をしている(N=234)	33.8	80.8	1.7	38.0	20.9	28.2	2.1	3.4	8.1	2.1
仕事をしていない(N=67)	29.9	71.6	3.0	47.8	17.9	34.3	4.5	4.5	4.5	1.5

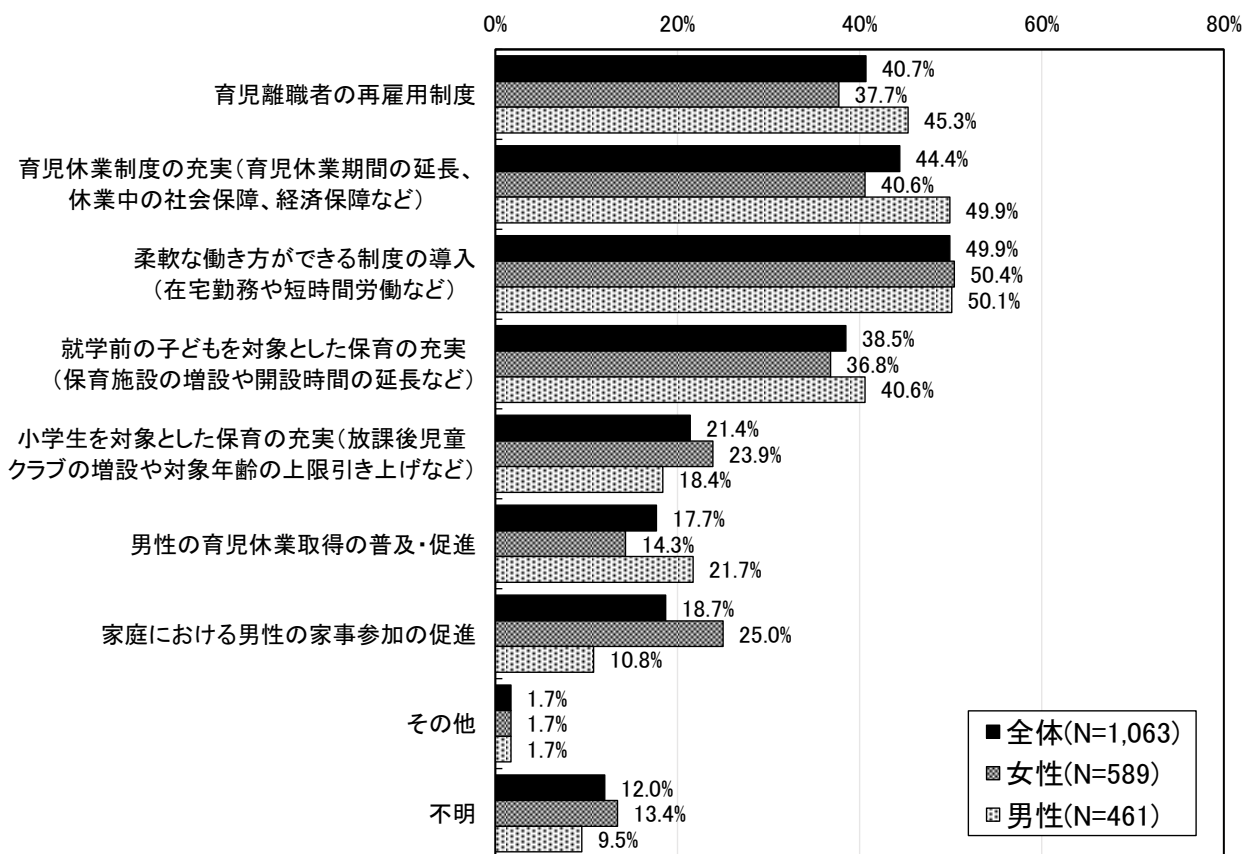
※不明を除き、回答割合の高いものの第1位と第2位に網掛け

【問9で「子どもができるまでは、仕事を持つ方がよい」「子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」と回答された方のみ】

問11 結婚・出産後に女性が仕事をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。(3つ以下回答)

結婚・出産後に女性が仕事をするために必要なことについては、「柔軟な働き方ができる制度の導入」の割合が49.9%で最も高くなっている。次いで、「育児休業制度の充実」(44.4%)、「育児離職者の再雇用制度」(40.7%)、「就学前の子どもを対象とした保育の充実」(38.5%)となっており、これらのニーズが大きいことが伺える。

経年的に割合が増加傾向にあるのは、「就学前の子どもを対象とした保育の充実」「男性の育児休業取得の普及・促進」の2項目であり、保育環境や男性の育児休暇取得へのニーズが高まっているといえる。



※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

問 11 年齢別比較・仕事の有無別比較

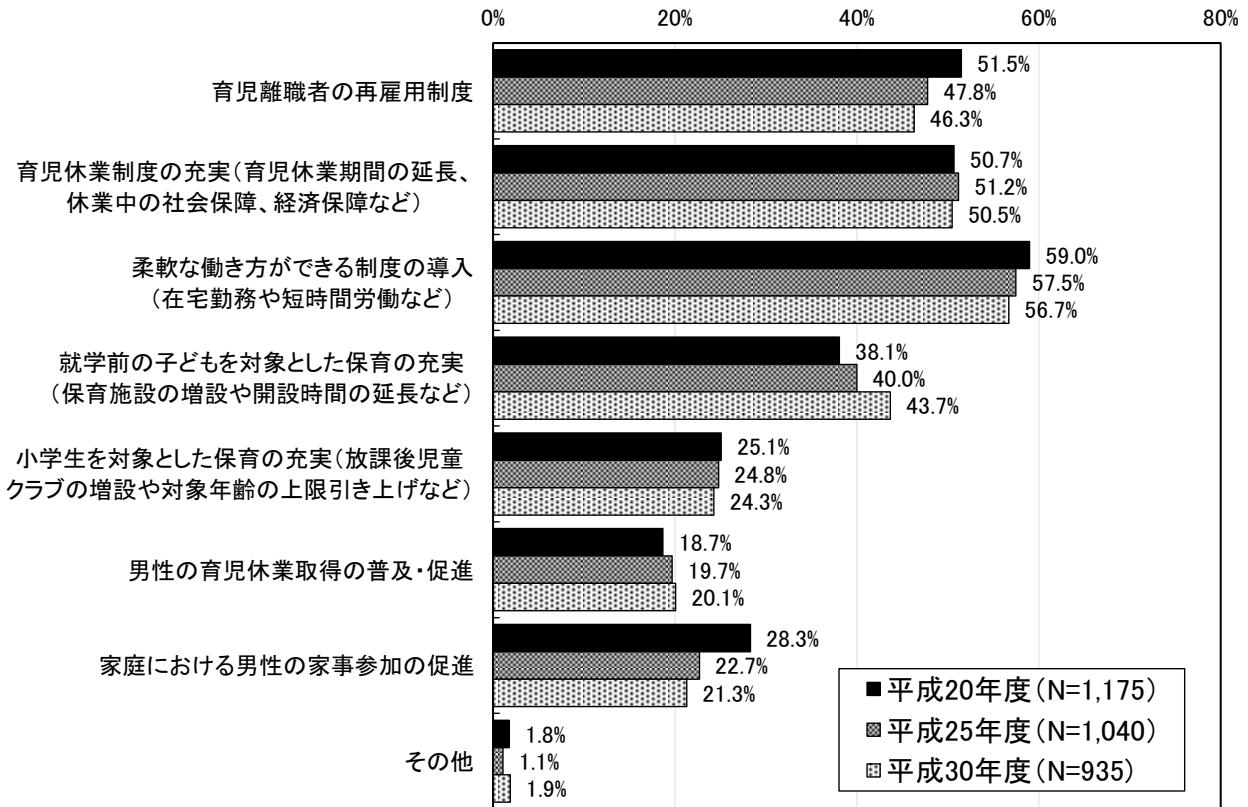
※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

(%)	育児離職者の再雇用制度	育児休業制度の充実（育児休業期間の延長、休業中の社会保障、経済保障など）	柔軟な働き方ができる制度の導入（在宅勤務や短時間労働など）	就学前の子どもを対象とした保育の充実（保育施設の増設や開設時間の延長など）	小学生を対象とした保育の充実（放課後児童クラブの増設や対象年齢の上限引き上げなど）	男性の育児休業取得の普及・促進	家庭における男性の家事参加の促進	その他	不明
【年齢別・女性】									
18・19歳(N=19)	36.8	63.2	36.8	21.1	10.5	15.8	26.3	-	5.3
20歳代(N=81)	43.2	53.1	46.9	34.6	12.3	18.5	18.5	1.2	17.3
30歳代(N=99)	38.4	32.3	73.7	43.4	29.3	18.2	24.2	2.0	8.1
40歳代(N=101)	33.7	34.7	62.4	33.7	26.7	12.9	29.7	2.0	15.8
50歳代(N=133)	42.1	41.4	45.1	38.3	26.3	13.5	24.1	3.0	12.8
60歳代(N=103)	28.2	44.7	42.7	47.6	30.1	19.4	25.2	1.0	16.5
70歳以上(N=52)	42.3	38.5	42.3	36.5	32.7	9.6	38.5	-	11.5
【年齢別・男性】									
18・19歳(N=10)	40.0	60.0	50.0	20.0	10.0	40.0	20.0	-	20.0
20歳代(N=53)	52.8	62.3	45.3	26.4	9.4	35.8	11.3	-	13.2
30歳代(N=61)	37.7	42.6	60.7	37.7	19.7	32.8	6.6	1.6	11.5
40歳代(N=83)	44.6	42.2	50.6	41.0	21.7	26.5	10.8	6.0	8.4
50歳代(N=91)	44.0	49.5	45.1	49.5	24.2	18.7	8.8	2.2	6.6
60歳代(N=102)	46.1	57.8	60.8	44.1	14.7	11.8	14.7	-	6.9
70歳以上(N=60)	50.0	50.0	43.3	43.3	25.0	13.3	16.7	1.7	11.7
【仕事の有無別・女性】									
仕事をしている(N=340)	34.7	40.9	52.6	37.6	25.3	15.3	25.9	2.1	14.7
仕事をしていない(N=224)	41.5	42.0	50.4	42.0	25.4	15.2	25.4	1.3	12.1
【仕事の有無別・男性】									
仕事をしている(N=367)	45.0	50.1	51.2	40.9	18.8	22.6	11.7	2.5	9.3
仕事をしていない(N=81)	46.9	56.8	51.9	43.2	18.5	21.0	11.1	0.0	9.9

※不明を除き、回答割合の高いものの第1位と第2位に網掛け

問 11 経年比較

※経年比較集計結果では、不明の回答者が含まれていないため、経年比較の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。



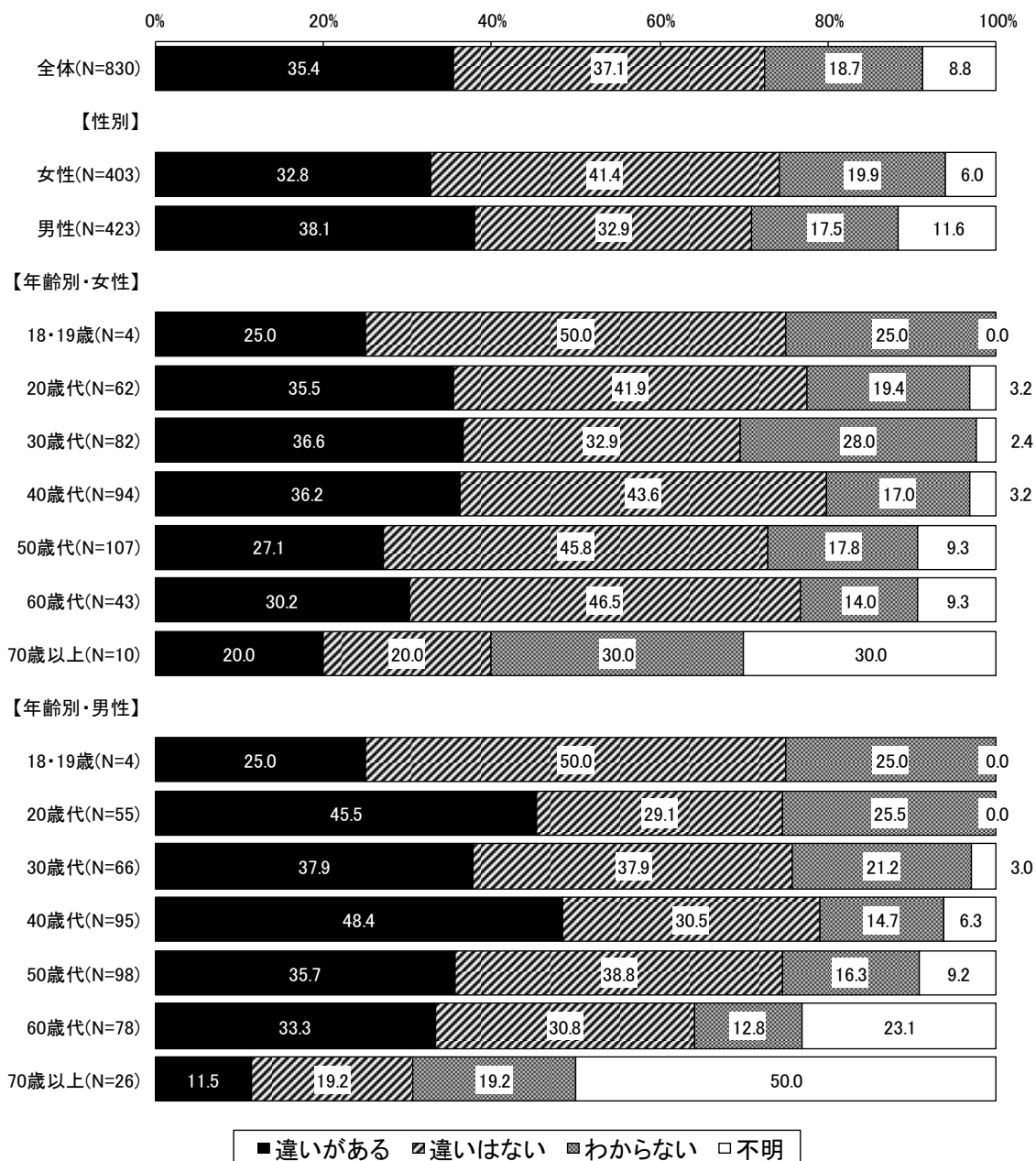
【現在働いている方のみ】

問 12 あなたの職場では、慣行や待遇、仕事の内容などで、性別による違いがあると思いますか。
(単数回答)

職場の待遇や仕事内容などでの性別による違いについて、「違いはない」と思う割合は37.1%、「違いがある」と思う割合が35.4%となっており、「違いがない」方が1.7ポイント高くなっている。

男女別では、女性では「違いはない」が「違いがある」を上回っている。逆に、男性では「違いがある」が「違いはない」を上回っており、男女で異なる結果となった。年齢別では、男女ともに主に20～40歳代の現役世代では、「違いがある」と思う割合が他の年代よりも高くなっている。

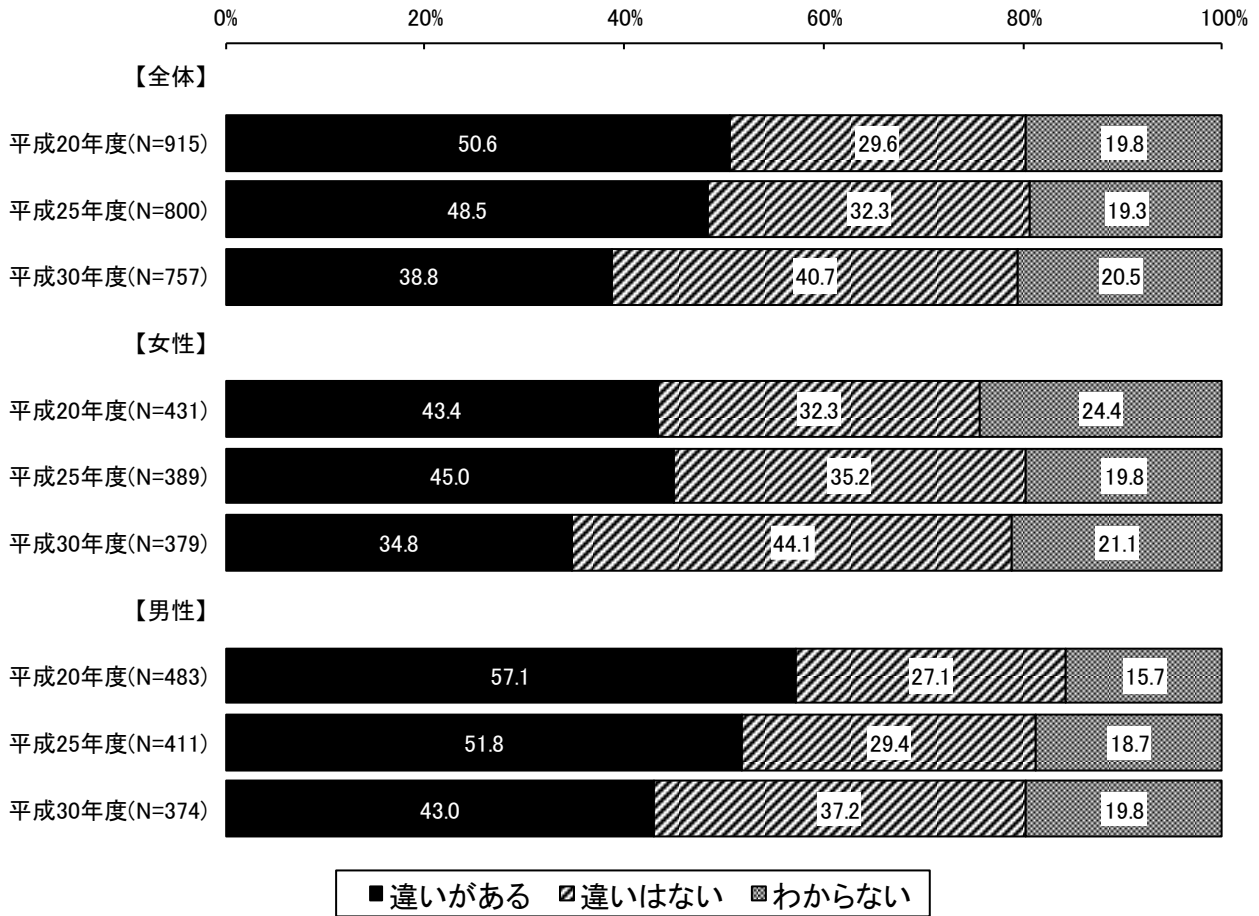
経年的には、前回調査までは「違いがある」と思う割合の方が高かったが、「違いはない」と思う割合が前回調査から8.4ポイント増加し、逆転した結果となった。男女ともに前回調査よりも「違いがある」と思う割合は減少しており、職場での性別による違いは小さくなり、男女平等な職場環境に改善されつつあることが伺える。



※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

問 12 経年比較

※経年比較集計結果では、不明の回答者が含まれていないため、経年比較の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

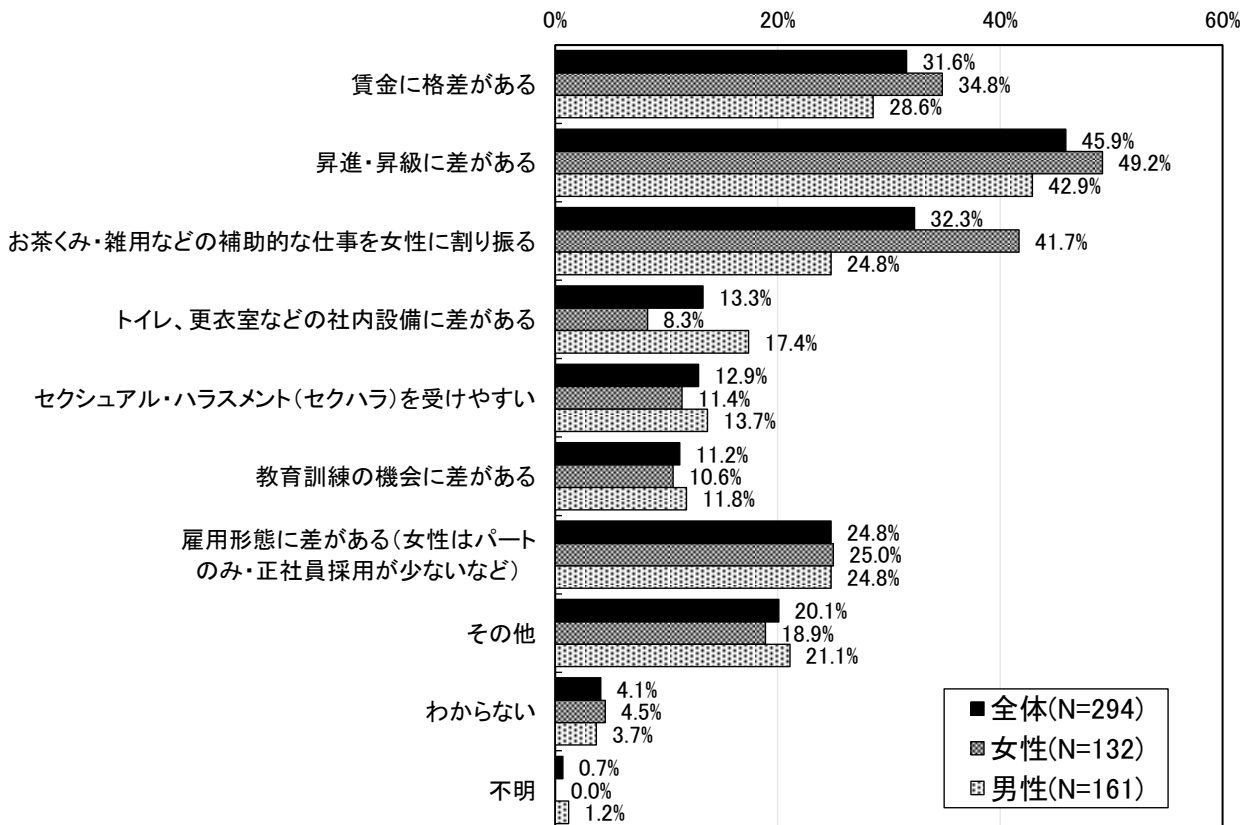


【問12で「違いがある」と回答された方のみ】

問13 あなたの職場では、性別によって、どのような違いがありますか。(複数回答)

職場での違いの内容としては、男女ともに「昇進・昇給に差がある」の割合が4割超と最も高くなっている。第2位は、女性では「お茶くみ・雑用などの補助的な仕事を女性に割り振る」(41.7%)、男性では「賃金に格差がある」(28.6%)となっている。

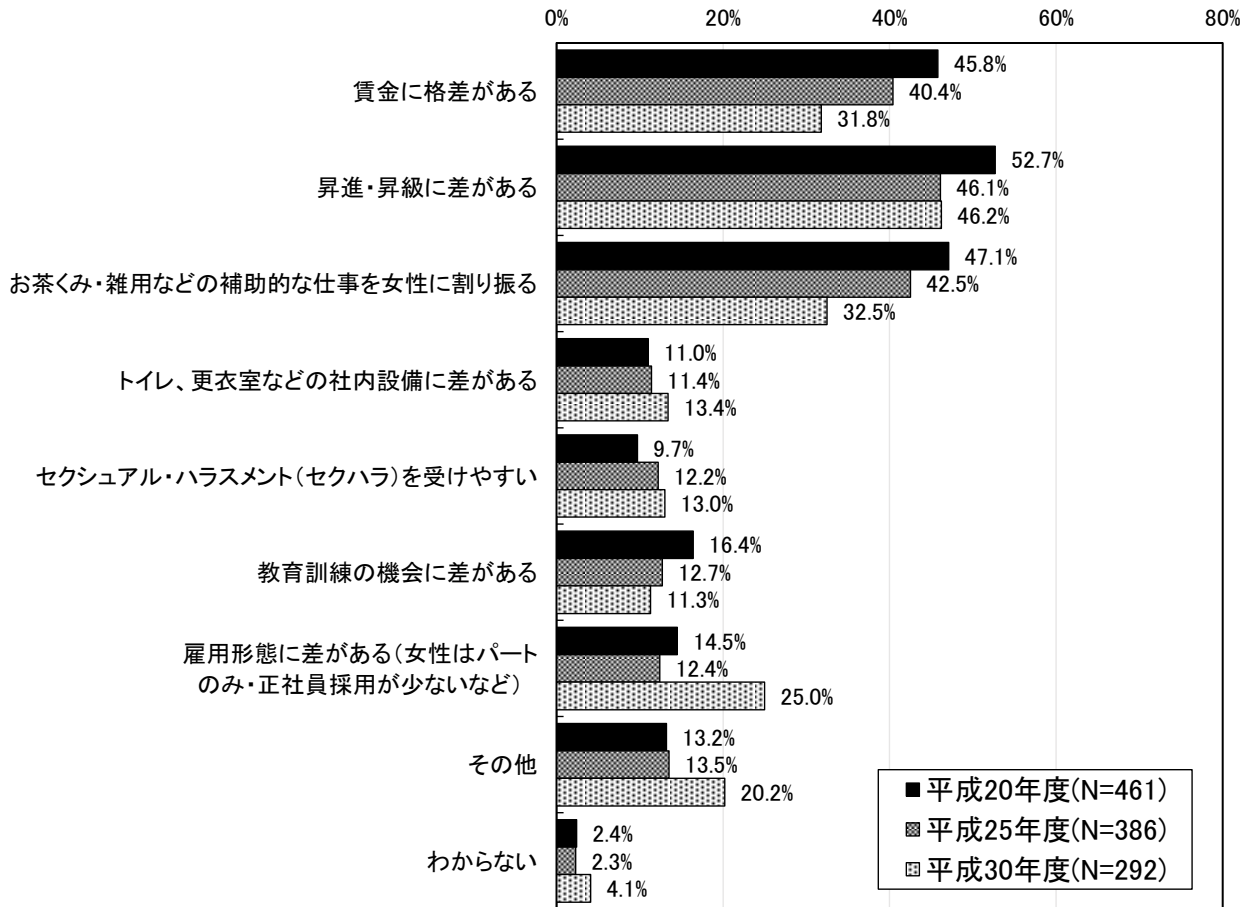
しかし、経年的にみると、これらの項目の割合は減少傾向にあり、男女による格差は小さくなりつつある。



※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

問 13 経年比較

※経年比較集計結果では、不明の回答者が含まれていないため、経年比較の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。



6 ワーク・ライフ・バランスについて

問 14 あなたは、仕事と育児の両立、仕事と介護の両立について、どのように考えますか。

(単数回答)

* 仕事や介護をしていない人は、そのような状況に直面した場合を想定してお答えください。

仕事と育児の両立についての考えは、「できるだけ両立したい」と考える割合が 42.4%で最も高くなっている。男女別でも、男女ともに「できるだけ両立したい」と考える割合が最も高くなっている。しかし、女性は男性よりも「仕事は続けたいが、直面する状況になったら仕事を辞めるしかない」「仕事より優先するので、仕事を辞める」の割合が高くなっている。

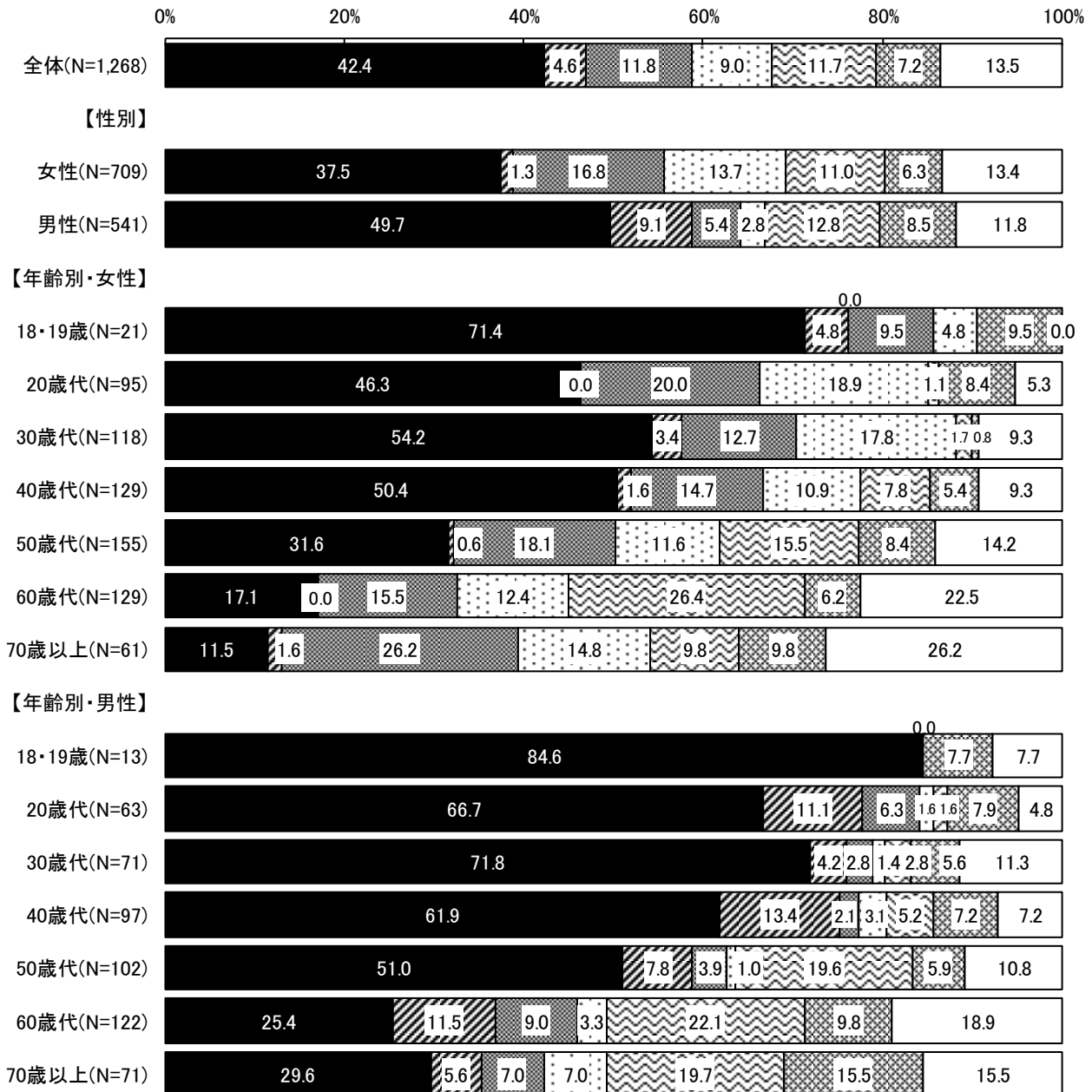
仕事と介護の両立については、女性では「仕事は続けたいが、直面する状況になったら仕事を辞めるしかない」と考える割合が 31.5%で最も高く、「できるだけ両立したい」と考える割合は 28.2%で第 2 位となっている。男性では「できるだけ両立したい」と考える割合が 39.6%で最も高くなっている。

育児・介護ともに、男性より女性の方が「仕事は続けたいが、直面する状況になったら仕事を辞めるしかない」「仕事より優先するので、仕事を辞める」の割合が高くなっている。特に介護では、その傾向が強くなっている。男性でも育児より介護に直面したときの方が「仕事は続けたいが、直面する状況になったら仕事を辞めるしかない」と考える割合が高くなっている。

年齢別にみると、育児では男女とも年齢が若いほど、「できるだけ両立したい」と考える割合が高い傾向があり、20～40 歳代では、女性で 5 割前後、男性で約 6～7 割が「できるだけ両立したい」と考えている。しかし、20～30 歳代の子育て期の女性では「仕事より優先するので、仕事を辞める」と考える割合も 2 割弱と一定割合ある。男性で「仕事は続けたいが、直面する状況になったら仕事を辞めるしかない」「仕事より優先するので、仕事を辞める」の割合はごくわずかである。

また、介護では「仕事は続けたいが、直面する状況になったら仕事を辞めるしかない」と考える割合が 20 歳代の女性で 41.1%と他の年代より高くなっているのが特徴的である。

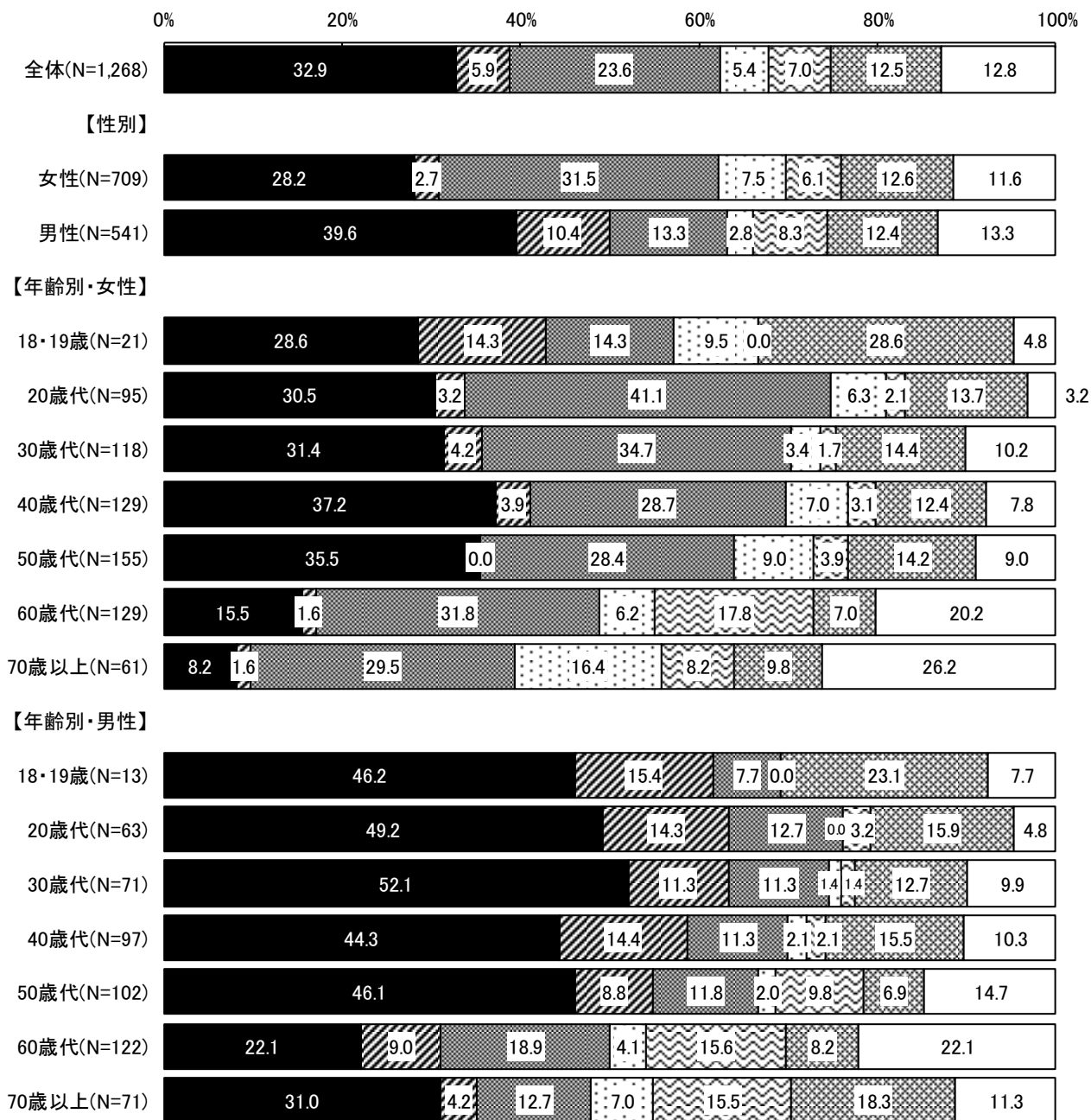
(1) 育児



- できるだけ両立したい
- ☑配偶者・親族に任せて、仕事を続けたい
- ☑仕事は続けたいが、直面する状況になったら仕事を辞めるしかない
- 仕事より優先するので、仕事を辞める
- 今後、育児・介護が必要となる該当者がいない
- ☑わからない
- 不明

※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

(2) 介護



- できるだけ両立したい
- ▣配偶者・親族に任せて、仕事を続けたい
- ▣仕事は続けたいが、直面する状況になったら仕事を辞めるしかない
- 仕事より優先するので、仕事を辞める
- 今後、育児・介護が必要となる該当者がいない
- ▣わからない
- 不明

※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

問 15 あなたは、育児休業制度、介護休業制度の利用について、どのように考えますか。

(単数回答)

(1) 育児休業制度

育児休業制度の利用については、男女ともに「必要とする機会があれば利用したい・利用すればよい」と考える割合が最も高く、女性で 67.1%、男性で 51.6%と過半数を占めており、男性より女性の方が高くなっている。一方、「給与や昇進・昇格等に影響しない程度なら利用したい・利用すればよい」と考える割合は、男性で 30.1%、女性で 16.2%と女性より男性の方が高くなっている。

年齢別では、女性は年齢が若いほど「必要とする機会があれば利用したい・利用すればよい」と考える割合が高くなる傾向にあり、利用意向が強いことがわかる。

経年的には、前回調査と比較して「必要とする機会があれば利用したい・利用すればよい」と考える割合が女性で 5.1 ポイント減少している。かつ、男女ともに「給与や昇進・昇格等に影響しない程度なら利用したい・利用すればよい」と考える割合は増加している。

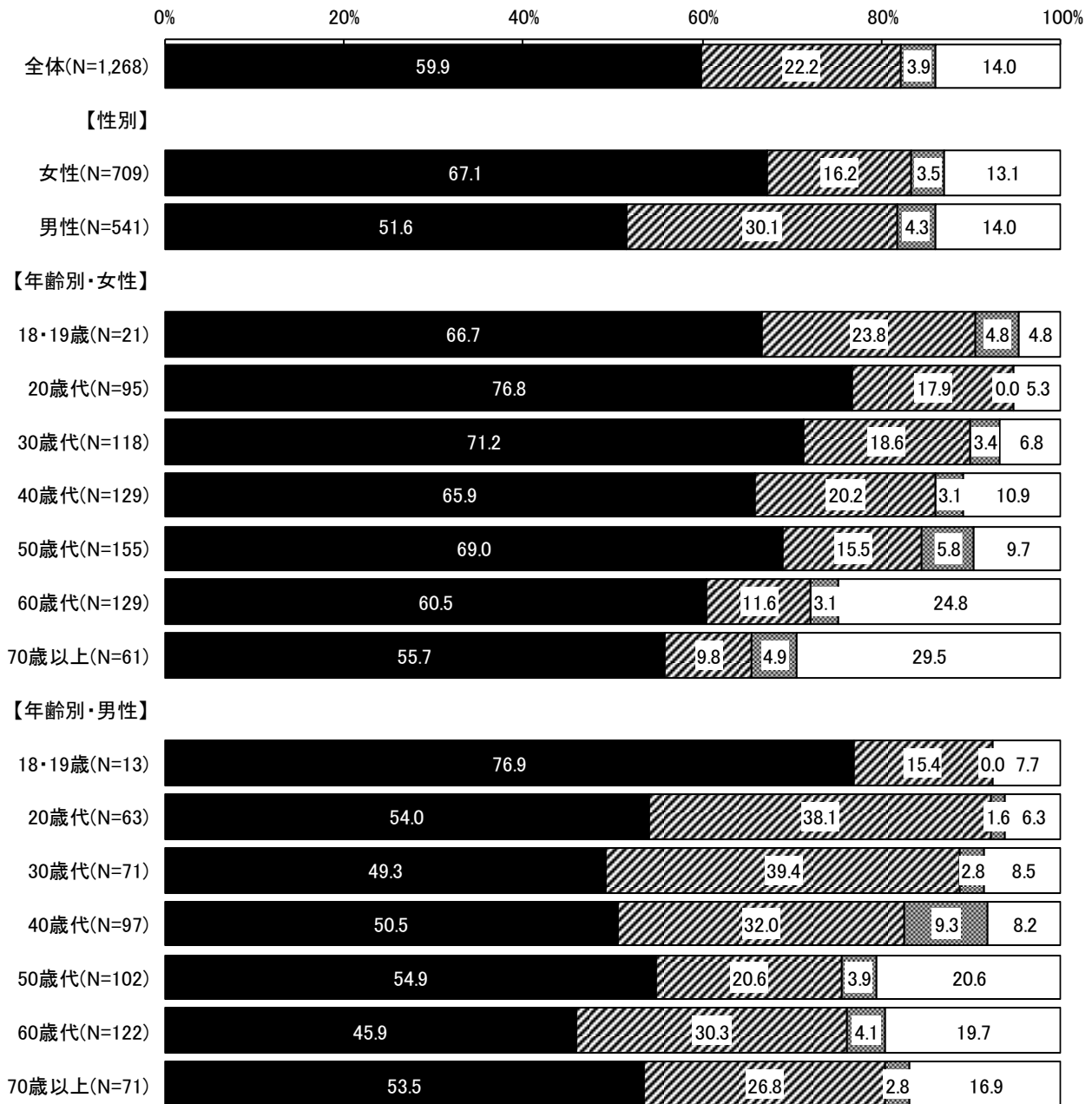
(2) 介護休業制度

介護休業制度の利用については、育児休業制度と同じ傾向にあり、男女ともに「必要とする機会があれば利用したい・利用すればよい」の割合が最も高く、女性で 68.1%、男性で 55.5%と過半数を占めており、男性より女性の方が高くなっている。

年齢別では、育児休業制度と異なり、年齢による傾向はみられない。

経年的には、前回調査と比較して男女ともに「必要とする機会があれば利用したい・利用すればよい」と考える割合が減少し、「給与や昇進・昇格等に影響しない程度なら利用したい・利用すればよい」と考える割合が増加している。

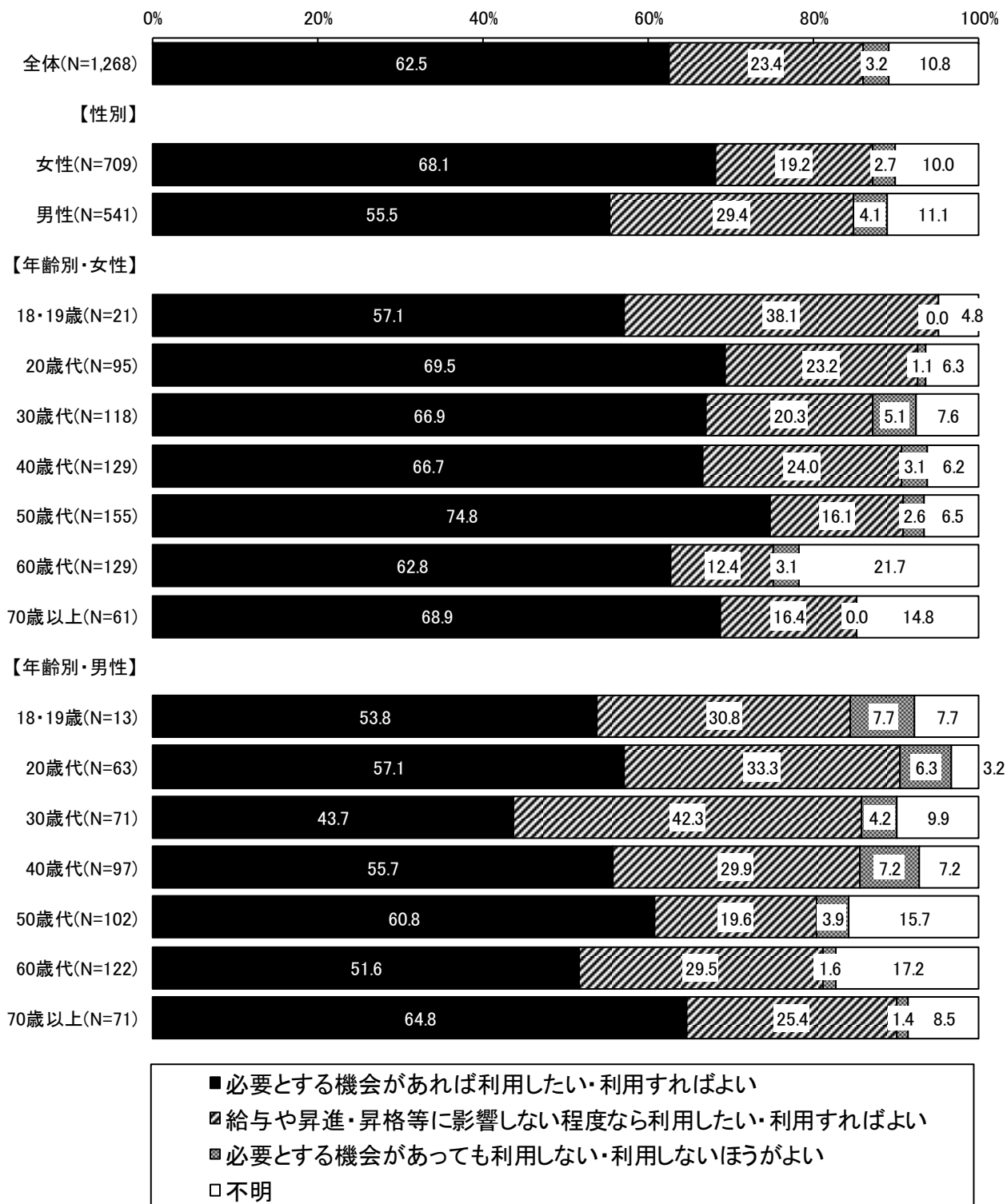
(1) 育児



- 必要とする機会があれば利用したい・利用すればよい
- ▨ 給与や昇進・昇格等に影響しない程度なら利用したい・利用すればよい
- ▩ 必要とする機会があっても利用しない・利用しないほうがよい
- 不明

※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

(2) 介護

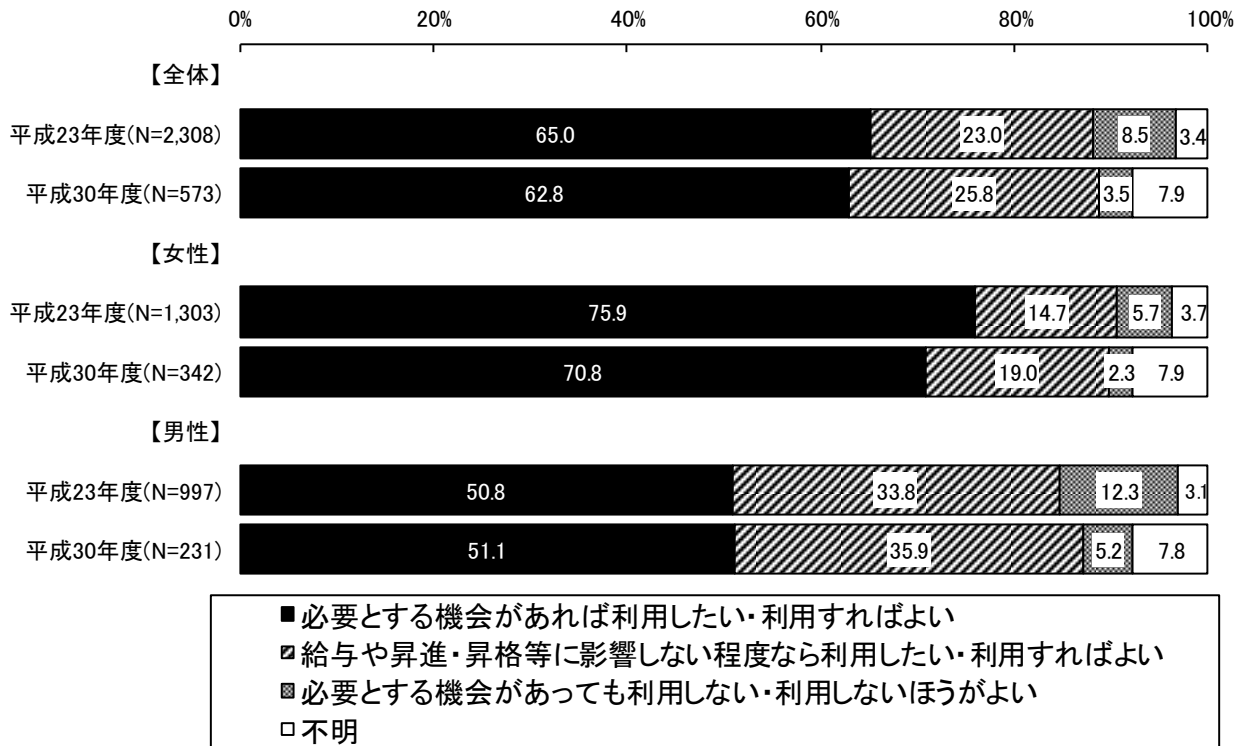


※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

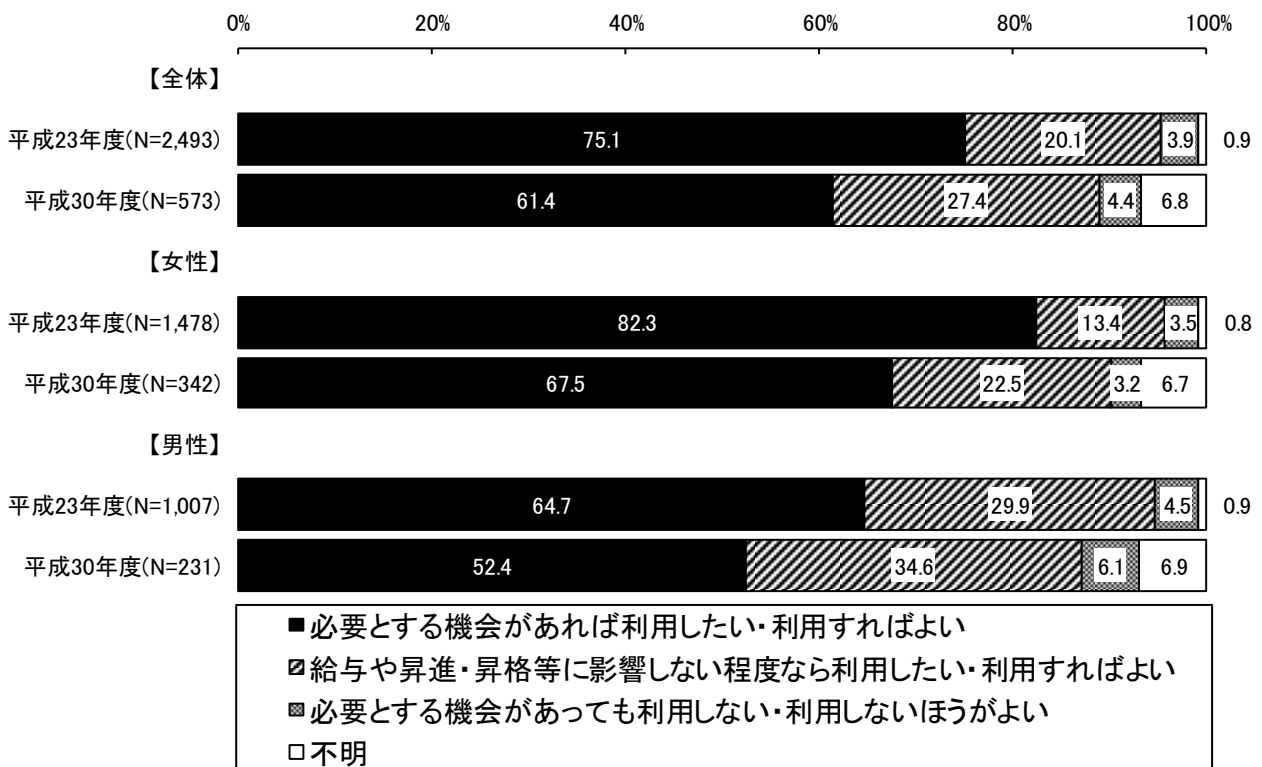
問 15 経年比較

※前回調査（対象 20～40 歳代）と比較するために、20～40 歳代のみで抽出集計。なお、前回調査の集計対象は、（１）については育児休業未利用者、（２）については介護休業未利用者となっている。

（１）育児



（２）介護



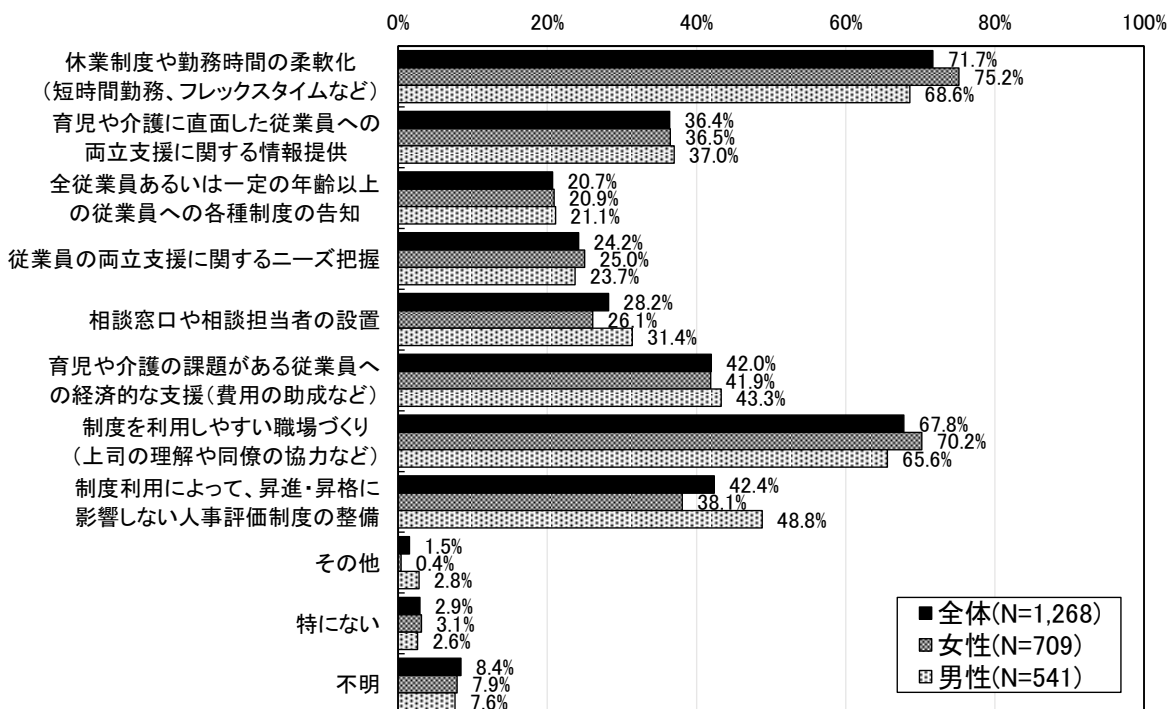
問 16 職場における仕事と育児・介護の両立支援でどのようなことが重要と考えますか。

(複数回答)

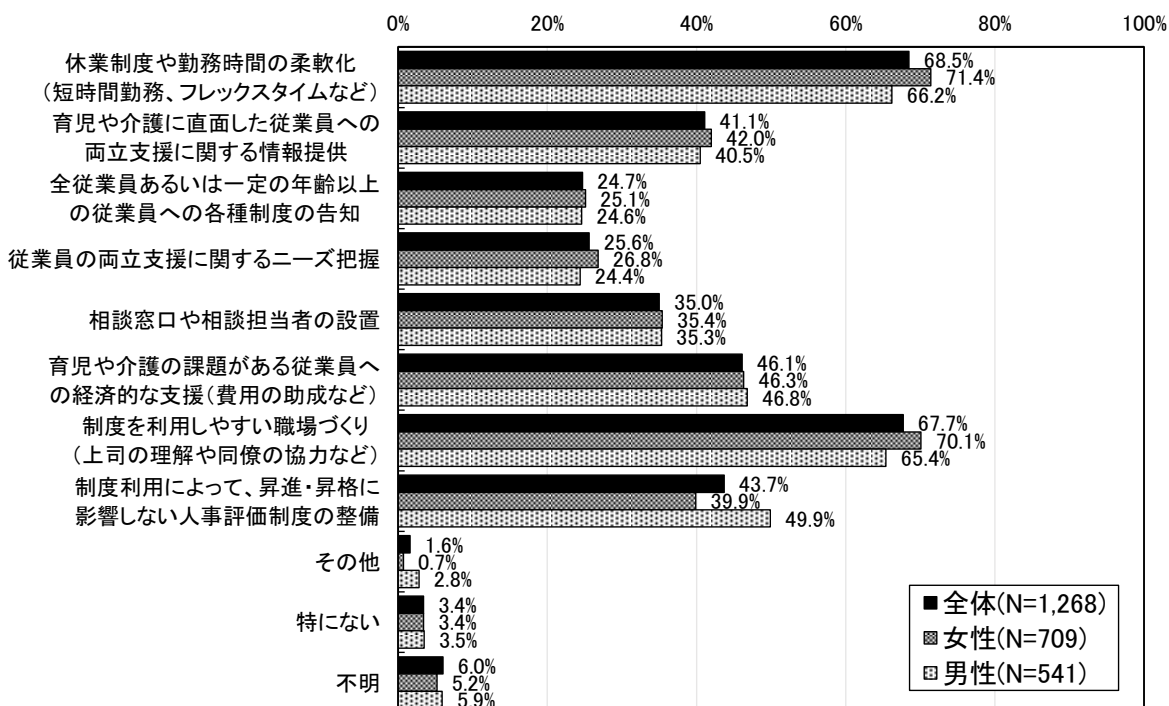
* これまで、就労経験のない方も、一般的な職場のイメージでご回答ください。

仕事と育児・介護の両立支援で重要な取組としては、育児の場合も介護の場合も、男女ともに「休業制度や勤務時間の柔軟化」「制度を利用しやすい職場づくり」の2項目の割合が突出して高くなっている。

(1) 育児 ※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。



(2) 介護

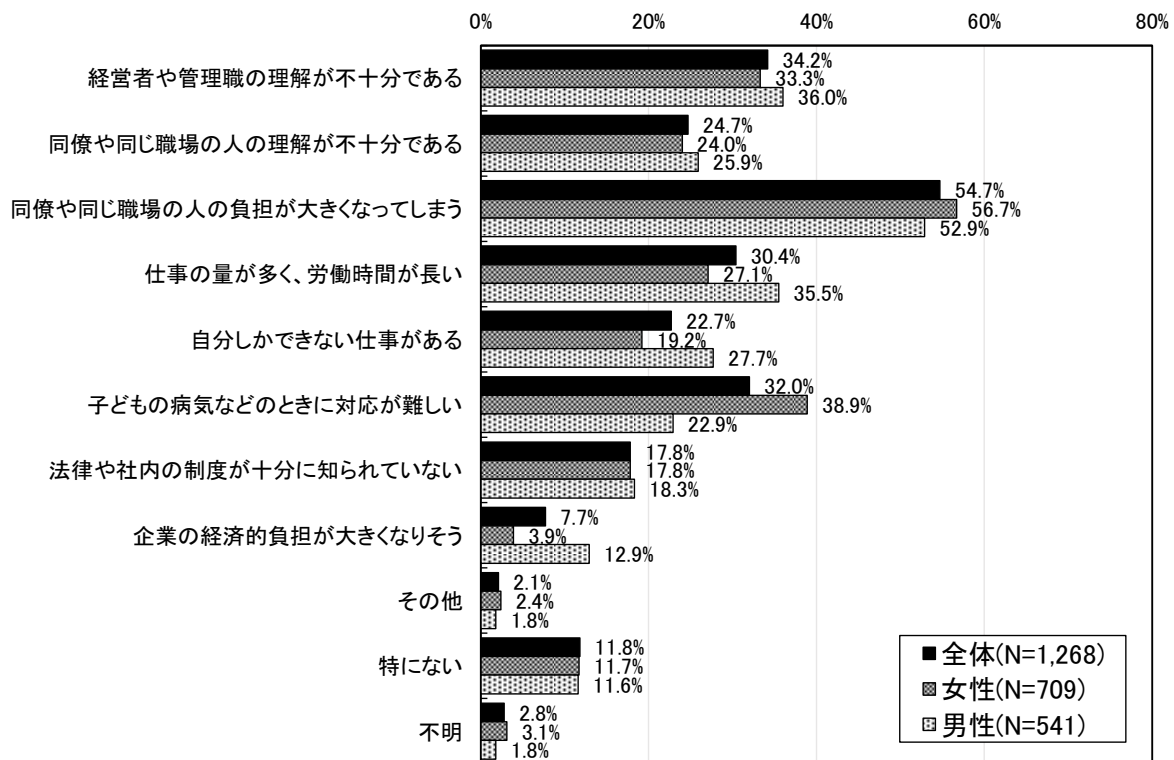


問 17 ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の調和）の支援を進めていく上で、あなたの職場ではどのような課題がありますか。（複数回答）

* これまで、就労経験のない方も、一般的な職場のイメージでご回答ください。

ワーク・ライフ・バランスの支援を進めていく上での職場の課題としては、男女ともに「同僚や同じ職場の人の負担が大きくなってしまふ」の割合が5割強と最も高くなっている。女性では、次いで、「子どもの病気などのときに対応が難しい」（38.9%）が高くなっている。男性では、次いで、「経営者や管理職の理解が不十分である」（36.0%）、「仕事の量が多く、労働時間が長い」（35.5%）が高くなっている。「子どもの病気などのときに対応が難しい」の男女差は16.0ポイントあり、子育てについては、男性より女性の方が対応している状況が伺える。

経年的には、前回調査と比較すると、女性では「同僚や同じ職場の人の負担が大きくなってしまふ」「仕事の量が多く、労働時間が長い」の割合が大きく増加し、「子どもの病気などのときに対応が難しい」の割合は大きく減少している。男性では「仕事の量が多く、労働時間が長い」「自分しかできない仕事がある」の割合が大きく増加し、「法律や社内の制度が十分に知られていない」の割合は大きく減少している。男女ともに「仕事の量が多く、労働時間が長い」の割合が大きく増加している。

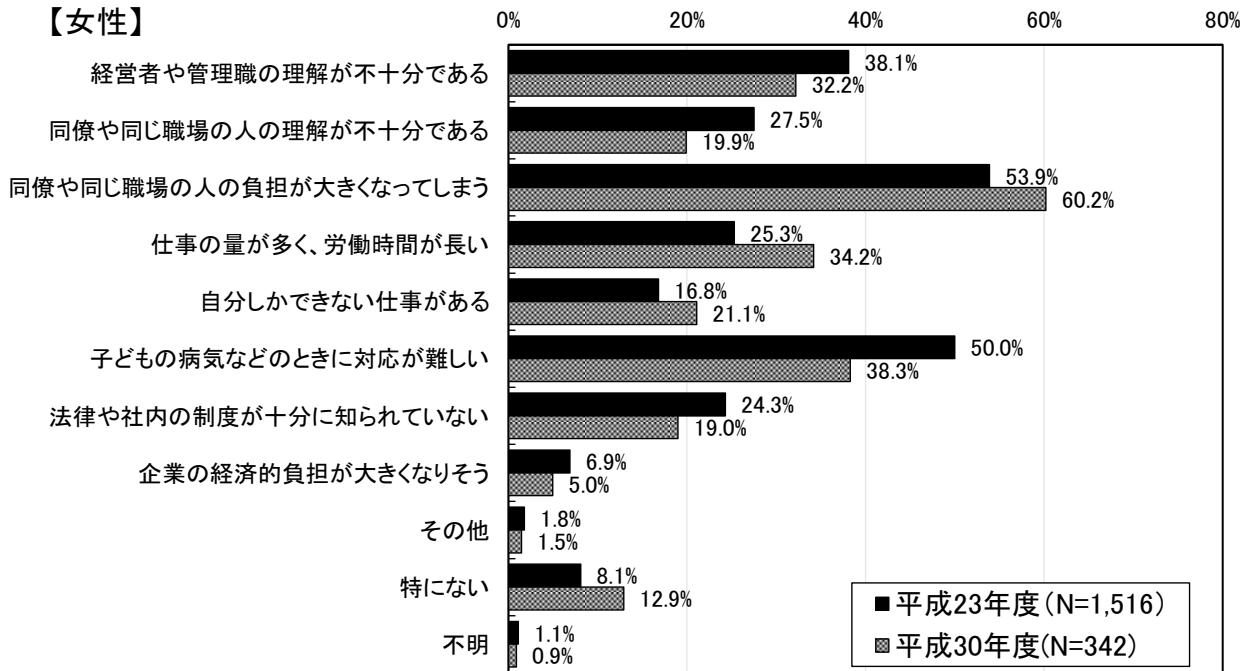


※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

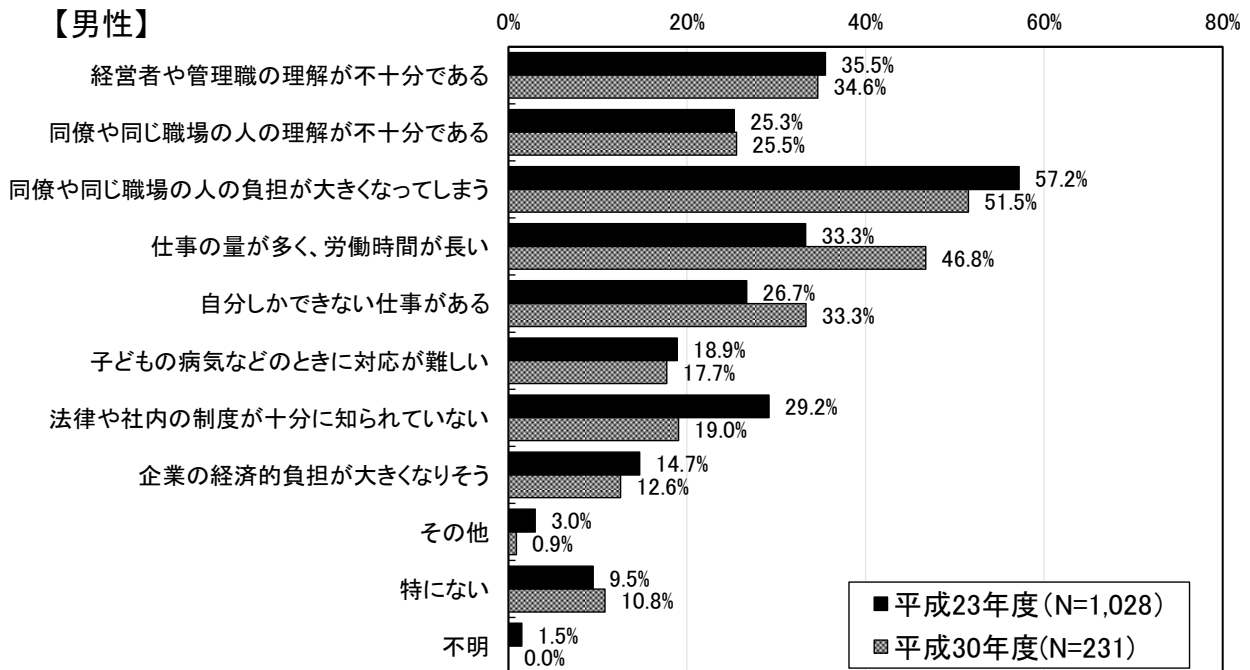
問 17 経年比較

※前回調査（対象 20～40 歳代）と比較するために、20～40 歳代のみで抽出集計

【女性】



【男性】



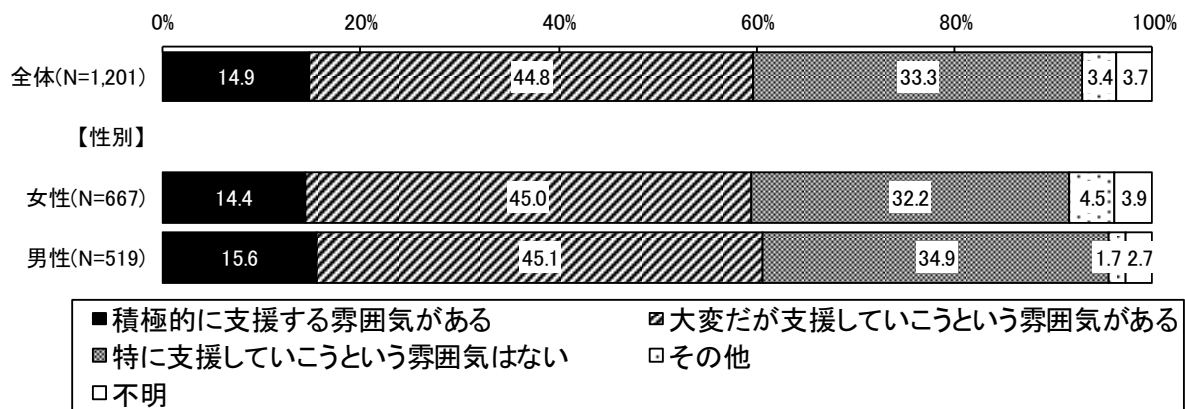
問 18 あなたが働いている（いた）職場では、ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の調和）について、どのような雰囲気がありますか。（単数回答）

ワーク・ライフ・バランスに対する職場の雰囲気については、「大変だが支援していこうという雰囲気がある」割合が44.8%で最も高くなっている。「積極的に支援する雰囲気がある」割合は14.9%であり、この2項目を合わせた『支援する雰囲気がある』割合は59.7%と半数以上にのぼっている。

経年的には、「大変だが支援していこうという雰囲気がある」割合は増加しており、支援に向けた企業の前向きな姿勢が拡大していることが伺える。

一方、「特に支援していこうという雰囲気はない」割合も33.3%と比較的高くなっている。

※就労経験者のみを対象に集計

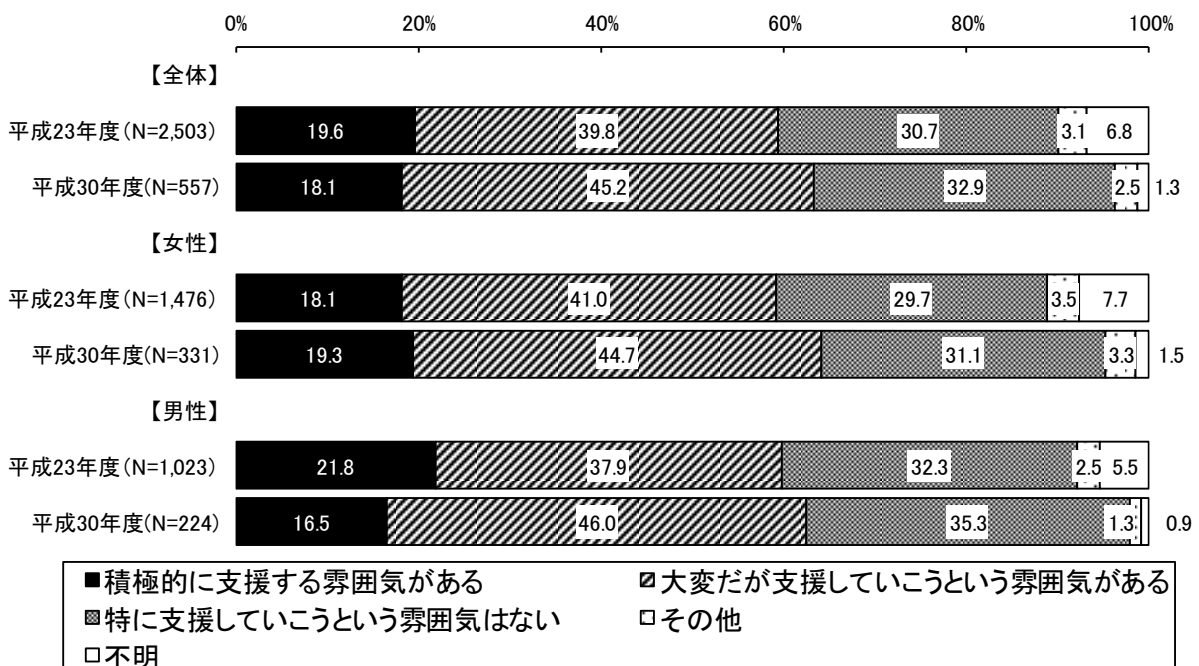


※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

問 18 経年比較

※経年比較集計結果では、不明の回答者が含まれていないため、経年比較の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

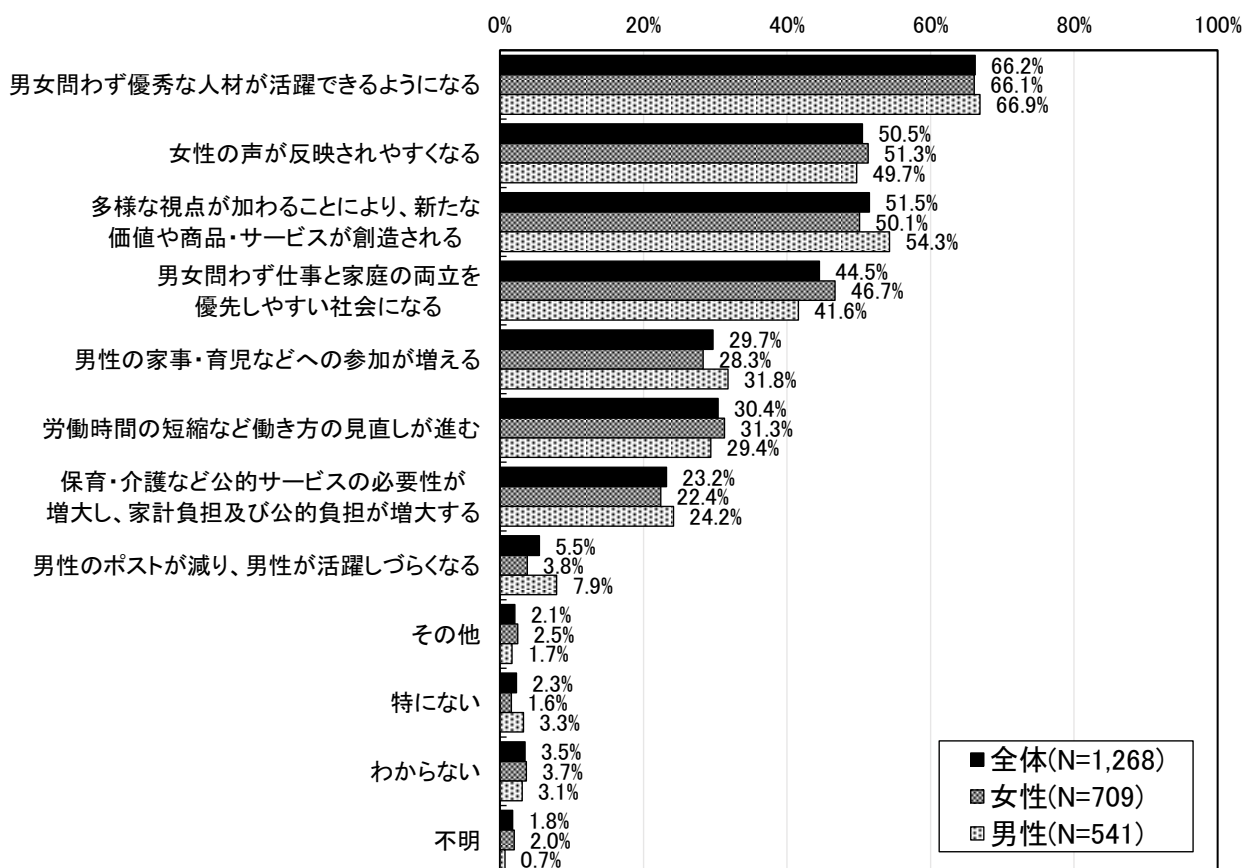
※前回調査（対象 20～40 歳代）と比較するために、20～40 歳代のみで抽出集計



7 女性の活躍推進について

問 19 政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性リーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。(複数回答)

政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性リーダーが増えることの影響については、「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」の割合が66.2%で最も高くなっている。次いで、「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」(51.5%)、「女性の声が反映されやすくなる」(50.5%)の2項目の割合も高くなっている。

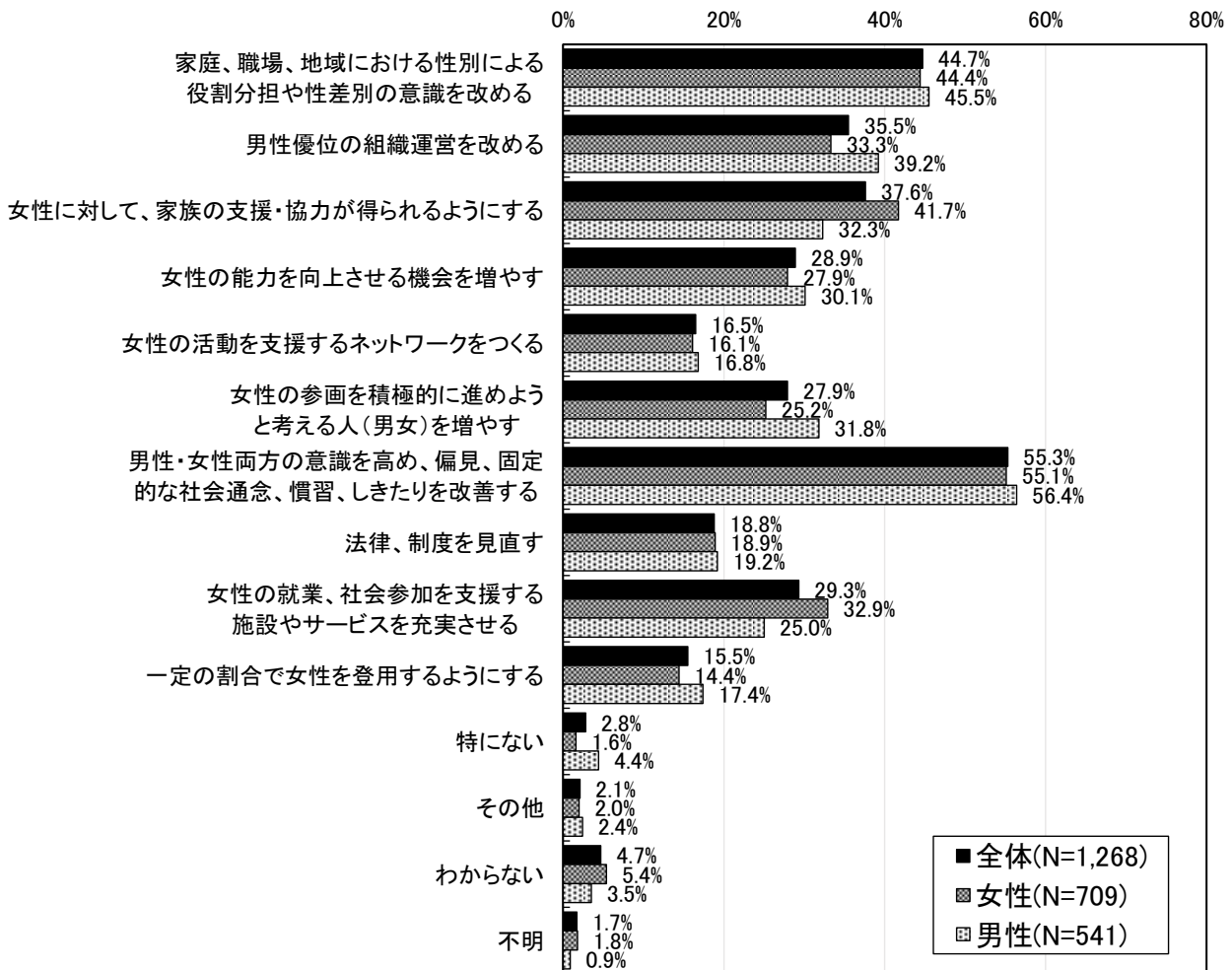


※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

問 20 今後、女性が政策や方針を決定していくような場へもっと参画していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。(複数回答)

女性が政策や方針決定の場へもっと参画していくために重要なこととしては、「男性・女性両方の意識を高め、偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改善する」の割合が 55.3%で最も高く、突出している。次いで、「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識を改める」(44.7%)、「女性に対して、家族の支援・協力が得られるようにする」(37.6%)、「男性優位の組織運営を改める」(35.5%)となっている。

男女別では、男性より女性の回答割合の方が特に高いものは、「女性に対して、家族の支援・協力が得られるようにする」「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスを充実させる」の2項目となっている。反対に、女性より男性の回答割合の方が特に高いものは、「男性優位の組織運営を改める」「女性の参画を積極的に進めようとする人(男女)を増やす」の2項目となっている。

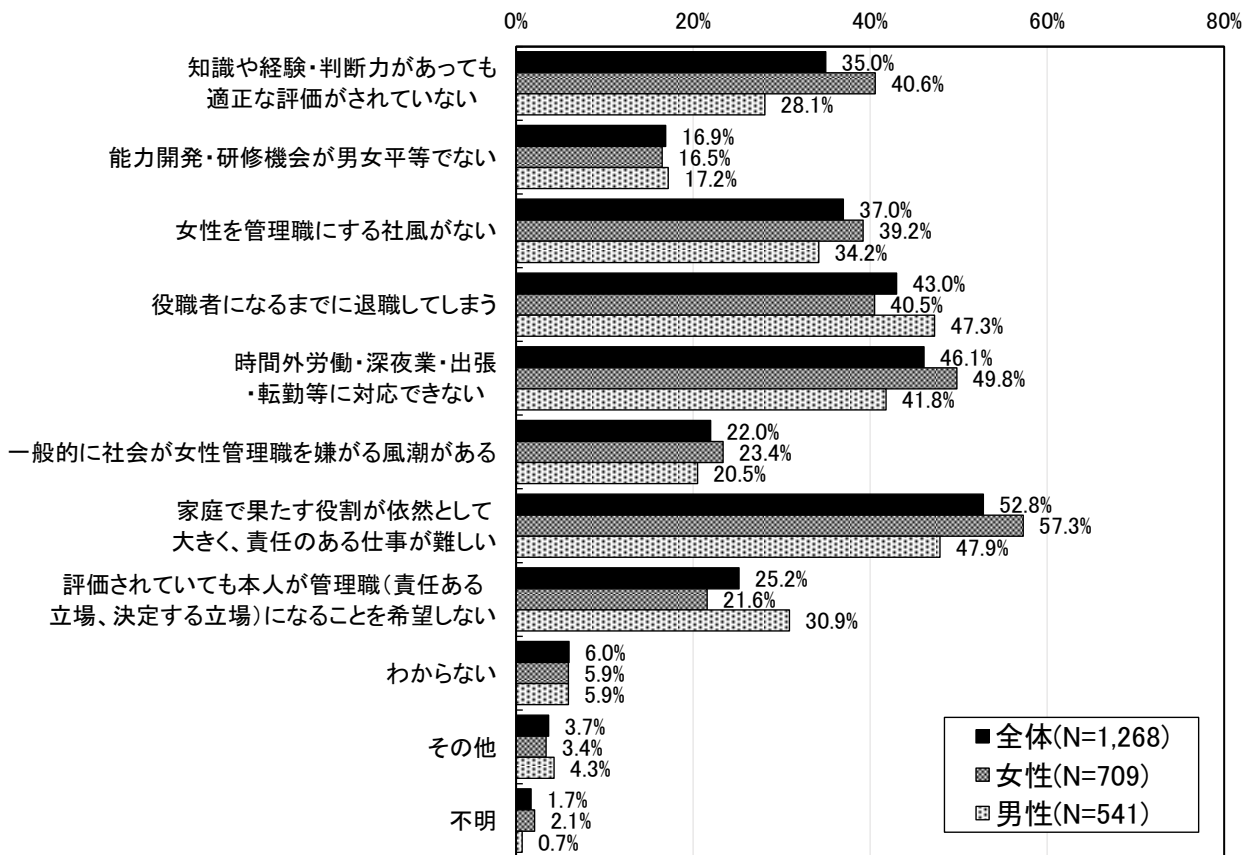


※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

問 21 企業において、一般的には女性管理職が少ないと言われていますが、その理由は何だと思えますか。(複数回答)

企業において、女性管理職が少ない理由としては、男女ともに「家庭で果たす役割が依然として大きく、責任のある仕事が難しい」の割合が5割前後で最も高くなっている。男性では、これとほぼ同じ割合で「役職者になるまでに退職してしまう」(47.3%)があがっている。女性では、次いで、「時間外労働・深夜業・出張・転勤等に対応できない」(49.8%)となっている。

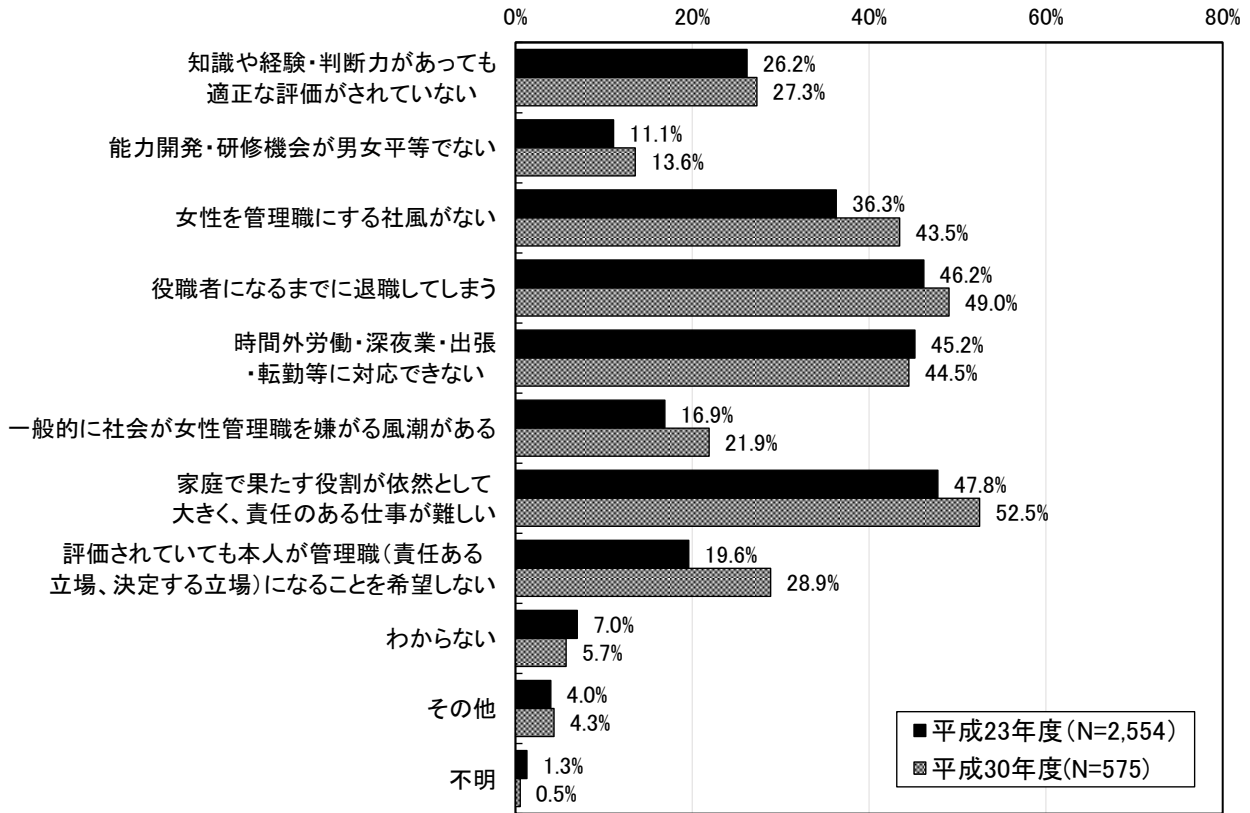
経年的には、前回調査と比較すると、「評価されていても本人が管理職になることを希望しない」「女性を管理職にする社風がない」「一般的に社会が女性管理職を嫌がる風潮がある」の3項目で割合が5ポイント以上と比較的大きく増加している。



※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

問 21 経年比較

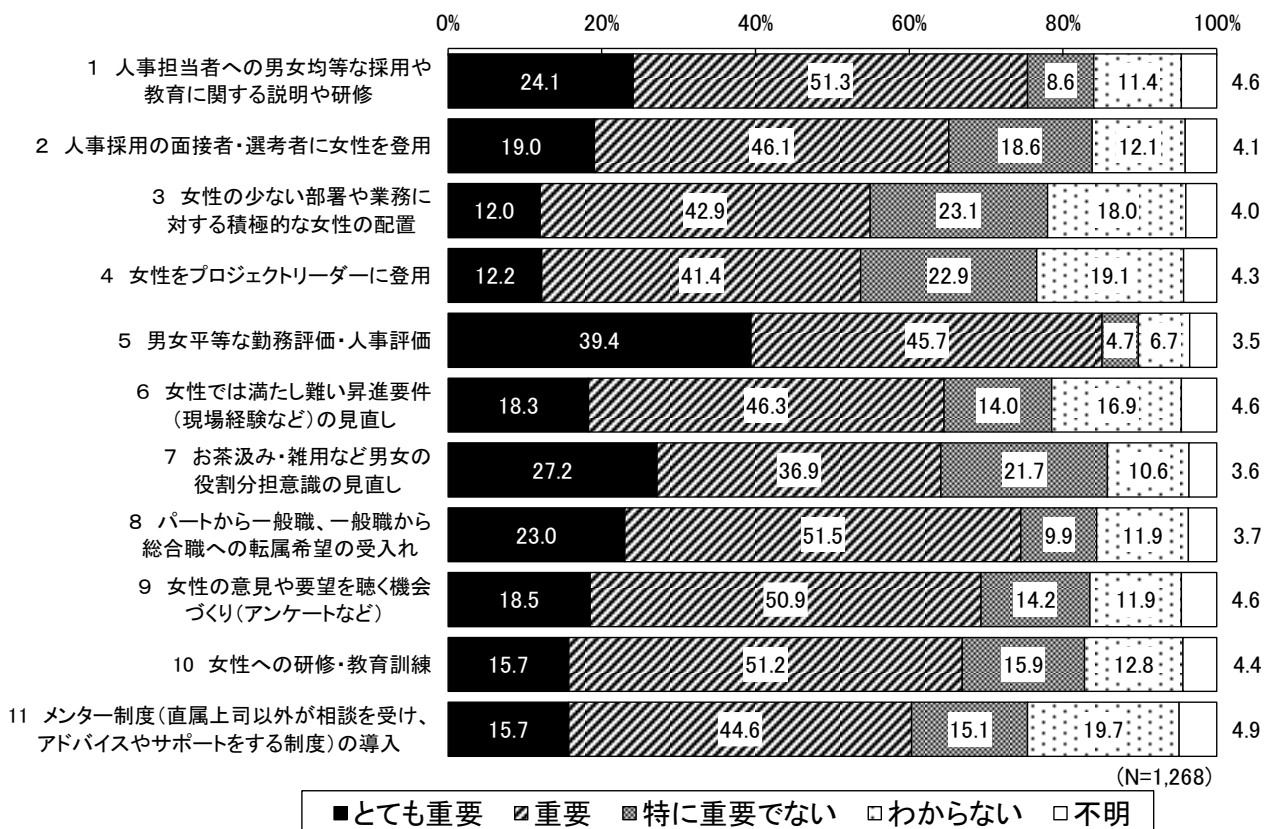
※前回調査（対象 20～40 歳代）と比較するために、20～40 歳代のみで抽出集計



問 22 女性従業員の能力発揮に向けた、ポジティブアクション（積極的な取組）について、どのように考えますか。（単数回答）

女性従業員の能力発揮に向けたポジティブアクションに対する考えとして、『重要』（「とても重要」と「重要」の合計）の割合をみると、「男女平等な勤務評価・人事評価」が85.1%で最も高くなっている。次いで、「人事担当者への男女均等な採用や教育に関する説明や研修」（75.4%）、「パートから一般職、一般職から総合職への転属希望の受入れ」（74.5%）となっている。

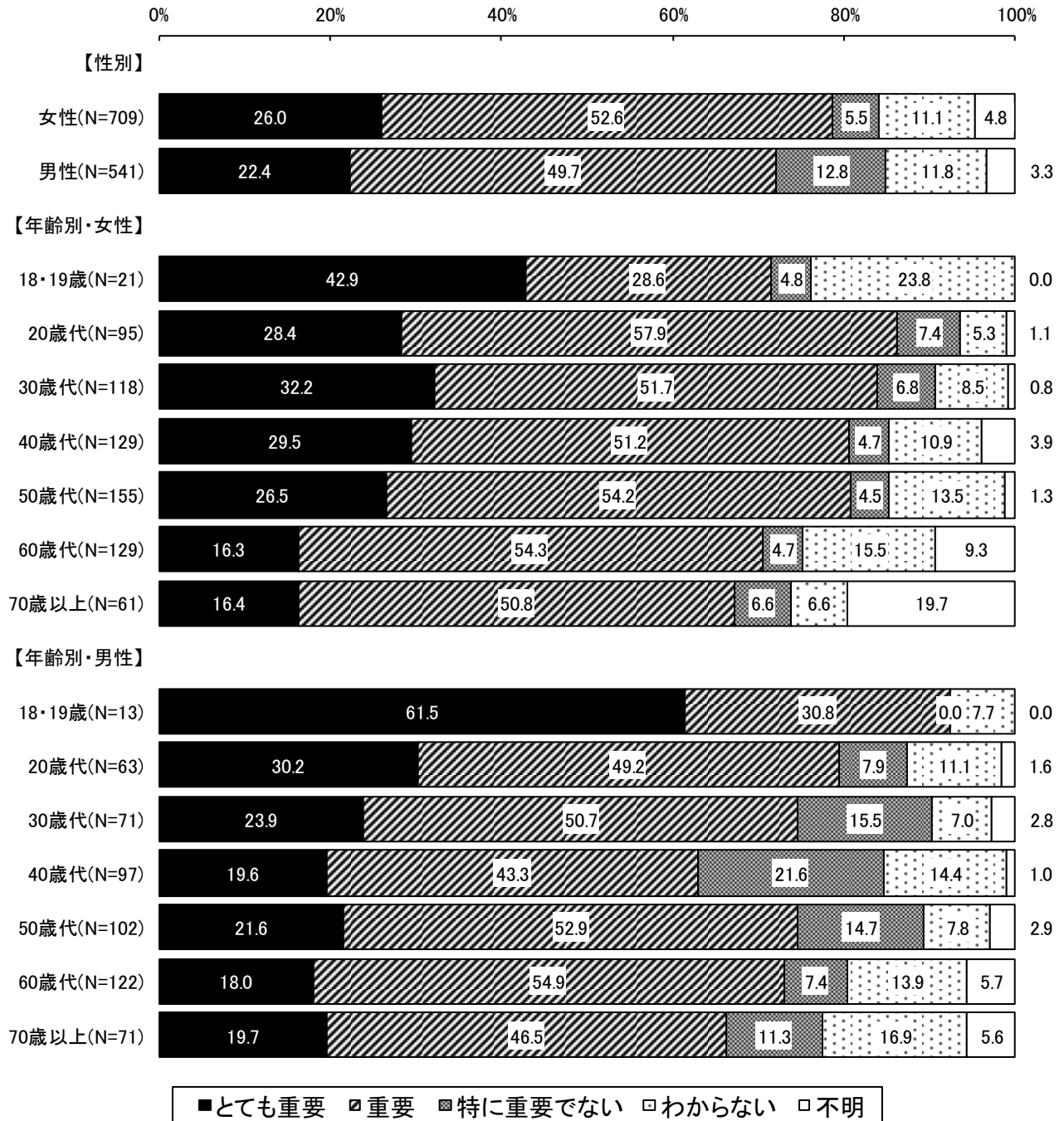
男女別では、ほとんどの項目（3、4以外）で、男性より女性の方が『重要』の割合が高くなっている。



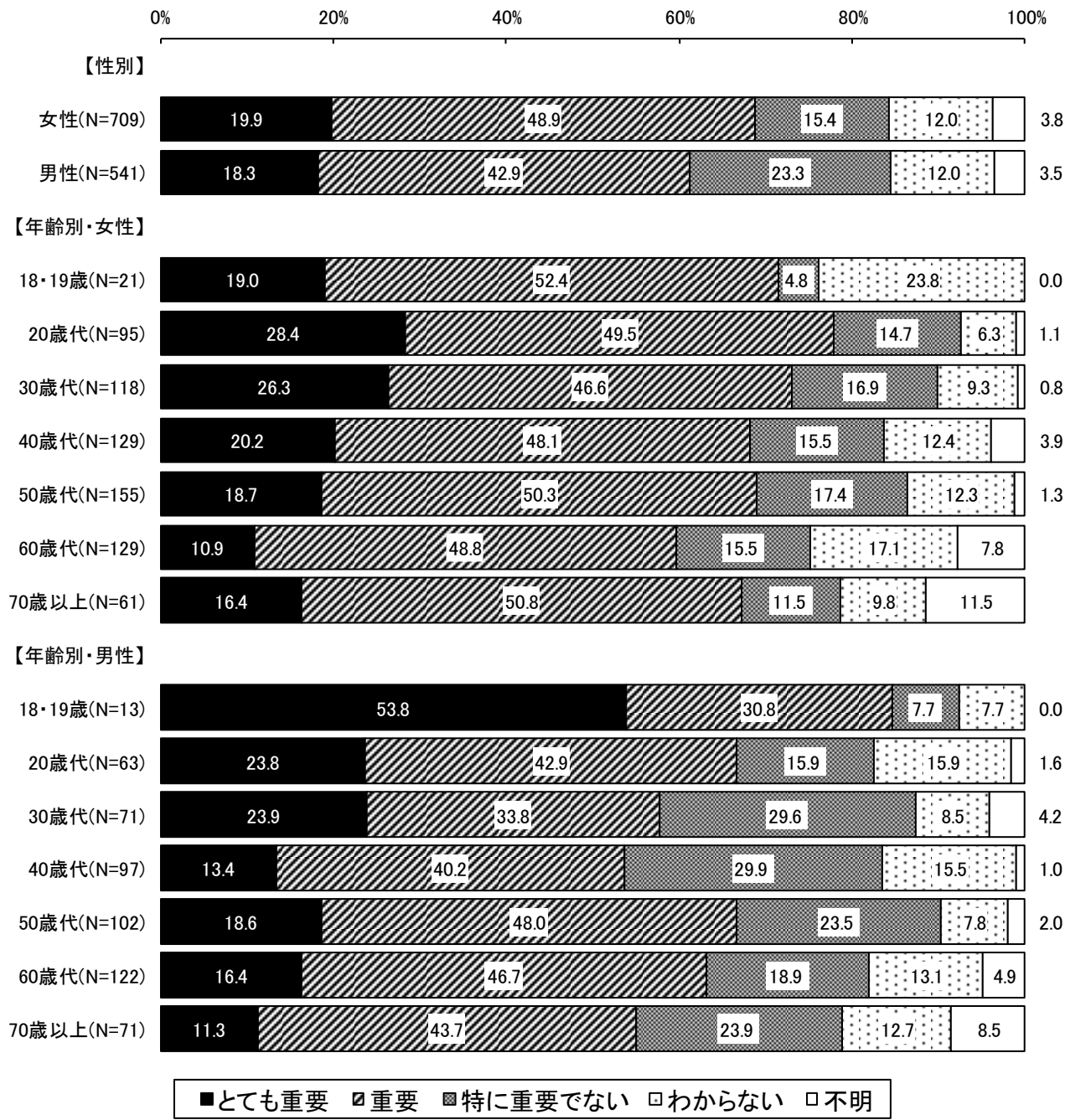
問 22 男女年齢別比較

※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

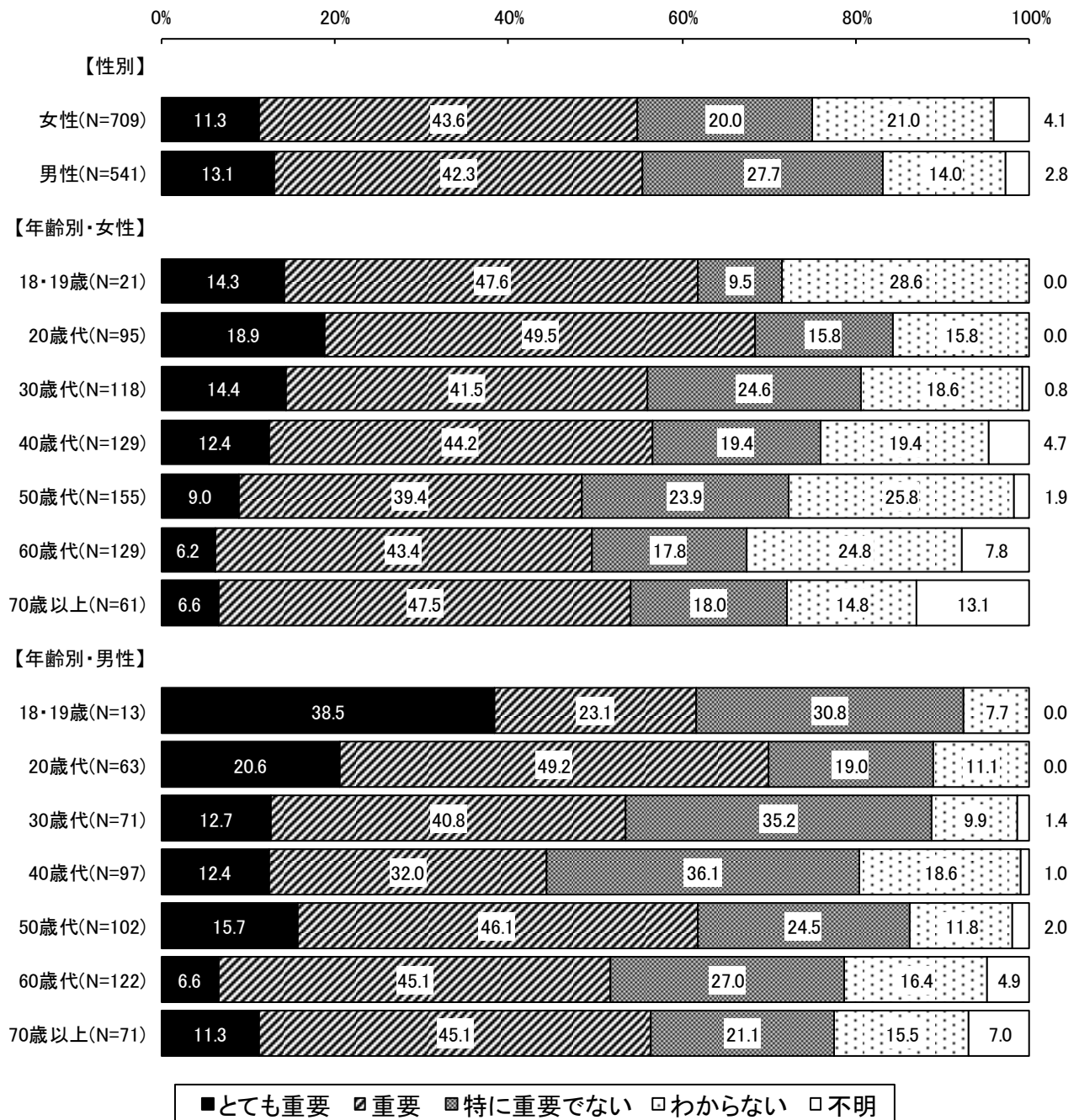
【1 人事担当者への男女均等な採用や教育に関する説明や研修】



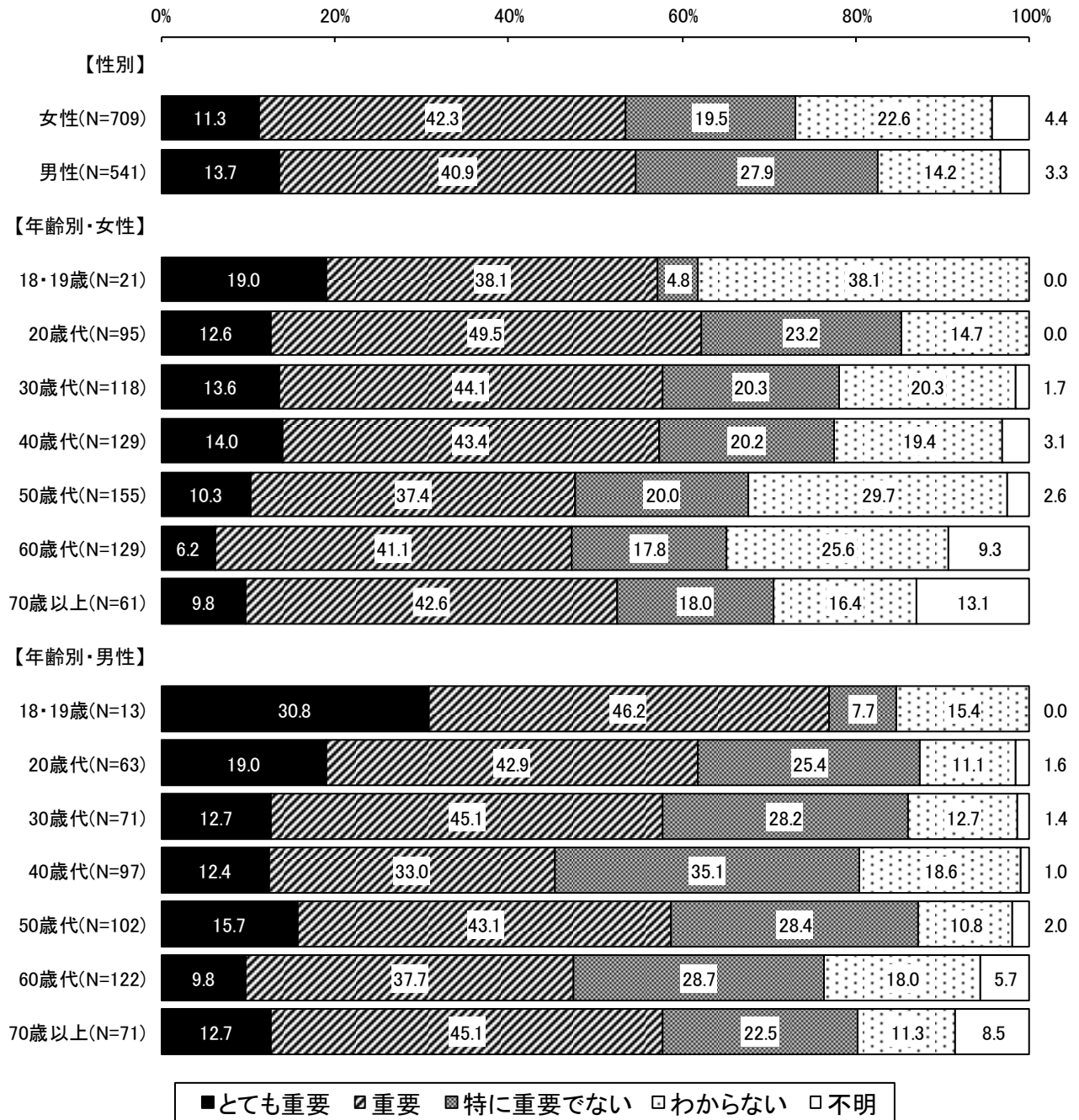
【2 人事採用の面接者・選考者に女性を登用】



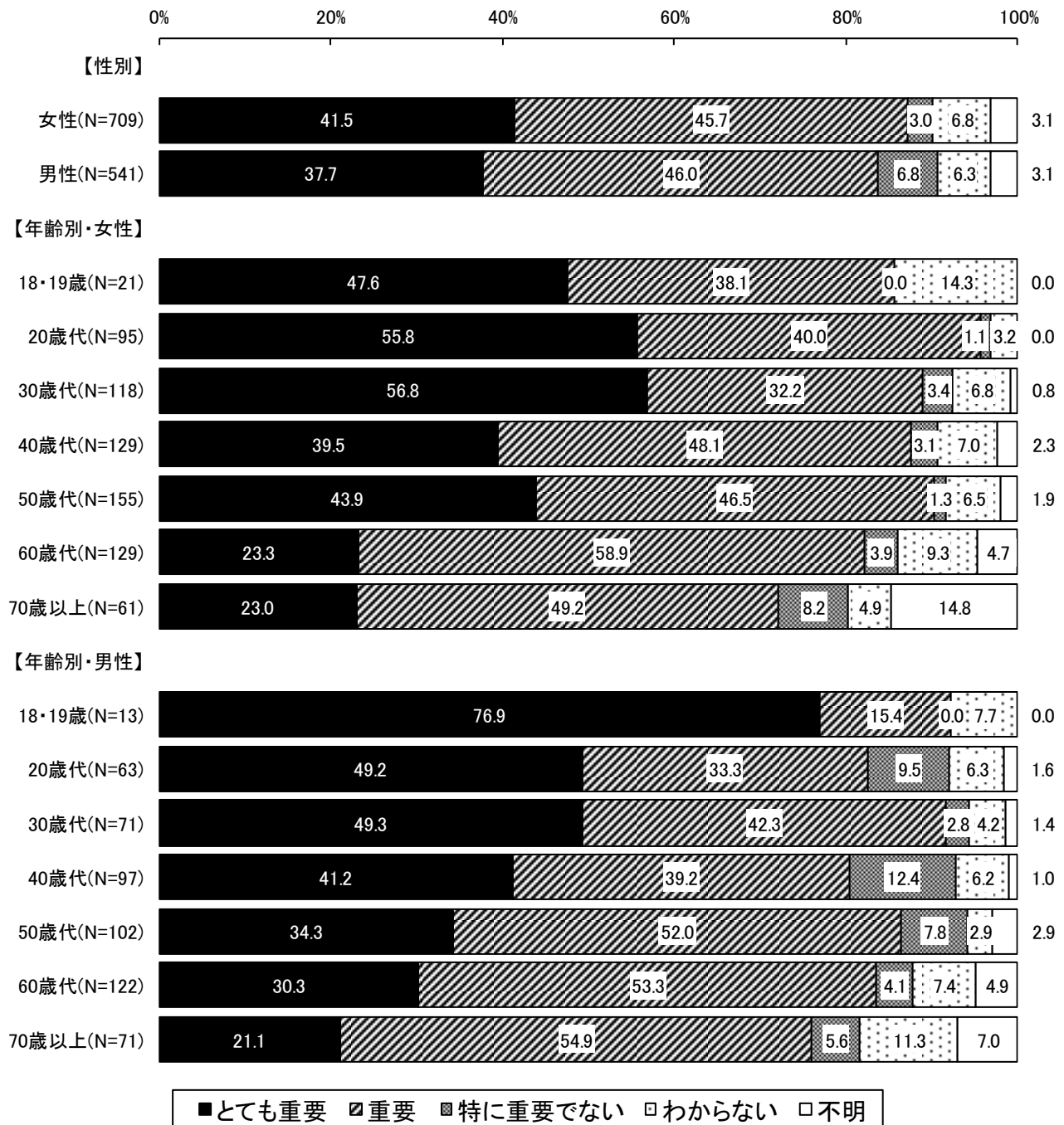
【3 女性の少ない部署や業務に対する積極的な女性の配置】



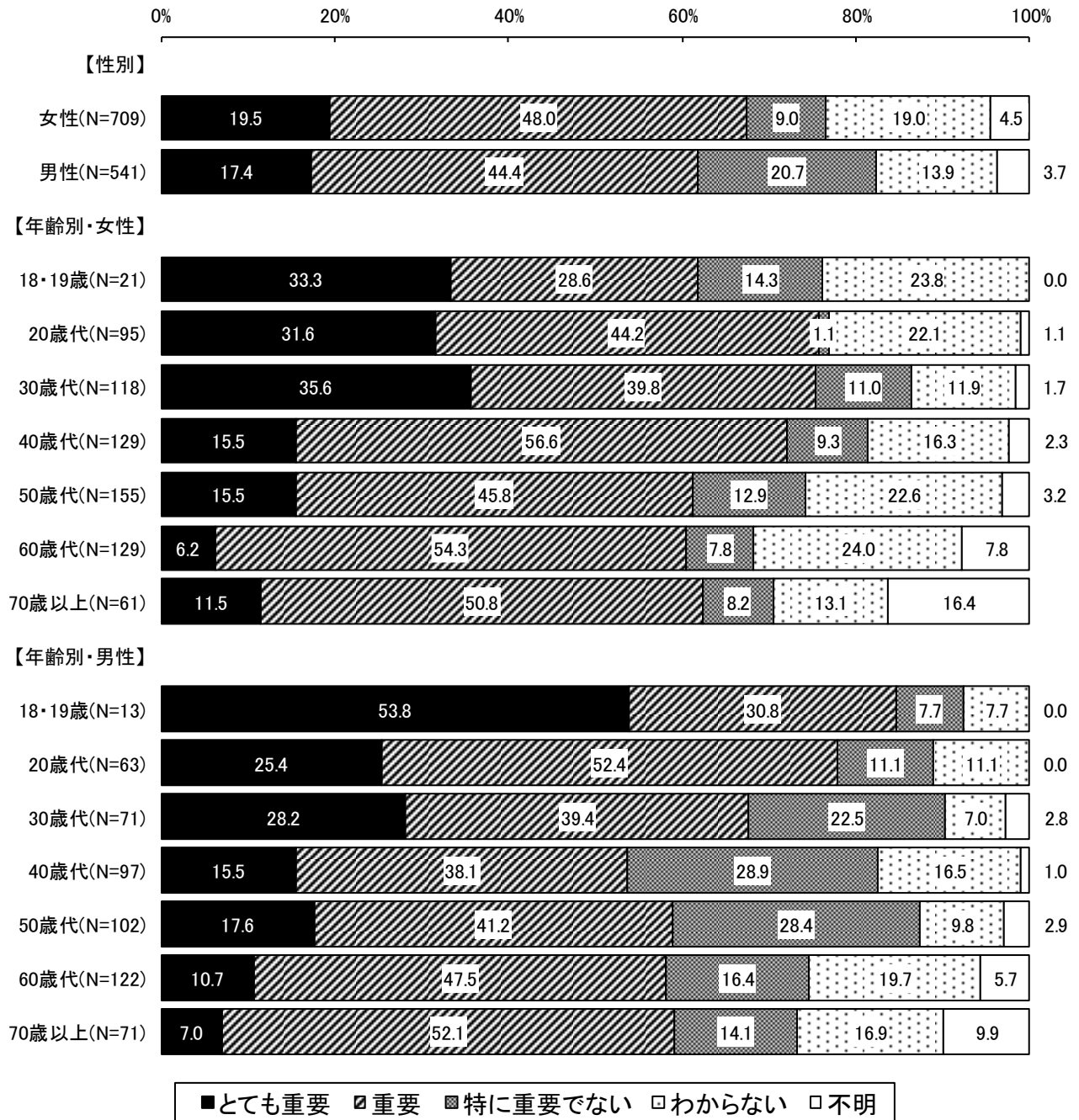
【4 女性をプロジェクトリーダーに登用】



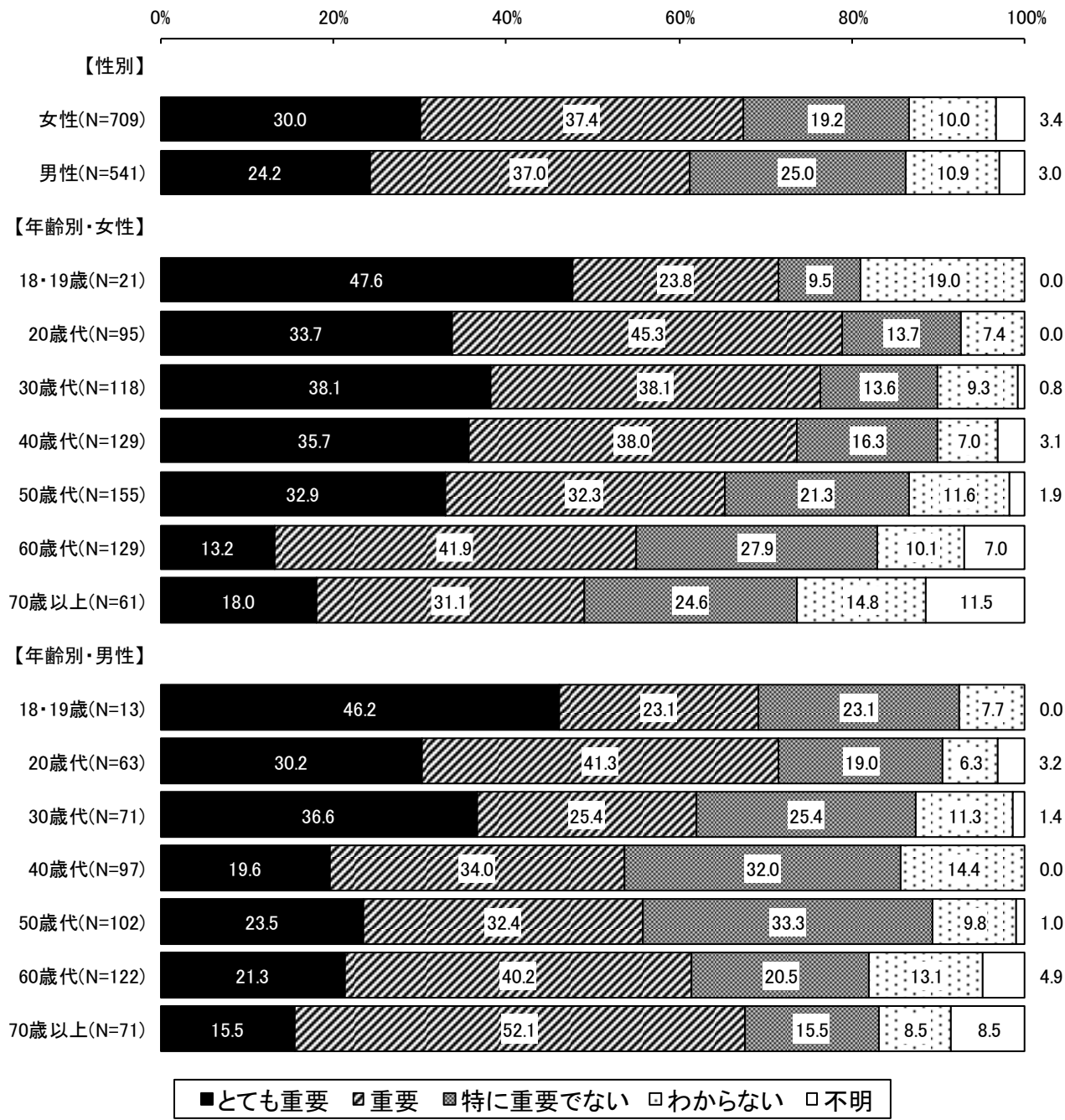
【5 男女平等な勤務評価・人事評価】



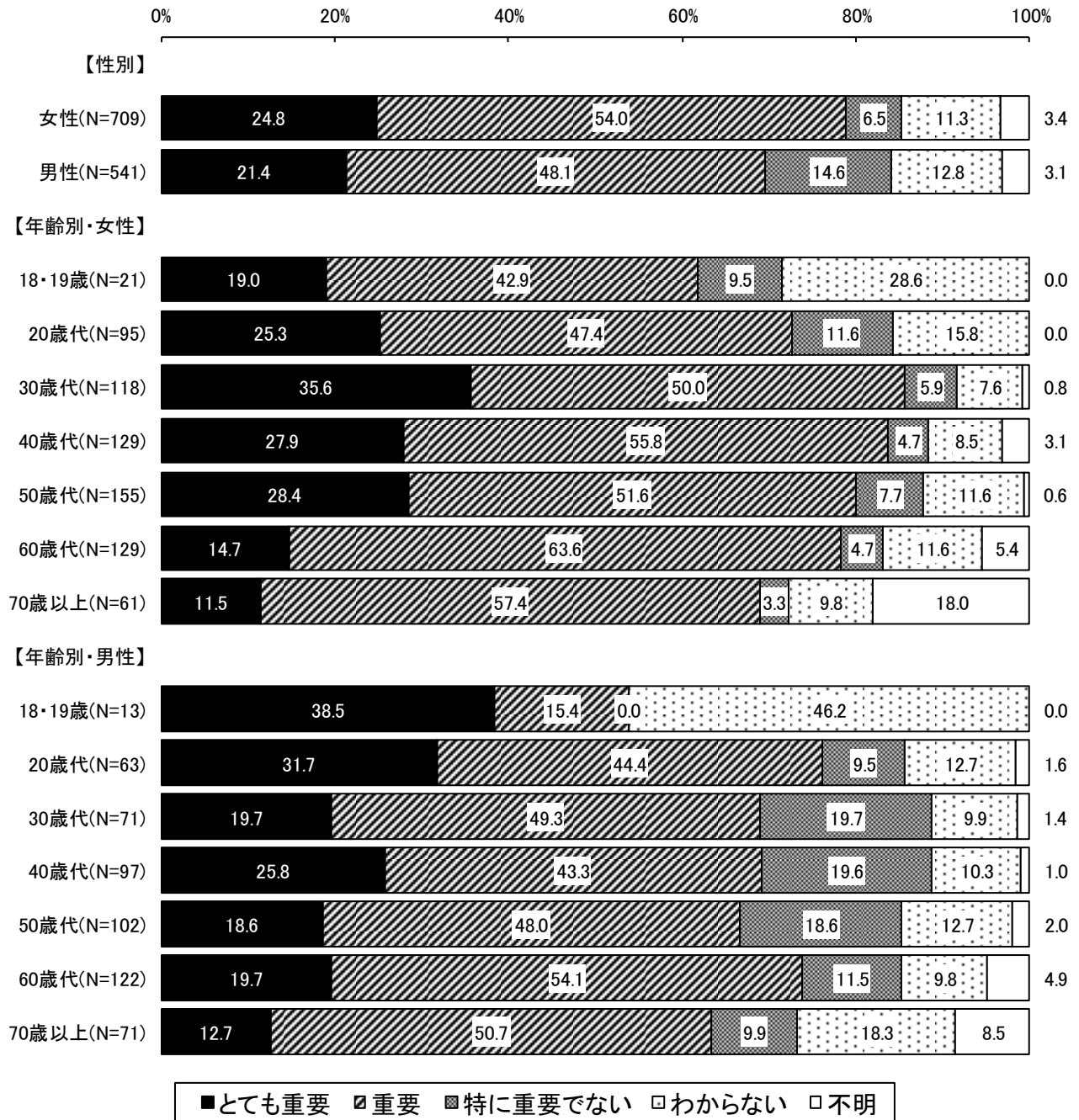
【6 女性では満たし難い昇進要件（現場経験など）の見直し】



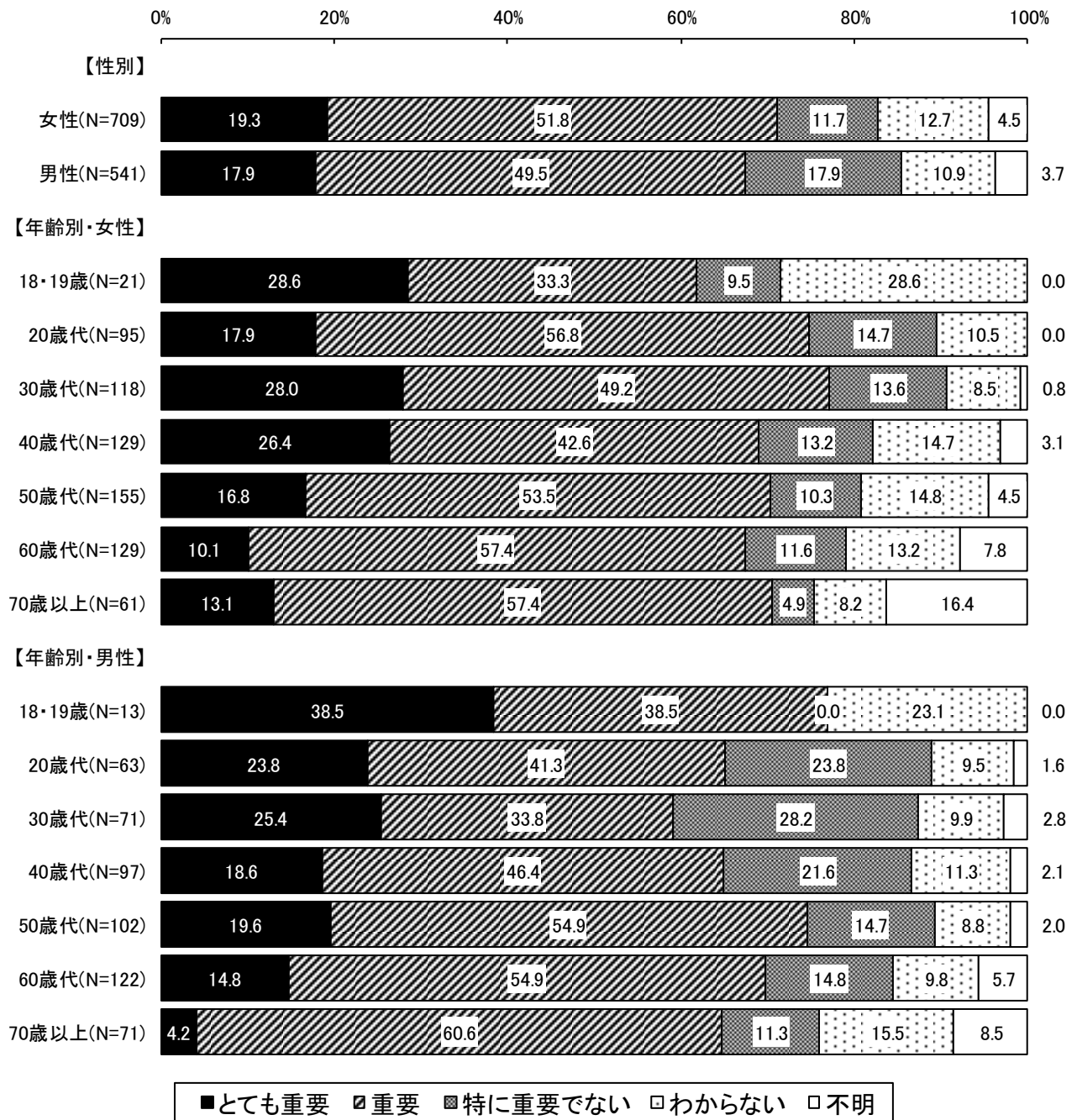
【7 お茶汲み・雑用など男女の役割分担意識の見直し】



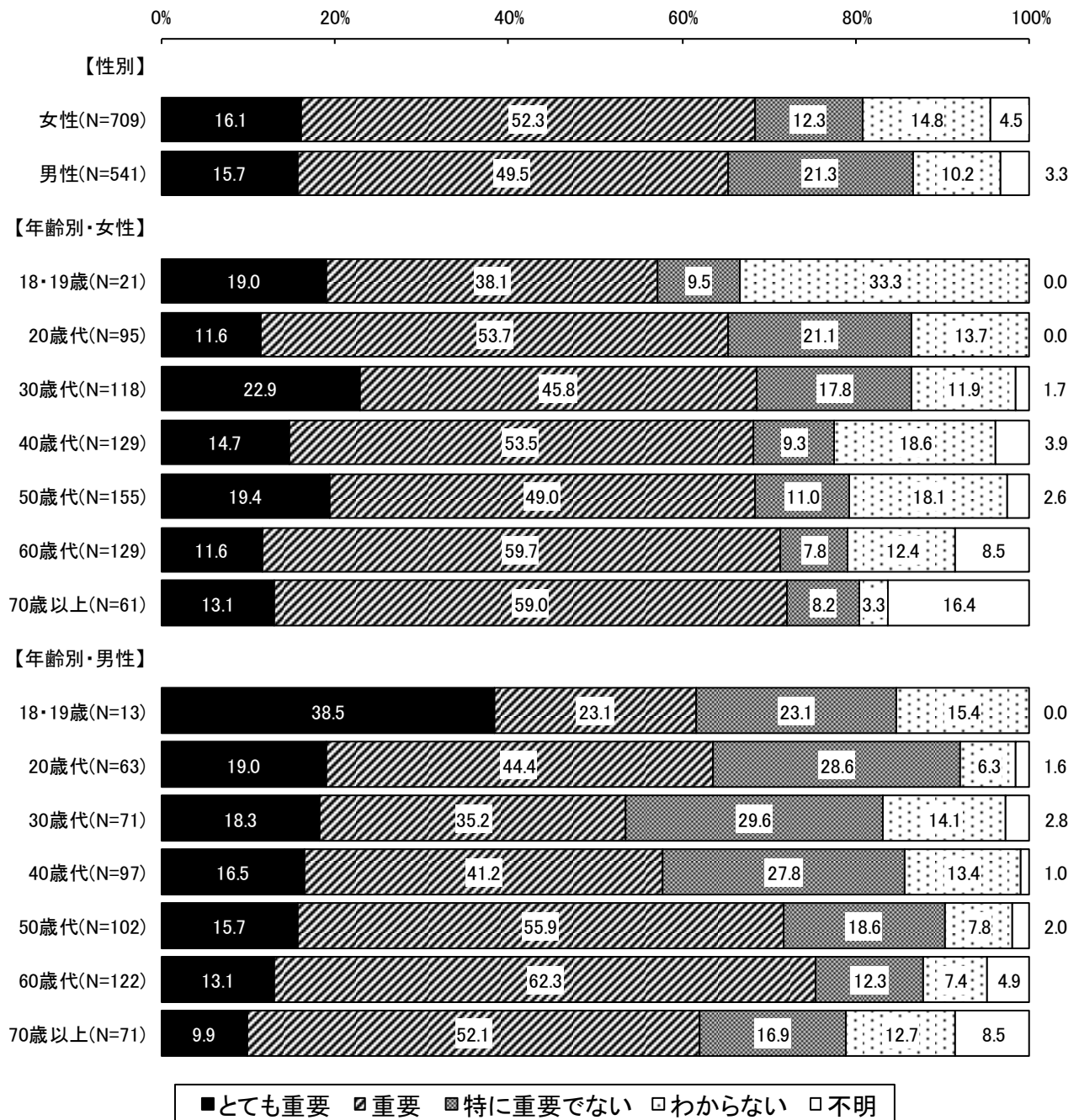
【8 パートから一般職、一般職から総合職への転属希望の受入れ】



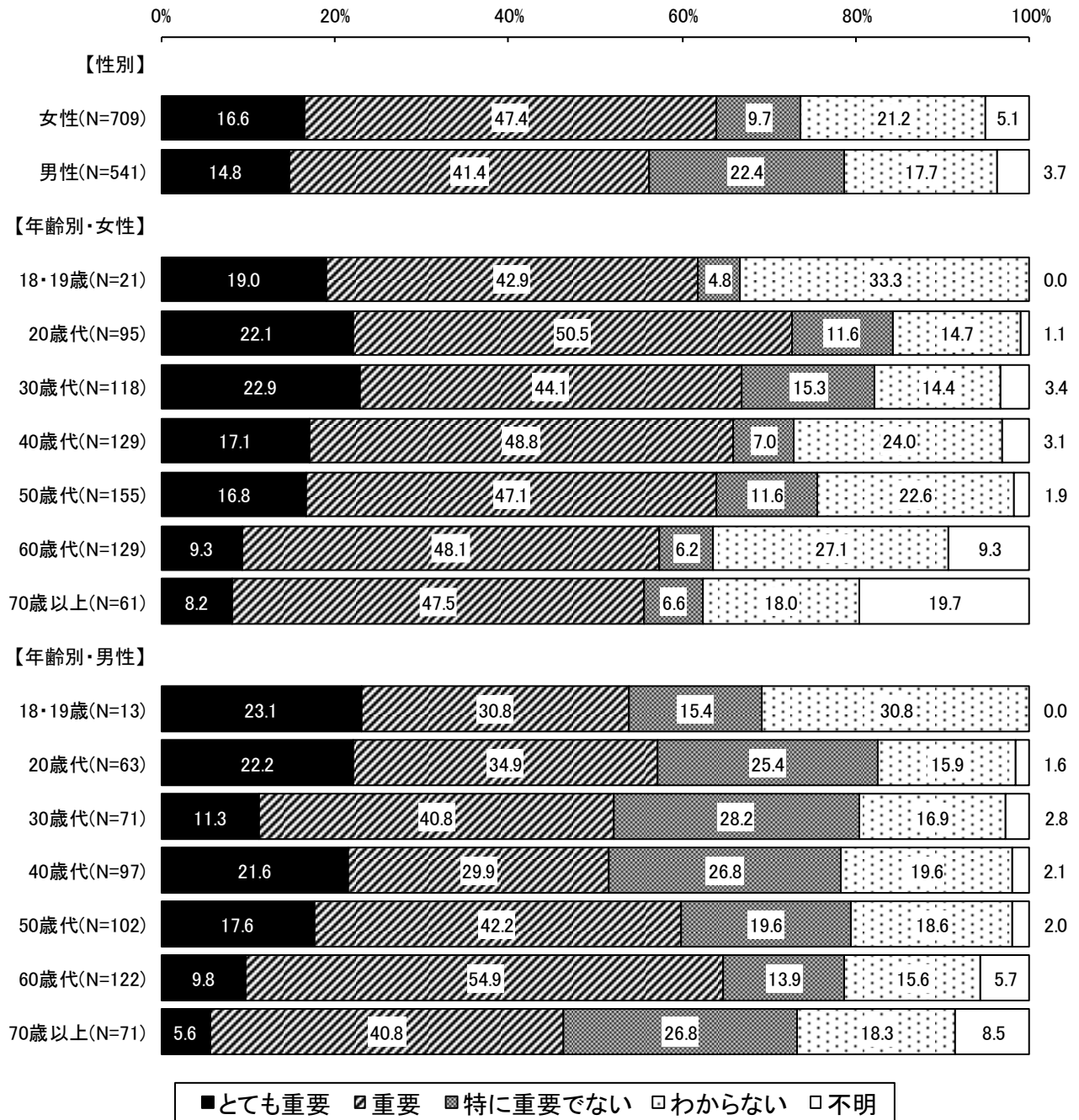
【9 女性の意見や要望を聴く機会づくり（アンケートなど）】



【10 女性への研修・教育訓練】



【11 メンター制度（直属上司以外が相談を受け、アドバイスやサポートをする制度）の導入】



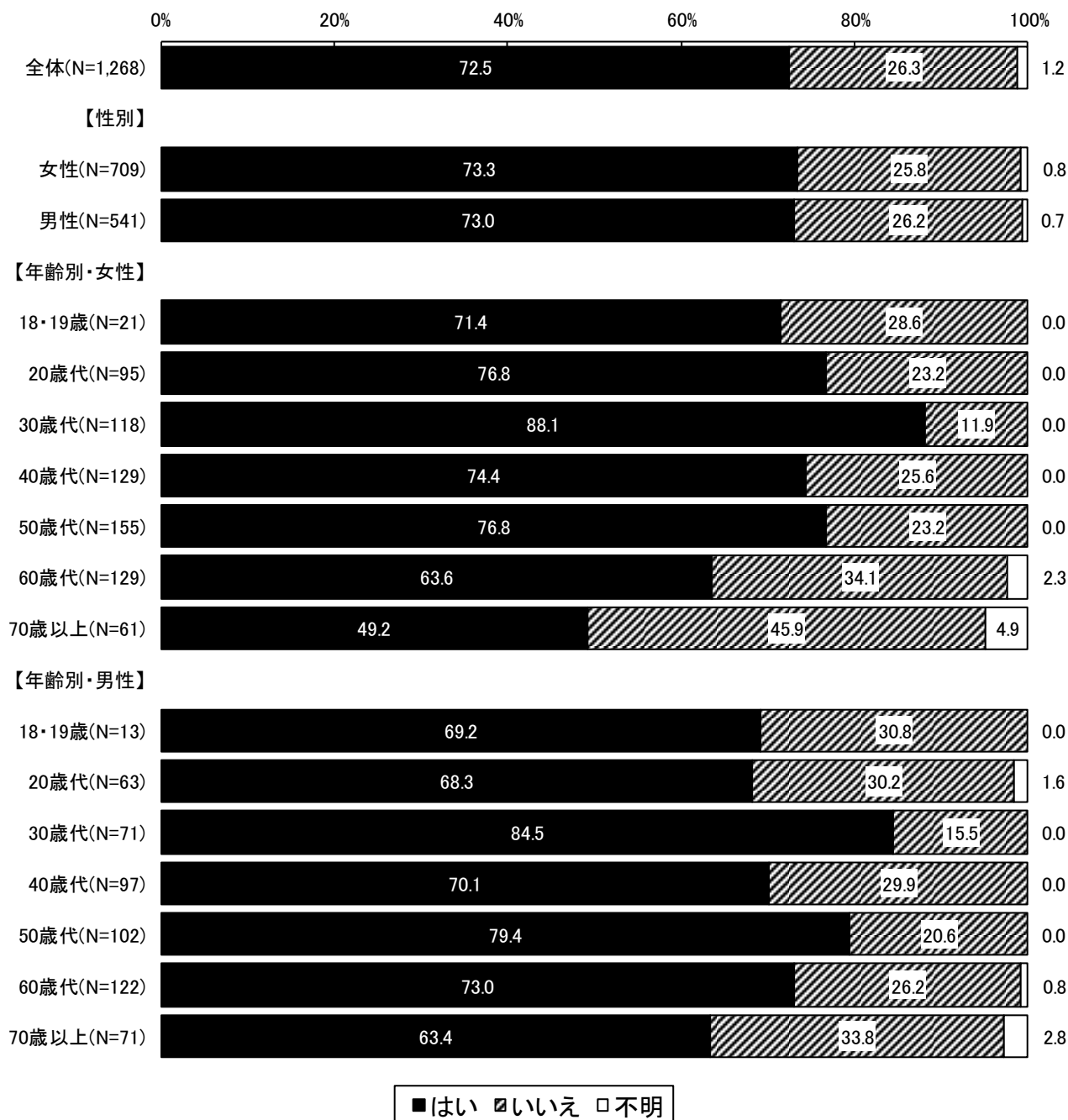
8 性的マイノリティについて

問 23 あなたは性的マイノリティ（またはLGBT）という言葉を知っていますか。（単数回答）

性的マイノリティ（またはLGBT）という言葉については、72.5%が知っているという回答し、高い認知度を示している。

男女別では、認知度に大きな差はない。

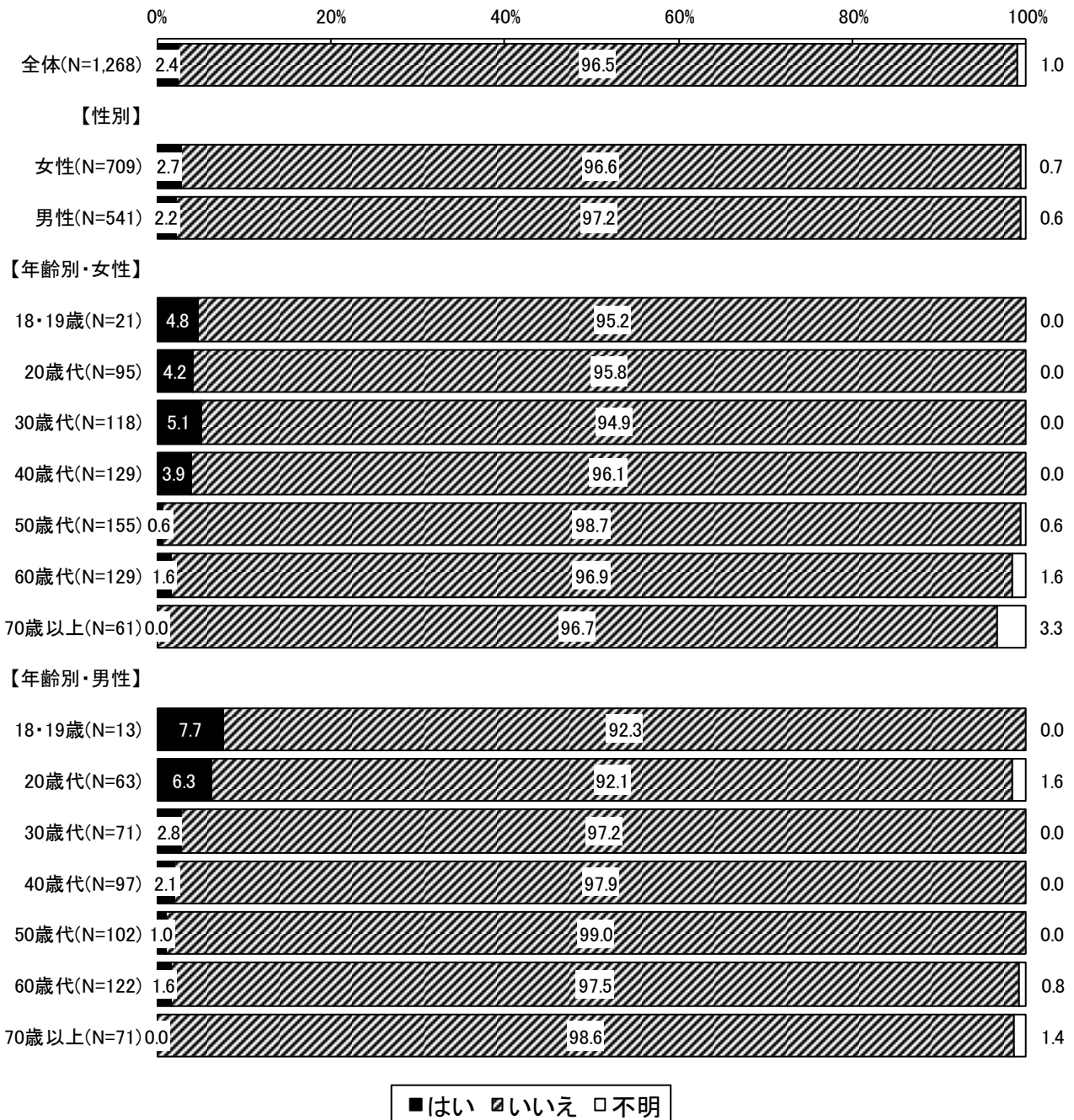
年齢別では、30歳代で認知度が最も高く、70歳以上で認知度が低くなっている。



※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

問 24 あなたは今までに自分の身体の性、心の性または性的指向（同性愛など）に悩んだことはありますか。（単数回答）

今までに自分の身体の性、心の性または性的指向に悩んだことがあるかどうかについては、2.4%が悩んだことがあると回答している。年齢別では女性の18歳～40歳代、男性の18歳～20歳代で悩んだことがある割合が約4～7%台と高くなっている。



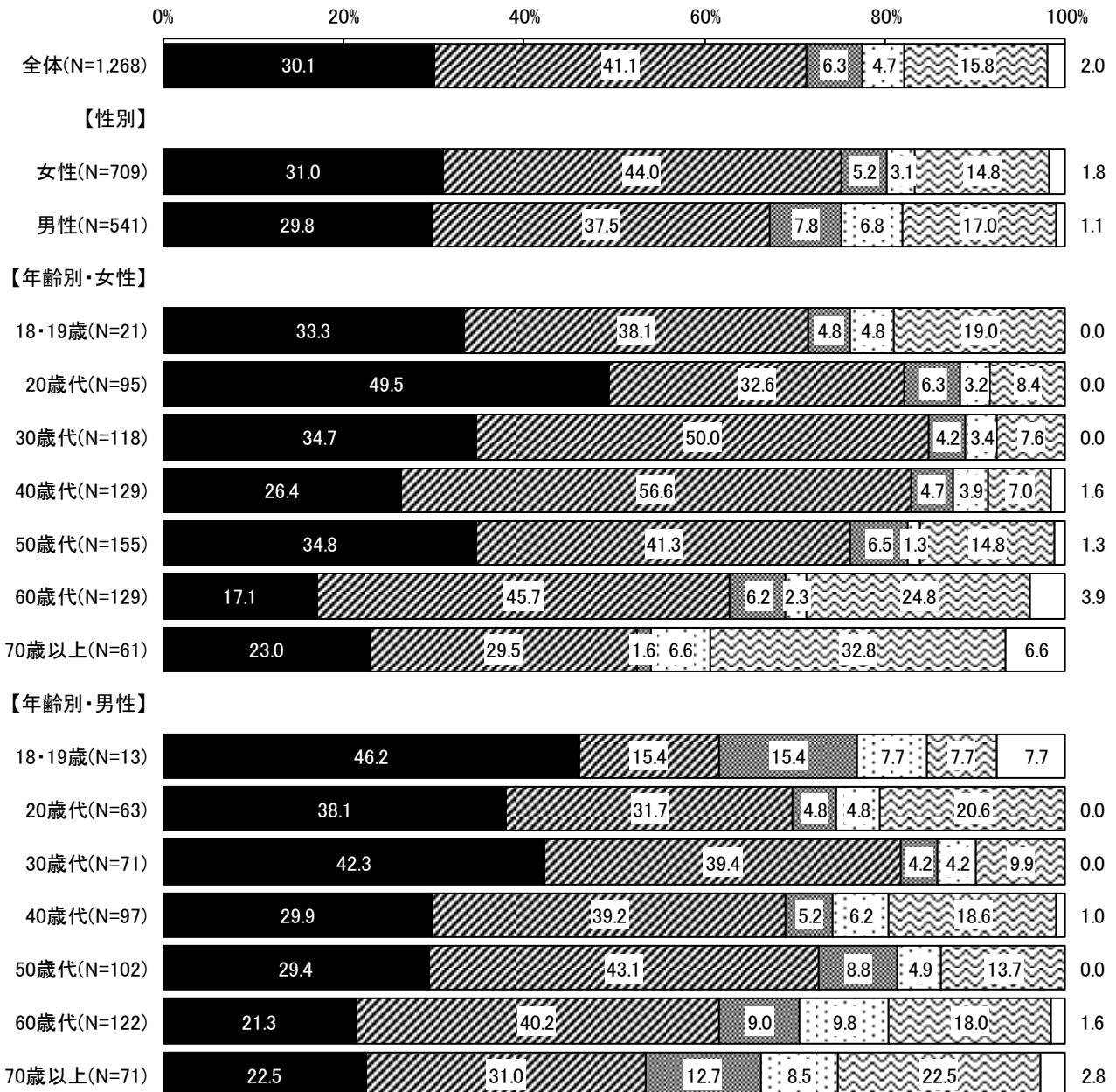
※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

問 25 (1) 現在、性的マイノリティ（またはLGBT）の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。（単数回答）

性的マイノリティ（またはLGBT）の人が生活しづらい社会だと思うかについては、『そう思う』（「思う」と「どちらかと言えば思う」の合計）割合が71.2%と高くなっている。

男女別では、男性より女性の方が『そう思う』割合は高くなっている。

年齢別では、認知度同様、男女とも30歳代で『そう思う』割合が高くなっている。一方、「わからない」割合も全体で15.8%あり、特に高齢になるほど「わからない」割合が高くなる傾向がある。



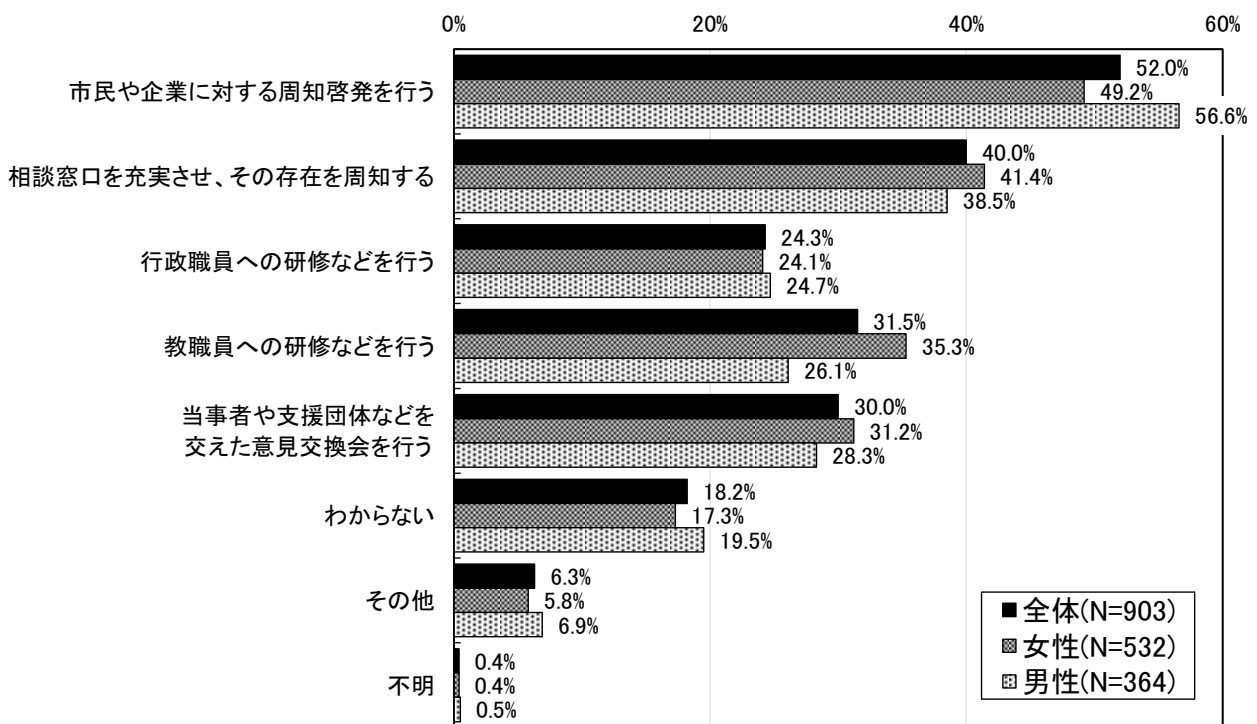
■ 思う □ どちらかと言えば思う □ どちらかと言えば思わない □ 思わない □ わからない □ 不明

※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

【問 25（1）で「思う」「どちらかと言えば思う」と回答された方のみ】

問 25（2） 性的マイノリティ（またはLGBT）の方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。（複数回答）

性的マイノリティ（またはLGBT）の人に対する偏見や差別をなくし、生活しやすくするための対策としては、「市民や企業に対する周知啓発を行う」の割合が52.0%と最も高く、次いで「相談窓口を充実させ、その存在を周知する」（40.0%）となっている。理解の促進と相談の対応が主に求められている。



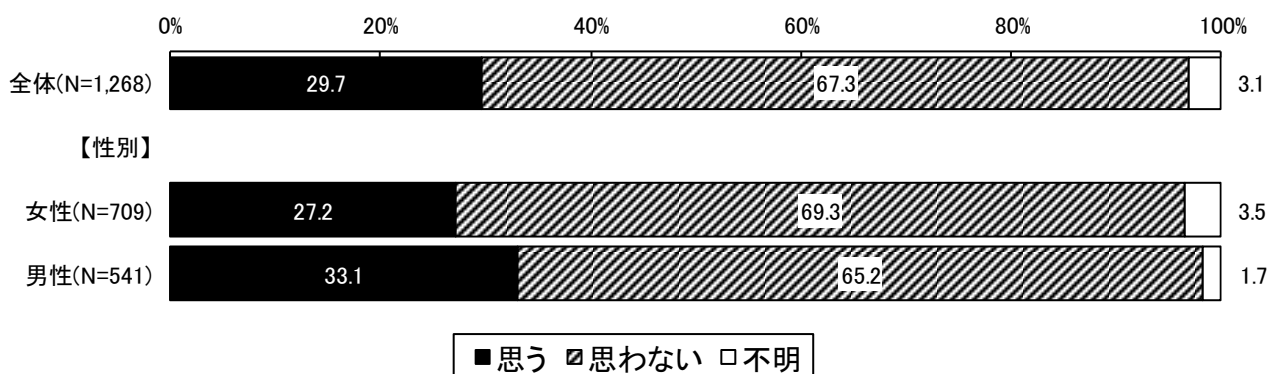
※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

9 男女共同参画社会実現に向けた豊田市の取組について

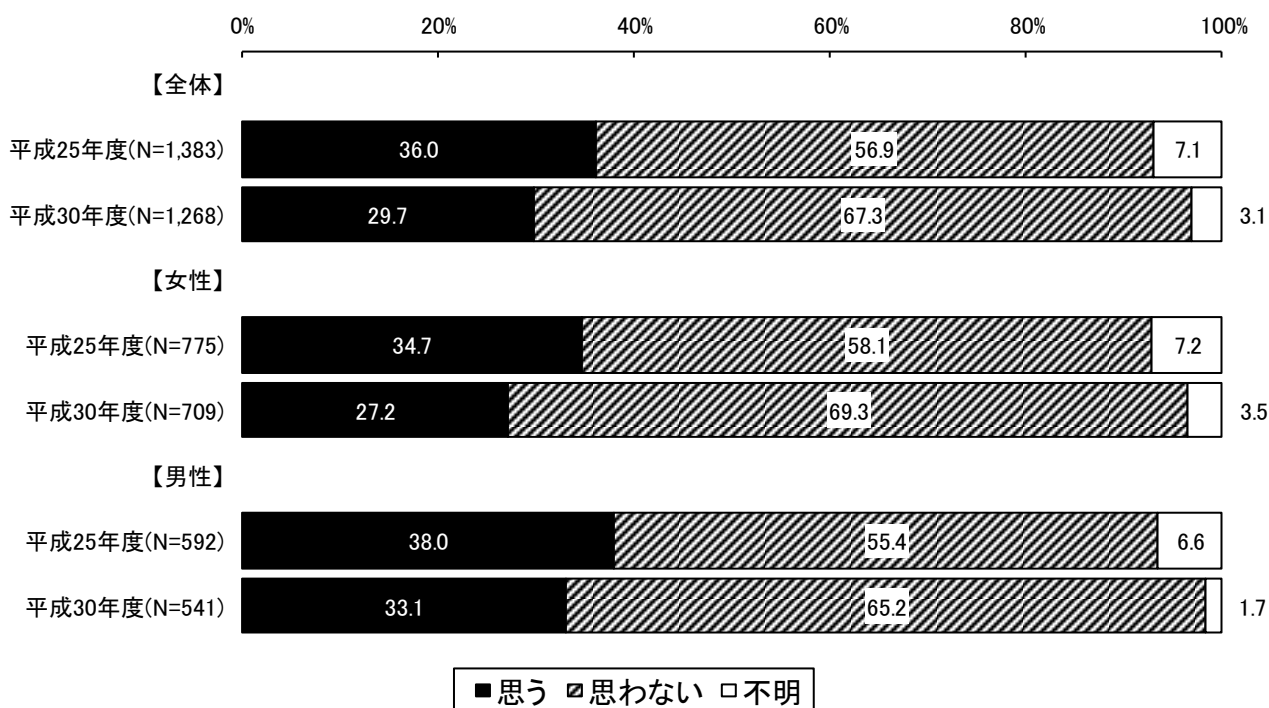
問 26 5年前と比べて、世の中の変化や豊田市の取組などによって、あなたご自身や家族の男女共同参画に関する理解が深まったと思いますか。(単数回答)

5年前と比べて、男女共同参画に関する理解が深まったと思うかについては、理解が深まったと「思う」割合は29.7%にとどまっている。

男女別では、女性より男性の方が理解が深まったと「思う」割合が5.9ポイント高くなっている。経年的には、男女ともに理解が深まったと「思う」割合は前回調査より減少している。



問 26 経年比較

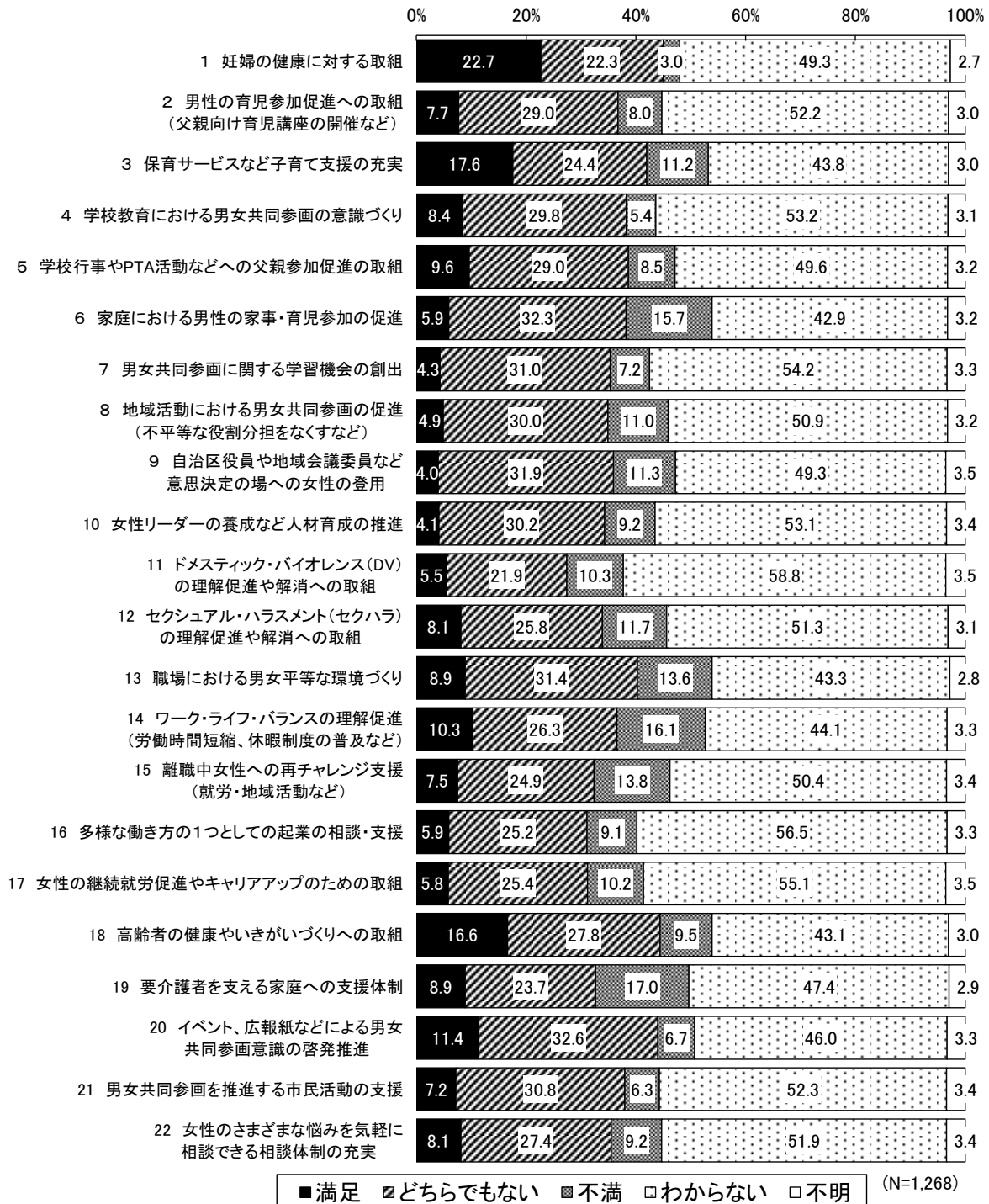


※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

問 27 (1) 下の ①～⑳ にあげた豊田市が実施している取組 (事業) について、あなたはどのよう
に感じますか。(単数回答)

豊田市が実施している取組 (事業) で満足度が高いものは、「1 妊婦の健康に対する取組」「3 保育サービスなど子育て支援の充実」「18 高齢者の健康やいきがづくりへの取組」の3項目が「満足」の割合が2割前後と高くなっている。一方、「不満」の割合が高いものには、「6 家庭における男性の家事・育児参加の促進」「13 職場における男女平等な環境づくり」「14 ワーク・ライフ・バランスの理解促進」「15 離職中女性への再チャレンジ支援」「19 要介護者を支える家庭への支援体制」などがあげられる。

また、全ての項目で、4～5割台の半数近くが取組を「わからない」と回答しており、周知が広がっていない状況が伺える。



問 27 (2) (1) の①～⑳の取組のうち、豊田市の男女共同参画社会の実現において重要と思うものを5つ以内で選び、①～㉔の番号をご記入ください。(5つ以下回答)

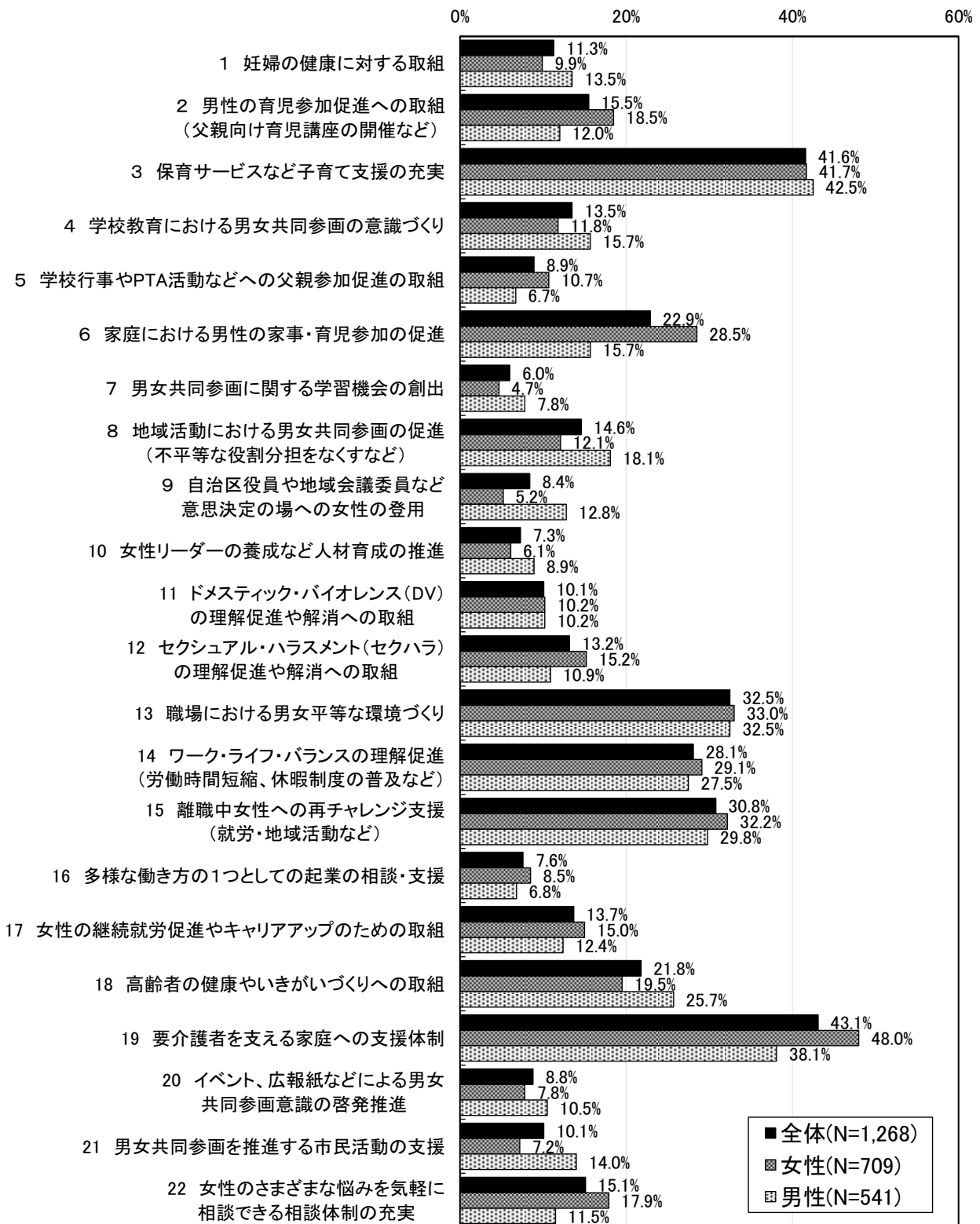
豊田市の男女共同参画社会の実現において重要と思う取組として、特に割合が高いものは、「3 保育サービスなど子育て支援の充実」「13 職場における男女平等な環境づくり」「14 ワーク・ライフ・バランスの理解促進」「15 離職中女性への再チャレンジ支援」「19 要介護者を支える家庭への支援体制」となっている。特に、子育てや介護への支援に関するニーズが高くなっている。

男性より女性の方が割合が高い取組(差が5ポイント以上)としては、「2 男性の育児参加促進への取組」「6 家庭における男性の家事・育児参加の促進」「19 要介護者を支える家庭への支援体制」「22 女性のさまざまな悩みを気軽に相談できる相談体制の充実」があげられる。

逆に、女性より男性の方が割合が高い取組(差が5ポイント以上)としては、「8 地域活動における男女共同参画の促進」「9 自治区役員や地域会議委員など意思決定の場への女性の登用」「18 高齢者の健康やいきがづくりへの取組」「21 男女共同参画を推進する市民活動の支援」があげられる。

年齢別では、主に30歳以下の男女で「13 職場における男女平等な環境づくり」「14 ワーク・ライフ・バランスの理解促進」の割合が比較的高くなっている。

経年的には、前回調査から増加が大きい取組(4ポイント以上増加)としては、「13 職場における男女平等な環境づくり」「14 ワーク・ライフ・バランスの理解促進」の2項目となっている。一方、減少が大きい取組(4ポイント以上減少)としては、「15 離職中女性への再チャレンジ支援」「18 高齢者の健康やいきがづくりへの取組」「22 女性のさまざまな悩みを気軽に相談できる相談体制の充実」の3項目となっている。



※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

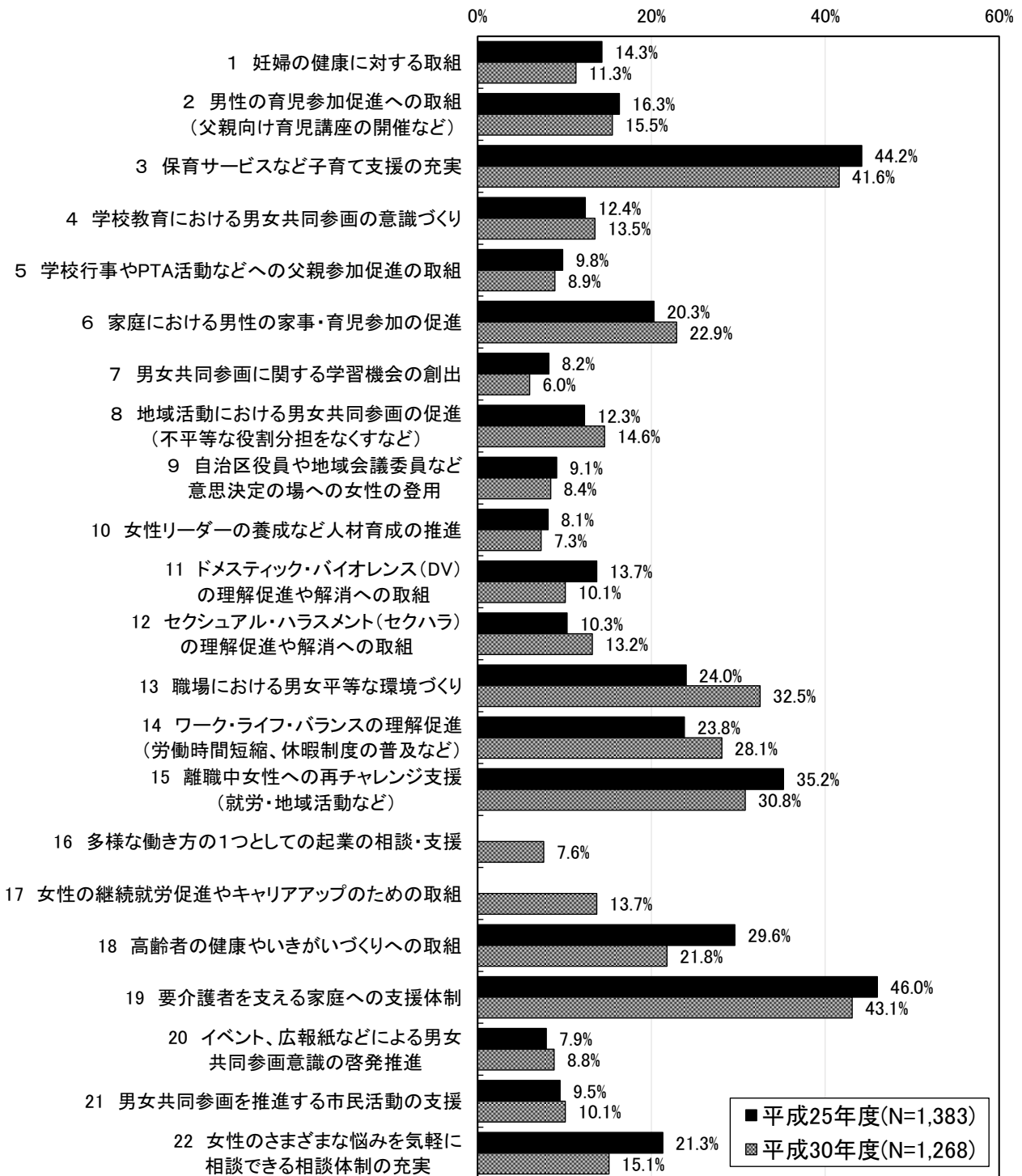
問 27 (2) 年齢別比較

※クロス集計結果では、性別、年齢、職業等が不明の回答者が含まれていないため、クロス集計結果の回答者総数と全体の回答者総数は合致しません。

	妊婦の健康に対する取組	男性の育児参加促進への取組（父親向け育児講座の開催など）	保育サービスなど子育て支援の充実	学校教育における男女共同参画の意識づくり	学校行事やPTA活動などへの父親参加促進の取組	家庭における男性の家事・育児参加の促進	男女共同参画に関する学習機会の創出	地域活動における男女共同参画の促進（不平等な役割分担をなくすなど）	自治区役員や地域会議委員など意思決定の場への女性の登用	女性リーダーの養成など人材育成の推進	ドメスティック・バイオレンス（DV）の理解促進や解消への取組	セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）の理解促進や解消への取組	職場における男女平等な環境づくり	ワーク・ライフ・バランスの理解促進（労働時間短縮、休暇制度の普及など）	離職中女性への再チャレンジ支援（就労・地域活動など）	多様な働き方の1つとしての起業の相談・支援	女性の継続就労促進やキャリアアップのための取組	高齢者の健康やいきがいつくりへの取組	要介護者を支える家庭への支援体制	イベント、広報紙などによる男女共同参画意識の啓発推進	男女共同参画を推進する市民活動の支援	女性のおさまさまな悩みを気軽に相談できる相談体制の充実	不明
(%)																							
【年齢別・女性】																							
18・19 歳(N=21)	14.3	33.3	23.8	14.3	9.5	28.6	4.8	14.3	4.8	4.8	14.3	33.3	57.1	19.0	38.1	9.5	19.0	14.3	23.8	14.3	23.8	19.0	-
20 歳代(N=95)	14.7	27.4	40.0	13.7	9.5	41.1	3.2	6.3	2.1	5.3	6.3	22.1	38.9	38.9	31.6	7.4	17.9	7.4	35.8	6.3	6.3	11.6	6.3
30 歳代(N=118)	18.6	25.4	50.0	12.7	13.6	40.7	4.2	9.3	2.5	4.2	6.8	7.6	36.4	44.9	36.4	11.0	17.8	5.9	41.5	11.0	5.9	11.0	4.2
40 歳代(N=129)	7.0	15.5	34.9	10.9	14.0	33.3	3.1	17.1	5.4	3.9	10.9	11.6	36.4	31.0	27.1	8.5	11.6	17.8	48.1	5.4	7.8	13.2	10.9
50 歳代(N=155)	5.8	12.9	46.5	11.0	11.0	21.3	3.9	14.2	7.1	6.5	16.1	17.4	25.8	25.8	32.9	6.5	16.8	22.6	49.7	11.0	5.2	19.4	14.8
60 歳代(N=129)	8.5	17.1	45.7	10.9	7.8	20.9	3.9	11.6	7.0	9.3	7.8	13.2	30.2	20.2	36.4	9.3	9.3	34.9	59.7	5.4	9.3	26.4	13.2
70 歳以上(N=61)	3.3	9.8	29.5	13.1	6.6	9.8	14.8	11.5	6.6	8.2	9.8	19.7	26.2	9.8	23.0	8.2	18.0	29.5	59.0	3.3	4.9	29.5	24.6
【年齢別・男性】																							
18・19 歳(N=13)	23.1	30.8	61.5	30.8	15.4	15.4	-	7.7	-	7.7	7.7	23.1	69.2	53.8	38.5	15.4	15.4	7.7	7.7	15.4	30.8	-	-
20 歳代(N=63)	12.7	15.9	47.6	14.3	3.2	22.2	9.5	19.0	9.5	12.7	22.2	22.2	47.6	36.5	30.2	11.1	12.7	17.5	19.0	17.5	14.3	9.5	6.3
30 歳代(N=71)	18.3	19.7	50.7	16.9	2.8	22.5	7.0	21.1	5.6	9.9	11.3	11.3	35.2	43.7	28.2	11.3	9.9	9.9	25.4	8.5	11.3	12.7	7.0
40 歳代(N=97)	17.5	10.3	36.1	14.4	8.2	16.5	6.2	11.3	5.2	7.2	13.4	11.3	33.0	30.9	32.0	4.1	10.3	17.5	41.2	11.3	8.2	8.2	14.4
50 歳代(N=102)	11.8	6.9	48.0	14.7	3.9	13.7	6.9	16.7	13.7	2.9	8.8	6.9	26.5	24.5	36.3	5.9	17.6	40.2	60.8	5.9	12.7	13.7	8.8
60 歳代(N=122)	7.4	7.4	38.5	18.0	9.0	10.7	9.0	23.8	19.7	13.1	5.7	5.7	26.2	20.5	23.8	6.6	11.5	28.7	36.1	5.7	15.6	10.7	20.5
70 歳以上(N=71)	14.1	14.1	35.2	12.7	7.0	12.7	9.9	18.3	22.5	8.5	4.2	12.7	26.8	11.3	28.2	2.8	11.3	35.2	39.4	19.7	21.1	16.9	19.7
【仕事の有無別・女性】																							
仕事をしている(N=403)	10.9	17.9	45.4	12.9	12.2	31.3	3.5	11.4	4.7	6.2	9.9	13.9	33.7	33.5	33.5	7.2	16.1	16.6	47.9	6.7	7.2	14.9	9.9
仕事をしていない(N=274)	8.0	20.8	36.5	10.9	9.5	24.5	6.9	13.1	6.2	5.8	10.6	15.7	31.4	22.6	32.1	10.6	12.0	23.4	47.4	8.8	8.0	23.0	12.8
【仕事の有無別・男性】																							
仕事をしている(N=423)	14.2	11.6	44.7	15.6	5.4	15.8	7.8	17.5	10.6	8.5	11.3	11.1	32.9	30.0	29.8	7.3	12.3	24.8	39.0	10.9	12.8	12.1	11.3
仕事をしていない(N=99)	11.1	15.2	34.3	17.2	9.1	16.2	9.1	21.2	21.2	10.1	5.1	11.1	33.3	18.2	29.3	4.0	13.1	29.3	34.3	10.1	22.2	8.1	18.2

※不明を除き、回答割合の高いものの第1位と第2位に網掛け

問 27 (2) 経年比較



※16、17 は平成 30 年度調査から新設した項目であるため、経年比較はありません。

10 その他・自由回答

F 3 未婚・既婚の別（単数回答）

回答内容	件数
婚約中	1
別居中	1

F 5 回答者の職業（単数回答）

回答内容	件数
年金生活者	3
団体職員	2
内職	2
アパート業、不動産賃貸	2
会社員と公務員の兼業	1
幼稚園教員	1
講師	1
準社員	1
期間工	1
派遣（パート）	1
ボランティア	1
家事従事者	1

F 5-3 将来どのように働きたいか（単数回答）

回答内容	件数
公務員	3
趣味を生かす	2
教師	1
公務員か自営業	1
地域で必要な職場	1
機会があれば働きたい	1
週1日位働きたい	1
年金暮らし	1
畑の野菜作り	1

F 7 配偶者の職業（単数回答）

回答内容	件数
自営業とパート・アルバイトの兼業	1
美容師	1
看護師	1
農業	1
非常勤講師	1
ボランティア	1

問5 地域の防災（災害対策）活動を推進するにあたり、あなたはどのようにお考えですか。（複数回答）

性別	年齢	回答内容	件数
日常的な備え・定期的な訓練			7
—	—	意識を高めるための取組が必要である。	3
—	—	普段からの訓練が必要である。	2
男性	20歳代	災害時にどのように動くのか地域に周知させて欲しい。	1
女性	70歳代	地域の中での日常的な連携が必要である。人に対して関心を持つ地域社会をつくる。	1
子どもの参画			3
女性	50歳代	防災への意識向上は、子どもから大人への提言も有効だと思うので、子どもと親で参加でき、実践できるミニ講座からはじめる。	1
女性	50歳代	子どもの力も時には必要、頼りにできることがあると思う。	1
男性	不明	車で仕事に行く人は災害時にすぐ帰れないため、中学生や高校生の手も借りられたら助かると思う。	1
地域の防災が不十分			3
男性	30歳代	地域の防災活動が無いように感じる。	1
女性	40歳代	女性消防クラブの取組が地域によって差があり過ぎる。そこから改善することが必要だと思う。	1
女性	60歳代	地域特性が似た自治区よりもっと小さい単位で啓発活動をする。	1
地域活動は必要ない			3
女性	30歳代	個人で行えばよい。町内会費は取られても使用用途は選べず、負担も苦しい。町内の防災用の食品備蓄は止めてほしい。乳幼児妊婦などは結局自分で用意するしかないため。	1
女性	40歳代	仕事、家事、育児があるうえ、さらに地域活動に参加しろというのは理解できず、迷惑。自分にとって役に立っていない。	1
男性	40歳代	自治区への強制参加に異議がある。	1
専門家など地域住民以外も参加する			3
女性	18・19歳	看護師（医療従事者）を混ぜた本番の混乱を想定した動きを訓練する。	1
女性	50歳代	地域の特性にあった防災計画を立てられるよう、専門知識を持ったコーディネータを各地域に配属する。	1
男性	60歳代	企業・店舗も参加する。	1
きちんと意見を聞く			3
女性	30歳代	町内会を仕切る70代以上の人は女性を頭数に入れていない。仕切る人の世代交代を行政が進めないと若い30～40代の世帯には発言権がなく、女性や子どもが参画し取り組む事は不可能である。	1
女性	40歳代	全ての人の意見を聞くべきである。	1
男性	40歳代	老若男女と要援護者が災害時は同じ場所に集まることになるので、健常者よりも弱者優先の意識を持って防災にあたる。声や態度が大きく遠慮の無い者が優先されている。	1
男女の視点をもつ			3
男性	30歳代	地域防災に「男女」の視点を持って考えた事がない。	1
男性	50歳代	男女の特性を活かした役割分担と理解が必要である。	1
男性	50歳代	女性の保護の視点が必要である。	1
自助が大事			2
男性	40歳代	行政に頼らず各々が責任を持つ。	1
男性	60歳代	個人が現状を勉強すべきである。	1

性別	年齢	回答内容	件数
その他			4
女性	30歳代	東日本大震災後、空き巣や盗難、性犯罪等も多く発生したと聞き、防災だけでなく災害時の防犯対策も考える必要がある。	1
男性	40歳代	日本語がわからない人にも避難場所がわかるようにする。	1
女性	60歳代	年寄りばかりで動ける人がいない。	1
女性	60歳代	まずは電子レンジが自動消火できるか調べる必要がある。老人宅を町内で把握し、取り換えを促す。市の補助金もあるとよい。	1

問6 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

性別	年齢	回答内容	件数
意識や考え方を考える			12
-	-	本人の意識の問題である。	3
-	-	男性の意識を変えること。	2
-	-	男性が育児や介護に参加できるように、会社の理解、考え、対応等を変えていく。	2
女性	30歳代	社会の中で男性が家事、育児などを行うことが当たり前だという考え方を普及させる。具体的な事例を男性が知ることが必要である。	1
女性	40歳代	「男性が家事、子育てなどをするのは“すごい”」「男性が家事育児を“手伝う”」という考え自体がおかしいと感じる社会になって欲しい。「1週間のママ体験」をする機会があればよいと思う。	1
女性	50歳代	女性、特に年齢の高い人たちの考え方を考える必要がある。	1
女性	50歳代	夫婦共同で事に当たった方が効率がよいことを周知する。	1
男性	60歳代	男性年長者の関白的な考え方を排除する。	1
夫婦間で改善する			6
-	-	女性が男性へ子育てや家事を教える、またアドバイスを送るべき。	2
女性	40歳代	男性が家事、育児など簡単にできる事から少しずつ始める。	1
女性	50歳代	結婚前からよく考えておくことも必要ではないかと思う。	1
男性	60歳代	お互いの作業についてケチをつけない。	1
女性	70歳代	まずは家庭内での話し合いがうまく出来ることが重要だと思う。	1
女性の社会的地位、収入の向上			6
-	-	女性の社会的地位を確立する。	2
女性	30歳代	女性の収入源がしっかりしないと男性はやはり仕事優先になる。主婦が収入を得られる仕組みが必要である。	1
男性	40歳代	女性が社会へ進出し、夫婦間の経済的責任への格差をなくす。夫の給料に依存した社会で、夫の家事・育児への参加を求めるのは単なる理想論にすぎない。	1
男性	40歳代	女性の給料の上昇。	1
女性	70歳代	まず女性が技能研修を受ける。	1
企業努力			5
女性	20歳代	残業時間の削減をした上で、給料を上げる。	1
女性	30歳代	夫が深夜まで帰ってこないため、企業に働きかけてほしい。	1
男性	30歳代	育休、産休の時の給料修正をどうするか考えてほしい。	1
男性	30歳代	仕事をしすぎない	1
女性	50歳代	家族と一緒にいられるように残業を無くして休みをもっと入れる。	1

性別	年齢	回答内容	件数
子どもの頃からの教育			2
女性	40歳代	子どもの頃から教育をする。	1
女性	50歳代	義務教育の中で男性も参加することが当然という教育を行う。	1
その他			4
女性	40歳代	仕事以外の時間があっても家事・育児に参加しないのなら、目障りなので仕事に行ってくれている方がよい。	1
男性	50歳代	著名人、芸能人がモデルとなり育メン、家事をすることを促す。	1
女性	60歳代	個の確立。	1
女性	60歳代	遊具のある公園が少なく、子どもと行く所に困る。男性だけでも遊ばせやすい環境を増やす。	1

問8 活動したいのに活動していない理由は何ですか。(3つ以下回答)

性別	年齢	回答内容	件数
スケジュールが合わないため			6
-	-	日時やスケジュールが合わない	3
-	-	時間の余裕がない。	2
女性	40歳代	毎週の参加はしたくない。月1回程度なら可能。	1
学生のため			5
-	-	受験勉強のため時間がない。	2
女性	18・19歳	学業優先	1
男性	18・19歳	学生であり、活動の機会が少ない。	1
男性	20歳代	大学、アルバイト等があるため、時間がない。	1
病気・障害があるため			4
-	-	障害者だから。	2
女性	60歳代	入院し、良くなってきているが自信が持てない。	1
女性	60歳代	持病で困難だから。	1
育児・看護のため			3
女性	20歳代	2人目を出産したばかりなので長くは外に出られない。	1
女性	60歳代	身内2人が最近まで入院していて心のゆとりがなかった。	1
男性	70歳代	家族に病人がいるため。	1
機会・きっかけがないため			3
-	-	活動する機会・きっかけがない。	3
希望の活動がない			3
-	-	活動したいグループや団体がない。	2
男性	30歳代	自分が何をしたいのかわからない	1
その他			5
-	-	面倒だから。	2
女性	18・19歳	今年引越したばかりなのでわからない。	1
女性	50歳代	交通手段に困る。	1
男性	60歳代	価値観の異なる人達との団体行動に抵抗感がある。	1

問9 一般的に、女性が仕事を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。(単数回答)

性別	年齢	回答内容	件数
個人の考え方などによる			57
—	—	個人の考え方や意思によるため、それぞれが自由に決めればよい。	53
—	—	個人によることなので、女性だからと分けて考えられない。	2
女性	18・19歳	個人のやりたいように家族と話し合った上で働くかどうか決めればよい。	1
男性	60歳代	女性の仕事の要望による。	1
家庭や夫婦で決めることである			15
—	—	家庭の状況によって異なる。	7
—	—	夫婦間の話し合い、相談で決定すればよい。	2
—	—	それぞれのケースによる。	2
—	—	家族間の話し合いで決めればよい。	2
女性	30歳代	家庭の事情にあわせて選択すればよい。「結婚するまで」「子どもができるまで」と一概に線引きして議論することに違和感を覚える。	1
女性	50歳代	本人の体調やその時の気持ち、家族の事情や体調、考え方による。	1
子どものことを考える			4
男性	20歳代	子どもが小さいうちは夫婦どちらかが家にいられるようにすべき。	1
女性	40歳代	子どもができて仕事ができる環境なら仕事を続ける、できない環境なら少し休んで環境が整ったら仕事をする。	1
女性	60歳代	この時代、1馬力では生活できない。祖母である私がかなり夫婦の世話をしている。そうしないと子どもに目が行き届かない。	1
女性	60歳代	子どもはきちんと親が丁寧に育てなければいけない。	1
経済状況による			3
女性	20歳代	結婚後または出産後に経済的に余裕があるなら、すぐには働かず、子どもが大きくなってから再び仕事を持つ。	1
女性	40歳代	社会とつながる意味でも仕事をしていた方がよい。しかし主財源が夫であるなら、その時の状況にあわせてできる範囲で仕事をする。	1
女性	50歳代	経済的余裕があるなら働く必要はない。	1
その他			3
男性	18・19歳	育児休業を保障してくれる企業を行政が支援すべきである。	1
女性	20歳代	女性や子どもがいるという理由で仕事を持つ、持たないと考えること自体に違和感を覚える。女性であることで仕事をしにくくなっているかもしれないが、男性だから絶対に働ける保障はない。もっと大きな視野を持って制度・法・政治に携わる人は考えて欲しい。	1
男性	50歳代	産休、育休の有効利用。	1

問10 仕事をしない方がよいと考える理由は何ですか。(3つ以下回答)

性別	年齢	回答内容	件数
子どものために子育てに専念した方がよい			55
—	—	子どもが小さいうちは親が育児をした方がよいと思う。	18
—	—	子どもが小さいうちは、一緒に過ごす時間を大切にしたい。	15
—	—	子育てに集中したい。	4
—	—	子どもに寂しい思いをさせる。	3
—	—	子育てには親の愛情が大切。	3
—	—	子どもを第一に考えればよい。	2
女性	40歳代	子育てと仕事の両立は難しかった。	1

性別	年齢	回答内容	件数
女性	40歳代	子どもが小さい時はなるべく一緒にいた方が子どもの情緒が落ち着くと思う。	1
女性	40歳代	子育てを楽しむ時間を持ちたい。	1
女性	50歳代	幼少期に育む親子でのコミュニケーションは将来につながると思う。	1
女性	50歳代	子どもとしっかり向き合う時期は必要だと思う。	1
男性	50歳代	1歳から子どもを預けるのは、子どもに良くないと思う。	1
男性	50歳代	子どもを育てる時間を保つことが大事。	1
女性	60歳代	仕事と家庭を両立させることは、精神的にも負担が多いし、子どもにとっても母親が家にいた方がいいと思う。	1
女性	60歳代	子育てにはいつも心の安定した環境が必要だから。	1
男性	70歳代	子どもが学校等から帰ったら母親がいた方がいいと思う。	1
母親の負担軽減のため			4
男性	20歳代	出産後に女性がしたいようにすればよい。ただし、どうしても女性が子育てをリードする側になると思うので仕事を続けることは大変だと思う。	1
男性	20歳代	産後の母体のダメージ回復のため。	1
男性	20歳代	子育て中はメンタル的に不安定な状態になりやすいと思われるため、迷惑をかけないよう家にいさせたいと思う。	1
女性	50歳代	仕事と家庭、育児等のバランスが体・心ともに必要。ストレスになるようなら仕事をしない方がいい。	1
各家庭で決めることである			2
男性	50歳代	それぞれの家庭で、役割はそれぞれ異なって良い。	1
男性	50歳代	父親の役割、母親の役割を子育てにおいてそれぞれの特性を考えて協働する。男性だから、女性だからとの考えはバイアスとなる。	1
その他			4
女性	30歳代	働ける時間に制限があり、休職中も収入がある。働いている側からすれば意味がわからない。	1
女性	30歳代	仕事を続けたくてもサポートしてくれる親が近くにいないため辞めざるを得ない。職場の理解も低い。	1
女性	60歳代	その時にできることを優先して行うべき。	1
女性	70歳代	子どもを育てることで人間ができると思うから。	1

問 11 結婚・出産後に女性が仕事をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。(3つ以下回答)

性別	年齢	回答内容	件数
職場の環境整備			5
—	—	子どもが病気のとときに休みをとりやすい環境。	2
男性	40歳代	女性が仕事しやすい職場内の環境整備。	1
男性	50歳代	職場(会社)におけるキャリアプランの提示・共有。	1
男性	50歳代	男性側の職場での環境づくり。	1
周囲の理解			3
女性	30歳代	子ども、夫、実家(または義理)、職場の理解と協力。	1
男性	30歳代	社会の理解。	1
女性	40歳代	制度や施設が充実しても、家庭内での協力がないと、女性の負担は大きい。	1
休業制度			3
—	—	育児休業の充実。	2
男性	40歳代	育児離職でなく産休をとれる保育の充実。女性が早期復帰するという社会通念と女性自身の意欲。	1

性別	年齢	回答内容	件数
技術を身につける			2
女性	50歳代	技能取得制度。	1
女性	60歳代	技術的な仕事の再教育。	1
その他			5
女性	20歳代	金銭面の補助をもっと増やして欲しい。	1
女性	30歳代	祝日に子どもを預けられるところをもっと増やして欲しい。	1
女性	30歳代	再就職や転職のしやすさ。	1
女性	40歳代	育児制度を充実させるほど、女性が社会復帰できなくなる。男性も女性と同じだけ、育児・家事をしなければいつまでたっても家事・育児は女性中心となり改善されない。	1
男性	40歳代	出産経験者でもっと多く語り合うべき。	1

問 13 あなたの職場では、性別によって、どのような違いがありますか。(複数回答)

性別	年齢	回答内容	件数
仕事内容			24
—	—	力仕事など体力を使う仕事は男性が行う。	16
—	—	業務内容。	4
女性	20歳代	雑務の内容に差がある。	1
女性	30歳代	出張に制限がかかる。	1
女性	40歳代	時短制度を使っている女性はパートレベルの仕事しかしなくなる。	1
女性	50歳代	お客様の対応受入れ。	1
女性中心の職場である			11
—	—	女性の方が優遇されている。	4
—	—	女性には優しい、甘い。	2
—	—	現在の職場は女性だけなので差別はない。	2
男性	20歳代	職場は女性の割合が高く、男性側からすると窮屈である。	1
女性	40歳代	女性に対し、家事・育児への労力がかかっていると理解があるので、仕事分担、就業時間に気遣いがある。	1
男性	40歳代	経営者が女性のため面倒なことは男性に任せられる傾向にある。	1
男性中心の職場である			7
—	—	パワハラを受けやすい。	2
—	—	男性が中心の職場である。	2
女性	40歳代	女性側の配慮や我慢で成立している状況もある。	1
女性	40歳代	男女で拘束時間の違いがある。男性の方が拘束時間が少ない。	1
女性	50歳代	女性に対する差別意識や発言が多い。	1
採用・配属			6
女性	30歳代	部署異動が制限される。	1
男性	30歳代	育児、出産を前提に、辞める、休むことを考えて採用されている。	1
男性	30歳代	いわゆる一般職に女性が多い	1
男性	40歳代	採用区分が異なる。	1
男性	50歳代	配置される職場に差がある。	1
男性	50歳代	女性でも技能職、事務職の場合時短申請ができない。	1
意識が低い			3
男性	40歳代	女性側にも「男女平等を望まない」思考がある。	1
男性	40歳代	女性自身にレベルアップしていく気持ちが弱い。	1
男性	50歳代	男女とも意識が変化していない。	1

性別	年齢	回答内容	件数
男性は育児休暇を取りづらい			2
男性	30歳代	男性は育休を取らない。	1
男性	30歳代	男性は仕事というイメージがあり育休等をとると出世から遠のく。	1
女性は役職者になりづらい			2
男性	20歳代	管理職に女性が少ないのが現状である。	1
女性	30歳代	女性は役職者になれない。	1
賃金格差について			2
女性	30歳代	同一労働でも賃金に格差がある。	1
男性	30歳代	仕事の量・質に大きな違いがありながら賃金は大きな差はない。	1
その他			3
女性	30歳代	女性活躍のための研修など余計な仕事が増える。	1
男性	50歳代	職場により男女比の割合が違いすぎる。	1
男性	50歳代	性別による特性もあるが、個人の特性による違いがある。	1

問 17 ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の調和）の支援を進めていく上で、あなたの職場ではどのような課題がありますか。（複数回答）

* これまで、就労経験のない方も、一般的な職場のイメージでご回答ください。

性別	年齢	回答内容	件数
経営について			5
女性	20歳代	労働時間が不規則である。	1
男性	30歳代	残業が減り給料が下がる。	1
女性	40歳代	介護休業をとっても両立に必要な時間が足りない場合、自己都合欠勤にされてしまう。	1
女性	50歳代	仕事と家庭の両立をすれば昇進等が不利になりそう。	1
男性	50歳代	仕事の量に不公平が出る。	1
理解・協力体制について			4
女性	50歳代	休みをとることを上司が嫌がる。	1
男性	50歳代	管理者が自己中心的でブラック企業そのものである。	1
男性	50歳代	周りに気を使い休まない。	1
男性	60歳代	独身者が多く、家庭持ちがやや少ないため少々難しい。	1
法律・制度について			3
女性	40歳代	法律、制度利用の利用条件が厳しい。	1
女性	50歳代	制度があっても小さな企業や自営業には反映されない。	1
女性	60歳代	法制度を充実させ、会社や個人に負担をかけない。	1
人員について			2
女性	30歳代	人手不足。	1
男性	60歳代	企業として利益を確保するにはそうそう余剰人員を確保しておくことはできない。	1
その他			4
男性	20歳代	能率の低下や体調への影響があることなどの具体的根拠を管理職へ提示する。	1
男性	30歳代	支援を進めているが前例などが無いため、行動にうつせていない。	1
女性	60歳代	保育施設・介護施設の不足。	1
女性	60歳代	バランスは個人が考えること。	1

問 18 あなたが働いている（いた）職場では、ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の調和）について、どのような雰囲気がありますか。（単数回答）

性別	年齢	回答内容	件数
理解や支援がある			4
女性	20 歳代	家庭第一と考えている人が多いイメージ。時短勤務者には負担を減らし、バックアップ人員を確保する体制があった。	1
女性	50 歳代	別に差別も無く善良でした。	1
女性	60 歳代	パートだったが時間帯の支援があった。	1
不明	不明	夏休み等は休むことができた。	1
支援体制はあるが、機能していない			4
女性	30 歳代	形だけ支援していて実質的には違っていることもある。	1
男性	30 歳代	表向きは支援しているように見せているが使えない制度が多い。	1
女性	50 歳代	支援する雰囲気が全く無いわけではないが合理的でなく、受ける人だけでなく支える人に対しても思いやりに欠ける。	1
男性	50 歳代	各種制度はあるが積極的な雰囲気はあまり感じられない。	1
支援や理解がない			4
女性	20 歳代	有給すら使わせてもらえない。	1
女性	30 歳代	身近な人の理解はあったが、会社全体では制度が未熟。上司の理解も乏しかった。	1
女性	50 歳代	インフルエンザの時でも翌日や2日後に出勤ということもある。	1
男性	60 歳代	他人に無関心である。	1
理解はあるが、支援は難しい			3
女性	30 歳代	理解はあるが協力的ではない。	1
女性	40 歳代	支援していこうという雰囲気はあっても、実際は難しかった。	1
女性	60 歳代	中小企業には個人的には理解があっても協力しにくい事がある。	1
部署や人によって雰囲気が異なる			3
—	—	配属先や上司によって差がある。	2
女性	40 歳代	人によって異なる。	1
かつてはワーク・ライフ・バランスの考え方がなかった			2
女性	40 歳代	働いていた時期から年数が経過しているため、このような考えが全くなかった。	1
女性	70 歳代	私の時代には仕事を続ける選択肢がなかった。	1
その他			1
女性	40 歳代	パートなのであまり影響ない。	1

問 19 政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性リーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。（複数回答）

性別	年齢	回答内容	件数
労働力が向上			4
女性	30 歳代	子育て中の女性は時間がないので、仕事を効率的に行うことができ、企業の生産性は向上する。	1
女性	40 歳代	労働力が増加する。	1
男性	40 歳代	能力のない人が排除される。	1
女性	50 歳代	パートでも優秀な人材なら、給料が上がる。	1

性別	年齢	回答内容	件数
リーダーに期待すること			4
女性	40歳代	「家庭や子を持つ女性リーダーが増えると」と質問して欲しい。独身女性リーダーは家庭、育児の大変さを男性以上に理解していない。	1
女性	50歳代	女性のリーダーは男性的な働き方をしないようにしてほしい。	1
女性	50歳代	女性リーダーが増えればいいというものではない。男女問わず、リーダーとなる人の人間性が大切。	1
女性	60歳代	リーダーが充実してない。	1
少子化が進む			3
—	—	少子高齢化がますます進む。	2
女性	60歳代	離婚する家庭が増える、子どもがさみしい思いをする。出産する人が減る。	1
男性への影響がある			3
男性	20歳代	男性差別も起きやすくなるかもしれない。	1
女性	30歳代	能力のある男性が活躍する機会が減る。	1
女性	40歳代	女性目線の偏った意見が出てくる。	1
女性の負担が増える			2
—	—	女性の負担が増える。	2
その他			9
女性	20歳代	女性特有のしぐらみが増え、行動しにくくなる。	1
女性	20歳代	女性を登用した方がイメージアップになるなど変な雰囲気もある。一定の割合で女性を登用し、能力で評価する。	1
女性	30歳代	育児が後回しになり、子どもが不安定になり、非行に走る。	1
男性	30歳代	やってみないとわからない。少子化対策が機能していないことがそもそも活躍推進につながらない。	1
女性	40歳代	夫の理解が大切なので、夫とコミュニケーションがとれる場が必要だと思う。	1
女性	40歳代	核家族をやめ、大家族で暮らすことをすすめる。	1
男性	40歳代	女性が浮気をする。	1
女性	50歳代	仕事と家庭の両立ができる女性とできない女性の二分化が進む。	1
男性	70歳代	社会保障制度が欲しい。	1

問 20 今後、女性が政策や方針を決定していくような場へもっと参画していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。(複数回答)

性別	年齢	回答内容	件数
意識を変える			6
—	—	女性がより参画する気になること。そうならない限り制度や見直しだけでは足りない。	2
男性	30歳代	女性の参画に消極的な人を減らす。	1
女性	40歳代	主な参画者が男性だとしても、女性や年配者等を思いやることができれば女性の参画は必ずしも必要はない。	1
女性	60歳代	社会全体の意識の向上。	1
男性	60歳代	相当な覚悟、仕事への責任感の向上。	1
制度の改良			3
男性	20歳代	男女問わず論理的な思考の訓練、優秀な人材の登用システムの作成が必要。	1
女性	40歳代	子育てや介護を経験していない人が担当ではなく、現実に沿った人が担当になれば、現実的な場へ変えられるのではないか。	1
女性	50歳代	パートの税金を考える。	1

性別	年齢	回答内容	件数
家事・育児への配慮			3
女性	20歳代	家庭とのバランス。	1
女性	30歳代	育児や家事をしている時間を含めて総労働時間とし、男女平等と扱うようにする。子育ては女性にしかできない。	1
女性	40歳代	お年寄りなど育児について相談できる人が多いとよい。	1
高い役職に女性を採用する			2
男性	18・19歳	社会では男女の人口はほぼ1：1なので、社会のあり方を決める議会も議席を男女1：1にするべき。男性だけでは女性向けの政策を決める際に必ず見えていないものがある。	1
女性	60歳代	自治体・企業で幹部ポストにもっと多くの女性を採用する。	1
男女平等・個人の尊重			2
女性	40歳代	“女性の活躍”というような“女性”を特別視しないこと。	1
女性	50歳代	個人1人ひとりの考え方を大切にする。	1
その他			5
男性	20歳代	休業・離職しないこと。	1
女性	30歳代	無理に女性を増やさなくても良いと思う。	1
男性	40歳代	幼稚園や小中学校のときから女性が活躍できる場面を増やす。	1
女性	60歳代	男性を優位とした上で女性も協力していかないとおかしな世の中になってしまう。	1
男性	60歳代	女性のレベルアップが必要。	1

問 21 企業において、一般的には女性管理職が少ないと言われていますが、その理由は何だと思えますか。(複数回答)

性別	年齢	回答内容	件数
女性の問題			24
-	-	女性の仕事と家庭、育児との両立が難しい。	4
-	-	女性が管理職になるための経験・スキル・能力が足りない。	3
-	-	出産等の時期がある。	2
-	-	感情的になりやすい。	2
-	-	女性の意識、意欲が低い。	2
-	-	体力がない、弱い。	2
男性	20歳代	女性の身体の面を心配すると家に居てもらう時間が長い方が安心。	1
女性	20歳代	女性は管理や支配するのを嫌うから。女性である私は管理するのが嫌。男性も女性に管理されるのを嫌うと思う。	1
女性	30歳代	女性というだけで、何でもするとは限らない。	1
女性	40歳代	家庭に重きを置く必要があり、仕事に力を入れられず、昇格のタイミングを男性に取られる。	1
男性	50歳代	男女平等といっても女性は女性として特別視してほしいと思っている。	1
男性	50歳代	男性と比べてリーダーに向いている人が少ない。	1
女性	50歳代	体力差、PMS（月経前症候群）に振り回される女性も多い。	1
男性	60歳代	女性は変なグループを作る。	1
男性	70歳代	会社に必要な教育を受けている人が極めて少ない。	1
企業の問題			14
-	-	産休、育休による長期間の休職期間により、経験年数や能力が足りない判断され、同年代でその差を埋めることが難しい。	3
-	-	女性を無理に管理職にしようとしている風土が広まりつつある。	2
女性	20歳代	男尊女卑が深く残っている。	1
女性	30歳代	仕事力での評価の前に「女」というフィルターがある。	1

性別	年齢	回答内容	件数
女性	30歳代	企業の制度が、男性が昇進、昇格、転勤などで変化があった時、妻は夫のサポートをして当然という考えが前提となっている。	1
男性	30歳代	企業が本気で女性の意見を製品に反映しようと考えていない。	1
男性	40歳代	企業に体力がない。	1
男性	40歳代	これまで能力のない女性が登用されてきたことの弊害がある。	1
男性	40歳代	そもそも女性の新人採用人数が少ない。	1
男性	40歳代	時間外労働・深夜業・出張・転勤等で男性ほど自由が利かれないと思われている。	1
女性	60歳代	労働時間が長すぎる。勤務時間を保証できる保育施設・介護施設がない。	1
男性の問題			3
女性	20歳代	女性が主体性を持って活動することを良く思わない男性が多い。	1
女性	40歳代	子育て時期は夫も働き盛りでなかなか協力してもらえない。	1
女性	50歳代	評価されている女性に対しての男性側の嫉妬心。	1
その他			4
女性	18・19歳	今までは概念だけだったが、これから増えていくと思う。	1
男性	30歳代	思っている以上に管理職の方は多いと思う。	1
男性	40歳代	子のいる夫婦で、夫も妻も管理職となると難しい面があり、一方が諦めているのではないか。	1
女性	50歳代	女性でありながら管理職であるためには努力するのみである。	1

問 25 (2) 性的マイノリティ（またはLGBT）の方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生かしやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。（複数回答）

性別	年齢	回答内容	件数
子どもの教育			14
—	—	子どもの頃から詳しくLGBTや多様性について学ぶ。差別をしない指導が必要。	13
女性	40歳代	今、豊田市では日本人以外の方が多く、こども園でもスペイン語が母国語の子など多様化しているが、子どもはそれを気に留めず自然に受け入れている。LGBTも同様に「性別、肌の色」など多様性に富んだ環境の中で子育てすればよい。	1
特別視しない			9
—	—	特別扱いせず、普通に接すればよい。	3
女性	18・19歳	外野が騒いでもどうしようもないため、そっとしておく。	1
女性	20歳代	差別を無くそうと積極的に活動しすぎ、かえって居場所を無くしている。	1
女性	30歳代	性的マイノリティだけに配慮するのは変。色々なマイノリティがあり、偏見や差別を受けやすい。	1
男性	40歳代	対策は必要ないが、区別は必要。	1
男性	50歳代	Tは保護すべきだが、LGBは単なる性的指向なので優遇の必要はない。	1
男性	60歳代	生産性がないから無関心で良いと思う。	1
意識を変える			9
—	—	周囲の理解を深める。	3
男性	20歳代	他者を理解し受け入れるほど大人が成熟していない。個性を認める教育が必要。	1
男性	20歳代	偏見等を持った人々の意識を改めさせる。	1
女性	30歳代	当事者との無理のない関わり。	1
女性	40歳代	自然に受け入れる気持ちを持つ。	1

性別	年齢	回答内容	件数
女性	50歳代	家庭、友人等での普通の会話から意識改革する。	1
男性	60歳代	個人の考えを変える。	1
法律・制度改善			7
—	—	婚姻届けの受入れ、差別撤廃等の法律の整備。	4
女性	20歳代	まずは国が動かないと変わらないと思う。	1
男性	30歳代	法的な差別、偏見を無くす。一人ひとりが偏見を無くす。	1
女性	50歳代	がん検診で、体は女性だが、戸籍上男性だと乳がん・子宮がん検診が受けられず、前立腺がんの受診券が送られてくる。心と体は別に対応してほしいと思う。	1
認知度を高める・交流の機会をつくる			5
—	—	メディアや報道で紹介する	3
男性	20歳代	出会いの場をつくる。	1
男性	30歳代	性的マイノリティの方が自分に違和感があるのと同じように、多数の方がマイノリティに対して頭で解っていても、生理的に受け付けられないこともあると思う。マイノリティとはどんなものなのかLGBTに対する情報や触れ合える機会が必要。	1
差別はなくなる			3
—	—	偏見や差別はなくなる。	3
本人次第			2
男性	30歳代	本人の立ち回り方が大事。	1
不明	50歳代	本人達が選択していることなので難しいことだが気にしないで生きる。	1
LGBTを認めるべきではない			2
男性	20歳代	LGBTを減らす医療の研究が必要。	1
男性	60歳代	LGBTを社会で認めてしまうと、人としての子孫繁栄が途絶えてしまう。	1
その他			6
女性	20歳代	トイレや更衣室など、LGBTの物も用意する。	1
男性	20歳代	性的マイノリティ、LGBTと言葉一つでは簡単だが、とても奥が深い。生活しやすくしなくても良いと言う人もいる。LGBT、マイノリティに対する知識や理解が少ないと思う。	1
女性	40歳代	学生服（スカート）の廃止または自由化。学生服は私服かジャージ、体操服で充分。	1
男性	40歳代	LGBTがいることに対して思うことはないが、自分が同性に愛情を示されたりしたら偏見等を持ってしまうと思う。	1
男性	40歳代	役所がまず取り組んで成果を出す。いきなり企業に求めない。	1
女性	60歳代	13年前自分の子どもがLGBTで相談窓口がなく困った。	1

豊田市が進める男女共同参画社会づくりの取組についてご意見等がございましたらご記入ください。

性別	年齢	回答内容	件数
市の取組がわからない、知らない			28
—	—	実際にどんな活動・事業をしているのか知らない・わからない。	12
男性	20歳代	早朝に出勤し、夜中に帰宅。学生時代とは違い、地域や市の行政にも関わる事なく過ごしている。広報も見ない。子どもが産まれたら視野が広がると思う。このアンケートはわからないことが多く、申し訳ない。	1

性別	年齢	回答内容	件数
男性	30歳代	今回のアンケートがなければこういう活動をしているとは知らずに過ごしていたと思う。当事者にならなければ情報は入ってこない。また、自わから情報も取りに行かないため、もう少し身近な活動になってくれると良いと思う。市の活動が自治区レベルまで下りてきていないため、感じにくいし、伝わっていない。	1
男性	30歳代	普通に生活している中で取組が伝わって来ない。全く感じない。	1
男性	30歳代	そもそも男女共同参画社会づくりという言葉に馴染みがないことが問題。	1
男性	30歳代	自身がまだまだ市としての取組を理解しきれていない。今後、より理解できるように努めたい。	1
女性	40歳代	取組について、色々な事業をしていることを知らなかった。広報には目を通しているが、「男女共同参画社会づくり」の観点では見ていなかった。	1
女性	40歳代	知らないことばかりで、「わからない」のところばかりに○をつけている自分が恥ずかしく思えた。これを機に、豊田市の男女共同参画社会づくりを勉強したいと思う。	1
女性	40歳代	市の担当者が男女とも家事も仕事も平等に取り組み、自身の苦勞・工夫・成果をもとに取組を企画していれば、もっと市民に浸透があるように思う。女性ばかり取り上げられているが、もっと男性のことも大切にしてほしい。そうでなければ男女平等・協力・共同は難しいと思う。	1
男性	40歳代	取組についてほとんど知らなかった。自分が無関心なのか、市のアピールが足りないのか。少し関心を持つきっかけになった。	1
女性	50歳代	豊田市の取組について知る機会はどこにあるのかわからない。	1
女性	50歳代	市の様々な取組に目を通していない。子どもが結婚し、仕事を続ける事になり、親の介護が必要になった時に改めていろいろな事業を検索することになるのだろうと思う。今回は自分が無関心であることに気付いた。自分の身に起きなければ考えられないのだと思った。	1
男性	50歳代	実感が無く、よくわからない。市が行っている取組が伝わってこない。私本人にも責任はあるのかもかもしれない。	1
女性	60歳代	男女共同参画社会づくりといっても私の年齢になるとピンとこない。	1
男性	60歳代	この取組を初めて知ったため、意見を言える立場ではない。	1
男性	70歳代	取組全体が一般市民に伝わっていないのではないかな。	1
男性	70歳代	定年退職後10年が経つが、実施されている取組をはっきり使えていない。	1
男女平等観について			17
—	—	小さいうちから学校教育などで、ジェンダーレス的思考方を教える。	4
—	—	男と女は体力的にも精神的にも全く別の生物なので、全く平等にしてほしいとは思わない。しかし、男だからできない、女だからできないというのは無くしたい。	2
—	—	市の取組が行われているのか、いないのか良くわからない。	2
女性	20歳代	金銭的・時間的・体力的・精神的に余裕がないと男性も積極的に育休取得や、家事、育児へ参加しづらいと思う。	1
女性	30歳代	出産など女性にしかできないことがあることへの配慮が少ない状態での男女平等は平等ではないので、何をもちて男女平等とするのか今の時代に合わせてきちんと定義すると思う。「制度をつくった、施行した」で終わらず、その後の経過や新たな問題の改善にもっと目を向けて欲しい。	1
女性	40歳代	子どもができれば女性は母親になる。仕事に走りすぎ、愛情のある子育てができない母親にはなって欲しくない。お金が必要な時代なので、やむを得ないこともあるが、男性の協力も必要。社会人として働く前に、家族で協力しあう、愛情のある当たり前の生活をどこかできちんと覚える必要があると思う。男女平等、女性進出は、その結果として現れることだと思う。	1

性別	年齢	回答内容	件数
女性	40歳代	男女共同参画社会づくりのためには意識改革が最も重要だと思う。特に男性や年配者の「女性はこうあるべき」という意識を変えないとせっかく良い制度を行政がつくっても利用できないと思う。	1
女性	40歳代	職場の男女平等や子育て・家事平等など変化しているとは全く感じない。市内で働く夫も夜遅くまで仕事をしているため、家事育児にほとんど参加せず、女は家を守り、パートや主婦は夫の社会保険等に守られているという考えを持っている。このような調査を多くすることで意識も変わるのではないか。	1
女性	50歳代	私の中では男女ともに今まで通り、「らしさ」と共に「役割」が決まっており、そこから抜け出せないでいる。子どもたちにはそのようなことがないよう育ててきたつもりであり、周りの空気も私たちが子どもの時より共同参画の度合いが増してきたように思える。小さいうちから男女関係なくやりたいことがやれる世の中になってほしい。	1
女性	50歳代	日本人は昔から男性上位の考えが強いので難しいと思う。	1
男性	50歳代	学校教育、社会教育での市民の意識、心の中に根づく取組を必要とする。男女が協働しているのが従来の社会であって、特に意識をすることではなく、人が人らしく生きていける社会を創造できる取組が必要である。	1
女性	60歳代	まずは、家庭内でのコミュニケーションを常に保ち、それぞれの考えを共有することが大事。家庭円満が子どもの成長には不可欠。その子どもが次世代の男女共同参画社会づくりに役立つ。	1
ワーク・ライフ・バランスについて			13
女性	20歳代	私自身が一児の母なので、出産、子育てに対してもっと男性や社会についての協力が欲しい。専業主婦なので、少しでもお金を使わないようにしている。より援助があれば、2人目3人目を産めるのにとと思う。	1
女性	30歳代	職場のパワハラがひどい。帰ってから仕事のレポートの提出を求められ、ひどい時は毎日1～2時間の睡眠が1～2週間続くこともあり、週末は1日寝て体を休めるという日々。1ヶ月続いた時は職場での事故が絶えず、指をプレスした方がいた。上司に言うと咎められ、ひどい扱いや罰を受けるので隠すという問題も起きた。職場のパワハラ、週末の飲み会への強制参加、レポート提出、こんな日々が続いているのに豊田市が何かをしたからといって変わるのだろうか。	1
女性	30歳代	男性の労働時間短縮や休暇取得がしっかり出来るようになれば、夫と子どもとの時間も増えるし、妻の家事の負担も減ると思う。お金では買えない心の余裕が生まれ、家族の時間が増え、みんなが幸せになれると思う。日本人は働きすぎだと思う。	1
女性	30歳代	学童を6年生まで拡充して欲しい。勤務先ではフレックス、時短勤務、在宅勤務と働き方を支援する制度が充実しているが、豊田市の制度が整っていないと結局仕事を続けることが難しく、数年ごとに仕事を辞めざるをえない状況で困っている。せめて夏休み等、長期休暇だけでも5、6年生を受け入れていただきたい。	1
女性	30歳代	日・祝日に子どもを預けられる等もっと女性が働きやすい環境を整えない限り難しいと思う。	1
女性	30歳代	女性を安い労働力（パート、一般職、派遣）と考えている企業に対する意識改革。待機介護施設入所希望者の解消に向けた取組。働く女性が増え、高齢者の寿命が増えると孫育児と親の介護が同時に発生することへの対策を進めてもらいたい。	1
男性	30歳代	小さい子どもと親が遊べるコミュニティの場（T-FACE8階のようなところ）をもっと増やして欲しい。駅前でもっとイベントなどを行うべきだと思う。	1

性別	年齢	回答内容	件数
女性	40 歳代	問 27 の活動をしていることすら知らなかった。学童保育を小 6 まで延長して欲しい。会社は小 2 までしか時短できない。行政または会社どちらかで援助していただきたい。	1
女性	50 歳代	育児と介護は異なるものだと思う。育児はある程度親の手が離れる時期があるが、介護はいつまでという期限がわからず、そのため介護者は疲弊していくと思う。また離職にもつながると思うので介護に重きを置いたほうがいいと思う。	1
女性	50 歳代	パワハラやセクハラを受けた方が移動され、評価を下げられることが当たり前の社風を知ってほしい。	1
女性	50 歳代	もともとハローワークの紹介で入った会社で事務の募集だったのにも関わらず、現場に異動させられた。異動の際もこちらには断る権利はないと言われた。気に入らない人間を辞めさせたい時によく行われる。だいたい女性の方が安く雇えると思っているように感じる。頑張っって働くかどうかより、上司が気にいるかどうかで扱いが違う。こんな会社大丈夫かと思いつつも年齢も年齢なので他に就職先が見つかる当てもなく仕方なく勤めている。生きているうちに男女平等になり、共同で何かをできるようになったら嬉しい。	1
男性	50 歳代	豊田市が進めてきたからかどうかわからないが、男女の働き方の平等化、ワーク・ライフ・バランス等会社の制度が変わってきているのは確かだ。	1
男性	70 歳代	退職して 10 年になるが子ども夫婦を見ていると、共稼ぎのため、学校のこと PTA のこと、職場、行事に対しても男性女性が協力しないと生活できない時代になっていると感じる。まず職場の理解、学校の活動の軽減、育児施設の充実が大切だと思う。	1
女性の活躍推進について			13
男性	30 歳代	大きな会社は女性が仕事をしやすい環境になっているが小さな会社はまだだと思う。そこまで行き届かなければ、男性に家事をするようにいうのは難しいと思う。	1
男性	30 歳代	そもそもどの程度の女性が政治参加したいと思っているのか把握しているのか。	1
女性	40 歳代	実際今年離職してハローワークに行ったが、特に女性の仕事におけるチャレンジ支援など、あったことすらわからなかった。ワーク・ライフ・バランスを考える余裕もないのが現実なのではないか。	1
女性	50 歳代	女性も台頭して何事も協働して行うことはとてもよいと思うが、そもそも女性のそういう人が特に素晴らしい人間ばかりではなく、たびたび失望することがあるのでよくわからない。	1
女性	50 歳代	あまりに女性の市議会議員が少ない。特定の政党にしかいないのは問題。区長が男性ばかりなのもあまりに遅れている。50 万都市とは思えない。	1
女性	50 歳代	専業主婦は悪いのか。就業している女性が素敵なのか。	1
女性	50 歳代	まずは市長を女性にしてはどうか。	1
男性	50 歳代	ひとくちに男女といっても様々な人がいて、活躍したい人とそうでない人がいる。まずは個人の希望を尊重し、決して押し付けにならないようにすることが大切ではないか。	1
男性	50 歳代	女性を参画させる、女性を重用することが美德のような風潮・取組になっている。女性本人がまず自分の周辺で他人任せにすることも多く、アクションを起こす前の問題が多い。	1
男性	50 歳代	得てして女性優位に見られがちとなり、逆セクハラのようになりやすいので、しっかりと監視できる客観的な評価者が必要と感じる。	1
男性	60 歳代	子育てするにあたり幼少期は特に親の必要性が高い。理想は女性が専業主婦として子育てに専念した方が好ましい。ただし、それには夫の給料を上げる必要がある。	1

性別	年齢	回答内容	件数
男性	60歳代	男性のように力が出せない女性に対して腰や足に負担のかからないアシストロボットのリースや介護の現場では天井クレーンの導入がしやすい支援が必要だと思う。	1
男性	70歳代	私は建設会社に勤めているが、少しずつ女性が進出してきた。しかし、市役所の仕事と建設会社の現場勤務を同一視するには、現状では問題があると思う。仕事（職種）により考えるべき。	1
広報・啓発について			13
女性	30歳代	1人暮らしで住民税も払っているが、市の広報がアパートに配布されないため、市の取組が全くわからない。	1
男性	30歳代	市の取組を知らない人も多いと思うのでSNS等も活用して上げていくと良いと思う。	1
男性	30歳代	自身が未婚のため、なかなか男女共同参画社会づくりへの市の取組に接する機会が少ない。広報とよた等を読んでみたり、駅等の掲示等で知る場面を増やそうと感じた。	1
男性	40歳代	ここ数年、海外在住だったので市の取組について情報がなかった。ポスター、イベント、また自治会、見える形での啓蒙活動などによって発信すべきだと思う。	1
女性	50歳代	定期的に情報を個別にネット配信してくれるシステムを開発して欲しい。	1
女性	50歳代	市民へのセミナー研修が少ない。行政と市民の温度差がある。	1
男性	50歳代	市の取組はほとんど知られていないため、まずは知ってもらおう取組をしてほしい。	1
男性	50歳代	私自身、豊田市が様々な取組を行っているのをこの紙面で知った。私自身必要としていないこともあるが、認知度が低いと言わざるを得ない。様々な取組も良いが、豊田は「〇〇〇に力を入れている」と認知してもらえるようにこだわりをもって行うほうが良い。	1
女性	60歳代	行政としていろいろやっているのかもしれないが、市民として良くわからない。月2回の市の情報誌も毎回同じようなものなので、ザーとしか見なくなつた。三重放送のように市議会や市政がやっていることをTVで放映し、常にPRすることも一策。広報を考慮すべきだと思う。	1
女性	60歳代	自分がもう若くないこともあり、この取組について興味・関心がなく、あまり知らない。大規模な大勢でのイベントは、啓発活動には向いていないのではないかと感じる。人数が多いほど他人事と感じ、真剣にならない。小さい地域単位で数多く開催する方が伝わる。	1
男性	60歳代	市で取り組んでいる男女共同参画社会づくりの取組の具体的内容をほとんど知らない。もっとアピールしたらよい。またその結果をさらに広報誌等で掲示すべき。	1
男性	60歳代	問27の回答が全て「わからない」になるのは市が行っている取組の実態が見えない・感じられないためである。色々なアピールを市民に対して行うべき。	1
女性	70歳代	市が取り組んでいる事業が色々あることは広報等で見ているものの、まだまだ理解していることが少ない。特に年齢的にも就業、教育のことは全然わからない。更に色々勉強し、理解し、様々なことを利用していきたい。様々な機会でもわかりやすく広めてほしい。	1
家庭や地域における男女の役割分担や考え方について			8
-	-	共働きが多くなったが、周囲の理解が進んでいないため、地域活動（役員、組長など）で大変な思いをした。役割を軽くしないと住みにくい。	2
女性	30歳代	未だに結婚生活の中で「俺が働いて稼いでやっているんだから、嫁は言うことを聞くのが当たり前」と本気で思っている男性がいるため、そのような意識を改めてもらうために、広報などで意識改革を出来るように促して欲しい。	1

性別	年齢	回答内容	件数
女性	40 歳代	このようなアンケートはとても良いと思うが、そのほかに職員がもっと役所の外に出て、世の中の現実を把握してもらいたい。少しではあるが若い世代は男女共同参画社会になってきており、明るい将来を期待できそうだ。これからも取組をお願いします。	1
女性	40 歳代	「男女共同参画社会」は私にとって「女性よ、24 時間休まず働け」ということにしかならない。「他人の考え」を変えることはとても難しい。女性の負担が増える。各家庭、個人がのびのび過ごせる地域になれば良い。	1
男性	40 歳代	地域により違いがあると思う。自治区の活動等は男性しか出ていない現状もあるので、男女の問題では無いと思う。豊田市の取組については見えていない気がする。	1
女性	50 歳代	男女平等を叫ばれている中、未だに女性は子育て中心で女性の役割が大きい。学校の P T A にしても仕事していない人でないと役割ができないような制約がある。地域にしても未だに女性部の強制加入を強いられる。女性が一家の収入を担い仕事しているわが家からすれば、一世帯から必ず女性部に加入しないといけない地域自治区のあり方が男女平等でない。組長と同じように世帯で当番するならまだ理解できるが、地域や社会の考えを早く改善して欲しい。	1
男性	60 歳代	妻が家庭を守ることは重要である。これをなくして男女雇用機会の均等を進めるべきではない。	1
職場における男女の役割分担や考え方について			6
女性	30 歳代	別に全てにおいて女性を男性と同様に登用しなくて良いのではと疑問に思う。やはり女性は家事・育児や接客・お茶くみなど向いていることをしたら良いのではないか。「女性だから」と逆に自ら差別しているようで、非常に疑問。男女関係なく自然に自分の役割をすれば良いだけではないか、キラッとよたの職員の方は女性ばかりで、逆に違和感を覚える。	1
女性	40 歳代	育休や時短制度を優遇すればするほど女性が家庭中心となり、男性も育児・家事は女性任せになる。女性は働き、仕事の責任を持ち、育児まですることになる。制度をこれ以上充実させるよりも、とにかく男性の意識と社会全体の考え方を変えることが重要だと思う。	1
女性	40 歳代	パート、アルバイトも制限なく自由に働きたい。扶養の範囲を決めなくても、パートが働ける時間はそこそこ限られている。	1
女性	50 歳代	男女平等はいいと思うが無理。行政の男性は職場で掃除したり、お茶くみしたりできるのか。全てにおいて男性優位があることはこれからも変わらないと思う。取組の効果は具体的に出ているのか。	1
女性	60 歳代	パートで働いているが女性ばかりの職場なので「男女共同参画社会」と言われてもピンとこない。しかし何年経っても日本は男尊女卑が色濃く残っている。夫婦であっても旦那には何ひとつ手伝ってもらえない。	1
女性	60 歳代	男女平等は賛成だが、コールセンターなどで女性が出るとほっとしたり、職場で男性が油の缶を持ち上げているのを見ると女性にはできないと思う。持って生まれた性差（体力）をうまく利用しつつ能率の良い男女社会や職場を望む。トラックの女性ドライバーはカッコいいと思う。	1
高齢者について			3
女性	50 歳代	老後の生活スタイルの研究をしてほしい。	1
男性	60 歳代	多様な世帯・家族がある中で、男女共同参画社会づくりのメリットを享受できるのは一部だと思う。例えば、独身で高齢の方はどう言う社会づくりを要望しているのかヒアリングが必要だと思う。	1
女性	70 歳代	現在高齢者クラブの役員をしているが、クラブの加入者が少なく、クラブが成り立っていかず、困っている。	1

性別	年齢	回答内容	件数
性的マイノリティ（LGBT）について			2
女性	30歳代	多目的トイレを増設して欲しい。LGBTの方は男性・女性トイレへ入るのに抵抗があると聞いた。小中学校でも設置してほしい。	1
男性	30歳代	私は同性愛者だが、同性愛者にとっては、まだまだ住みよい社会になったとはとても言えない。メディアで放送されているようなキャラクターばかりが同性愛者ではなく、普通の男女の一般家庭のように「ただ幸せになりたい」と思っている同性カップルは、この豊田市にもたくさんいる。私たちのような者は、社会的少数者として粗悪に扱われ、街中で手をつないで歩くことさえできない。好きでこのような性的少数者になったわけでもない。物心ついた頃からそうだっただけだ。「普通」の人達には、何十年間も自分というものを隠し続け、心を痛め、傷つけて苦しんだ日々を到底理解できないだろう。今の世の中での仕組みでは理解して欲しいとも思えない。未来の方々のためにも、同性同士でも結婚を認めるなど条例で定めて欲しい。今の私達には「温かな家庭」「幸せな家庭」など法的に築けるわけがないため、私は「豊田市民の誓い」が大嫌いだ。あの誓い自体が、既に私達を差別している。	1
保育について			2
女性	40歳代	こども園の民営化に反対。保育士が不足していることにきちんと向き合い、保育士を金銭的にも、働き方にも優遇してほしい。保育サービスの充実が必要。	1
女性	50歳代	身内に保育士がいるが、保育士不足で仕事を家に持ち帰ることばかりだ。休みも取れずに、体調を崩しやすく、急に休むと他の保育士にも負担がかかる。体がもたない。3歳児が保育無償化になるとますます子どもが増え、保育士が足りなくなる。したがって、すぐ辞めてしまう。もっと保育士の現状をわかって欲しい。ぜひ、こども園の保育士の声を聞いてほしい。	1
その他			9
女性	20歳代	これらを全て実現させるためには、非常に大変なことがたくさんあると思う。しかし豊田市なら全て実現できると思う。太田市長をはじめ、皆さんと一体となって取り組んでもらいたい。私は自分の幸せのために歩いていきたい。	1
男性	30歳代	よりわかりやすい目標・スローガンを立てる必要がある。	1
男性	40歳代	具体策がわからない。広報しても効果があるのか。これまでの取組の費用対効果を明らかにして無駄なものはやめる。	1
女性	50歳代	広報誌やHPを見ても取組の全体像がよくわからない。もう10年以上前だが、子どもの学童保育の申請に行った際、市の窓口対応の女性に「どうして預けなきゃいけないんですか？」と言われた。周りにも同じような対応をされた人がおり、私の気にしすぎではないと思う。今はこのような事を言っていないと願いたい。	1
女性	60歳代	参画企画が多すぎる。出席の割合がどのくらいあるのか知りたい。成果のある取組を伸ばして欲しい。	1
女性	60歳代	幼稚園（保育園）の無償化。乳児の入れる施設の充実。公園を増やす。鞍ヶ池公園くらいのをあと2つ増やしてほしい。病院に小学生以下の子どもが病気になった時の一時預かり所を併設してほしい。	1
男性	60歳代	男女共同参画社会づくりの問題点が何か、どうしたいのかがよくわからない。女性の参画が少ないということなのか。どういう場に参画が不足と感じているのか等、具体的に提起して頂かないと回答しにくい。理想の形は何なのか。市民にわかるようにしてほしい。	1
女性	70歳代	見識が狭いので私には理解しがたいことが多々あるが、恵まれた環境に置かれていること、多方面に渡り取り組まれていることに感謝し、今後のために少しでも理解していきたくと思った。	1

性別	年齢	回答内容	件数
女性	70歳代	他市で働いていたため、豊田市の取組について知らないことが多かった。安城市は意外と充実していたと思う。	1
アンケートについて			12
女性	20歳代	市の取組を知らないので回答し難い。会社でもこのようなアンケートを年1回ほど求められるが、このようなアンケート自体が差別があると再認識するような出来事である。	1
女性	30歳代	質問が、男女共同参画というより女性優遇のためのもののように見える。家庭内での役割分担は、家庭内で話し合うべきであり、自治体や国があればこれ言う必要はないと思う。家事・育児・お茶くみ・その他雑用も立派な仕事だという認識が大事だと思う。不平等に見える役割分担にも、その方が良い理由があるかもしれない。	1
女性	40歳代	アンケートを真面目にとりたいのであれば、会社員に聞く方が良いのではないか。自営業の人にはわからない事が多い。	1
女性	40歳代	世の中、社会が男女平等を求め、変わりつつあるが、性別や個々の適性に応じた対応が大切で、特に平等を求めている。	1
女性	40歳代	いろいろな型の家族が多くなる中、共働きの家庭も増えている。男性女性に関わらず働きやすい社会、住みやすい豊田市を目指して下さい。アンケートの質問の仕方や、答えの内容自体が既に女性軽視に考えているのではないかと思う問いがあった。	1
女性	50歳代	無作為に選んだと言いながら本人以外の回答はするなというのは疑問。無作為なら他の者が答えてもいいはず。子どもがいるかいらないか、介護者がいるかいらないか、独り暮らしか、働いているかいらないかなどを先に聞き、答えたくない質問は書かなくてもよくすべき。当然こうだという前提は気分が良くない。嫌な気持ちになる。アンケート作成に弱者を加えるべき。	1
男性	50歳代	市がどんな取組をしているのか不明。このことが不満。大変回答しづらいアンケートだった。設問を作っている人の考えが偏っているのではないか。	1
女性	60歳代	アンケートの集計のみに終わらず、さらに取り組んでください。	1
男性	60歳代	普段考えていない時にいきなり意見を求められても、回答しづらい。	1
女性	70歳代	最後の問27は内容に具体性がないため、答えにくかった。	1
男性	70歳代	男女及び年齢に対し、質問に回答しにくい項目が多いと思う。	1
男性	70歳代	カタカナことば全てに説明を付けてほしい。説明がないと個々の理解が異なってしまう。	1

Ⅲ 調査結果の総括

1 調査結果の総括

【問1】男女の平等観について

- ・男女の平等観については、『男性優遇』（「男性の方が優遇されている」と「男性の方がやや優遇されている」の合計）の割合が特に高い分野は、前回調査同様に「政治の場」「社会通念・慣習やしきたり」の2分野であり、『男性優遇』の割合は7割前後と高くなっている。「職場」「地域社会の場」「家庭生活」も『男性優遇』の割合が5割前後と比較的高くなっている。一方、「学校教育の場」はこれまでの調査結果と同様に「平等である」の割合が最も高い分野となっている。P. 14
- ・男女別では、どの項目も男性より女性の方が『男性優遇』の割合が高くなっている。P. 15
- ・経年的には、前回調査までは「家庭生活」「学校教育の場」「政治の場」「地域社会の場」「法律や制度」といった多くの分野で「平等である」の割合が増加し、『男性優遇』の割合が減少する傾向にあったが、平成30年度調査では、どの項目も『男性優遇』の割合が前回調査より増加している。P. 16~17
- ・男女の平等観を加重平均値で指標化してみると、「家庭生活」「職場」「地域社会の場」では、平成20年度以降、女性の指標は上昇傾向にある一方、男性は横ばいという傾向にあり、男女間の意識差が拡大していることがわかる。こういった女性の男性優遇ととらえる意識の強まり、男女間での意識差の拡大が『男性優遇』の割合が増加したひとつの要因と考えられる。P. 28
- ・年齢別では、「家庭生活」「学校教育の場」「地域社会の場」で若い人ほど「平等である」の割合が高く、また「職場」でも若い人ほど『男性優遇』の割合が低くなっている。P. 19~27

【問2】男女の役割分担等についての考えや行動

①考え方

- ・『賛成』（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の合計）の割合が高い項目は、「子育ては女性も男性も協力して行う」で『賛成』の割合が男女ともに9割を超え、最も高くなっている。その他、女性では「男性も家事をきちんとする」「結婚してもそれぞれ自分名義の財産を持つ」、男性では「女性も積極的に地域活動に参加する」「男性も家事をきちんとする」で『賛成』の割合が高くなっている。P. 30~31
- ・年齢別では、多くの項目で、男女ともに若い人ほど『賛成』の割合が高い傾向があり、男女共同参画意識が高いことが伺える。P. 33~44
- ・『男は仕事・女は家庭』という考えをもつことに『反対』（「反対」と「どちらかといえば反対」の合計）の割合は、豊田市では全国・愛知県よりも高くなっており、男女共同参画意識は高いといえる。P. 37

②行動

- ・実際の行動について、「子育ては女性も男性も協力して行う」「男性も家事をきちんとする」は考え方において、男女共同参画意識が非常に高い項目だったが、行動では『実践している』（「そうしている」と「どちらかといえばそうしている」の合計）割合は低くなっており、考え方と行動に特に大きな差が生じている。また、「女性は自分のことより家族のことを優先する」「男性は家庭や地域のことより仕事を優先する」についても考え方で『反対』の割合が高かったにも関わらず、『実践している』割合が高くなっており、これも考え方と行動に差が生じている。これらのことから固定的な性別役割分担がまだ残っているといえる。P. 46
- ・しかし、経年的にみると、「結婚してもそれぞれ自分名義の財産を持つ」「男性も家事をきちんとする」「男は仕事・女は家庭』という考えを持つ」「女は女らしく、男は男らしく』する」で男女共同

参画を実践している割合は増加しつつあり、少しずつ改善されてきている。ただし、子育てについては、その傾向と逆行しており、男女共同参画が進まず、女性の負担が減っていないことが伺える。P. 48

・「女性も積極的に仕事をする」「女性も積極的に地域活動に参加する」については、考え方で『賛成』の割合が8割前後と高かったうえ、行動でも『実践している』割合が5割前後と高くなっており、固定的な性別役割分担が依然として残るなかで、女性の負担感の大きさが伺える。P. 46

【問3】夫婦の役割分担についての考えと行動

①考え方

- ・家庭における夫婦の役割分担の考え方については、「家事全般」「家計の管理」「子育て全般」「老親などの世話・介護」「地域活動への参加」の全ての項目で、「共同で行うのがよい」と考える割合が最も高くなっている。P. 61
- ・男女別では、全ての項目で男性より女性の方が「共同で行うのがよい」と考える割合が高くなっている。P. 62
- ・経年的には、「家事全般」「家計の管理」で「共同で行うのがよい」と考える割合が増加傾向にあり、意識は変わってきている。P. 63

②行動

- ・一方、行動についてみると、「共同で行う」割合は全ての項目で「共同で行うのがよい」と考える割合より減少している。特に「家事全般」「家計の管理」「子育て全般」では「主に妻が行う」割合が高くなっており、考え方が実際の行動に現れていないといえる。P. 61
- ・経年的には、「家事全般」「家計の管理」においては、「主に妻が行う」割合が減少傾向にあり、少しずつ改善されてきている。一方、「子育て全般」「老親などの世話・介護」においては「主に妻が行う」割合が逆に増加しており、家庭内の役割において依然として妻の負担が大きいことが伺える。P. 64

【問4】地域活動における男女の役割分担についての現状と考え

①現状

- ・地域活動における男女の役割分担の現状は、「地域活動は男性が取り仕切る」「自治区の集会の時には、女性がお茶くみや片づけをしている」「催し物の企画などは主に男性が決定する」の3項目で、特に固定的な性別役割分担が残っている。P. 65
- ・経年的に固定的な性別役割分担が低下傾向にあるのは、「自治区の集会の時には、女性がお茶くみや片づけをしている」「自治区の集会では、男性が上座に座る」「自治区の組長などの登録は男性（夫）だが、実際は女性（妻）が出席することが多い」「実質的な活動はほとんど女性が参加する」となっている。一方、「女性は役職につきたがらない」は「そうしている」割合が増加傾向にある。P. 66

②今後のあり方についての考え

- ・今後のあり方についての考えでは、「改善すべき」と考える割合が、全ての項目で前回調査から増加しており、意識面では男女平等な考え方に徐々に変わってきていることが伺える。P. 68

【問5】地域の防災活動の推進についての考え

- ・地域の防災（災害対策）活動と男女共同参画についての考えでは、男女ともに「自主防災組織などへの女性の参画を促進する必要がある」「防災対策などに女性の視点を含める必要がある」の割合が低くなっている。P. 69

- ・経年的には、「防災対策などに女性の視点を含める必要がある」の割合は前回調査から若干増加しているものの、女性の視点からの防災対策への意識が十分に浸透しているとはいえない。P. 70

【問6】男性の家事、子育て、介護、地域活動への積極的な参加に必要なこと

- ・男性の家事、子育て、介護、地域活動への積極的な参加に必要なことについては、夫婦や家族間でのコミュニケーション、職場での上司や周囲の理解、男性自身が抵抗感をなくすことが主に必要であると考えられている。P. 71
- ・全国との比較では、「労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどの ICT を利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」の割合が全国よりも特に高くなっている。P. 72

【問7・8】家庭の外での活動（仕事以外）について

- ・仕事以外の家庭の外での活動については、活動していない層が5～6割あり、半数以上の人が家庭の外での活動に携わっていない状況にある。年齢別では、「活動していない」割合は20～50歳代の現役世代で多くなっている。P. 73～74
- ・活動希望はあるものの活動していない人は約2割おり、その主な理由としては、仕事や家事、育児、介護などで忙しいことがあげられている。ほかに、どんな活動があるか知らないことも男性や30歳代以下の女性では多くなっている。特に30歳代以下の女性は、活動希望はあるが活動していない人の割合が高く、きっかけ次第で地域や社会への参加を期待できると考えられる。P. 75～76
- ・活動していると回答した人の中で回答割合が最も高いものは、女性では「スポーツ以外の趣味活動、文化・教養・学習活動」、男性では「自治会、女性団体などの地域活動」となっている。年齢別にみると、女性では60歳以上で「スポーツ以外の趣味活動、文化・教養・学習活動」、40歳代で「PTAの役員・委員」、男性では40歳以上で「自治会、女性団体などの地域活動」、20歳代で「スポーツサークル活動」の割合が高くなっており、年代・性別によって活動内容は異なっている。P. 73～74

【問9・10・11】女性が仕事をすることについての考え

- ・女性が仕事を持つことについての考えとしては、「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」という再就職型を支持する考えの割合が男女ともに最も高くなっているが、経年的には減少しつつある。代わりに「子どもができて、ずっと仕事を続ける方がよい」という就労継続型の働き方を支持する考えの割合が男女ともに大きく増加し、2番目に高くなっている。継続して働くことを望む意識は高まっているが、全国と比較すると、就労継続型の働き方を支持する割合は低い。P. 77、80～81
- ・仕事の有無別にみると、実際に働いている女性では、就労継続型の働き方を支持する考えが第1位となっており、働き続けたいというニーズが強いことがわかる。P. 78
- ・女性が仕事をしない方がよいと考える理由としては、「結婚・出産後に、家庭と仕事を両立させるのは時間的・肉体的に困難だと思うから」の割合が最も高くなっている。また、女性では「子育て期は、会社に負担をかけることが多いと思うから」の割合が高くなっており、仕事と子育て両方の役割が求められる女性の精神的な負担感の大きさが伺える。一方、40～50歳代の男性では「結婚したら主婦として子どもや夫、家族のために生活する方がよいと思うから」の割合が高くなっており、女性は家庭という固定的な性別役割分担意識が強いことが伺える。P. 82～83

- ・結婚、出産後に女性が仕事をするために必要なこととしては、「柔軟な働き方ができる制度の導入」「育児休業制度の充実」「育児離職者の再雇用制度」へのニーズが大きい。経年的にみると、「就学前の子どもを対象とした保育の充実」へのニーズが高まっている。P. 84、86

【問 12・13】 職場における性別による違い

- ・職場における性別による違いは、「違いがある」よりも「違いはない」と回答した割合の方が高くなっている。男女別で見ると、女性では「違いはない」、男性では「違いがある」と回答した割合の方が高い。年齢別では、20～40 歳代の現役世代では「違いがある」と回答した割合が他の年代よりも高くなっている。P. 87
- ・経年的には、前回調査から「違いはない」と回答した割合が大きく増加しており、職場での性別による違いは小さくなり、男女平等な職場に改善されつつあることが伺える。P. 88
- ・性別による違いの内容としては、「昇進・昇給に差がある」の割合が最も高くなっている。次いで、女性では「お茶くみ・雑用などの補助的な仕事を女性に割り振る」、男性では「賃金に格差がある」となっている。しかし、経年的にみると、これらの項目の割合は減少傾向にあり、性別による違いは小さくなりつつある。P. 89～90

【問 14・15・16】 仕事と育児、仕事と介護の両立についての考え

- ・仕事と育児・介護の両立についての考えは、「できるだけ両立したい」という割合が男女ともに高くなっているが、女性は「仕事は続けたいが、直面する状況になったら仕事を辞めるしかない」と考える割合が男性よりも高くなっている。特に介護では、女性は「仕事は続けたいが、直面する状況になったら仕事を辞めるしかない」と考える割合が最も高くなっており、その傾向が強い。男性についても、育児より介護に直面したときは「仕事を辞めるしかない」と考える割合が高くなっている。P. 92～93
- ・育児では男女とも年齢が若いほど、仕事との両立の意向は強い傾向がある。しかし、20～30 歳代の子育て期の女性では「仕事より優先するので、仕事を辞める」という考えも一定割合ある。また介護では、20～30 歳代の女性で「仕事は続けたいが、直面する状況になったら仕事を辞めるしかない」と考える割合が特に高くなっており、女性が対応せざるを得ない状況が表れている。P. 92～93
- ・育児休業制度の利用については、男女ともに「必要とする機会があれば利用したい・利用すればよい」と考える割合が最も高くなっている。年齢が若いほどその割合が高くなる傾向にあり、利用意向が強い。経年的には、前回調査から女性でその割合が若干減少している。P. 95、97
- ・介護休業制度の利用については、男女ともに「必要とする機会があれば利用したい・利用すればよい」と考える割合が最も高くなっているが、経年的には前回調査から男女ともに減少している。P. 96～97
- ・仕事と育児・介護の両立支援で重要な取組としては、育児の場合も介護の場合も、男女ともに「休業制度や勤務時間の柔軟化」「制度を利用しやすい職場づくり」の2項目の割合が突出して高くなっている。P. 98

【問 17・18】 ワーク・ライフ・バランスについて

- ・ワーク・ライフ・バランスの支援を進める上での職場の課題としては、男女ともに「同僚や同じ職場の人の負担が大きくなってしまう」の割合が最も高く、次いで、女性では「子どもの病気などのときに対応が難しい」、男性では「経営者や管理職の理解が不十分である」「仕事の量が多く、労働時間が長い」となっている。前回調査と比較すると、男女ともに「仕事の量が多く、労働時間が長い」の割

合が大きく増加している。P. 99~100

- ・職場の雰囲気については、ワーク・ライフ・バランスを『支援する雰囲気がある』（「積極的に支援する雰囲気がある」と「大変だが支援していこうという雰囲気がある」の合計）割合は約6割にのぼっている。経年的には、「大変だが支援していこうという雰囲気がある」割合が増加しており、ワーク・ライフ・バランスの支援に向けた企業の前向きな姿勢が拡大していることが伺える。一方、「特に支援していこうという雰囲気はない」割合も3割程度あり、比較的高くなっている。P. 101

【問 19・20・21・22】女性の活躍推進についての考え

- ・政治・経済・地域などの各分野で女性リーダーが増えることの影響については、「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」の割合が最も高く、次いで、「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」「女性の声が反映されやすくなる」となっている。P. 102
- ・女性が政策や方針決定の場へ参画していくために重要なこととしては、「男性・女性両方の意識を高め、偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改善する」の割合が最も高く、次いで、「家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識を改める」「女性に対して、家族の支援・協力が得られるようにする」「男性優位の組織運営を改める」となっている。「社会通念・慣習やしきたり」については、問1の男女の平等観でも『男性優遇』の割合が特に強かった分野であり、改善が求められる。P. 103
- ・企業において、女性管理職が少ない理由としては、男女とも「家庭で果たす役割が依然として大きく、責任のある仕事が難しい」の割合が最も高く、次いで、男性では「役職者になるまでに退職してしまう」、女性では「時間外労働・深夜業・出張・転勤等に対応できない」となっている。家庭で求められる役割の大きさが職場での女性活躍が進展しない要因の1つと考えられている。P. 104
- ・女性従業員の能力発揮に向けたポジティブアクションとして重要なものは、「男女平等な勤務評価・人事評価」の割合が最も高く、次いで、「人事担当者への男女均等な採用や教育に関する説明や研修」「パートから一般職、一般職から総合職への転属希望の受入れ」となっている。P. 106

【問 23・24・25】性的マイノリティ（またはLGBT）について

- ・性的マイノリティ（またはLGBT）という言葉は、7割以上が知っており、高い認知度を示している。年齢別では、70歳以上で認知度が低くなっている。P. 118
- ・今までに自分の身体の性、心の性または性的指向について悩んだことがある人の割合は2.4%となっている。P. 119
- ・性的マイノリティ（またはLGBT）の人が生活しづらい社会だと思う割合は7割以上と高くなっている。一方、高齢になるほど「わからない」割合が高くなる傾向がある。P. 120
- ・偏見や差別をなくし、性的マイノリティ（またはLGBT）の人が生活しやすくするための対策としては、「市民や企業に対する周知啓発を行う」「相談窓口を充実させ、その存在を周知する」の割合が高く、理解の促進と相談の対応が主に求められている。P. 121

【問 26】男女共同参画についての理解の深まりに対する実感

- ・5年前と比較した男女共同参画に関する理解については、理解が深まったと「思う」割合は約3割にとどまっている。男女別では、女性より男性の方が理解が深まったと「思う」割合が少し高くなっている。経年的には、男女ともに理解が深まったと「思う」割合は前回調査より減少している。P. 122

【問 27】 豊田市が実施している取組についての評価と重要度

- ・ 豊田市の取組で満足度が高いものは、「妊婦の健康に対する取組」「保育サービスなど子育て支援の充実」「高齢者の健康やいきがいきづくりへの取組」といった子育て、高齢者福祉の取組となっている。一方、不満の割合が高いものは、「家庭における男性の家事・育児参加の促進」「職場における男女平等な環境づくり」「ワーク・ライフ・バランスの理解促進」「離職中女性への再チャレンジ支援」「要介護者を支える家庭への支援体制」など仕事と家庭の両立や女性の再就職など職場・企業に係る取組、介護関係の取組となっている。また、全ての項目で、半数近くが取組を「わからない」と回答しており、周知が広がっていない状況が伺える。P. 123
- ・ 重要だと思ふ取組として、特に回答割合が高いものは「保育サービスなど子育て支援の充実」「要介護者を支える家庭への支援体制」であり、子育てや介護支援に関するニーズが高くなっている。次いで、「職場における男女平等な環境づくり」「ワーク・ライフ・バランスの理解促進」「離職中女性への再チャレンジ支援」の割合が高くなっている。他に、男性より女性の方が回答割合が高い取組として、「男性の育児参加促進への取組」「家庭における男性の家事・育児参加の促進」があげられる。年齢別では、主に 30 歳以下の男女で「職場における男女平等な環境づくり」「ワーク・ライフ・バランスの理解促進」の割合が比較的高くなっている。P. 125～126

2 意識調査結果からみる豊田市の現状

- 家庭、職場、地域社会などにおける男女の平等観では、男性優遇の意識は前回調査よりも強くなっている。特に女性で男性優遇と感じる人が増え、男女間で意識の差が広がっている。家庭や地域活動での男女の役割分担においても、依然として考え方と行動との間に大きなギャップがあり、固定的な性別役割分担が残っている。一方で、女性は仕事や地域へも積極的に参加しており、女性の負担感の大きさが伺える。しかし、全国と比較して、「男は仕事・女は家庭」という考え方への反対意識は高く、また行動も少しずつ男女共同参画の方向に改善されつつある。ただし、育児と介護の分野では改善の方向には進んでいない。
- 男性の家事、子育て、介護、地域活動への積極的な参加のためには、夫婦や家族間でのコミュニケーション、職場での理解、また男性自身が抵抗感をなくすことが必要であると考えられている。
- 女性の働き方については、出産や育児に関わらず就労を継続したほうがよいとする回答割合が大幅に増え、女性の働き続けることへのニーズは高まっている。同時に、職場に対して柔軟な働き方や育児休業制度、育児離職者の再雇用などへのニーズも大きくなっている。一方、職場においても、待遇や仕事の内容での男女差は小さくなりつつあるとともに、ワーク・ライフ・バランス推進に向けた雰囲気の高まり、長時間労働の是正などの取組も進められ、働く場の環境は改善されつつある。しかし、仕事と育児・介護との両立については、男女ともに両立したい意向が強いものの、男性より女性の方が直面する状況になったら両立は難しいと受け止めており、特に介護では、仕事を辞めざるを得ないと離職を選択する女性が多い傾向にある。女性の管理職が少ない主な理由にも、家庭での役割が依然として大きいことがあげられており、固定的な性別役割分担による女性の負担が女性の活躍推進が進展しない要因の1つと考えられる。
- 性的マイノリティ（またはLGBT）の認知度は7割以上と高く、同時に偏見や差別などで性的マイノリティの人たちが生活しづらい社会になっていると考える人も7割以上と多い。偏見や差別をなくし、生活しやすくするために、周知や啓発、相談窓口の設置などの対策を行うことが求められている。
- 男女共同参画に対する理解が深まったと思う人の割合は5年前から減少し、また、豊田市の取組についても、取組自体を知らない人が半数近くおり、周知や理解促進が課題といえる。男女共同参画社会の実現に向けた豊田市の取組としては、介護や子育てへの支援、企業に対するワーク・ライフ・バランスと職場の男女平等、女性の就労支援、男性の家事・育児参加支援が主に求められている。

IV アンケート調査票



この調査票に記入された内容については、
 締切以外の目的に使用したり、他にもしらしたり
 することは一切ありませんので、ありのまま
 をご記入ください。

豊田市男女共同参画社会に関する意識調査のお願い

日頃は、市政にご理解とご協力をいただきありがとうございます。
 豊田市では、平成26年度に策定した「第3次とよた男女共同参画プラン（クローバープランⅡ）」に基づき、女性も男性も対等なパートナーとして共に支え合う「男女共同参画社会」の実現に向けて様々な取組を進めておりますが、平成31年度末に第3次プランの計画期間終了を迎えます。

本調査は、新たな男女共同参画プランを策定するにあたり、今後の施策検討の基礎資料とするため、市民の皆様の日常生活における状況やお考えをお聞きするもので、豊田市にお住まいの18歳以上の方の中から男女各2,000人を無作為に選び送付させていただきます。
 調査票に個人のお名前を記入いただく項目は一切ありません。また、ご回答については統計のみを活用し、調査目的以外に使用することはありません。

お忙しいところ大変恐縮ですが、ご協力をお願い申し上げます。

平成30年11月

豊田市長 太田 稔彦

【ご記入に際してのお願い】

- 封筒の宛名のご本人がお答えください。
- ご本人が長期で不在の場合や、その他の事情（病気など）で回答できない場合は、お手紙ですが調査票を廃棄していただきますようお願いいたします。
- 質問ごとに「○は1つ」「○は3つまで」など指定しておりますので、その数に応じてご回答ください。
- 回答の際、「問△で○と回答された方」となっている場合は、それに応じてご回答ください。
- ご記入後は、同封の返信用封筒に入れていただき、

12月18日（火）までにご投函ください。（切手不要）

問合せ先：とよた男女共同参画センター（キラッととよた）
 豊田市小坂本町1-25 豊田産業文化センター2階
 電話：31-7780 FAX：31-3270

<用語解説>

以下に、男女共同参画社会を理解する上で必要な用語を掲載しますので、アンケートにご回答いただく際のご参考とさせていただきます。

- a. **男女共同参画社会**
 男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受し、共に責任を担う社会をいいます。（男女共同参画社会基本法第2条）
- b. **ジェンダー**
 「社会的・文化的に形成された性別」のこと。人間には生まれつきの生物学的性別（sex）があり、一方、社会通念や慣習の中には、社会によって作り上げられた「男性像」、「女性像」があり、このような男性、女性の別を「社会的・文化的に形成された性別」（ジェンダー）といいますが、「社会的・文化的に形成された性別」は、それ自体に良い悪いという価値を含むものではありません。
- c. **ドメスティック・バイオレンス（DV）**
 配偶者（事実婚、別居を含む）やパートナーなど親密な関係にある（あった）人から振るわれる暴力のことをいいます。暴力には殴る蹴るなどの暴力のみならず、威嚇する、生活費を渡さない、仕事につかせない、性行為の強要、外出や交友関係を制限して孤立させたといった精神的な苦痛や経済的な抑圧なども含まれます。また、子どもに暴力をみせることも含まれます。親密な関係の男女間のことであっても、刑法に規定されている暴行、脅害、脅迫等の行為が行われた場合は犯罪となります。
- d. **ワーク・ライフ・バランス**
 老若男女誰もが、仕事、家庭生活、地域生活などにおいて、自らが希望するバランスのとれた生活を送ることをいいます。そのような生活を実現させるためには、働き方の見直しや家庭における家族の役割分担などが必要とされています。
- e. **性的マイノリティ（LGBT）**
 同性が好きなお人や、自分の性に違和感を覚える人、または性同一性障害などの人々のこと。性的少数者ともいいます。LGBTはレスビアン（女性同性愛者）・ゲイ（男性同性愛者）・バイセクシュアル（両性愛者）・トランスジェンダー（心とからだの性が一致しない人）の頭文字をとった言葉です。
- f. **セクハラ（セクシュアル・ハラスメント）**
 性的嫌がらせ、いわゆる「セクハラ」のことをいいます。相手の意に反した性的な性質の発言や行動のことで、身体への不必要な接触や性的関係の強要、性的な冗談やからかいなど、さまざまなものが含まれます。特に職場においては、意に反する性的な言動により、不利益を与えたり、就業環境を悪化させたりすることがあります。
- g. **テレワーク**
 ICT（情報通信技術）を利用し、場所や時間を有効に活用できる柔軟な働き方を指します。家庭生活との両立による就業確保、高齢者・障がい者・育児や介護を担う人の就業促進、地域における就業機会の増加などによる地域活性化、余暇の増大による個人生活の充実、通勤混雑の緩和などの効果が期待されています。
- h. **フレックスタイム**
 1週、1ヶ月等の一定の労働時間を定めておき、労働者がその範囲内で各日の始業及び終業の時刻を自分で選択して働く制度のことをいいます。
- i. **とよた男女共同参画センター（キラッととよた）**（豊田産業文化センター2階）
 豊田市が設置、運営している男女共同参画社会実現のための拠点施設で、情報誌の発行、セミナー・講座やイベントの開催、団体活動支援などを行っております。

あなたご自身の日常生活や考え方などをお伺いします。日頃、感じているままにご回答ください。

男女平等観について

問1 ①～⑦の分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。(○はそれぞれ1つ)

	女性の方が 優遇されている	女性の方が や優遇されている	平等である	男性の方が や優遇されている	男性の方が 優遇されている	男性の方が	どちらともいえない	わからない
① 家庭生活	1	2	3	4	5	6	7	7
② 学校教育の場	1	2	3	4	5	6	7	7
③ 職場	1	2	3	4	5	6	7	7
④ 政治の場	1	2	3	4	5	6	7	7
⑤ 地域社会の場	1	2	3	4	5	6	7	7
⑥ 法律や制度	1	2	3	4	5	6	7	7
⑦ 社会通念・慣習やしきたり	1	2	3	4	5	6	7	7

* 「② 学校教育の場」とは、授業や学校生活など学校の環境全体とお考えください。

男女の関わり方の考え方について

問2 男女の関わりに関する以下の考え方や行動について、あなたはどのように考えますか。

(1) ①～⑩について、あなたはどのように考えますか。(【(1)考え方】欄から、○はそれぞれ1つ)

(2) ①～⑩について、あなたは実際にどのようなように行動していますか。(【(2)実際の行動】欄から、○はそれぞれ1つ)

	【(1)考え方】					【(2)実際の行動】				
	賛成	賛成からかといえは	反対	反対からかといえは	わからない	そうしている	そうしているといえは	どちらかといえは	どちらかといえは	わからない
① 結婚してもそれぞれ自分名義の財産を持つ	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
② 子育ては女性も男性も協力して行う	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
③ 男性も家事をきちんとする	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
④ 「男は仕事・女は家庭」という考えをもつ	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑤ 「女は女らしく、男は男らしく」する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑥ 女性は仕事を持ってても家事・育児もきちんとする	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑦ 女性は自分のことより家族のことを優先する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑧ 男性は家庭や地域のことより仕事を優先する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑨ 老親などの介護は男性より女性がする	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑩ 女性も積極的に仕事をする	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
⑪ 女性も積極的に地域活動に参加する	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

家庭や地域における男女の役割分担や考え方について

問3 家庭における夫婦の役割分担について、お伺いします。

- (1) **【全ての方にお伺いします】** ①～⑤に示す各場面で、夫婦のどちらが役割を担う方がいいと思いますか。(【(1)理想】欄から、○はそれぞれ1つ)
- (2) **【結婚している方にお伺いします】** あなたの家庭では、①～⑤に示す各場面で、実際に夫婦のどちらが役割を担っていますか。(【(2)現状】欄から、○はそれぞれ1つ)

	全ての方【(1)理想】		結婚している方【(2)現状】					
	主夫の役割がよい	主妻の役割がよい	主夫の役割がよい	主妻の役割がよい				
① 家事全般(食事、洗濯、掃除等)	1	2	3	4	1	2	3	4
② 家計の管理	1	2	3	4	1	2	3	4
③ 子育て全般	1	2	3	4	1	2	3	4
④ 老親などの世話・介護	1	2	3	4	1	2	3	4
⑤ 地域活動への参加	1	2	3	4	1	2	3	4

問4 **【全ての方にお伺いします】**

地域活動における男女の役割分担についてお伺いします。

- (1) ①～⑧について、あなたが参加している地域活動の現状はどのようなようになっていますか。
(【(1)現状】欄から、○はそれぞれ1つ)
- (2) ①～⑧について、地域活動の今後のあり方をどのように考えますか。(【(2)今後のあり方】欄から、○はそれぞれ1つ)

	【(1)現状】				【(2)今後のあり方】			
	いそいそしている	いそいそしている	わがらぎ	わがらぎ	思わぬ	思わぬ	改善	改善
① 催し物の企画などは主に男性が決定する	1	2	3	4	1	2	3	4
② 地域活動は男性が取り切る	1	2	3	4	1	2	3	4
③ 自治会の集会の時には、女性がお茶くみや片づけをしている	1	2	3	4	1	2	3	4
④ 女性は役職につきたがらない	1	2	3	4	1	2	3	4
⑤ 自治会の集会では、男性が上座に座る	1	2	3	4	1	2	3	4
⑥ 女性が発言することは少ない	1	2	3	4	1	2	3	4
⑦ 自治会の組長などの登録は男性(夫)だが、実際は女性(妻)が出席することが多い	1	2	3	4	1	2	3	4
⑧ 実質的な活動はほとんど女性が参加する	1	2	3	4	1	2	3	4

問5 地域の防災(災害対策)活動を推進するにあたり、あなたはどのようなようにお考えですか。(○はいくつでも)

- 1 防災は男女が共に担うものであるという意識を男女双方が持てるように行政や地域で取り組む必要がある
- 2 防災対策などに女性の視点を含める必要がある
- 3 災害時要援護者(高齢者、障がい者、乳幼児、妊婦など)の視点を含める必要がある
- 4 自主防災組織などへの女性の参画を促進する必要がある
- 5 行政だけでなく、個人や地域で防災活動に取り組む必要がある
- 6 その他()
- 7 わからない

問6 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

- 1 男性が家事、育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすること
- 2 男性が家事、育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすること
- 3 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
- 4 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること
- 5 社会の中で、男性による家事、育児などについても、その評価を高めること
- 6 男性による家事、育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること
- 7 労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどのICTを利用した多様な働き方を普及することで、仕事以外の時間をより多く持つようになるようにすること
- 8 男性が家事、育児などを行うために、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと
- 9 男性が家事、育児などを行うための、仲間(ネットワーク)づくりを進めること
- 10 その他()
- 11 特に必要なことはない

問7 あなたは現在、家庭の外で(仕事以外に)何か活動をしていますか。(○はいくつでも)

- 1 グループや団体に属して、ボランティア活動やまちづくり活動を行っている
- 2 個人でボランティア活動やまちづくり活動を行っている
- 3 PTAの役員・委員を行っている
- 4 自治会、女性団体などの地域活動を行っている
- 5 スポーツサークル活動を行っている
- 6 スポーツ以外の趣味活動、文化・教養・学習活動を行っている
- 7 活動していない(活動したいと思わない)
- 8 活動していない(活動したい)

問 8 【問 7 で「8 活動していない（活動したい）」と回答された方のみにお伺いします】

活動したいのに活動していない理由は何か。(○は3つまで)

- 1 仕事が多忙である
- 2 家事、育児、介護で忙しい
- 3 健康や体力に自信がない
- 4 どんな活動があるか知らない
- 5 グループなどの加入方法がわからない
- 6 家族の理解が得られない
- 7 高齢である
- 8 経済的余裕がない
- 9 その他 ()

職場における男女の役割分担や考え方について

問 9 一般的に、女性が仕事を持つことについて、あなたはどのようにお考えですか。(○は1つ)

- 1 女性は仕事を持たなくてもよい
- 2 結婚するまでは仕事を持つ方がよい
- 3 子どもができるまでは、仕事を持つ方がよい
- 4 子どもができたら仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい
- 5 子どもができても、ずっと仕事を続ける方がよい
- 6 その他 (具体的に)

問 10 【問 9 で「1~4」と回答された方にお伺いします】

仕事をしない方がよいと考える理由は何か。(○は3つまで)

- 1 結婚したら主婦として子どもや夫、家族のために生活する方がよいと思うから
- 2 結婚・出産後に、家庭と仕事を両立させるのは時間的・肉体的に困難だと思うから
- 3 仕事をすることについて家族の理解が得られないと思うから
- 4 子育て期は、会社に負担をかけることが多いと思うから (子ども園の送り迎え、子どもの病気、学校行事など)
- 5 経済的な理由がなければ、働く必要はないと思うから
- 6 パートナーの勤務形態 (夜勤・変動勤務) により、家庭と仕事を両立させるのは困難だと思うから
- 7 自分の親や周囲の人がそうしているから
- 8 特に考えたことはない
- 9 その他 ()

問 11 【問 9 で「3~5」と回答された方にお伺いします】

結婚・出産後に女性が仕事をするためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○は3つまで)

- 1 育児離職者の再雇用制度
- 2 育児休業制度の充実 (育児休業期間の延長、休業中の社会保障、経済保障など)
- 3 柔軟な働き方ができる制度の導入 (在宅勤務や短時間労働など)
- 4 就学前の子どもを対象とした保育の充実 (保育施設の増設や開設時間の延長など)
- 5 小学生を対象とした保育の充実 (放課後児童クラブの増設や対象年齢の上限引き上げなど)
- 6 男性の育児休業取得の普及・促進
- 7 家庭における男性の家事参加の促進
- 8 その他 ()

問 12 【現在働いている方にお伺いします】 それ以外の方は、問 14 にお進みください。

あなたの職場では、慣行や待遇、仕事の内容などで、性別による違いがありますか。(○は1つ)

- 1 違いがある → 問 13へ
- 2 違いはない
- 3 わからない

問 13 【問 12 で「1 違いがある」と回答された方にお伺いします】

あなたの職場では、性別によって、どのような違いがありますか。(○はいくつでも)

- 1 賃金に格差がある
- 2 昇進・昇級に差がある
- 3 お茶くみ・雑用などの補助的な仕事を女性に割り振る
- 4 トイレ、更衣室などの社内設備に差がある
- 5 セクシュアル・ハラスメント (セクハラ) を受けやすい
- 6 教育訓練の機会に差がある
- 7 雇用形態に差がある (女性はパートのみ・正社員採用が少ないなど)
- 8 その他 ()
- 9 わからない

ワーク・ライフ・バランスについて

問 14 あなたは、仕事と育児の両立、仕事と介護の両立について、どのように考えますか。
 ((1)育児 と(2)介護 のそれぞれについて、○は1つ)

* 仕事や介護をしていない人は、そのような状況に直面した場合を想定してお答えください。

	(1)育児	(2)介護
1 できるだけ両立したい	1	1
2 配偶者・親族に任せて、仕事を続けたい	2	2
3 仕事は続けたいが、直面する状況になったら仕事を辞めるしかない	3	3
4 仕事より優先するので、仕事を辞める	4	4
5 今後、育児・介護が必要となる該当者がいない	5	5
6 わからない	6	6

問 15 あなたは、育児休業制度、介護休業制度の利用について、どのように考えますか。
 ((1)育児 と(2)介護 のそれぞれについて、○は1つ)

	(1)育児	(2)介護
1 必要とする機会があれば利用したい・利用すればよい	1	1
2 給与や昇進・昇格等に影響しない程度なら利用したい・利用すればよい	2	2
3 必要とする機会があっても利用しない・利用しないほうがよい	3	3

問 16 職場における仕事と育児・介護の両立支援でどのようなことが重要と考えますか。

((1)育児 と(2)介護 のそれぞれについて、○は1つでも)

* これまで、就労経験のない方も、一般的な職場のイメージでご回答ください。

	(1)育児	(2)介護
1 休業制度や勤務時間の柔軟化（短時間勤務、フレックスタイムなど）	1	1
2 育児や介護に直面した従業員への両立支援に関する情報提供	2	2
3 全従業員あるいは一定の年齢以上の従業員への各種制度の告知	3	3
4 従業員の両立支援に関する二一ズ把握	4	4
5 相談窓口や相談担当者の設置	5	5
6 育児や介護の課題がある従業員への経済的な支援（費用の助成など）	6	6
7 制度を利用しやすい職場づくり（上司の理解や同僚の協力など）	7	7
8 制度利用によって、昇進・昇格に影響しない人事評価制度の整備	8	8
9 その他	9	9
10 特になし	10	10

問 17 ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の調和）の支援を進めていく上で、あなたの職場ではどのような課題がありますか。（○は1つでも）

* これまで、就労経験のない方も、一般的な職場のイメージでご回答ください。

1 経営者や管理職の理解が不十分である
2 同僚や同じ職場の人の理解が不十分である
3 同僚や同じ職場の人の負担が大きくなってしまふ
4 仕事の量が多く、労働時間が長い
5 自分しかできない仕事がある
6 子どもの病気などのときに対応が難しい
7 法律や社内の制度が十分に知られていない
8 企業の経済的負担が大きくなりそう
9 その他（ ）
10 特になし

問 18 あなたが働いている（いた）職場では、ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の調和）について、どのような雰囲気がありますか。（○は1つ）

1 積極的に支援する雰囲気がある
2 大変だが支援していこうという雰囲気がある
3 特に支援していこうという雰囲気はない
4 その他（ ）
5 今までに就労経験がないので、わからない

女性の活躍推進について

問 19 政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性リーダーが増えることのような影響があると思いますか。（○は1つでも）

1 男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる
2 女性の声が反映されやすくなる
3 多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される
4 男女問わず仕事と家庭の両立を優先しやすい社会になる
5 男性の家事・育児などへの参加が増える
6 労働時間の短縮など働き方の見直しが進む
7 保育・介護など公的サービスの必要性が増大し、家計負担及び公的負担が増大する
8 男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる
9 その他（ ）
10 特になし
11 わからない

問 20 今後、女性が政策や方針を決定していくような場へもっと参画していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。(○はいくつでも)

- 1 家庭、職場、地域における性別による役割分担や性差別の意識を改める
- 2 男性優位の組織運営を改める
- 3 女性に対して、家族の支援・協力が得られるようにする
- 4 女性の能力を向上させる機会を増やす
- 5 女性の活動を支援するネットワークをつくる
- 6 女性の参画を積極的に進めようとする人(男女)を増やす
- 7 男性・女性両方の意識を高め、偏見、固定的な社会通念、慣習、しきたりを改善する
- 8 法律、制度を見直す
- 9 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスを充実させる
- 10 一定の割合で女性を登用するようにする
- 11 特になし
- 12 その他 ()
- 13 わからない

問 21 企業において、一般的には女性管理職が少ないと言われていますが、その理由は何だと思えますか。(○はいくつでも)

- 1 知識や経験・判断力があっても適正な評価がされていない
- 2 能力開発・研修機会が男女平等でない
- 3 女性を管理職にする社風がない
- 4 役職者になるまでに退職してしまう
- 5 時間外労働・深夜業・出張・転勤等に対応できない
- 6 一般的に社会が女性管理職を嫌がる風潮がある
- 7 家庭で果たす役割が依然として大きく、責任のある仕事に難しい
- 8 評価されていて本人が管理職(責任ある立場、決定する立場)になることを希望しない
- 9 わからない
- 10 その他 ()

問 22 女性従業員の能力発揮に向けた、ポジティブアクション(積極的な取組)について、どのように考えますか。(①~⑩について、○はそれぞれ1つ)

*これまで、就労経験のない方も、一般的な職場のイメージでご回答ください。

	とても重要	重要	特に重要でない	わからない
① 人事担当者への男女均等な採用や教育に関する説明や研修	1	2	3	4
② 人事採用の面接者・選考者に女性を登用	1	2	3	4
③ 女性の少ない部署や業務に対する積極的な女性の配置	1	2	3	4
④ 女性をプロジェクトリーダーに登用	1	2	3	4
⑤ 男女平等な勤務評価・人事評価	1	2	3	4
⑥ 女性では満たし難い昇進要件(現場経験など)の見直し	1	2	3	4
⑦ お茶汲み・雑用など男女の役割分担意識の見直し	1	2	3	4
⑧ パートから一般職、一般職から総合職への転属希望の受入れ	1	2	3	4
⑨ 女性の意見や要望を聴く機会づくり(アンケートなど)	1	2	3	4
⑩ 女性への研修・教育訓練	1	2	3	4
⑪ メンター制度(直属上司以外が相談を受け、アドバイザーやサポーターをする制度)の導入	1	2	3	4

性的マイノリティについて

問 23 あなたは性的マイノリティ (またはLGBT) という言葉を知っていますか。 (○は1つ)

1 はい	2 いいえ
------	-------

問 24 あなたは今までに自分の身体の性、心の性または性的指向 (同性愛など) に悩んだことはありませんか。 (○は1つ)

1 はい	2 いいえ
------	-------

問 25(1) 現在、性的マイノリティ (またはLGBT) の方々にとって、偏見や差別などにより、生活しづらい社会だと思いますか。 (○は1つ)

1 思う
2 どちらかと言えば思う
3 どちらかと言えば思わない
4 思わない
5 わからない

問 25 (2) 【問 2 5 (1) で「1 思う」「2 どちらかと言えば思う」と回答された方にお伺いします】

性的マイノリティ (またはLGBT) の方々に対する偏見や差別をなくし、性的マイノリティの方々が生活しやすくなるためにどのような対策が必要だと思いますか。 (○はいくつでも)

1 市民や企業に対する周知啓発を行う
2 相談窓口を充実させ、その存在を周知する
3 行政職員への研修などを行う
4 教職員への研修などを行う
5 当事者や支援団体などを交えた意見交換会を行う
6 わからない
7 その他 ()

男女共同参画社会実現に向けた豊田市の取組について

問 26 5年前と比べて、世の中の変化や豊田市の取組などによって、あなたご自身や家族の男女共同参画に関する理解が深まったと思いますか。 (○は1つ)

1 思う	2 思わない
------	--------

問 27(1) 下の①～⑭ にあげた豊田市が実施している取組 (事業) について、あなたほどのように感じますか。 (①～⑭)について、○はそれぞれ1つ)

	満足	どちらでもない	不満	わからない
① 妊婦の健康に対する取組	1	2	3	4
② 男性の育児参加促進への取組 (父親向け育児講座の開催など)	1	2	3	4
③ 保育サーピズなど子育て支援の充実	1	2	3	4
④ 学校教育における男女共同参画の意識づくり	1	2	3	4
⑤ 学校行事やPTA活動などへの父親参加促進の取組	1	2	3	4
⑥ 家庭における男性の家事・育児参加の促進	1	2	3	4
⑦ 男女共同参画に関する学習機会の創出	1	2	3	4
⑧ 地域活動における男女共同参画の促進 (不平等な役割分担をなくすなど)	1	2	3	4
⑨ 自治区役員や地域会議委員など意思決定の場への女性の登用	1	2	3	4
⑩ 女性リーダーの養成など人材育成の推進	1	2	3	4
⑪ ドメスティック・バイオレンス (DV) の理解促進や解消への取組	1	2	3	4
⑫ セクシュアル・ハラスメント (セクハラ) の理解促進や解消への取組	1	2	3	4
⑬ 職場における男女平等な環境づくり	1	2	3	4
⑭ ワーク・ライフ・バランスの理解促進 (労働時間短縮、休暇制度の普及など)	1	2	3	4
⑮ 離職中女性への再チャレンジ支援 (就労・地域活動など)	1	2	3	4
⑯ 多様な働き方1つとしての起業の相談・支援	1	2	3	4
⑰ 女性の継続就労促進やキャリアアップのための取組	1	2	3	4
⑱ 高齢者の健康やいきがいきづくりへの取組	1	2	3	4
⑲ 要介護者を支える家庭への支援体制	1	2	3	4
⑳ イベント、広報紙などによる男女共同参画意識の啓発推進	1	2	3	4
㉑ 男女共同参画を推進する市民活動の支援	1	2	3	4
㉒ 女性のさまざまな悩みを気軽に相談できる相談体制の充実	1	2	3	4

問 27 (2) (1) の①～⑭ の取組のうち、豊田市の男女共同参画社会の実現において重要と思うものを5つ以内で選び、①～⑭の番号をご記入ください。

記入欄				
-----	--	--	--	--

豊田市が進める男女共同参画社会づくりの取組についてご意見等がございましたらご記入ください。

あなたご自身のことについてご記入ください。

※10月31日現在の状況をお答えください

F1 あなたの性別 (○は1つ)

1 女性 2 男性

F2 あなたの年齢 (○は1つ)

1 18・19歳 2 20歳代 3 30歳代 4 40歳代

5 50歳代 6 60歳代 7 70歳代以上

F3 あなたは現在結婚していますか。(○は1つ)

1 結婚している (内縁を含む) 2 結婚していない

3 結婚していたが、離婚・死別した 4 その他 ()

F4 家族構成 (○は1つ)

1 1人暮らし 2 夫婦のみ

3 2世代家族 (親と子ども (未婚) の世帯) 4 2世代家族 (親と子ども夫婦の世帯)

5 3世代家族 (親と子ども (配偶) と孫の世帯) 6 その他(世帯 (1～5いずれにも該当しない))

F5 あなたの職業 (○は1つ)

1 会社員 F5-2 職場におけるあなたのお立場(○は1つ)

2 公務員 → 1 役員 2 部長・課長相当職 3 係長相当職 4 一般職

3 自営業・家業 (農業含む)

4 派遣・請負社員

5 パート・アルバイト・嘱託など F5-3 将来的に働きたいですか。(○は1つ)

6 専業主婦・専業主夫 → 1 正社員 2 契約社員や派遣 3 パート・アルバイト

7 学生 4 自営業(家業) 5 その他()

8 無職 6 働くつもりはない 7 わからない

9 その他 ()

F6 あなたの年間収入額 (年収入等含む) (○は1つ)

1 税の扶養の範囲内 2 300万円未満 3 300万円以上～500万円未満

4 500万円以上～700万円未満 5 700万円以上

F7 【F3で「結婚している (内縁を含む)」と回答された方にお伺いします】 あなたの配偶者の職業 (○は1つ)

1 会社員 F7-2 職場におけるあなたのお立場(○は1つ)

2 公務員 → 1 役員 2 部長・課長相当職 3 係長相当職 4 一般職

3 自営業・家業 (農業含む)

4 派遣・請負社員 5 パート・アルバイト・嘱託など 6 専業主婦・専業主夫

7 学生 8 無職 9 その他 ()

F8 【F3で「結婚している (内縁を含む)」と回答された方にお伺いします】 あなたの配偶者の年間収入額 (年収入等含む) (○は1つ)

1 税の扶養の範囲内 2 300万円未満 3 300万円以上～500万円未満

4 500万円以上～700万円未満 5 700万円以上

F9 あなたにお子さんはいいますか。(○は1つ)

1 いる 2 いない

F9-2 【お子さんのお子さんのいる方にお伺いします】 一番下のお子さんの年代 (○は1つ)

1 就学前の乳幼児 (0～3歳) 2 就学前の幼児 (4～6歳) 3 小学生

4 中学生 5 高校生・予備校生 6 短大・各種専門学生

7 大学生・大学院生 8 社会人

男女共同参画に関する施策に関心を持たれた方は、とよた男女共同参画センター (キラツ☆とよた) のホームページをご覧ください。(http://clover-toyota.jp/)

これでアンケートは終了です。ご協力いただきありがとうございました。

本アンケート用紙は、同封の返信用封筒に入れて12月18日(火)までに切手をはらずに投函ください。

平成 30 年度
豊田市男女共同参画社会に関する意識調査
(市民アンケート)
報告書
平成 31 年 3 月発行

発行 豊田市 生涯活躍部 市民活躍支援課
とよた男女共同参画センター
〒471-0034
豊田市小坂本町 1-25
豊田産業文化センター2 階
TEL : 0565 (31) 7780
FAX : 0565 (31) 3270

